

経済学部 経済学科 (2020年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	日本史 加藤 絢子	1学期	1	2	1
		1年			
	東洋史 植松 慎悟	2学期	1	2	2
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	3
		1年			
	人文地理学 美谷 薫	2学期	1	2	4
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	5
		1年			
	地誌学 美谷 薫	2学期	1	2	6
		1年			
	日本国憲法 棟形 康平	2学期	1	2	7
		1年			
■地域科目	地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) SPL101F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	地域特講B (Innovation and Regional Development) SPL201F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	8
		1年			
	地域の社会と経済 ECN170F 李 錦東	1学期	1	2	9
		1年			
	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	10
		1年			
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	1	2	11
		1年			
地域と国際 RDE003F 吉村 英俊	1学期	1	2	12	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■地域科目	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	13
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 未定	1学期	1	2	14
		1年			
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	15
		2年			
	まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	16
		2年			
	まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	17
		3年			
■環境科目	環境特講A (SDGsの可能性) SPL102F 日高 京子 他	2学期	1	2	18
		1年			
	環境特講B (現代社会とエシカル消費) SPL202F 大平 剛	1学期	1	2	19
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	20
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	21
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	22
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	23
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	24
		1年			
動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	25	
	1年				
自然学のまなごし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	26	
	1年				
生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	27	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	環境ESD入門 ENV102F 石川 敬之	2学期	1	2	28
		1年			
■世界(地球)科目	世界(地球)特講A(テロリズム論) SPL103F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	29
		1年			
	世界(地球)特講B(ジェンダー平等(SDG5)の課題解決) SPL203F 齊藤 園子 他	集中	1	2	30
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 慶湖	2学期	1	2	31
		1年			
	国際学入門 IRL110F 伊野 憲治	2学期	1	2	32
		1年			
	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	33
		1年			
現代の国際情勢 IRL003F 篠崎 香織 他	1学期	1	2	34	
	1年				
国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	35	
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	36	
	1年				
近代史入門 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	37	
	1年				
Japanese Culture and Society ARE221F ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	38	
	2年				
English Speaking Cultures and Societies ARE231F ローズマリー・リーダー	2学期	2	2	39	
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	40	
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 藤田 俊	1学期	2	2	41	
	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 日高 京子	1学期	1	2	42
		済1-ア			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	43
		済1 - イ			
	アカデミック・スキルズI GES101F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	44
		済1 - 工, 営1 - 工			
	アカデミック・スキルズI GES101F 高木 駿	1学期	1	2	45
		済1 - ウ			
	アカデミック・スキルズI GES101F 中尾 泰士	2学期	1	2	46
		1学期未修得者再履			
	アカデミック・スキルズII (思考と推論) GES102F 浅羽 修丈	2学期	1	2	47
		1年			
	アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	48
		1年			
	アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) GES102F 中尾 泰士	2学期	1	2	49
		1年			
	アカデミック・スキルズII (安全保障を哲学する) GES102F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対 GES102F 高木 駿	2学期	1	2	50
		1年			
	アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) GES102F 永末 康介	2学期	1	2	51
		1年			
アカデミック・スキルズII (歴史から考える) GES102F 藤田 俊	2学期	1	2	52	
	1年				
知の技法特講A SPL104F 休講	1学期	1	2		
	1年				
知の技法特講B SPL204F 休講	2学期	1	2		
	1年				
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	53	
	1年				
法への誘い LAW001F 中村 英樹 他	2学期	1	2	54	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	55	
		1年				
	データ分析 INF201F 浅羽 修丈	2学期	2	2	56	
		2年				
	データ分析 INF201F 佐藤 貴之	2学期	2	2	57	
		2年				
	データ分析 INF201F 池之上 正人	1学期	2	2	58	
		2年				
	■知の創造科目	知の創造特講A SPL105F 休講	1学期	1	2	
			1年			
		知の創造特講B (戦後の日本経済) SPL205F 土井 徹平	2学期	1	2	59
			1年			
社会学的思考 SOC002F 稲月 正		1学期	1	2	60	
		1年				
ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子		2学期	1	2	61	
		1年				
現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他		1学期	1	2	62	
		1年				
企業と社会 BUS001F 山下 剛		1学期	1	2	63	
		1年				
民主主義とは何か PLS002F 中井 遼		2学期	1	2	64	
		1年				
民主主義とは何か PLS002F 中井 遼		1学期	1	2	65	
		1年				
社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	66		
	1年					
文化を読む LIT001F 河内 重雄 他	1学期	1	2	67		
	1年					
芸術と人間 PHR006F 真武 真喜子	2学期	1	2	68		
	1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	69
		1年			
	情報表現 INF230F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	70
		1年			
	倫理思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	71
		1年			
	言語・認知・コミュニケーション LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	72
		2年			
	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	73
		2年			
■共生と協働科目	共生と協働特講A SPL106F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	異文化理解の基礎 神原 ゆうこ	2学期	1	2	74
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	75
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 高木 駿	1学期	1	2	76
		1年			
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	77
		1年			
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	78
		1年			
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	79	
	1年				
地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	80	
	1年				
障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	81	
	1年				
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	82	
	2年				

経済学部 経済学科 (2020年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	基盤演習I (防衛セミナー)	1学期	2	2	83
	GES201F 戸蒔 仁司	2年			
	基盤演習I (発達障がいセミナー)	1学期	2	2	84
	GES201F 伊野 憲治	2年			
	基盤演習I	1学期	2	2	85
	GES201F 石川 敬之	2年			
	基盤演習II	2学期	2	2	86
	GES202F 高木 駿	2年			
	基盤演習II	2学期	2	2	87
	GES202F 石川 敬之	2年			
	基盤力応用 (日本近代史演習)	2学期	3	2	88
	GES301F 藤田 俊	3年			
基盤力応用	2学期	3	2	88	
GES301F 神原 ゆうこ	3年				
■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講A	1学期	1	2	89
	SPL107F 休講	1年			
	ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム)	集中	1	2	89
	SPL207F 友松 史子 他	1年			
	キャリア・デザイン	1学期	1	2	90
	CAR100F 眞鍋 和博	1年			
	キャリア・デザイン	1学期	1	2	91
	CAR100F 石川 敬之	1年			
	キャリア・デザイン	1学期	1	2	92
	CAR100F 見館 好隆	1年			
	メンタル・ヘルス	1学期	1	2	93
	PSY001F 寺田 千栄子	1年			
自己管理論	1学期	1	2	94	
HSS003F 日高 京子 他	1年				
フィジカル・ヘルス	1学期	1	2	95	
HSS001F 高西 敏正	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	96
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 豊田 直樹	1学期	1	2	97
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 山本 浩二	2学期	1	2	98
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	99
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	100
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	101
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	102
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	103
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	104
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 八板 昭仁	1学期	1	1	105
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 八板 昭仁	2学期	1	1	106	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	107	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	108	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	109	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	110	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 豊田 直樹	2学期	1	1	111
	1年				
	世界での学び方 CAR001F 友松 史子 他	1学期	1	2	112
	1年				
	世界での学び方 CAR001F 友松 史子 他	2学期	1	2	113
	1年				
プロフェッショナルの仕事 CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	114	
2年					
企業・団体の課題解決 CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	115	
2年					
■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (済営 1 - A) ENG101F 十時 康	1学期	1	1	116
	済営 1 - A				
	Communicative English I (済営 1 - B) ENG101F 永末 康介	1学期	1	1	117
	済営 1 - B				
	Communicative English I (済営 1 - C) ENG101F 杉山 智子	1学期	1	1	118
	済営 1 - C				
	Communicative English I (済営 1 - D) ENG101F 林 裕二	1学期	1	1	119
	済営 1 - D				
	Communicative English I (済営 1 - E) ENG101F 安丸 雅子	1学期	1	1	120
	済営 1 - E				
	Communicative English I (済営 1 - F) ENG101F 船方 浩子	1学期	1	1	121
	済営 1 - F				
Communicative English I (済営 1 - G) ENG101F 漆原 朗子	1学期	1	1	122	
済営 1 - G					
Communicative English I (済営 1 - H) ENG101F 薬師寺 元子	1学期	1	1	123	
済営 1 - H					
Communicative English I (済営 1 - I) ENG101F 酒井 秀子	1学期	1	1	124	
済営 1 - I					
Communicative English I (済営 1 - J) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	125	
済営 1 - J					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English II (済営 1-A) ENG111F 團迫 雅彦	2学期	1	1	126
		済営 1 - A			
	Communicative English II (済営 1-B) ENG111F 伊藤 晃	2学期	1	1	127
		済営 1 - B			
	Communicative English II (済営 1-C) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	128
		済営 1 - C			
	Communicative English II (済営 1-D) ENG111F 安丸 雅子	2学期	1	1	129
		済営 1 - D			
	Communicative English II (済営 1-E) ENG111F 船方 浩子	2学期	1	1	130
		済営 1 - E			
	Communicative English II (済営 1-F) ENG111F 漆原 朗子	2学期	1	1	131
		済営 1 - F			
	Communicative English II (済営 1-G) ENG111F 薬師寺 元子	2学期	1	1	132
		済営 1 - G			
	Communicative English II (済営 1-H) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	133
		済営 1 - H			
	Communicative English II (済営 1-I) ENG111F 十時 康	2学期	1	1	134
		済営 1 - I			
	Communicative English II (済営 1-J) ENG111F 酒井 秀子	2学期	1	1	135
		済営 1 - J			
Communicative English III (済営 1-F) ENG102F マーニー・セイティ	1学期	1	1	136	
	済営 1 - F				
Communicative English III (済営 1-G) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	137	
	済営 1 - G				
Communicative English III (済営 1-H) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	138	
	済営 1 - H				
Communicative English III (済営 1-I) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	139	
	済営 1 - I				
Communicative English III (済営 1-J) ENG102F クリスティン・マイスター	1学期	1	1	140	
	済営 1 - J				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
<ul style="list-style-type: none"> ■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語 	Communicative English III (済営 1-A) ENG102F クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	141
	済営 1 - A				
	Communicative English III (済営 1-B) ENG102F タッド・ジェイ・レオナルド	1学期	1	1	142
	済営 1 - B				
	Communicative English III (済営 1-C) ENG102F デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	143
	済営 1 - C				
	Communicative English III (済営 1-D) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	144
	済営 1 - D				
	Communicative English III (済営 1-E) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	145
	済営 1 - E				
	Communicative English IV (済営 1-F) ENG112F ダニー・ミン	2学期	1	1	146
	済営 1 - F				
	Communicative English IV (済営 1-G) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	147
	済営 1 - G				
	Communicative English IV (済営 1-H) ENG112F マーニー・セイティ	2学期	1	1	148
	済営 1 - H				
	Communicative English IV (済営 1-I) ENG112F タッド・ジェイ・レオナルド	2学期	1	1	149
済営 1 - I					
Communicative English IV (済営 1-J) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	150	
済営 1 - J					
Communicative English IV (済営 1-A) ENG112F タッド・ジェイ・レオナルド	2学期	1	1	151	
済営 1 - A					
Communicative English IV (済営 1-B) ENG112F デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	152	
済営 1 - B					
Communicative English IV (済営 1-C) ENG112F ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	1	1	153	
済営 1 - C					
Communicative English IV (済営 1-D) ENG112F ダニー・ミン	2学期	1	1	154	
済営 1 - D					
Communicative English IV (済営 1-E) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	155	
済営 1 - E					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English V (済営 2 C - E) ENG201F 十時 康	1学期	2	1	156
		済営 2 C - E			
	Communicative English V (済営 2 C - F) ENG201F 大塚 由美子	1学期	2	1	157
		済営 2 C - F			
	Communicative English V (済営 2 C - G) ENG201F 薬師寺 元子	1学期	2	1	158
		済営 2 C - G			
	Communicative English V (済営 2 C - H) ENG201F 船方 浩子	1学期	2	1	159
		済営 2 C - H			
	Communicative English V (済営 2 C - A) ENG201F 團迫 雅彦	1学期	2	1	160
		済営 2 C - A			
	Communicative English V (済営 2 C - B) ENG201F 百武 玉恵	1学期	2	1	161
		済営 2 C - B			
	Communicative English V (済営 2 C - C) ENG201F 村田 希巳子	1学期	2	1	162
		済営 2 C - C			
	Communicative English V (済営 2 C - D) ENG201F 木梨 安子	1学期	2	1	163
		済営 2 C - D			
	Communicative English VI (済営 2 C - E) ENG211F 薬師寺 元子	2学期	2	1	164
		済営 2 C - E			
	Communicative English VI (済営 2 C - F) ENG211F 十時 康	2学期	2	1	165
		済営 2 C - F			
Communicative English VI (済営 2 C - G) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	166	
	済営 2 C - G				
Communicative English VI (済営 2 C - H) ENG211F 村田 希巳子	2学期	2	1	167	
	済営 2 C - H				
Communicative English VI (済営 2 C - A) ENG211F 木梨 安子	2学期	2	1	168	
	済営 2 C - A				
Communicative English VI (済営 2 C - B) ENG211F 村田 希巳子	2学期	2	1	169	
	済営 2 C - B				
Communicative English VI (済営 2 C - C) ENG211F 團迫 雅彦	2学期	2	1	170	
	済営 2 C - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VI (済営 2 C-D) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	171
		済営 2 C - D			
	Communicative English VII (済営 2 C-A) ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	172
		済営 2 C - A			
	Communicative English VII (済営 2 C-B) ENG202F マーニー・セイディ	1学期	2	1	173
		済営 2 C - B			
	Communicative English VII (済営 2 C-C) ENG202F ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	174
		済営 2 C - C			
	Communicative English VII (済営 2 C-D) ENG202F ケネス・ギブソン	1学期	2	1	175
		済営 2 C - D			
	Communicative English VII (済営 2 C-E) ENG202F ロバート・マーフィ	1学期	2	1	176
		済営 2 C - E			
	Communicative English VII (済営 2 C-F) ENG202F ダニー・ミン	1学期	2	1	177
		済営 2 C - F			
	Communicative English VII (済営 2 C-G) ENG202F ケネス・ギブソン	1学期	2	1	178
		済営 2 C - G			
	Communicative English VII (済営 2 C-H) ENG202F クリステイン・マイスター	1学期	2	1	179
	済営 2 C - H				
Communicative English VIII (済営 2 C-A) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	180	
	済営 2 C - A				
Communicative English VIII (済営 2 C-B) ENG212F 下條 かおり	2学期	2	1	181	
	済営 2 C - B				
Communicative English VIII (済営 2 C-C) ENG212F 安丸 雅子	2学期	2	1	182	
	済営 2 C - C				
Communicative English VIII (済営 2 C-D) ENG212F 酒井 秀子	2学期	2	1	183	
	済営 2 C - D				
Communicative English VIII (済営 2 C-E) ENG212F 薬師寺 元子	2学期	2	1	184	
	済営 2 C - E				
Communicative English VIII (済営 2 C-F) ENG212F 相原 信彦	2学期	2	1	185	
	済営 2 C - F				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VIII (済営 2 C-G) ENG212F 百武 玉恵	2学期	2	1	186
		済営 2 C - G			
	Communicative English VIII (済営 2 C-H) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	187
		済営 2 C - H			
	Intermediate English I (済営 2 I-C) ENG301F 村田 希巳子	1学期	2	2	188
		済営 2 I - C			
	Intermediate English I (済営 2 I-A) ENG301F 船方 浩子	1学期	2	2	189
		済営 2 I - A			
	Intermediate English I (済営 2 I-B) ENG301F 相原 信彦	1学期	2	2	190
		済営 2 I - B			
	Intermediate English II (済営 2 I-C) ENG311F クリストファー・オサリバン	2学期	2	2	191
		済営 2 I - C			
	Intermediate English II (済営 2 I-A) ENG311F デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	2	192
		済営 2 I - A			
	Intermediate English II (済営 2 I-B) ENG311F ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	2	193
	済営 2 I - B				
Higher English I (2 H-B) ENG302F 未定	1学期	2	2	194	
	中国済営比人律政 2年				
Higher English I (2 H-A) ENG302F ダンカン・ウォトリイ	1学期	2	2	195	
	中国済営比人律政				
Higher English II (2 H-B) ENG312F 未定	2学期	2	2	196	
	中国済営比人律政 2年				
Higher English II (2 H-A) ENG312F ダニー・ミン	2学期	2	2	197	
	中国済営比人律政				
■第二外国語	中国語I (1 - a) CHN101F 野村 和代	1学期	1	1	198
		済営人律政群 1年			
	中国語I (1 - b) CHN101F 板谷 俊生	1学期	1	1	199
	済営人律政群 1年				
	中国語II (1 - a) CHN111F 野村 和代	2学期	1	1	200
		済営人律政群 1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語II (1 - b) CHN111F 板谷 俊生	2学期	1	1	201	
			済営人律政群 1年			
	中国語III (1 - a) CHN102F 艾文婷	1学期	1	1	202	
			済営人律政群 1年			
	中国語III (1 - b) CHN102F 于 佳	1学期	1	1	203	
			済営人律政群 1年			
	中国語IV (1 - a) CHN112F 艾文婷	2学期	1	1	204	
			済営人律政群 1年			
	中国語IV (1 - b) CHN112F 于 佳	2学期	1	1	205	
			済営人律政群 1年			
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	206	
			英済営人律政群 2年			
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	207	
			英済営人律政群 2年			
	中国語VII CHN202F 崔 学森	1学期	2	1	208	
			英済営人律政群 2年			
	中国語VIII CHN212F 崔 学森	2学期	2	1	209	
		英済営人律政群 2年				
上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	210		
		英国済営比人 3年				
上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	211		
		英国済営比人 3年				
朝鮮語I (1 - a) KRN101F 呉 香善	1学期	1	1	212		
		済営律政群 1年				
朝鮮語I (1 - b) KRN101F 金 京姫	1学期	1	1	213		
		済営律政群 1年				
朝鮮語II (1 - a) KRN111F 金 慶湖	2学期	1	1	214		
		済営律政群 1年				
朝鮮語II (1 - b) KRN111F 金 京姫	2学期	1	1	215		
		済営律政群 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅲ (1 - a) KRN102F 金 光子	1学期	1	1	216
		済営律政群 1年			
	朝鮮語Ⅲ (1 - b) KRN102F 吳 珠熙	1学期	1	1	217
		済営律政群 1年			
	朝鮮語Ⅳ (1 - a) KRN112F 金 光子	2学期	1	1	218
		済営律政群 1年			
	朝鮮語Ⅳ (1 - b) KRN112F 吳 珠熙	2学期	1	1	219
		済営律政群 1年			
	朝鮮語Ⅴ KRN201F 安 滯珠	1学期	2	1	220
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅵ KRN211F 安 滯珠	2学期	2	1	221
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅶ KRN202F 金 惠媛	1学期	2	1	222
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅷ KRN212F 金 惠媛	2学期	2	1	223
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語Ⅰ KRN301F 安 滯珠	1学期	3	1	224
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅱ KRN311F 安 滯珠	2学期	3	1	225
		英中国済営比人 3年			
ドイツ語Ⅰ GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	226	
	済営人律政 1年				
ドイツ語Ⅱ GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	227	
	済営人律政 1年				
ドイツ語Ⅲ GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	228	
	済営人律政 1年				
ドイツ語Ⅳ GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	229	
	済営人律政 1年				
ドイツ語Ⅴ GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	230	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	231
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	232
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	233
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	234
		済営人律政1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	235
		済営人律政1年			
	フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	236
		済営人律政1年			
	フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	237
		済営人律政1年			
	フランス語V FRN201F 小野 菜都美	1学期	2	1	238
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VI FRN211F 小野 菜都美	2学期	2	1	239
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	240
		英中国済営比人律政2年			
フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	241	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語I SPN101F 宮城 志帆	1学期	1	1	242	
	中国済営人律政1年				
スペイン語II SPN111F 宮城 志帆	2学期	1	1	243	
	中国済営人律政1年				
スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	244	
	中国済営人律政1年				
スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	245	
	中国済営人律政1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	246
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	247
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	248
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	249
		英中国済営比人律政2年			
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	250
		留学生1年			
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	251
		留学生1年			
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	252
		留学生1年			
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	253
		留学生1年			
	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	254
		留学生1年			
	日本語VI JSL113F 小林 浩明	2学期	1	1	255
		留学生1年			
	日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	256
		留学生2年			
	日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	257
		留学生2年			
日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	258	
	留学生1年				
日本事情(人文)B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	259	
	留学生1年				
日本事情(社会)A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	260	
	留学生1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情(社会)B	2学期	1	2	261
	JPS104F 清藤 隆春 他	留学生1年			
■専門教育科目 ■必修科目	数学	1学期	1	2	262
	MTH110M 久保 宏和	済1年Iグループ			
	数学	1学期	1	2	263
	MTH110M 久保 宏和	済1年IIグループ			
	統計学入門	2学期	1	2	264
	ECN115M 林田 実	1年			
	計量経済学入門	1学期	2	2	265
	ECN212M 藤井 敦	2年			
	ミクロ経済学I	2学期	1	2	266
	ECN113M 朱 乙文	済1年			
	ミクロ経済学II	1学期	2	2	267
	ECN210M 朱 乙文	済2年			
	マクロ経済学I	2学期	1	2	268
	ECN114M 田中 淳平	済1年			
	マクロ経済学II	1学期	2	2	269
	ECN211M 田中 淳平	済2年			
入門演習	1学期	1	2	270	
SEM110M 牛房 義明	1年				
入門演習	1学期	1	2	271	
SEM110M 田村 大樹	1年				
入門演習	1学期	1	2	272	
SEM110M 藤井 敦	1年				
入門演習	1学期	1	2	273	
SEM110M 魏 芳	1年				
入門演習	1学期	1	2	274	
SEM110M 林田 実	1年				
入門演習	1学期	1	2	275	
SEM110M 田中 淳平	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目	入門演習	1学期	1	2	276
	SEM110M 前田 淳	1年			
	基礎演習	1学期	2	2	277
	SEM210M 後藤 宇生	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	278
	SEM210M 田村 大樹	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	279
	SEM210M 牛房 義明	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	280
	SEM210M 前田 淳	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	281
	SEM210M 前林 紀孝	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	282
	SEM210M 土井 徹平	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	283
	SEM210M 林田 実	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	284
	SEM210M 魏 芳	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	285
	SEM210M 畔津 憲司	2年			
専門演習I	1学期	3	2	286	
SEM311M 牛房 義明	3年				
専門演習I	1学期	3	2	287	
SEM311M 城戸 宏史	3年				
専門演習I	1学期	3	2	288	
SEM311M 武田 寛	3年				
専門演習I	1学期	3	2	289	
SEM311M 後藤 宇生	3年				
専門演習I	1学期	3	2	290	
SEM311M 田中 淳平	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目	専門演習I SEM311M 田村 大樹	1学期	3	2	291
		3年			
	専門演習I SEM311M 林田 実	1学期	3	2	292
		3年			
	専門演習I SEM311M 藤井 敦	1学期	3	2	293
		3年			
	専門演習I SEM311M 前田 淳	1学期	3	2	294
		3年			
	専門演習I SEM311M 松永 裕己	1学期	3	2	295
		3年			
	専門演習I SEM311M 魏 芳	1学期	3	2	296
		3年			
	専門演習I SEM311M 土井 徹平	1学期	3	2	297
		3年			
	専門演習I SEM311M 前林 紀孝	1学期	3	2	298
		3年			
	専門演習I SEM311M 柳井 雅人	1学期	3	2	299
		3年			
	専門演習I SEM311M 畔津 憲司	1学期	3	2	300
		3年			
専門演習II SEM312M 牛房 義明	2学期	3	2	301	
	3年				
専門演習II SEM312M 城戸 宏史	2学期	3	2	302	
	3年				
専門演習II SEM312M 武田 寛	2学期	3	2	303	
	3年				
専門演習II SEM312M 後藤 宇生	2学期	3	2	304	
	3年				
専門演習II SEM312M 田中 淳平	2学期	3	2	305	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目	専門演習II SEM312M 田村 大樹	2学期	3	2	306
		3年			
	専門演習II SEM312M 林田 実	2学期	3	2	307
		3年			
	専門演習II SEM312M 藤井 敦	2学期	3	2	308
		3年			
	専門演習II SEM312M 前田 淳	2学期	3	2	309
		3年			
	専門演習II SEM312M 松永 裕己	2学期	3	2	310
		3年			
	専門演習II SEM312M 魏 芳	2学期	3	2	311
		3年			
	専門演習II SEM312M 土井 徹平	2学期	3	2	312
		3年			
	専門演習II SEM312M 前林 紀孝	2学期	3	2	313
		3年			
	専門演習II SEM312M 柳井 雅人	2学期	3	2	314
		3年			
	専門演習II SEM312M 畔津 憲司	2学期	3	2	315
		3年			
卒業研究A SEM411M 牛房 義明	1学期	4	2	316	
	4年				
卒業研究A SEM411M 後藤 宇生	1学期	4	2	317	
	4年				
卒業研究A SEM411M 田中 淳平	1学期	4	2	318	
	4年				
卒業研究A SEM411M 田村 大樹	1学期	4	2	319	
	4年				
卒業研究A SEM411M 林田 実	1学期	4	2	320	
	4年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目	卒業研究 A	1学期	4	2	321
	SEM411M 藤井 敦	4年			
	卒業研究 A	1学期	4	2	322
	SEM411M 前田 淳	4年			
	卒業研究 A	1学期	4	2	323
	SEM411M 松永 裕己	4年			
	卒業研究 A	1学期	4	2	324
	SEM411M 魏 芳	4年			
	卒業研究 A	1学期	4	2	325
	SEM411M 土井 徹平	4年			
	卒業研究 A	1学期	4	2	326
	SEM411M 前林 紀孝	4年			
	卒業研究 A	1学期	4	2	327
	SEM411M 柳井 雅人	4年			
	卒業研究 A	1学期	4	2	328
	SEM411M 畔津 憲司	4年			
	卒業研究 B	2学期	4	2	329
	SEM412M 牛房 義明	4年			
	卒業研究 B	2学期	4	2	330
	SEM412M 後藤 宇生	4年			
卒業研究 B	2学期	4	2	331	
SEM412M 田中 淳平	4年				
卒業研究 B	2学期	4	2	332	
SEM412M 田村 大樹	4年				
卒業研究 B	2学期	4	2	333	
SEM412M 林田 実	4年				
卒業研究 B	2学期	4	2	334	
SEM412M 藤井 敦	4年				
卒業研究 B	2学期	4	2	335	
SEM412M 前田 淳	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目	卒業研究B SEM412M 松永 裕己	2学期	4	2	336
		4年			
	卒業研究B SEM412M 魏 芳	2学期	4	2	337
		4年			
	卒業研究B SEM412M 土井 徹平	2学期	4	2	338
		4年			
	卒業研究B SEM412M 前林 紀孝	2学期	4	2	339
		4年			
	卒業研究B SEM412M 柳井 雅人	2学期	4	2	340
		4年			
	卒業研究B SEM412M 畔津 憲司	2学期	4	2	341
		4年			
	ミクロ経済学入門 ECN111M 後藤 宇生	1学期	1	2	342
		1年Aグループ			
	ミクロ経済学入門 ECN111M 藤井 敦	1学期	1	2	343
	1年Bグループ				
マクロ経済学入門 ECN112M 畔津 憲司	1学期	1	2	344	
	1年Aグループ				
マクロ経済学入門 ECN112M 前林 紀孝	1学期	1	2	345	
	1年Bグループ				
簿記論 ACC110M 平川 茂	1学期	1	2	346	
	1年				
簿記論 ACC110M 岡部 勝成	1学期	1	2	347	
	1年(再履修者)				
キャリア開発I CAR210M 前田 淳 他	2学期	2	2	348	
	2年				
経営学入門 BUS100M 丸子 敬仁	1学期	1	2	349	
	済1年				
■選択科目A ■応用経済学系	統計学特講 ECN220M 林田 実	1学期	2	2	350
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A ■応用経済学系	計量経済学特講 ECN221M 休講		2	2	
		2年			
	経済学史 ECN329M 村田 和博	1学期	3	2	351
		3年			
	外書講読 ENG335M 橋本 和宏	2学期	3	2	352
		3年			
	金融論 ECN222M 内田 交謹	1学期	2	2	353
		2年			
	金融論特講 ECN223M 万 軍民	2学期	2	2	354
		2年			
	国際経済論 ECN224M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	国際経済論特講 ECN225M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	公共経済学 ECN226M 牛房 義明	1学期	2	2	355
		2年			
	ファイナンス論 ECN333M 武田 寛	2学期	3	2	356
		3年			
	環境経済学 ECN328M 牛房 義明	2学期	3	2	357
		3年			
財政学 ECN320M 休講	1学期	3	2		
	3年				
財政学特講 ECN321M 休講	2学期	3	2		
	3年				
産業組織論 ECN322M 佐藤 隆	1学期	3	2	358	
	3年				
産業組織論特講 ECN323M 佐藤 隆		3	2	359	
	3年				
労働経済学 ECN227M 畔津 憲司	1学期	2	2	360	
	2年				

経済学部 経済学科 (2020年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■選択科目A ■応用経済学系	労働経済学特講 ECN228M 畔津 憲司	2学期	2	2	361	
		2年				
	国際金融論 ECN334M 前田 淳	1学期	3	2	362	
		3年				
	国際金融論特講 ECN335M 前田 淳	2学期	3	2	363	
		3年				
	■地域：産業系	日本経済史 ECN237M 土井 徹平	1学期	2	2	364
			2年			
		日本経済史特講 ECN238M 休講		2	2	
		2年				
ビジネス英語A (選抜クラス) ENG333M クリスティン・マイスター		1学期	3	2	365	
		3年選抜クラス				
ビジネス英語A ENG333M クリスティン・マイスター		1学期	3	2	366	
		3年				
ビジネス英語A ENG333M クリスティン・マイスター		1学期	3	2	367	
		3年				
ビジネス英語B (選抜クラス) ENG334M クリスティン・マイスター		2学期	3	2	368	
		3年選抜クラス				
ビジネス英語B ENG334M クリスティン・マイスター		2学期	3	2	369	
		3年				
ビジネス英語B ENG334M クリスティン・マイスター		2学期	3	2	370	
		3年				
経済地理学 ECN230M 柳井 雅人	1学期	2	2	371		
	2年					
経済地理学特講 ECN231M 柳井 雅人	2学期	2	2	372		
	2年					
地域経済 ECN232M 休講	1学期	2	2			
	2年					
地域経済特講 ECN233M 休講	2学期	2	2			
	2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■地域・産業系	地域政策 ECN234M 松永 裕己	2学期	2	2	373
	2年				
	北九州経済分析 ECN235M 城戸 宏史	1学期	2	2	374
	2年				
	北九州経済分析特講 ECN236M 城戸 宏史	2学期	2	2	375
	2年				
	地方財政論 ECN330M 難波 利光	1学期	3	2	376
	3年				
	中国経済 ECN331M 園 康寿	1学期	3	2	377
	3年				
	アメリカ経済 ECN332M 立石 剛	2学期	3	2	378
	3年				
ファイナンス入門 BUS111M 姚 智華	2学期	2	2	379	
2年					
経営管理論 BUS110M 浦野 恭平	2学期	2	2	380	
2年					
経営組織論 BUS210M 山下 剛	1学期	3	2	381	
3年					
経営戦略論 BUS211M 浦野 恭平	2学期	3	2	382	
3年					
キャリア開発II CAR310M 魏 芳 他	2学期	3	2	383	
3年					
■選択科目B	情報科学入門 INF100M 三宅 芳博	2学期	2	2	384
	2年				
	情報科学入門 INF100M 三宅 芳博	2学期	2	2	385
	2年				
会計学入門 ACC111M 森脇 敏雄	2学期	2	2	386	
2年					
業界研究 CAR380M 丸子 敬仁 他	集中	3	2	387	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目B	企業ファイナンスI BUS212M 姚 智華	1学期	3	2	388
		3年			
	企業ファイナンスII BUS213M 姚 智華	2学期	3	2	389
		3年			
	マーケティングI BUS230M 柳 純	1学期	2	2	390
		2年			
	マーケティングII BUS231M 柳 純	2学期	2	2	391
		2年			
	企業評価論I BUS316M 新田町 尚人	1学期	3	2	392
		3年			
	企業評価論II BUS317M 新田町 尚人	2学期	3	2	393
		3年			
	人的資源管理論 BUS310M 丸子 敬仁	1学期	3	2	394
		3年			
	証券市場論 BUS232M 久多里 桐子	2学期	2	2	395
		2年			
	中小企業論 BUS313M 吉村 英俊	1学期	3	2	396
		3年			
	国際経営 BUS311M 王 効平	1学期	3	2	397
		3年			
応用戦略分析 BUS400M 浦野 恭平	2学期	3	2	398	
	3年				
コンピュータシステム INF220M 休講	1学期	2	2		
	2年				
オペレーションズ・リサーチ INF200M 齋藤 朗宏	1学期	2	2	399	
	2年				
データ構造とアルゴリズム INF230M 隈本 覚	2学期	2	2	400	
	2年				
データベース INF330M 池田 欽一	1学期	3	2	401	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	経営統計	1学期	3	2	402
	MTH250M 齋藤 朗宏	3年			
	システム分析	1学期	3	2	403
	INF340M 平山 克己	3年			
	システム設計	2学期	3	2	404
	INF420M 平山 克己	3年			
	会計学特殊講義B	1学期	3	2	405
	ACC296M 白石 和孝	3年			
	会計学特殊講義A	集中	3	2	406
	ACC295M 加藤 典生	3年			
	原価計算論I	1学期	2	2	407
	ACC212M 市原 勇一	2年			
	原価計算論II	2学期	2	2	408
	ACC213M 市原 勇一	2年			
	財務会計論I	1学期	3	2	409
	ACC210M 西澤 健次	3年			
	財務会計論II	2学期	3	2	410
	ACC211M 西澤 健次	3年			
	経済学特殊講義A	1学期	3	2	411
	ECN340M 畔津 憲司 他	3年			
経済学特殊講義B	2学期	3	2	412	
ECN341M 牛房 義明	3年				
経営学特殊講義A	1学期	3	2	413	
BUS390M 工藤 一成	3年				
経営学特殊講義B	2学期	3	2	414	
BUS391M 松田 憲	3年				
法学総論	1学期	1	2	415	
LAW100M 林田 幸広	1年				
労使関係法	2学期	2	2	416	
LAW241M 岡本 舞子	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	雇用関係法 LAW240M 岡本 舞子	1学期	2	2	417
	2年				
	社会サービス法 LAW242M 津田 小百合	2学期	2	2	418
	2年				
	環境法 LAW342M 鬼塚 知	1学期	3	2	419
	3年				
	独占禁止法 LAW340M 諏佐 マリ	集中	3	2	420
	3年				
	民法総則 LAW161M 丸山 愛博	2学期(ペア)	1	4	421
	1年				
	企業法総論 LAW270M 今泉 恵子	1学期	2	2	422
	2年				
	国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	423
	2年				
	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	424
	2年				
	福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期	3	2	425
	3年				
	都市経済論 PLC113M 田代 洋久	2学期	2	2	426
	2年				
地方自治論 PAD211M 黒石 啓太	1学期	2	2	427	
2年					
公共政策論 PLC211M 楢原 真二	1学期	2	2	428	
2年					
政治過程論 PLS210M 上條 諒貴	2学期	2	2	429	
2年					
自治体政策研究 PLC214M 楢原 真二	2学期	2	2	430	
2年					
政治学 PLS100M 上條 諒貴	1学期	2	2	431	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目B	地方行政改革論 PAD310M 黒石 啓太	2学期	2	2	432
		2年			
	途上国開発論 PLC215M 吉田 舞	1学期	2	2	433
		2年			
	都市政策論 PLC219M 田代 洋久	2学期	3	2	434
		3年			
	環境政策論 PLC216M 申 東愛	2学期	3	2	435
		3年			
	東南アジアの政治と外交 ARE216M 篠崎 香織	2学期	3	2	436
		3年			
	International Trade and Finance ECN201M ブルック 前田	2学期	3	2	437
		3年			
	Professional English I ENG431M デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	438
		4年			
Professional English II ENG432M リーサ ハンズバーガー	2学期	4	2	439	
	4年				
地方自治法 LAW321M 岡本 博志	2学期	3	2	440	
	3年				
会社法 LAW271M 高橋 衛	2学期(ペア)	3	4	441	
	3年				

経済学部 経済学科 (2020年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	442
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	443
1年					
	生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	444
	1年				
■世界(地球)科目	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	445
	1年				
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	446
1年					
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	447
	1年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	448
	1学期未修得者再履				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	449
	1年				
■知の創造科目	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	450
	1年				
	企業と社会 BUS001F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	451
	1年				
	文化を読む LIT001F 河内 重雄 他	1学期	1	2	452
	1年				
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	453
	1年				
倫理思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	454	
1年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	455	
2年					

経済学部 経済学科 (2020年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	市民活動論	2学期	1	2	456
	RDE001F 西田 心平	1年			
	地域福祉論	2学期	1	2	457
	SOW011F 坂本 毅啓	1年			
■ライフ・デザイン科目	メンタル・ヘルス	2学期	1	2	458
	PSY001F 中島 俊介	1年			
■専門教育科目 ■必修科目	数学		1	2	
	MTH110M 休講	1年			
	統計学入門	2学期	1	2	459
	ECN115M 林田 実	1年 (済再履修)			
	計量経済学入門	1学期	2	2	460
	ECN212M 藤井 敦	2年 (済再履修)			
	ミクロ経済学I	2学期	1	2	461
	ECN113M 朱 乙文	1年 (再履修)			
	ミクロ経済学II	1学期	2	2	462
	ECN210M 朱 乙文	2年 (再履修)			
	マクロ経済学I	2学期	1	2	463
	ECN114M 田中 淳平	1年 (再履修)			
	マクロ経済学II	1学期	2	2	464
	ECN211M 田中 淳平	2年 (再履修)			
	入門演習	1学期	1	2	
	SEM110M 閉講	1年			
基礎演習		2	2		
SEM210M 閉講	2年				
専門演習I		3	2		
SEM311M 閉講	3年				
専門演習II		3	2		
SEM312M 閉講	3年				
卒業研究A		4	2		
SEM411M 閉講	4年				

経済学部 経済学科 (2020年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目	卒業研究B		4	2	
	SEM412M 閉講	4年			
	ミクロ経済学入門	1学期	1	2	465
	ECN111M 牛房 義明	1年(再履修)			
	マクロ経済学入門	1学期	1	2	
	ECN112M 休講	1年(再履修)			
	簿記論		1	2	
	ACC110M 閉講	1年			
	キャリア開発I		2	2	
	CAR210M 昼のみ開講	2年			
経営学入門		1	2		
BUS100M 閉講	1年				
■選択科目A ■応用経済学系	統計学特講		2	2	
	ECN220M 閉講	2年			
	計量経済学特講		2	2	
	ECN221M 閉講	2年			
	経済学史		3	2	
	ECN329M 閉講	3年			
	外書講読		3	2	
	ENG335M 閉講	3年			
	金融論	1学期	2	2	
	ECN222M 休講	2年			
	金融論特講	2学期	2	2	
	ECN223M 休講	2年			
	国際経済論	1学期	2	2	466
ECN224M 魏 芳	2年				
国際経済論特講	2学期	2	2	467	
ECN225M 魏 芳	2年				
公共経済学		2	2		
ECN226M 閉講	2年				

経済学部 経済学科 (2020年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目A ■応用経済学系	ファイナンス論 ECN333M 閉講		3	2	3年	
	環境経済学 ECN328M 休講		3	2	3年	
	財政学 ECN320M 前林 紀孝	1学期	3	2	3年	468
	財政学特講 ECN321M 前林 紀孝	2学期	3	2	3年	469
	産業組織論 ECN322M 閉講		3	2	3年	
	産業組織論特講 ECN323M 閉講		3	2	3年	
	労働経済学 ECN227M 昼のみ開講		2	2	2年	
労働経済学特講 ECN228M 昼のみ開講		2	2	2年		
国際金融論 ECN334M 休講		3	2	3年		
国際金融論特講 ECN335M 休講		3	2	3年		
■地域・産業系	日本経済史 ECN237M 閉講		2	2	2年	
	日本経済史特講 ECN238M 閉講		2	2	2年	
	ビジネス英語A ENG333M 休講	1学期	3	2	3年	
ビジネス英語B ENG334M 休講	2学期	3	2	3年		
経済地理学 ECN230M 休講	1学期	2	2	2年		

経済学部 経済学科 (2020年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A ■地域・産業系	経済地理学特講 ECN231M 休講		2	2	470
		2年			
	地域経済 ECN232M 田村 大樹	1学期	2	2	470
		2年			
	地域経済特講 ECN233M 休講	2学期	2	2	470
		2年			
	地域政策 ECN234M 休講		2	2	470
		2年			
	北九州経済分析 ECN235M 昼のみ開講		2	2	470
		2年			
	北九州経済分析特講 ECN236M 昼のみ開講		2	2	470
		2年			
	地方財政論 ECN330M 昼のみ開講		3	2	470
		3年			
中国経済 ECN331M 閉講	1学期	3	2	470	
	3年				
アメリカ経済 ECN332M 閉講		3	2	470	
	3年				
ファイナンス入門 BUS111M 姚 智華	2学期	2	2	471	
	2年				
経営管理論 BUS110M 岸野 早希	2学期	2	2	472	
	2年				
経営組織論 BUS210M 休講		3	2	473	
	3年				
経営戦略論 BUS211M 山下 剛	2学期	3	2	473	
	3年				
キャリア開発II CAR310M 昼のみ開講		3	2	473	
	3年				
■選択科目B	情報科学入門 INF100M 休講	2学期	2	2	473
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目B	会計学入門		2	2	
	ACC111M 休講	2年			
	業界研究		3	2	
	CAR380M 昼のみ開講	3年			
	企業ファイナンスI		3	2	
	BUS212M 休講	3年			
	企業ファイナンスII		3	2	
	BUS213M 休講	3年			
	マーケティングI		2	2	
	BUS230M 閉講	2年			
	マーケティングII		2	2	
	BUS231M 昼のみ開講	2年			
	企業評価論I		3	2	
	BUS316M 昼のみ開講	3年			
	企業評価論II		3	2	
	BUS317M 昼のみ開講	3年			
	人的資源管理論	1学期	3	2	
	BUS310M 休講	3年			
	証券市場論		2	2	
	BUS232M 昼のみ開講	2年			
中小企業論	1学期	3	2		
BUS313M 休講	3年				
国際経営		3	2		
BUS311M 閉講	3年				
応用戦略分析		3	2		
BUS400M 昼のみ開講	3年				
コンピュータシステム	1学期	2	2	474	
INF220M 河島 晋	2年				
オペレーションズ・リサーチ		2	2		
INF200M 昼のみ開講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目B	データ構造とアルゴリズム INF230M 休講		2	2	2年	
	データベース INF330M 閉講	1学期	3	2	3年	
	経営統計 MTH250M 昼のみ開講		3	2	3年	
	システム分析 INF340M 休講	1学期	3	2	3年	
	システム設計 INF420M 閉講		3	2	3年	
	会計学特殊講義B ACC296M 昼のみ開講		3	2	3年	
	会計学特殊講義A ACC295M 昼のみ開講		3	2	3年	
	原価計算論I ACC212M 閉講		2	2	2年	
	原価計算論II ACC213M 昼のみ開講		2	2	2年	
	財務会計論I ACC210M 西澤 健次	1学期	3	2	3年	475
財務会計論II ACC211M 昼のみ開講		3	2	3年		
経済学特殊講義A ECN340M 昼のみ開講		3	2	3年		
経済学特殊講義B ECN341M 昼のみ開講		3	2	3年		
経営学特殊講義A BUS390M 昼のみ開講		3	2	3年		
経営学特殊講義B BUS391M 昼のみ開講		3	2	3年		

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	法学総論	1学期	1	2	476
	LAW100M 小野 憲昭	1年			
	労使関係法		2	2	
	LAW241M 休講	2年			
	雇用関係法		2	2	
	LAW240M 休講	2年			
	社会サービス法		2	2	
	LAW242M 休講	2年			
	環境法		3	2	
	LAW342M 休講	3年			
	独占禁止法		3	2	
	LAW340M 休講	3年			
	民法総則		1	4	
	LAW161M 休講	1年			
	企業法総論		2	2	
	LAW270M 休講	2年			
	国際法I		2	2	
	LAW250M 休講	2年			
	国際法II		2	2	
	LAW251M 休講	2年			
福祉国家論		3	2		
PLC112M 休講	3年				
都市経済論		2	2		
PLC113M 休講	2年				
地方自治論		1学期	2	2	
PAD211M 休講	2年				
公共政策論		2	2		
PLC211M 閉講	2年				
政治過程論		2	2		
PLS210M 休講	2年				

経済学部 経済学科 (2020年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	自治体政策研究		2	2	2年
	PLC214M 休講				
	政治学		2	2	2年
	PLS100M 休講				
	地方行政改革論		2	2	2年
	PAD310M 休講				
	途上国開発論		2	2	2年
	PLC215M 休講				
	都市政策論		3	2	3年
	PLC219M 休講				
	環境政策論		3	2	3年
	PLC216M 休講				
	地方自治法		3	2	3年
	LAW321M 休講				
会社法		3	4	3年	
LAW271M 休講					

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 絢子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

【授業内容】 一口に「日本史」といっても、時代によってその国家形態・領土・領民は異なる。本授業では日本の国家形成過程と、その統治下でどのような人たちが日本の歴史に関わってきたのかについて、構造的かつ空間的に学ぶ。

【到達目標】 歴史学の手法や、日本史研究の重要なトピックを学び、歴史学的視点から日本史をとらえ、教えることができる能力を身に付けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「日本史」とは：歴史学の手法と、隣接学問分野から
- 第2回：稲作文化の伝来と小国家の分立
- 第3回：ヤマト王権による統合
- 第4回：中央集権化と日本の律令制
- 第5回：武家政権と朝廷の併存
- 第6回：中世における多元的支配
- 第7回：「天下統一」から幕藩体制へ：身分・宗教・対外意識
- 第8回：開国と国境画定
- 第9回：明治立憲体制
- 第10回：本国と植民地の関係
- 第11回：敗戦と占領
- 第12回：日本国憲法の制定
- 第13回：境界地域：沖縄と北海道
- 第14回：移動する人々：出稼ぎ・移民・引揚げ・旧植民地出身者
- 第15回：「日本」の歴史を学ぶ意味

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題 (30%) と期末試験 (70%) によって評価する。
6回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布する資料や、紹介する参考書などを事前・事後学習として読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 4回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 5回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 6回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 7回 前漢前期(3) -呂后-
 - 8回 前漢中期(1) -武帝-
 - 9回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 10回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 11回 前漢後期(1) -元帝-
 - 12回 前漢後期(2) -成帝-
 - 13回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 14回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 15回 まとめ
- 期末試験(場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%
*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。
定期試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。
講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておく、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)
試験を受けなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は、地表上のさまざまな人文・社会現象を、特に地域的差異という視点から明らかにしようとする学問分野です。そのような定義からすると、研究の対象が極めて広範なものに及ぶことから、科学というよりは「ものの見方」に近いものであるとも言えるかもしれません。本講義では、人文地理学の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。
上野和彦・椿真智子・中村康子編 2015. 『地理学基礎シリーズ1 地理学概論 [第2版]』朝倉書店.
○浮田典良編 2003. 『最新地理学用語辞典改訂版』原書房.
○中村和郎・手塚 章・石井英也 1991. 『地理学講座4 地域と景観』古今書院.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN: 人文地理学の体系と歴史
- 第2回 人文地理学の基礎概念(1): 地域①(地域概念, 等質地域と機能地域)
- 第3回 人文地理学の基礎概念(2): 景観
- 第4回 人文地理学の基礎概念(3): 地域②(地域構造, 認知地域)
- 第5回 人文地理学の基礎概念(4): 環境
- 第6回 人文地理学の基礎概念(5): 分布と伝播
- 第7回 人間と社会の地理学(1): 人口
- 第8回 人間と社会の地理学(2): 村落
- 第9回 人間と社会の地理学(3): 都市①(都市概念, 都市化, 都市システム)
- 第10回 人間と社会の地理学(4): 都市②(都市空間構造, 都市変化)
- 第11回 産業と経済の地理学(1): 農業
- 第12回 産業と経済の地理学(2): 工業
- 第13回 産業と経済の地理学(3): 商業
- 第14回 産業と経済の地理学(4): 流通
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題: 40点, 学期中に実施する作業レポート: 20点, 期末レポート: 40点の合計100点満点で評価します。6回以上欠席した場合は, 評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが, 授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は, 次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので, 出席に際しては, 色鉛筆(12色程度), 定規, 電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。履修条件はありませんが, 全体として作業量の多い講義ですので, その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の「地理学」の内容を紹介する際に, よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については, 講義中に説明をしますが, 高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必須で、地図は「地理学の言語」と言われるほど重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法を学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社, 2017年, 1650円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観1 【地図記号が示す景観】
- 7回 地図記号と景観2 【地図を読む楽しみ】
- 8回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 9回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 10回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる1(実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 12回 地形図を利用して景観を読みとる2(実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 13回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 14回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 15回 衛星データを利用して地表の環境を調べる

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は大きく系統地理学と地誌学（地域地理学）の2分野に分けられることが多いですが、系統地理学（自然地理学や人文地理学）がさまざまな事象の地域的差異とその要因を探求するものであるのに対して、地誌学は、それらの知識を活用しながら、地域ごとの特性を明らかにしようとする学問分野です。

本講義では、身近な地域の事例としての北九州市や福岡県、また、より広域の地域としての九州・沖縄地方、日本の諸地域を取り上げながら、地域の特徴を明らかにするための地誌学的な手法を習得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。

菊池俊夫編 2011. 『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店.

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編 2020. 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 [第2版]』朝倉書店.

山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史編 2006. 『日本総論II(人文・社会編)』, 朝倉書店.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN(1): 地域の見方・考え方
- 第2回 インTRODクシヨN(2): 北九州市を説明する
- 第3回 身近な地域の見方(1): 北九州市と福岡県の自然環境
- 第4回 身近な地域の見方(2): 北九州市と福岡県の歴史・文化環境
- 第5回 身近な地域の見方(3): 北九州市と福岡県の社会・経済環境
- 第6回 広域スケールの地誌(1): 九州・沖縄地方①
- 第7回 広域スケールの地誌(2): 九州・沖縄地方②
- 第8回 広域スケールの地誌(3): 中国・四国地方①
- 第9回 広域スケールの地誌(4): 中国・四国地方②
- 第10回 日本の諸地域(1): 近畿地方
- 第11回 日本の諸地域(2): 中部地方
- 第12回 日本の諸地域(3): 関東地方
- 第13回 日本の諸地域(4): 東北地方
- 第14回 日本の諸地域(5): 北海道地方
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題: 40点, 学期中に実施する作業レポート: 20点, 期末レポート: 40点の合計100点満点で評価します。
6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが、授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は、次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので、出席に際しては、色鉛筆(12色程度)、定規、電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。履修条件はありませんが、全体として作業量の多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「人文地理学」と同様の内容ですが、大学の「地理学」の内容を紹介する際に、よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については、講義中に説明をしますが、高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 棟形 康平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法の基本的な考え方について概説する。
講義では、現実の政治や社会の諸問題にも触れつつ、日本国憲法が保障する人権の内容や統治機構の仕組みが理解できるように努める。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂、2021年）2,530円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 内山奈月・南野森『憲法主義』（PHP研究所、2014年）
- 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 憲法とは何か・立憲主義
- 第3回 違憲審査制
- 第4回 国民主権・民主主義
- 第5回 人権総論
- 第6回 幸福追求権
- 第7回 法の下での平等
- 第8回 思想良心の自由・信教の自由
- 第9回 表現の自由
- 第10回 経済的自由
- 第11回 国会
- 第12回 内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 憲法改正
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書・参考書等の該当箇所を読み、予習・復習をする。
また、講義内容についてのノートを作成するなどして復習を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立憲主義、基本的人権、統治機構、国民主権、民主主義
SDG 5. ジェンダー平等、SDG 16. 平和と公正

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE002F	◎		○		○
科目名	都市と地域				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを考察するための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。

都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。

「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個々人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

【到達目標】

「知識」都市と地域の概念を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 「思考・判断・表現力」都市と地域の概念を用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。
 「自立的行動」都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目はオンラインにて遠隔開講（オンデマンド方式）される予定である。Office365のStreamによる講義配信とMoodleによる課題実施が行われる。このため各自がこれらへの十分なアクセスを準備ないし確保する必要がある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念：『地域』とは何か？
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例（LQによる分析）
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか？
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

各週の課題（合計）... 40% 最終クイズ（2回合計）... 60%

地域最終クイズまたは都市最終クイズのいずれか一つでも回答の提出がない場合は最終成績が評価不能（-）となる。

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ講義形式で行われます。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、毎週の(Moodleによる)課題への回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域の社会と経済【昼】

担当者名 李 錦東 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN170F	◎		○		○
科目名	地域の社会と経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指しています。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、皆さんの出身地が北九州であってもその他の地域であっても、学生生活を過ごす北九州地域への理解を深め、また、皆さんのキャリア形成等にとってもためになるお話を聞きます。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

■要注意！

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※講義の内容及び順番は、ゲストスピーカーの都合などにより変更しますので、あらかじめご理解ください。

第1回：イントロダクション

第2回：北九州の産業と40年周期説

第3回：統計からみる北九州の産業

第4回：地域の企業①【地元企業関係者等による説明】

第5回：地域の企業②【地元企業関係者等による説明】

第6回：地域の企業③【地元企業関係者等による説明】

第7回：地域の企業④【地元企業関係者等による説明】

第8回：地域の企業⑤【地元企業関係者等による説明】

第9回：地域の起業環境【NPO等の専門家による説明】

第10回：地域のコミュニティ【NPO等の専門家による説明】

第11回：地域の取り組み【市役所など行政関係者による説明】

第12回：地域の環境ビジネス【関連活動をしている関係者による説明】

第13回：地域社会を新しく考えるための思考【NPO等の専門家による説明】

第14回：北九州市の人口と未来

第15回：まとめ一住みたいまち 北九州 -

※地域の企業とは今後日程などの調整が必要です。ご参考までに、2021年度にご登壇していただいた企業(の方)は、次の通りです。①プレミアホテル門司港総支配人、②極東ファティ㈱代表取締役社長、③ヤフージャパン株式会社 エリアリーダー、④クラウン製パン株式会社総務部、⑤株式会社井筒屋、⑥シャボン玉石けん株式会社社長、などです。

地域の社会と経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回):100%

※ ショートレポートのが、授業や講演内容を反映していない・質問などの趣旨とは異なる・内容がチンプンカンプンでよくわからない(理解不能、未提出含む)などと評価された回数が、5回以上だと評価不能になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。

平素より地域の現状と変化などについてアンテナを張って、本授業の事前・事後に情報収集に努めましょう。

活字新聞、TV、インターネット等も有効に利用してください。

また、授業中に興味を持った事項については、皆さんのキャリア形成や知見を広めるなどのために、各自調べて理解を深めていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

※※ 授業計画及び内容は、ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容を変更しますので、予めご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの大学時代の4年間を過ごす「北九州」ですが、本科目『(北九州)地域の社会と経済』を受講することで、北九州に対する理解はもちろん、北九州地域への関心や愛着、愛郷心をもてるようになります。また、皆さんの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や知恵、刺激などを得ることができるでしょう。ゲストスピーカーは、地域や産業の第一線で活躍活躍している方が多く、彼らの話を聞くことで、皆さんが地域の現状と課題とビジョンを理解し、地域に密着した人材として、地域での活躍ができる切っ掛けやステップを見つけることにつながります。私は、皆さんが大学を卒業した後、4年間過ごしたまちについて、愛着をもって語れる人になってほしいと思っています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローバル化、地域活性化
SDGs8・働きがい・経済成長、SDGs11・まちづくり

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS170F	◎		○		○
科目名	地域の文化と歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

なお、2022年度において本講義は遠隔（オンデマンド）授業での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

（到達目標）

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期以降の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 12 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 13 回： 《文化》地域の文化財
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考： 2021年度のゲストの所属組織例（2022年度も概ね同様の予定だが、変更となる可能性がある）（順不同）

《北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など》

地域の文化と歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す課題への取り組み状況）： 100%

※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能（-）とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。

事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE270F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を理解し、自らの考えをまとめ、考察すること等を通じ、地域への理解を深め、にぎわいづくりに関する視野を広げることを目指す。

2022年度においては、行政および地域の各種団体等の協力のもと、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興等に着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。

(実施方法について)

2022年度において本講義はメディア授業(遠隔授業)での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

全15回の授業のうち、2ないし3回はリアルタイムのライブ方式(同時双方向型)での実施を予定し、残りの回はオンデマンド方式での実施を予定している。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。詳細については第1回授業で説明する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
 ※第3回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり① 【地域社会活性化】
- 第 6回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり② 【地域経済活性化】
- 第 7回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 8回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
 ※第8回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第10回 《文化芸術》MICEによるにぎわいづくり
- 第11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第13回 《観光等》商業振興によるにぎわいづくり
- 第14回 《観光等》食を活かしたにぎわいづくり
- 第15回 企業の視点からみたにぎわいづくり

※ゲスト(にぎわいづくりの実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
 ※ライブ方式(同時双方向型)の回を上記よりも1回増やして計3回とする可能性がある。第1回授業で説明する。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。

※参考：2021年度のゲストの所属組織の例(2022年度においては一部変更を行う)
 《北九州市役所(観光課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室、世界体操・新体操選手権推進室)、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州、福岡北九州フェニックス株式会社、毎日新聞》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(各回で課す課題への取り組み状況)：100%
 ※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能(-)とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
 事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることが出来る授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や企業・地域団体等でのにぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

地域と国際【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE003F	◎		○		○
科目名	地域と国際				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めています。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされています。さらに外国人観光客も、コロナで途絶えたものの、今後増加するものと思われます。

こういった状況にあって、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）が、国際化に向けて、どのような取り組みを行っているのか。

本講義では原則毎回、企業や公的機関で海外事業に携わっている担当者に、国際化の実状についてお話ししていただきます。

なお本講義は遠隔（オンデマンド）で行われます。学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】国際化の実情と地域の取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】国際化の実情と地域の取り組みの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際化の実情と地域の取り組みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

原則毎回、講義で使用します資料を、事前にMoodleにアップロードします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際交流・多文化共生）
 - 第3回 公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際環境保全）
 - 第4回 公的機関の国際化の現状（例、北九州市の水ビジネス）
 - 第5回 公的機関の国際化の現状（例、国の国際貢献活動）
 - 第6回 公的機関の国際化の現状（例、国の企業の海外展開支援）
 - 第7回 企業の海外事業の現状（例、製造業）
 - 第8回 企業の海外事業の現状（例、サービス業）
 - 第9回 企業の海外事業の現状（例、金融業）
 - 第10回 企業の海外事業の現状（例、建設業）
 - 第11回 本学における取組み事例①（例、カンボジア：人材育成）
 - 第12回 本学における取組み事例②（例、ベトナム：中小企業振興）
 - 第13回 国際化が進展する中で、いかに生きるか①
 - 第14回 国際化が進展する中で、いかに生きるか②
 - 第15回 まとめ
- ※講師（ゲストスピーカー）の都合により、授業の内容や順番に変更があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則、毎回レポートを課します：100%
（期末テストは行いません）
（レポートの提出回数が、3回以下の場合は、評価不能（-）とします）

地域と国際【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞や雑誌、インターネットなどを通じて、国際情勢にかかわる情報の収集に努めて下さい。
北九州地域の企業や公的機関の国際化の実状を理解し説明ができるようにして下さい。さらにこれらの実状に対して、自身の考えを述べる
ことができるようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

授業をつうじて、学生生活の過ごし方や、将来のあるべき姿・生き方を考えて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外にかかわっている企業や公的機関の方が、独自の取組み内容を”熱く”語ります。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○

科目名	地域防災への招待	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。
北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。
また、参加が必須となる北九州市防災公開講座（対面形式の予定）が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○
科目名	地域防災への招待				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。

地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。

さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標

地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。

北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。

また、参加が必須となる北九州市防災公開講座（対面形式の予定）が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版

金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう

片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC270F	◎		○		○
科目名	北九州市の都市政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

※2022年度はすべてメディア授業（オンデマンド方式）で実施します。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第3回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第4回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第5回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第6回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第7回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第8回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第9回 門司区のまちづくり【区政、門司港レトロ、観光】
- 第10回 地元就職【就職支援、UIターン】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

北九州市の都市政策 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

- ・ 欠席（毎回レポートの不提出を欠席とみなします）が5回以上の場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。（必要な学習時間の目安は60分）
授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は60分）

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR270F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」（3年次）の準備講座としての役割も果たしています。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとぴあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
- 質疑応答、議論・・・10%
- レポートを7回以上提出しない場合は、評価不能(-)とします。

まなびと企業研究I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、こういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR370F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体を題材にしながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。みんなと一緒に合同企業説明会に行き進路を選ぶ時代は終わり、自分で進路を見出し、手繰り寄せる時代にすでに変わりました。

そして新型コロナウイルスの流行により、時代の変化は加速しました。コロナ禍における企業倒産は、資金繰り対策や持続化給付金、雇用調整助成金、特別定額給付金などの緊急政策によって抑制できたものの、対人接触業務が前提である「コロナ対人4業種」（宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業）においては、コロナ感染拡大時に採られた「接触7～8割削減」政策は「対人3割経済」となり、売上現状は止まらず、債務が膨大しています。なお「コロナ対人4業種」は地産地消型なので、地域内の他業種への影響も大きく、地域内の小売り・卸売りに携わる中小企業への影響も否定できません。その突破口となるのが、感染拡大予防に加え国民の福祉を向上させ、かつ新たな機会を生み出す「攻めと守りを両立」させた、暮らしや社会のデジタル化（DX）です。DXによって適切な情報提供・支援提供により安心して便利に暮らせる生活を維持（守り）しながら、同時にDXによってピンチをチャンスと捉え新しいビジネスを創造（攻め）することが、ニューノーマル時代のビジネスの基本路線と言えるでしょう。同時に企業団体は、DXを提案できる力はもちろん、人間にしかできない質の高いコミュニケーションスキルや、答えのない課題に果敢に挑戦するマインド、そしてAIには思いつかない創造性を持つ大学生が求められ、逆にDXを提案する力を持たず、低いコミュニケーション能力や指示されたことしかできない低いマインド、本やネットに載っていることを真似ることしかできない大学生は、社会のどこからも求められないでしょう。

では今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用しつつ、様々な企業団体について可能な限りアクセスし、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手（企業団体）を知る」、さらに夏のインターンシップなどに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習（Problem-based-Learning）です。

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る（自己分析）、相手を知る（企業団体研究）、就職活動のプランを創る。

（到達目標）【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロルS.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- J.D.克蘭ボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスクヴァー・トウエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 最終プレゼンテーション(企業団体研究成果発表会)

成績評価の方法 /Assessment Method

通常授業のプレゼンテーション...39%
最終プレゼンテーション...28%
振り返りレポート...28%
最終レポート...5%
なお、採点対象のプレゼンを行わなかった場合や、レポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

3年生の場合は、就職活動のブラッシュアップとお考え下さい。4年生の場合は、就職活動中であればそのまま活用できる内容です。すでに内定をお持ちの場合は、残る大学時代をどう過ごすかについて考える機会にしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

環境特講A (SDGsの可能性) 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター, 藤田 俊 / 基盤教育センター
 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター
 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター, 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター
 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター, 中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室
 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」	
SPL102F	◎		○		○	
科目名	環境特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			

授業の概要 /Course Description

SDGs (Sustainable Development Goals) は「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会の実現のため、2015年の国連サミットで採択された、2030年までの17の国際目標 (ゴール) である。北九州市はSDGsに関して先進都市であり、本学においてもSDGs推進に積極的に取り組んでいる。SDGsの背景には環境のみならず、社会や経済などの複雑で幅広い分野が含まれるが、そのための基礎となる「教養」を身につけることは、SDGsを先頭に立って実践していくために欠くことのできない第一歩となるだろう。本講義は多彩な専門分野を持つ基盤教育センター教員によるオムニバス講義であり、さまざまな学問分野のそれぞれの扉でもある。本講義をきっかけに、SDGsに向けて、多角的な視点を養い、諸問題に向き合う力を身につけることを目的とする。

到達目標 :

- 【知識】 設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔 (オンデマンド) 授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で (または大学のPC自習室にイヤホンを持参して) 授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。各回で資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当者が必要に応じ紹介する。

環境特講A (SDGsの可能性) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

SDGs基礎

1. ガイダンス・SDGsと大学(中尾)【環境】【社会】【経済】
2. SDGsへの取り組み(真鍋)【人材育成】【教育】【企業経営】
3. 北九州の歴史とSDGs(藤田)【軍都】【鉄鋼】
4. SDGsの考え方(永末)【観点】【視点】

SDGsゴール別

5. SDG1: 貧困をなくそう(稲月)【社会的孤立】【伴走型支援】【生活構造】
6. SDG3: すべての人に健康と福祉を(日高)【感染症】【医薬品】【健康寿命】
7. SDG4: 質の高い教育をみんなに(浅羽・廣渡)【教育の情報化】
8. SDG5: ジェンダー平等を実現しよう(高木)【ジェンダー】【LGBT】【セックス】
9. SDG8: 働きがいも経済成長も(中岡)【ワークライフバランス】【非正規雇用】
10. SDG10: 人や国の不平等をなくそう(神原)【経済格差】【人権】【人身取引】
11. SDG13: 気候変動に具体的な対策を(村江)【災害】【防災】
12. SDG14: 海の豊かさをまもろう(廣川)【漁業権】【コモンス】【地域資源】
13. SDG16: 平和と公正をすべての人に(戸蔭)【平和の概念】
14. SDG17: パートナリシップで目標を達成しよう(伊野)【障がい】【共生】

まとめ

15. まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
- ・ 積極的な授業への取り組み(感想・ディスカッション等) 20%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 各回の授業ごとの【 】内のキーワードを元に、適宜情報収集を行うこと
- 授業後はミニレポート・確認テストにより、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG1, SDG3, SDG4, SDG5, SDG8, SDG10, SDG13, SDG14, SDG16, SDG17

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL202F	◎		○		○
科目名	環境特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い土地の出来事を他人事として済ますことはできなくなっている。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないか、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、第1部で「衣」、第2部で「食」、第3部で「住」に関わる諸問題を取り上げる。各回ではDVDの鑑賞も通して、どんな事態が進行しているのかを学ぶとともに、クラスでのディスカッションによって、どういった倫理的生活ができるのかを模索する。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量生産・大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、倫理的な生活を考える契機にしてみたい。

【到達目標】

DP1「知識」設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
DP3「思考・判断・表現力」設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
DP5「自立的行動力」設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。
末吉里花『エシカル革命』山川出版社、2021年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (講義の目的、進め方、文献案内など)、 「エシカル消費」とは何か？
< 第1部【衣】 >
第2回 『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) 前半の鑑賞
第3回 『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) 後半の鑑賞、論点整理
第4回 ディスカッション (ファストファッション、エシカルファッション)
第5回 綿花栽培と農薬
< 第2部【食】 >
第6回 『種子—みんなのもの？ それとも企業の所有物？』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第7回 『甘いバナナの苦い真実』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第8回 『Food Inc.』 (DVD) 前半の鑑賞
第9回 『Food Inc.』 (DVD) 後半の鑑賞、アニマル・ウェルフェア、論点整理、ディスカッション
第10回 有機農業に関する外部講師講演会
第11回 『0円キッチン』 (DVD) の観賞
< 第3部【住】 >
第12回 『プラスチックごみ—日本のリサイクルの幻想』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第13回 『スマホの真実』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第14回 『もっと！フェアトレード』 (DVD) の鑑賞
第15回 まとめ+全体ディスカッション「～エシカルライフに向けて～」

※外部講師による講演会を予定しています。日程は講師の都合により前後する可能性があります。

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

3回のレポート (75%)、授業への貢献度 (25%)、Formsを使って毎回出席を取ります。5回以上の欠席で「一」 (評価不能) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、各部が終了するたびにレポートを課しますので、必ず振り返りをしてください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課外活動として、小倉南区合馬での有機農業体験を実施する可能性があります。参加は任意で、成績評価には影響しません。

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」

「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」

「SDGs 17. パートナーシップ」

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
石川 敬之 / 地域共生教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」	
ENV001F	◎		○		○	
科目名	環境都市としての北九州		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうか、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔授業（オンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。一部、ライブで収録する回もありますが、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（日高）
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～（外部講師）
- 3回 北九州の自然と環境（基盤教育センター・村江）
- 4回 北九州における環境政策（外部講師）
- 5回 環境問題とエネルギー政策（外部講師）
- 6回 環境問題と市民の関わり（外部講師）
- 7回 環境ビジネスとエコタウン事業（大学院マネジメント研究科・松永）
- 8回 施設見学（環境ミュージアム）
- 9回 北九州の環境経済（経済学部・牛房）
- 10回 環境問題とNPO①（都市交通、外部講師）
- 11回 環境問題とNPO②（フードバンク、外部講師）
- 12回 環境問題と企業の取り組み（外部講師）
- 13回 特別講義（外部講師）
- 14回 環境問題と学生の取り組み（地域共生教育センター・石川）
- 15回 まとめ

環境都市としての北九州【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・20%
授業ごとの課題への取り組み(確認テスト・ミニレポート等)・・・70%
期末レポート・・・10%
課題・レポートの提出が全くない場合は評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

施設見学(環境ミュージアム等)は原則として必須とする。
・見学は授業期間中、レポート提出に間に合うよう、各自で行うこと。
・環境首都検定は12月11日(日)の予定。

*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
*見学にかかる交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔（オンデマンド）授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等） 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして⑩経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%

小レポート試験：20%

最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

環境問題概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして⑩経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%

小レポート試験：20%

最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

環境問題概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAIISHI / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎		○		○

科目名	未来を創る環境技術	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	-----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自立的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。オンラインでのグループワークを行うので、スマートフォンではなく、パソコンを利用することがのぞましい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割
- 第2回：未来を創る空調技術【建築学からのアプローチ】
- 第3回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第4回：未来を創る経済学【経済学からのアプローチ】
- 第5回：人工知能と超スマート社会【情報学からのアプローチ】
- 第6回：未来を創る植物学【生物学からのアプローチ】
- 第7回：未来を予知する保全技術【機械工学からのアプローチ】
- 第8回：北九州市の温暖化対策について【官】
- 第9回：2050年カーボンニュートラル実現に向けてのグリーン成長戦略【官】
- 第10回：再生可能エネルギーの産業【産】
- 第11回：日本における風力発電【産】
- 第12回：洋上風力発電の産業【産】
- 第13回：地域活性化につながる洋上風力発電事業開発のあり方【学】
- 第14回：エネルギーを“つくる”と“つかう”【学】
- 第15回：再生可能エネルギーのメンテナンスとリスクマネジメント【学】

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

必要事項は、moodleに掲載するので、定期的に確認すること。また、都合により、授業のスケジュールを変更することがある。オンラインでのグループワークも行うので、積極的にディスカッションに参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における環境エネルギー政策、特に、次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ZOL001F	◎		○		○
科目名	動物のみかた		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%
・レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV002F	◎		○		○
科目名	自然学のまなざし		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智慧を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけでなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%
- ・すべてのレポート(小論もふくむ)を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

生命科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔（オンデマンド）授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------|---------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ | 【RNA】【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること | 【ゲノム】【体質】【遺伝病】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【クローン】【iPS細胞】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)そのとき染色体は | 【細胞周期】【染色体異常】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 12回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【早老症】【テロメア】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス | 【ウイルス】【抗体】 |
| 14回 | 体を守るしくみ(3)私たちと微生物 | 【腸内細菌】 |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

生命科学入門 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境ESD入門【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎		○		○
科目名	環境ESD入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現在、地球上の至るところで自然環境が悪化しています。大気汚染、海洋汚染、森林破壊、異常気象、生物多様性の危機など、様々な問題が生じ、我々の生活環境にも影響を与えています。豊かな自然環境を守り、責任をもって次世代に継承していくためには、私たち一人ひとりが自発的に環境保全のための行動をとることが重要になります。本講義では、いま地球上で起こっている環境問題を知り、持続可能な社会の実現に向けて私たちがすべきことを考えていきます。

到達目標

- 【知識】 ESDの諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 ESDの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 ESDに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：環境ESDについて
- 第2回 北九州市と環境ESD
- 第3回 路上ゴミについて考える -日本人は果たしてきれい好きなのか-
- 第4回 海洋プラスチックゴミ問題について
- 第5回 経済活動とゴミ問題
- 第6回 ゴミ問題とリサイクル
- 第7回 環境に配慮した生活とは
- 第8回 地球の環境問題と私たちにできること
- 第9回 エネルギー問題から環境を考える
- 第10回 食から考える環境問題
- 第11回 環境問題と国際協力
- 第12回 環境問題とジェンダー問題
- 第13回 環境問題と持続可能な地域開発
- 第14回 北九州市のSDGsとESDの取り組み
- 第15回 まとめ・副専攻環境ESDプログラムの紹介

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業において課すレポートにて評価します（100%）
レポートとしての体裁を成していない場合、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします。

環境ESD入門【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から環境問題に対する関心を持ち、意識して様々な情報に触れるようにしてください。それが大きな事前学習になります。各回の講義テーマに関しては事前に紹介しますので、書籍やインターネットなどで予備知識を得ておいてください(事前学習)。また受講後は、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってください(自習時間の目安は60分程度)。

履修上の注意 /Remarks

本講義では、各回の講義ごとで小レポートの作成と提出を求めています。
講義全体を通じては、相当なボリュームになりますが、しっかり取り組んで頂きたいと思います。
また、対面で実施された場合は、講義内でのディスカッション、および質疑応答に積極的に参加できるように、事前・事後学習を実施しておくことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境ESDに関する入門的な講義となります。
本講義を履修したうえで、さらなる発展的な学びとして「副専攻環境ESDプログラム」を受講することを薦めます。

キーワード /Keywords

環境、持続可能性、国際理解、生物多様性

SDGsとの関連について

5. ジェンダー平等 6. 水とトイレを 7. エネルギーをクリーンに 12. 作る・使う責任 13. 気候変動対策 14. 海洋保全 15. 環境保全

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL103F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

2001年の911以降の国際社会を考える上で、テロリズム問題を避けて通ることはできません。しかし、テロは以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

コロナ対応で、動画配信となります。動画は、各回編集カット作業してBGMやテロップ付きのyouTube仕様を心がけます。

到達目標

- 【知識】テロリズムを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】テロリズムについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※昨年度に配信した動画タイトルは以下の通りです。部分的に作り替えたり、組み替えたりする場合があります。授業回数は15回で、1回45～60分程度の視聴時間になります。各回の内容は変更する可能性があります。

- ガイダンス / 問題の所在（テロから何を学び取るのか）
- 自由の戦士としてのテロリスト像 / ルクソール事件
- 犯罪としてのテロ / テロに政治目的は必要か。 / テロの定義はたくさんある！
- 911の衝撃 / テロによる社会的動揺 / 対人テロ / 対物テロ
- テロリストとは誰か、残された課題
- 行動によるプロパガンダ（アナキズム） / 近代日本とテロ
- 政治的脅迫としてのテロ（アイルランドのナショナリズム）
- ナショナリズムとテロ（サライェヴォ事件とスラブ主義） / 民族解放（シオニズムとイスラエル建国）
- 爆弾テロという手法
- 国際テロの誕生（パレスチナ人の闘争）
- 学生運動の過激化と日本赤軍（ロッド空港事件）
- 劇場型テロ（ミュンヘン・オリンピック事件）
- 現代テロとテロ対策
- 動機が多様化（右翼・保守テロ、オクラホマシティ連邦ビル爆破テロ）
- 動機が多様化（環境テロ、ユナボマー）

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に1度、小テストを実施する。最終的に、小テストの合計点数から成績を評価する。

小テスト（6回）100%、ただし、小テストの回数は若干前後する可能性がある。

※「評価不能（-）」は、小テストを一回も受験していない場合、もしくは、総合得点が0点の場合である。

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容についてのフィードバックは、WEB掲示板を用意しますので、不明な点は書き込んでください。メールでも質問受付ます。

事後学習ですが、頻繁に小テストがあるので、何回でもいいので動画を視聴してください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

説明が主体になる講義については、教室での授業や生配信よりも、録画された動画の方が学習効果が高いと考えています。皆様の期待を裏切らないように、可能な限り、魅力的な動画を配信していくつもりです。

キーワード /Keywords

世界（地球）特講B（ジェンダー平等（SDG5）の課題解決型学習）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科, 三宅 博之 / MIYAKE HIROYUKI / 北方キャンパス 非常勤講師
横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL203F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

SDG5（ジェンダー平等）を実現する方法を、課題解決型学習（PBL）を通じて受講者が主体となって策定する場を提供する授業です。実現可能な方策を協働して考究する過程を経て、理念および実践において革新的なアイデアが生み出されることが期待されます。授業はコミュニケーションの様々な手法を取り入れて学生のアクティブラーニングを促しながら進めます。また授業内の成果は社会に還元できる成果物として残すことを目指します。加えて、実践を積んだ受講者がワークショップや授業実践を通じて他の学生に成果を還元する仕組みの構築を試み、成果のより広範な波及を図ります。

ジェンダー平等は、2030年までの達成を目指す国際目標、持続可能な開発目標（SDGs）の目標5に掲げられています。SDGsの他の目標を達成するためにも、SDG5の達成は急務です。達成に向けた国際社会の取り組みについても理解を深めていく予定です。本授業を通じて、身近な事柄からグローバルな事柄まで、様々なレベルで問題意識を共有しながら、一緒に原因や解決方法について考えましょう。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○図書館本館3F（SDGsのコーナー）、特にSDG5のコーナーを参照

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第3回 SDG5、ジェンダーおよびジェンダー平等概念の導入、哲学対話を通じたブレインストーミング・意見交換・問題提起、読書課題の提示

- 第1回： ガイダンス、授業計画の説明
- 第2回： ジェンダー平等とは何か
- 第3回： 哲学対話を通じたブレインストーミング

第4回～第6回 学内・国内外のジェンダー平等に関わる現状把握

- 第4回： 行政組織（国内外）におけるポジティブ・アクション
- 第5回： ワークショップ：ロジックモデルをつくってみよう（1）
- 第6回： ワークショップ：ロジックモデルをつくってみよう（2）

第7回～第9回 模擬国連の枠組みによる国際施策の検討

- 第7回： 国連女性の地位委員会（CSW）について、リサーチ開始
- 第8回： 施策案意見交換、二者間交渉、多数者間交渉
- 第9回： 国際施策ワークショップ

第10回～12回 海外の学生との意見交換と成果物作成

- 第10回： 海外の学生との意見交換
- 第11回： ワークショップ：アクティビティシートの作成（1）
- 第12回： ワークショップ：アクティビティシートの作成（2）

第13回～第15回 グループディスカッション、成果物の披露

- 第13回： 成果発表（1）
- 第14回： 成果発表（2）
- 第15回： まとめ

世界（地球）特講B（ジェンダー平等（SDG5）の課題解決型学習）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内の貢献度 50%、 プロジェクト達成度 50%
※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業に関連する科目としては、「ジェンダー論」（担当：高木駿先生）があります。
本授業活動の一部にはオンラインによる協働活動が含まれる予定です。遠隔参加の方々とオンラインでつなぎ、本授業受講者は対面で活動する形をとる予定です。受講に際してマイクやカメラといった特別なツールを受講者自身が準備する必要はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では受講者同士の学び合いと学びの連鎖を重視します。主体的に活動や議論に参加してください。
SDGs達成のターゲット年は2030年です。その頃には本授業の受講者の多くが社会の中核を担う世代になっていると思われます。受講者には、当事者としての意識を持ち、主体的にSDG5達成という課題に取り組むことが期待されます。本授業活動が、受講者のキャリア形成に、また長期的には国内外のジェンダー平等実現の加速に寄与するものとなることを願います。

キーワード /Keywords

持続可能な開発目標（SDGs）、SDG5：ジェンダー平等、課題解決型学習（PBL）、対話、コミュニケーション、アクティブラーニング、クリティカルシンキング、ポジティブ・アクション、模擬国連、国連女性の地位委員会（CSW）、グローバル人材、グローバル人材

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE010F	◎		○		○
科目名	韓国の社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つけなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは？
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは？
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

韓国の社会と文化【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート 40%
毎回のコメントカード 30%
その他、小レポートなど 30%

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。

レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に対しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

国際学入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

安全保障論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 安全保障と外交
- 自衛隊の海外派遣
- 安全保障の非軍事的な側面
- 日米同盟と自衛隊
- 自衛隊の任務
- 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 海上警備行動
- 企画動画
- 安全保障流の地図の読み方
- スクランブル
- 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※「評価不能(-)」は、小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL003F	◎		○		○

科目名	現代の国際情勢	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	---------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義はメディア授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回（篠崎）オリエンテーション
- 第2回（北）日系アメリカ人の歴史と今日（1）概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第3回（北）日系アメリカ人の歴史と今日（2）現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第4回（阿部）米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
- 第5回（政所）国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
- 第6回（政所）国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
- 第7回（久木）2010年代以降のイギリス（1）【政権交代】【国民投票】
- 第8回（久木）2010年代以降のイギリス（2）【EU離脱】
- 第9回（篠崎）世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
- 第10回（大平）東南・南アジアにおける安全保障と開発【一帯一路】【Quad】【債務の罠】
- 第11回（デルガド）Becoming an International Citizen in Japan: Carlos Ghosn success story and experience. 【International, Citizen, Japan】
（※英語での講義です）
- 第12回（白石）中進国としての中国経済【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回（柳）朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回（柳）北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回（下野）台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト（各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回）100%
- 小テストを1度も受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回（阿部）9. 産業・技術革命

第5回、第6回（政所）16. 平和と公正

第7回（久木）3. 健康と福祉を

第8回（久木）10. 不平等をなくす

第9回（篠崎）11. まちづくり

第11回（デルガド）9. Innovation and Infrastructure（産業・技術革命）

第12回（白石）17. グローバル・パートナーシップ

第15回（下野）5. ジェンダー平等、10. 不平等をなくす、16. 平和と公正

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

- 【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テラント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート 50% テスト 50%
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
 - ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション－グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地（1）【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地（2）【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学（1）【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学（2）【文化と感情】
- 12回 国際労働移動（1）【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動（2）【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

近代史入門【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
 「知識」
 →日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 「思考・判断・表現力」
 →日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
 「自立的行動力」
 →日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史・「史実」・歴史学
- 第2回 第一次世界大戦ー「新しい戦争」の衝撃と影響
- 第3回 白虹事件と関東大震災ー「中立」化する言論、台頭する「世論」
- 第4回 政治の大衆化ー二大政党制と劇場型政治
- 第5回 軍事の大衆化ー戦争にまつわる文化、娯楽、記憶
- 第6回 北伐と革命外交ー1920年代の日中関係
- 第7回 ロンドン海軍軍縮会議ー「統帥権干犯」をめぐる政治とメディア
- 第8回 満洲事変ー「生命線」としての満蒙権益と「熱狂」の創出
- 第9回 政党内閣の崩壊ー「協力内閣」運動と五・一五事件
- 第10回 昭和陸軍と二・二六事件
- 第11回 日中戦争の諸相ー謀略と和平工作
- 第12回 第二次欧州大戦と日本
- 第13回 新体制運動
- 第14回 日米開戦への道
- 第15回 太平洋戦争の終結と「聖断」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
 なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して下さい。

近代史入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese Culture and Society 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221F	◎		○		○
科目名	Japanese Culture and Society				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：日本の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：日本の文化と社会についての考え方をういて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

自立的行動力：日本の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Hood, Christopher P. Japan: The Basics, Routledge 2015 ISBN: 978-0-415-62971-3 (pbk) 2657円 or 978-1-315-74568-6 (ebk) 2398円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook (ebk)

Other printed materials will be supplied by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and Orientation
- 2回 Studying about Japan
- 3回 Demographic challenges
- 4回 Japan on the move
- 5回 Natural Japan
- 6回 Student Led Discussion & Presentations I: Demographic challenges
- 7回 Student Led Discussion & Presentations II: Japan on the move
- 8回 Student Led Discussion & Presentations III: Natural Japan
- 9回 Japanese Core Values
- 10回 Pure Japanese
- 11回 One for all, all for one/ Re)building Japan
- 12回 Student Led Discussion & Presentations IV: Core Values
- 13回 Student Led Discussion & Presentations V: Pure Japanese
- 14回 Student Led Discussion & Presentations VI: One for all, all for one /
- 15回 Student Led Discussion & Presentations VII: Re)building Japan and submission of final paper

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation and Participation -50%

Final Paper -50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(－)とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能(－)とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(－)となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.
A TOEIC Score of 650 or higher before registration is highly recommended

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231F	◎		○		○
科目名	English Speaking Cultures and Societies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 知識：英語圏の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 思考・判断・表現力：英語圏の文化と社会についての考え方を用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
 自立的行動力：英語圏の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

This class aims to provide an overview of the English speaking cultures and societies that exist, and provide a springboard for students to research the topics that interest them in particular in greater detail. This covers historical aspects such as British mythology as well as British expansion spreading English all over the globe, a variety of conflicts that have shaped some of the communities in different ways, and religious beliefs that underpin some cultural attitudes. We will also look at topics such as food, sport, and entertainment as well as exploring some well known festivals.

教科書 /Textbooks

None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggestions to be made when necessary in class

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Legends and Lore
- 第3回 Three Chords and the Truth
- 第4回 Protest and Politics
- 第5回 Ghost Stories
- 第6回 Empire to Empire
- 第7回 The Clearances and the Troubles
- 第8回 Masters of War
- 第9回 Fusion Culture
- 第10回 Blood † Body
- 第11回 Silly Point
- 第12回 Food
- 第13回 Christmas
- 第14回 A Barrel of Laughs
- 第15回 POP!

成績評価の方法 /Assessment Method

Research-based projects 70%
Contributions 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Instructions to be given in class. Try to pay attention to English media and news, and keep up-to-date with topics that may intersect with those we cover in class to help deepen your understanding of relevant issues.

履修上の注意 /Remarks

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(－)とします。

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化とその認識

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第9回 移動する人々と世界

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 中間テストの解説と授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストおよびそのほか課題 40%、期末テスト 60%

※課題の提出など、加点の対象となる活動が全くない場合は評価不能（－）です。

※受講人数、感染状況によってはテストがレポートになる可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ この授業は中間テストほか学期中にさまざまな課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、植民地主義、グローバリゼーション、近代、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を行っていたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

・本授業の到達目標

「知識」

→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

「思考・判断・表現力」

→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

「自立的行動力」

→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジюме・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 歴史学にとっての「もしも・・・」
- 第3回 この国のかたち—近代日本の国家構想
- 第4回 国民—「日本人」の形成
- 第5回 言語—「共通語」の創成
- 第6回 国土—変動する「国境」
- 第7回 首都—東京以外の選択肢
- 第8回 学校—戦前期日本の教育と「学歴」
- 第9回 軍隊—徴兵制と通過儀礼、兵営と地域社会、前線と銃後
- 第10回 日中関係—和平の可能性
- 第11回 日米開戦— the Point of No Return はどこだったのか
- 第12回 原爆投下—マンハッタン計画、軍都小倉、本土決戦
- 第13回 敗戦と占領—異世界型「戦後日本」
- 第14回 天皇制—「象徴」の起源
- 第15回 まとめ—「可能性」としての歴史

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジюме等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して置いて下さい。

可能性としての歴史【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - ア

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む） … 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済1-I
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む） … 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済1 - 工, 管
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1 - 工

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み(課題・レポートを含む) ... 100%

ただし、情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1-U

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む）… 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む） … 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブテーマ「思考と推論」

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた基礎的な考える力を応用して、より深く考えられるようになることである。特に、本授業では、人間が考えるときに重要なはたらきをしている「推論」と、その心理実験を通じて、考える力を総合的に活用できる能力・資質を伸ばすことを目指す。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 思考スキルとその活用方法
- 推論を中心とした人間の思考と認知心理
- 心理実験の計画法
- 心理実験の調査方法とデータ分析

本授業の前半は講義による授業内容の解説となるが、後半は課題研究が中心となる。課題研究では、ワークシートを用いながら、心理実験の計画・実施・分析・考察までの一連の流れを実施する。

< 到達目標 >

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

市川伸一：考えることの科学～推論の認知心理学への招待～、中公新書、1997年、660円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：考える力と推論【ガイダンス】【認知心理学】
- 2回目：形式論理と日常的推論(1)【四枚カード問題】
- 3回目：形式論理と日常的推論(2)【主題材料効果】【全件否定の錯誤】【後件肯定の錯誤】
- 4回目：実用的推論スキーマ(1)【疑う】【問いを立てる】【スキーマとは】
- 5回目：実用的推論スキーマ(2)【検証する】【分析する】
- 6回目：心理実験の流れ(1)～疑う～【批判的思考】
- 7回目：課題演習(1)～疑う～
- 8回目：心理実験の流れ(2)～問いを立てる～【抽象化】【視点図】
- 9回目：課題演習(2)～問いを立てる～
- 10回目：心理実験の流れ(3)～検証する～【仮説】【視点図】【作問】
- 11回目：課題演習(3)～検証する～
- 12回目：心理実験の流れ(4)～分析する～【調査方法】【データ分析】
- 13回目：課題演習(4)～分析する～
- 14回目：提案された心理実験の発表
- 15回目：まとめ

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

心理実験の流れに関する課題・・・40%、課題演習レポート・・・40%、積極的な授業参加・・・20%
課題およびレポートの提出回数が全体の3分の2未満の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、授業時間に課された課題に未到達、または、満足のいく完成度でなかった場合は、授業時間外に積極的に課題の続きに取り組み、次の授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。「アカデミック・スキルズI」を受講し、その内容をしっかり学んでいると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、各授業回に適した課題や質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。課題は、ワークシートやMoodleを使って取り組んでもらい、その成果は必ず提出してもらう。そのため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブラーニング、推論、心理実験

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることです。最終的な目標は、テーマに沿って自分で問いを設定し、文献を読んで考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジユメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている

教科書 /Textbooks

岡岡亮二 2019 『教育格差』ちくま新書 (1000円 + 税)

教育は多様な情報がメディアでもあふれており、みなさん一人ひとりに何らかの経験があるので、イメージで議論されやすい側面があります。大学生になったところで、これまで自分が受けてきた教育を客観的に振り返ってみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 慶応義塾大学教養研究センター 2014 『ダメレポート脱出法』慶応大学出版会
- 佐渡島沙織ほか編 2015 『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』大修館書店
- 白井利明・高橋一郎2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

そのほかMoodleに参考となる電子書籍のリンクを貼ります。必要に応じて閲覧してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本の理解を深めるには・レジユメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を若干変更することもある。

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、授業中の活動（課題提出、報告、積極的な発言など）60%
（第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。）
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。
※学期末レポートの最低文字数は2000字です。
※課題の提出など加点の対象となる活動が全くない場合は履修放棄（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。受講する段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- ・ 演習の準備に時間がかかることを嫌がらないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。レポートをあまり書かない学部の学生も、学期末には2000字以上のレポートを頑張って書いています。レポートに慣れている学部の学生は、この機会に自分の書き方を点検し、より高く評価されるレポートを目指してみましよう。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、SDGs4 質の高い教育をみんなに

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は「アカデミック・スキルズI」で培ってきた考える力をさらに活用して、大学での学びに必要な論理的思考能力を伸ばすことを目的とします。データ収集からはじめて、それを取捨選択して加工、可視化して、他者に向けて発信するという一連の過程を具体的に実践していきます。

具体的には、以下のような項目を身につけます：

- 情報収集を行い、その情報の信頼性をチェックすることができる
- 表計算ソフトなどを利用し、データを可視化することができる
- プログラミングを基礎から学ぶことで、論理的な思考力を鍛え、現在不足しているといわれるデータサイエンス人材への一歩を踏み出す
- グループ活動を通じて、他者とのコミュニケーションをとることができる

(到達目標)

【技能】 大学生生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データを集める【検索】 【情報の信頼性】 【着眼点】
- 3回 データを加工する(表計算の復習)
- 4回 論理的思考力1(プログラミングの基礎)
- 5回 論理的思考力2(図形の描画)
- 6回 論理的思考力3(変数の利用)
- 7回 論理的思考力4(条件分岐, ループ)
- 8回 論理的思考力5(双方向性)
- 9回 論理的思考力6(配列)
- 10回 データの可視化1(グラフの種類)
- 11回 データの可視化2(棒グラフ)
- 12回 データの可視化3(折れ線グラフ)
- 13回 データの可視化4(円グラフ)
- 14回 現実のデータを活用する
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 90%

積極的な授業参加 ... 10%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料などを提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に提示した課題を次回の授業時に提出したりしてもらいますので、授業時間外の作業が必要となります。特にグループ活動においては、グループメンバーと議論する時間を確保してください。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や授業進度、そのほかの社会状況に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、ビッグデータやAIなど、ICTスキルやデータを活用できる人材が世の中で求められています。いわゆる「文系」という枠に自分を限定するのではなく、自分の将来に向けてプログラミングを学んでみませんか？

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング (論理的な思考) , プログラミング , データの可視化 , コミュニケーション能力 , 思考力 , SDGs 4:質の高い教育をみんなに

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、課題図書の本通読を通じて、論理的思考・批判的思考・対話の力を鍛えていきます。本通読では、毎回、任意の代表者に発表してもらい、グループでディスカッションを行なってもらいます。

課題図書は、ジェンダー論・フェミニズム論に関わる新書で、合計2冊を読み進める予定です。複数候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。

なお、毎回1200字程度のレジユメの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

《技能》大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。

* 課題図書は新書に限定しますので、1冊の価格は1,000円ほどです。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イン트로ダクション②：レジユメの作り方、進め方
- 第3回 輪読 1冊目①
- 第4回 輪読 1冊目②
- 第5回 輪読 1冊目③
- 第6回 輪読 1冊目④
- 第7回 輪読 1冊目⑤
- 第8回 輪読 1冊目⑥
- 第9回 輪読 2冊目①
- 第10回 輪読 2冊目②
- 第11回 輪読 2冊目③
- 第12回 輪読 2冊目④
- 第13回 輪読 2冊目⑤
- 第14回 輪読 2冊目⑥
- 第15回 まとめ：レポートについて

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 各回のレジユメ作成 60%
- ・ 期末レポート 40%

* レジユメを4回以上提出しなかった場合は、評価不能(-)となります。

* レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)となります。

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成
- ・ 前回範囲の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決定するので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジユメの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等、論理的思考、批判的思考

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

身近なことをテーマに考えたり自分の考えを表現したりすることを、様々な学部（学群）の学生と行ってもらおう。

（到達目標）

【技能】大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業を通じて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：考える力
- 3回：コミュニケーション能力
- 4回：ことばを有効に活用するためのスキル
- 5回：自分を理解する①【大切にするもの】
- 6回：自分を理解する②【違和感のあるもの】
- 7回：相手を理解する
- 8回：自分を理解してもらおう
- 9回：個人発表
- 10回：ここまでの振り返り
- 11回：北九大を理解する①【キャンパス探訪】
- 12回：北九大を理解する②【課題設定】
- 13回：北九大を理解する③【表現する】
- 14回：個人発表（または、グループ発表）
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（事前・事後学習を含む）50%、課題など50%
課題などの提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に役立つ活動を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために)

【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の興味や関心に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
様々な学部 (学群) の学生と一緒にたくさんのインプットとたくさんのアウトプットをしていただくことを期待しています。
よく考えて、受講してください。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、レクリエーション

関連するSDGsゴール : 17. 「パートナーシップで目標を達成しよう」

アカデミック・スキルズII (歴史から考える) 【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブタイトル：歴史から考える

本授業では、「アカデミック・スキルズI」で身に付けた「考える力」を活用し、現代日本が抱える様々な問題の歴史的経緯を考えていきます。前例を参照することで目の前にある問題や「当たり前」とされている事象をより深く理解し、それらの解決・分析に活かせるようになることを目指します。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。適宜、必要な資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史的思考法とは【“今”の背景を考える】
- 第3回 過去へのアクセス方法①【史料とは何か】
- 第4回 過去へのアクセス方法②【どこから史料に触れられるのか】
- 第5回 「当たり前」の歴史的経緯を探る【異なる「今」を想像する。】
- 第6回 受講者（個人またはグループ）の発表①【例．自由、平等】
- 第7回 受講者（個人またはグループ）の発表②【例．平和、戦争】
- 第8回 受講者（個人またはグループ）の発表③【例．大人、子ども】
- 第9回 受講者（個人またはグループ）の発表④【例．恋愛、婚姻】
- 第10回 社会問題の歴史的経緯を把握する【過去から「今」と「これらか」を考える。】
- 第11回 受講者（個人またはグループ）の発表⑤【例．少子高齢化】
- 第12回 受講者（個人またはグループ）の発表⑥【例．格差社会】
- 第13回 受講者（個人またはグループ）の発表⑦【例．東京一極集中】
- 第14回 受講者（個人またはグループ）の発表⑧【例．教育問題】
- 第15回 まとめ

※受講者の人数や興味・関心事によって、授業計画・内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加（発表、質疑応答、小課題の実施など）60%

学期末レポート40%

なお、学期末レポートが未提出の場合は、評価不能（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代日本の様々な問題や身近なことの背景に、日頃から関心を持つように心掛けて下さい。

アカデミック・スキルズII (歴史から考える) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナースhip

法への誘い【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW001F		◎	○		○
科目名	法への誘い		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
【思考・判断・表現力】 法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
【自立的行動力】 社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自立的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する（事前にMoodleにアップロードされる場合もあるので確認すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 おからはゴミなのか、劇物を輸入規制しなくていいのか-行政法解釈入門
- 第3回 信じる者は救われる?-法治主義と信頼保護原則
- 第4回 自殺や自傷行為を止めさせると犯罪か?
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか?-AIと法
- 第7回 電気は「物」か?-物に関する法
- 第8回 契約とは何か?-約束と契約の違い・両者の限界等について
- 第9回 あなたを狙う投資マルチ-マルチ商法と消費者法
- 第10回 保険契約制度により自然災害等に対応できるか?
- 第11回 会社の存在意義は何か?
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由?-自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家-ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

法への誘い【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。
事前に資料等の配布がある場合は、授業前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 3. 健康と福祉を、SDG 10. 不平等をなくす、SDG 16. 平和と公正

コンピューターリテラシー 【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として利活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる

【文章作成】

- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ 基礎的なグラフの作成ができる
- ・ 条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

(到達目標)

【技能】コンピューターを適切に利用する技能を身につけている。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円 (税抜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

コンピューターリテラシー 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返り・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%
- ・ 課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能(－)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に授業内容を復習してください。

なお予習および復習に必要な学習時間は1時間程度です。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須ですので、自由に利用できるパソコンを持っていることが望ましいです。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが利用できる環境を準備してください。

また、コンピューターの基本的な操作(キーボードによる文字入力、マウス操作など)ができるようになっておく受講しやすいです。

なお、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もあります。また、受講者数調整を実施する可能性もあります。詳細は、初回の授業中に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、利活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。

キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

データ分析 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

データ分析【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

6回以上欠席した場合は，評価不能（-）とします．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として，授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと．

事後学習として，授業内容を反復すること．

また，データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため，正規の授業時間以外に，積極的にデータ分析の練習を行うこと．

履修上の注意 /Remarks

この科目は，パソコンを使った演習が必須なので，自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい．パソコンを持っていない場合は，大学内のパソコン自習室を利用するなど，パソコンが使える環境を準備しておくこと．また，表計算ソフトを使った演習が中心となるので，表計算ソフトがある程度使えると，受講しやすくなる．

受講生の興味関心や理解度等に応じて，授業計画や内容を変更することがある．その場合は，授業中に説明する．

この科目は，授業の一部，もしくは，全てを遠隔で実施する可能性もある．また，受講者数調整を実施する可能性もある．詳細は，初回の授業中に説明する．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から，難しい数式が出てくる印象を与えるが，本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している．データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので，興味のある学生は積極的に受講して欲しい．

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

データ分析【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

6回以上欠席した場合は，評価不能（-）とします．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として，授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと．

事後学習として，授業内容を反復すること．

また，データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため，正規の授業時間以外に，積極的にデータ分析の練習を行うこと．

履修上の注意 /Remarks

この科目は，パソコンを使った演習が必須なので，自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい．パソコンを持っていない場合は，大学内のパソコン自習室を利用するなど，パソコンが使える環境を準備しておくこと．また，表計算ソフトを使った演習が中心となるので，表計算ソフトがある程度使えると，受講しやすくなる．

受講生の興味関心や理解度等に応じて，授業計画や内容を変更することがある．その場合は，授業中に説明する．

この科目は，授業の一部，もしくは，全てを遠隔で実施する可能性もある．また，受講者数調整を実施する可能性もある．詳細は，初回の授業中に説明する．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から，難しい数式が出てくる印象を与えるが，本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している．データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので，興味のある学生は積極的に受講して欲しい．

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 池之上 正人 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

データ分析【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

6回以上欠席した場合は，評価不能（-）とします．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として，授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと．

事後学習として，授業内容を反復すること．

また，データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため，正規の授業時間以外に，積極的にデータ分析の練習を行うこと．

履修上の注意 /Remarks

この科目は，パソコンを使った演習が必須なので，自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい．パソコンを持っていない場合は，大学内のパソコン自習室を利用するなど，パソコンが使える環境を準備しておくこと．また，表計算ソフトを使った演習が中心となるので，表計算ソフトがある程度使えると，受講しやすくなる．

受講生の興味関心や理解度等に応じて，授業計画や内容を変更することがある．その場合は，授業中に説明する．

この科目は，授業の一部，もしくは，全てを遠隔で実施する可能性もある．また，受講者数調整を実施する可能性もある．詳細は，初回の授業中に説明する．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から，難しい数式が出てくる印象を与えるが，本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している．データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので，興味のある学生は積極的に受講して欲しい．

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL205F			◎		
科目名	知の創造特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

かつて日本は、今よりずっと活気ある国としてありました。そしてこの時代の日本人は自信に満ちていました。彼らは今年より来年、来年より再来年、自分たちの生活はどんどん「豊か」で「贅沢」なものになっていくと信じていましたし、それが彼らの目標でもありました。

しかし現在、かつての活気は失われ、これとは対称的に、慢性的な不況や「少子高齢化」、地方の「過疎化」など、「衰退」を象徴するような、ネガティブな側面ばかりが目立っています。そして私たちは「豊かさ」や「贅沢」を追い求めることをやめ、積極的にお金を使い、物を買うことすら控えるようになってきました。

では、それはなぜなのでしょう？

なぜかつての日本には活力があって今はなく、私たちはかつての「豊かさ」を求めなくなってしまったのでしょうか。そしてそんな中、私たちは今、どんな生活を理想として生きているのでしょうか。

私たちは過去、何を経験し、その結果、今、未来に何を期待しているのでしょうか。

この講義は、私たち日本人が戦後、どのような時代を生き、そこで何を経験し、そのことでどう変わってきたのか、私たち自身の過去と現在、そして未来を客観的に理解するための授業です。そしてここではそれを、日本人の生活条件の変化、つまり日本経済の歴史をもとに考えていきます。

私たちの生活は、各時代の経済によって規定されています。

したがって、経済が過去からどう変化して来たのか知ることは、私たちの生活がこれまでどう変化して来たのか知ることであります。そして私たちの生活がどう変化して来たのか理解出来れば、上の問いに対する答えを見つけることもできるようになります。

ここではぜひ皆さんに、経済と歴史をもとに現在の私たち自身を理解する、経済学的・歴史学的な思考を実践し、身に付けていただきたいと思えます。

到達目標：

【思考・判断・表現力】

設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜ「経済史」を学ぶのか
- 第2回 敗戦直後の日本経済
- 第3回 戦後復興の始まり - 「鉄は国家なり」 -
- 第4回 「団塊の世代」
- 第5回 人口の急増と経済危機 - 「人口転換」 -
- 第6回 「人口ボーナス」
- 第7回 産業基盤の整備と「高度経済成長」
- 第8回 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 「団塊の世代」の世帯形成と日本経済
- 第10回 都市的なライフスタイルの希求
- 第11回 「一億総中流」時代 - 「ホワイトカラー」の台頭 -
- 第12回 「高度経済成長」の終焉 - 「オイルショック」と「団塊ジュニア」 -
- 第13回 「安定成長期」 - 産業構造の転換と「鉄冷え」 -
- 第14回 「バブル崩壊」
- 第15回 「失われた20年」と現在

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 日常での授業への取り組み...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 人口転換 団塊の世代 高度経済成長 オイルショック 安定成長期 団塊ジュニア バブル崩壊 失われた20年 口
ストジェネレーション

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC002F			◎	○	
科目名	社会学的思考		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウエーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活をしているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業であるため、学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『生活からみる社会のすがた』, 稲月正・加来和典・牧野厚史・三隅一人編, 学文社, 2022年3月刊行予定
 - 『現代の社会学的解読』, 山本努・辻正二・稲月正著, 学文社, 2014年, ¥2640 (古書)
 - 『最新 社会福祉士養成講座③ 社会学と社会システム』, 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編, 中央法規, 2021年, ¥2,750
- その他、講義の中で、適宜、紹介する

社会学的思考 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション【社会、社会学】
- 2 社会学的な考え方とは【記述、説明、行為、規範、制度、集団、構造】
- 3 社会学の歴史的展開1 - E.デュルケムの方法【集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 4 社会学の歴史的展開2 - M.ウェーバーの方法【理解社会学、社会的行為、意図せざる結果】
- 5 復習と課題解説
- 6 変容する家族【近代家族、核家族、夫婦家族、直系家族、定位家族、生殖家族、小家族化と家族の多様化】
- 7 社会集団と組織【ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、第1次集団、第2次集団、準拠集団、官僚制】
- 8 逸脱と社会統制【機能主義、正機能、逆機能、顕在的機能、潜在的機能、アノミー、ラベリング理論】
- 9 都市【産業都市、都市問題、脱工業化、情報化、分極化した都市、世界都市、アーバニズム、下位文化理論】
- 10 社会階層と社会移動【階級、階層、不平等、社会的資源、ジニ係数、社会移動、開放性係数、地位の非一貫性】
- 11 生活困窮（貧困）と社会的排除【経済的困窮、社会的孤立、社会的排除】
- 12 戦後日本の社会変動【高度経済成長、安定成長、戦後日本型循環モデル、性別役割分業】
- 13 大衆社会とファシズム【ナチズム、社会的性格、権威主義的パーソナリティ、機械的画一性への逃げ込み】
- 14 グローバル化と移民【国際労働力移動、移住システム論、顔の見えない定住化、排外主義】
- 15 授業のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト... 40%、課題レポート... 60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。
確認小テスト、課題レポートを1回も提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。

○スティーヴン・ピンカー（著）棕田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

ことばの科学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（複数の小テストまたはレポート）・・・100%
各担当教員の指定する課題を提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

現代人のこころ【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

企業と社会【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。
なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は自宅ないし大学からインターネットに接続して、パソコンやスマートフォン等で授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

企業と社会 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8.働きがい・経済成長、SDGs12.作る・使う責任、SDGs15.環境保全、等の問題と強く関連する。

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理想的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集合的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理想的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

社会哲学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

文化を読む【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科, 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。表象研究、宗教研究、異文化間教育、文学研究といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎表象

人間は情報を共有するために様々なメディアを通じた表現活動をおこなう。本講義ではそれを、表象(representation)とよび、理解と誤解の源泉として位置付けてみよう。本講義では、イメージとして生み出される表象をとりあげて、歴史社会的な文脈のなかで読み解いてみたい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎異文化間教育

文化というもの、見える文化と見えない文化があり、本人が自覚しにくい見えない文化に気づくことが異文化理解の始まりである。異文化の理解があつてはじめて、外国語のコミュニケーション能力が育つ。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】文化について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

文化を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象概念の説明
- 第3回 表象を読む①描かれた〈日本人〉-明治期風刺画をとりあげて-
- 第4回 表象を読む②描かれた〈日本人〉-ジャポニズムの流行をとりあげて-
- 第5回 表象を読む③演じられた〈日本人〉-オペラ『蝶々夫人』をとりあげて-
- 第6回 異文化を理解することは可能なか？（見えない文化と価値観）
- 第7回 バイリンガルはうらやましい？（「移動する子ども」のライフストーリー）
- 第8回 異文化トレーニング（他者との出会いを捉え直す）
- 第9回 神社の成立① 神社建築成立以前の神社
- 第10回 神社の成立② 神社の成立年代
- 第11回 日本の神 -神教との比較を通して
- 第12回 罪・戒律・禁忌
- 第13回 エー「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を知る）
- 第15回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を読み解く）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%（表象、宗教、異文化間教育、文学に関する4つのレポートすべてを提出しなければ、評定不可で成績は「-」とする）
各回において、課題コメントの提出によって出席（視聴）を確認する。提出状況は成績に加味される。なお、成績評価の方法、レポート・課題の提出方法については、担当教員ごとに注意事項など指示が出されることがあるので、それにしたがうこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義は録画オンデマンドによる遠隔授業を予定している。講義回によっては、講義方法が変更される場合があるが、その際にはmoodleにて告知する。
修正登録による受講者は、必ずさかのぼって講義を視聴してコメントを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの河内までメールで質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

表象、メディア、宗教、異文化、日本近現代文学

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR006F			◎		○
科目名	芸術と人間		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係性を浮かび上がらせる。また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
- 「アート・パワー」現代企画室 ボリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在/不在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ 彫刻のあり方いろいろ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

芸術と人間【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(2回)・・・50% 毎回moodle上で課題をあげます。15回のうち2回分を選んで回答を送ってください。
レポート・・・40% 13-14回目の授業動画とmoodle アナウンスメントで出題します。学内メール添付で提出してください。
日常の授業への取り組み(出欠、提出物の形式が的確かどうか)・・・10%
課題2回とレポートの提出がそろって評価可能となります。提出ゼロは評価不能、課題のみ、レポートのみではD評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、反戦・反原発、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

情報表現【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230F		○	◎	○	
科目名	情報表現		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、自分自身が伝えたい情報を表現すると共に、他者が表現した情報を理解するための知識や技術等を習得することである。現代社会では、多様な人々と協力して、目標を達成するための力が求められている。自分の想いを一方的に伝えるだけでなく、他者の存在を意識して表現することが重要である。また、他者の意見を丁寧に聞き、その想いや立場を理解して、協調しながら物事を進めていく能力も大切である。このため、本授業では、個人ワークやグループワークなどを行いながら、以下の3点の習得を目指す。

- ・プレゼンテーションやロジカルシンキング、スライドデザインなどに関する学びや疑問などを具体的に表現することができる。
- ・プレゼンテーションソフトを活用して、伝えたい情報を分かりやすく表現することができる。
- ・相手に伝わりやすい表現を用いて、積極的に発表することができる。

(到達目標)

【技能】情報を適切に発信する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 話し方や書き方1【要約】
- 3回 話し方や書き方2【PREP】
- 4回 考え方：ロジカルシンキング1【課題発見】
- 5回 考え方：ロジカルシンキング2【原因分析】
- 6回 プレゼンテーション1【Power Point】
- 7回 プレゼンテーション2【発表】
- 8回 情報の収集【検索】【信頼性】【ドメイン名】
- 9回 情報の整理【プロット】【ストーリー】
- 10回 情報の表現1【デザイン】【レイアウト】
- 11回 情報の表現2【スライド作成】
- 12回 情報の発信1【発表練習】
- 13回 情報の発信2【発表】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーションソフトPowerPointを用いた課題提出... 40%

積極的な授業への参加(グループワークや発表、振り返りレポートなどを含む)... 60%

課題や振り返りレポートなどの提出が全くない場合は、評価不能(－)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、学んだことをノートにまとめて、課題や振り返りレポートなどを提出条件に従って締め切りまでに間に合うように提出すること。課題は、プレゼンテーションソフトを用いて実施するものもある。

情報表現【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、「アカデミック・スキルズ」を履修しておくことが望ましい。
授業中に、グループワークや発表などを行ってもらおう。グループワークを行う際のグループ分けについては、その都度、授業中に説明する。自由に組んでもらう場合もあれば、指定する場合もある。何れの場合も相手の立場を尊重して、建設的なグループワークを行って欲しい。
授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性がある。詳細は、授業中に説明する。なお、受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、授業開始前に掲示にて説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、振り返りレポートを提出してもらい、受講生の質問や意見を反映させながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加して欲しい。また、実際にコンピュータを操作して作成する課題もある。その際には、授業時間外にパソコン自習室や自宅のパソコンなどで積極的に取り組むこと。受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、スライドデザイン

倫理思想史【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死/尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

倫理思想史 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* () の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるインタロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

言語・認知・コミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210F			◎		
科目名	言語・認知・コミュニケーション				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(授業形態)

メディア授業（学習マネジメントシステムMoodleによる遠隔授業（オンデマンド））

受講に必要な機器：パーソナルコンピューター、インターネット接続・通信に必要な環境（WiFi、光ファイバー等）

教科書 /Textbooks

Moodle上の配布資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序・授業の進め方・担当者紹介（漆原・全員）
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか（言語習得）（漆原）
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか（言語脳内処理・失文法）（漆原）
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程（税田）
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション（税田）
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援（税田）
- 第7回 脳と心のなりたち（脳のはたらきを支配する遺伝子）（日高）
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか（言語と遺伝子）（日高）
- 第9回 ヒューマンエラー（松田）
- 第10回 アフォーダンスとシグニファイアー（松田）
- 第11回 モノの見方と言語表現（認知意味論）（木山）
- 第12回 比喩は文学表現か（メタファー）（木山）
- 第13回 文は語彙の足し算か（構文文法論）（木山）
- 第14回 ことばとジェンダー（漆原）
- 第15回 まとめ：担当者からの課題の講評など（全員）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% （最終）課題 16% x 5 = 80%

すべての教員の（最終）課題を提出しない限り評価不能（－）となります。
なお、各回の確認クイズ・小課題が最終課題に含まれるかどうかは各担当教員によって異なります。
各担当教員の説明にしたがってください。

言語・認知・コミュニケーション【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの確認クイズ・小課題・レポート等の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

戦争論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己（編）2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 ささまざまな信仰心

第12回 宗教と近代化

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)60%、毎回の授業課題 40%

※毎回の授業課題は、提出時期や授業への貢献によって得点が変わります。

※一度も課題提出がない場合は評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの予習・復習のための課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ オンデマンド配信となので、時間割通りに受講する必要はありません。ですが、毎週課題があり、その課題は提出時期によって満点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 本講義で養われる「コミュニケーション能力」は、今後の実践の機会に向けた考え方を身に着けることを目指しています。授業では、記述を通じたコミュニケーションを実践する機会がありますが、発話を通じた実践機会はないので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC004F			○	◎	○
科目名	人権論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「人権問題」といえば特別なものというイメージを抱くかもしれないが、実際には誰にとっても非常に身近なものであって、「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害していることがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念や現存する人権問題、その社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権問題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は自宅・大学などからインターネットを接続して、自身のPCやスマートフォンで、(または大学のPC自習室でイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』(横田耕一著 / (公社)福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」 オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」 人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「平和と人権」 戦争・平和についての解説。
- 6 「ハンセン病について」 ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
- 7 「教育と人権～識字問題」 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 8 「教育と人権～夜間中学」 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 9 「部落問題について」 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 10 「部落問題について」 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 11 「在日外国人と人権課題」 在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 12 「在日コリアンについて」 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 13 「障害者と人権」 障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 14 「アジアの人権状況」 アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

人権論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に取り組む姿勢（毎回の課題）【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。
- ・ 出席率（課題提出）7割以上の学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を認める。
- ・ 出席が7割に満たない場合の評価は（D）、5割に満たない場合は評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 講義配信後、毎回の課題提出有り、締め切りは厳守のこと
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。
- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権問題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

代筆などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。
7割以上の出席が満たされない場合は、単位が取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。
コロナの影響で、昨年に引き続きオンデマンドで講義を行います。何度でも視聴できるなど、オンデマンドの利点をいかして、講義にのぞんで欲しい。質問や問い合わせには個人メールで常時対応します。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN001F			○	◎	○
科目名	ジェンダー論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「女性はわかまえていべき」、「男性は強くあるべき」、こんな言葉をどこかで耳にしたことはありませんか。みなさんの性自認がどうであれ、これを聞いて、納得した人もいられるかもしれませんし、違和感を覚えた人もいられるでしょう。しかし、どうして納得したり、違和感を覚えたりするのでしょうか。それは、私たちはだれもが、「女性はこういうものだ」「男性はこういうものだ」という性差、知識や規範、すなわち「ジェンダー」を意識しているからです。

本講義では、このジェンダーが何なのかを、思想、歴史、政治、社会運動などとの関係から理解することを目指します。そのなかで、多様な理解を得るためや、現状を知るために、ジェンダー平等やLGBTQをめぐる第一線で活躍する有識者や運動家へのインタビューも行います。

この講義は、遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

《思考・判断・表現力》ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

《自立的行動力》ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村敏子『女性差別はどう作られてきたか』、集英社新書、2021
- 西井開『『非モテ』からはじめる男性学』、集英社新書、2021
- 森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』、ちくま新書、2017
- 千田有紀ら『ジェンダー論をつかむ』、有斐閣、2013

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション：ジェンダーって何？
- 第2回 ジェンダー規範①：近代国家と家長制
- 第3回 ジェンダー規範②：家族と母性
- 第4回 フェミニズムの変遷
- 第5回 ライフプラン教育と性の管理
- 第6回 ジェンダー規範③：新しいジェンダー規範、モテ
- 第7回 ポストフェミニズムと女子力：
- 第8回 ジェンダー規範④：男らしさ、非モテ
- 第9回 確認テスト①
- 第10回 ジェンダーとセックス
- 第11回 セクシャルマイノリティ
- 第12回 ジェンダーとセクシャリティ：排除の構造
- 第13回 セクシャルマイノリティの排除の実例と包摂の試み
- 第14回 トランスジェンダーバッシング
- 第15回 確認テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション (導入) ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります (今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 5. ジェンダー平等、SDG 10. 不平等をなくす

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR110F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、以下の点を目的としています。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

また、この講義が目指す到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

地域貢献活動の経験を自らの学びや成長につなげていくための授業となります。
関心を持たれた方は受講されて下さい。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良き市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

サービスラーニング入門I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100%評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。
また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加(ボランティア活動の実施)を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」(ボランティア)を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」(1500字程度)として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

サービスラーニング入門Ⅱ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR180F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。
また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能(-)となります。

サービスラーニング入門II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

(到達目標)

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

坂本毅啓（2022）『地方の地域福祉論』大学教育出版、2,800円＋税（予定価格）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規 2,900円＋税

○難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版 2,400円＋税

その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出及び中間試験・・・40% 期末試験・・・60%

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW001F	○		○	◎	
科目名	障がい学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

(到達目標)

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

障がい学【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

(到達目標)

【知識】共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回（ゴールデンウィーク明けから）招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回 日本の防衛と自衛隊 (戸蒔)
- 3回 陸海空自衛隊について (戸蒔)
- 4回 自衛隊の任務、総論 (戸蒔)

5回～14回 自衛官の招聘、各論のレクチャー

現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する予定。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

※3回以上の無断欠席、レポート未提出の場合、いずれも「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

基盤演習I (防衛セミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

※授業の運営方法、評価方法、コロナ対応などについて、初回のガイダンスで詳しく話しますので、履修を希望する人は絶対に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症(障害)を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症(障害)とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本(1) 障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本(2) 構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本(3) コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本(4) 行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本(5) 自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本(6) 余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加(貢献)度30%。
課題への対応70%。
出席が全くない受講者に対しては、一(評価不能)評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることながらインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々と協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤演習II【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 演習 /Class Format 授業形態 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、ゼミ形式で、ジェンダー論・フェミニズム論に関連する1冊の図書を通読していきます。図書は、研究書レベルのものになります。複数図書の候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。なお、毎回1200字程度のレジユメ作成が必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

- 《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 《コミュニケーション力》他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 《技能》設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。
*教科書の価格は～4,000円ほどのものを予定しています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イントロダクション②：レジユメの作り方、進め方
- 第3回 演習
- 第4回 演習
- 第5回 演習
- 第6回 演習
- 第7回 演習
- 第8回 演習
- 第9回 授業の中間まとめ
- 第10回 演習
- 第11回 演習
- 第12回 演習
- 第13回 演習
- 第14回 演習
- 第15回 まとめ：レポートについて

成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回のレジユメ作成 100%
- * レジユメを4回以上提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- レジユメの作成
- 前回範囲の復習

基盤演習II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決定するので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジユメの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等

基盤演習Ⅱ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度(100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤力応用 (日本近代史演習) 【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES301F			○	◎	△
科目名	基盤力応用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むにつれて、国内外で歴史の捉え方が議論されることが多くなっています。そうした情勢を踏まえ、本授業では、日本近代史研究（主に明治～昭和戦前期の政治・外交・軍事・社会）の通説の典拠に迫って知識を深め、また、専門書や史料に触れることで通説を相対化し、歴史を多角的に捉える力の修得を目標とします。

上記を通して、資料の分析、研究発表の方法、議論の進め方などを身に付けることを目指します。

(到達目標)

思考・判断・表現力：設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
コミュニケーション力：他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身に着けている。
自立的行動力：設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・史料、画像、映像などを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献、史料などは授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史と歴史学研究－「歴史」の遍在と「史実」の多義性
- 第3回 日本近代史をめぐる近年の情勢
- 第4回 日本近代史研究と史料①－主要な公刊史料と史料保存機関
- 第5回 日本近代史研究と史料②－様々な史料の存在
- 第6回 日本近代史研究と史料③－史料の読解・活用
- 第7回 担当教員による発表
- 第8回 履修者による発表①【例．大正政変、対華二十一箇条要求】
- 第9回 履修者による発表②【例．米騒動、シベリア出兵】
- 第10回 履修者による発表③【例．普通選挙、治安維持法】
- 第11回 履修者による発表④【例．満洲某重大事件、ロンドン海軍軍縮会議】
- 第12回 履修者による発表⑤【例．満洲事変、五・一五事件】
- 第13回 履修者による発表⑥【例．日中戦争、日米開戦】
- 第14回 履修者による発表⑦【例．終戦工作、「聖断」】
- 第15回 総括・まとめ

※授業予定は、履修者の人数、興味・関心、習熟度などに応じて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への取り組み、小課題、発表の内容など）100%
なお、特段の事情なく発表担当回の場合は、評価不能（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に資料に必ず目を通し、議論に参加できる状態で出席してください。

基盤力応用 (日本近代史演習) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

本授業では日本近代史研究に関する専門事項を取り上げます。日本近代史にまつわる国内外の諸問題や研究対象としての歴史に興味・関心がある学生を対象とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL207F					◎

科目名	ライフ・デザイン特講B	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	-------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本授業は、国際教育交流センターが主催する教員引率型の海外学修プログラムのための科目です。授業では下記海外学修での各活動で、主体的に学び、積極的に行動を起こすための下地を形成することを目標とします。また、海外の学びや体験からその後、さらなる海外体験へつなげる意欲を高めることも目指します。授業の前半は海外学修で設定されているフィールドワークテーマに関連するトピックについて理解を深め、後半は渡航先で予定している活動の準備を進めます。その他、渡航準備のためのポイントや海外での危機管理なども学び海外学修に向けた心構えを形成していきます。そのため、授業を受講するだけでなく、本授業に付随する短期海外学修にも参加し、座学で学んだことを渡航先の活動に活かし、日本ではできない貴重な体験を得ることを通じ、その後の学修や学内外での活動につなげてください。なお、海外学修の実施に際しては、出国から帰国まで教員が引率し、また渡航準備のための細やかな指導も行います。大学最初のチャレンジとして、海外経験のない学生や海外渡航に不安のある学生も安心して参加できる入門コースです。

○海外学修について

2022年度は次の海外学修の実施を予定しています。

- <学修テーマ> 韓国と世界を結ぶ国際都市仁川の歴史と伝統、そして今後の展望を学ぶ
- <学修活動先> 韓国・仁川広域市他
- <活動連携先> 仁川大学校、仁川市役所など
- <渡航時期・期間> 2022年9月下旬または2023年2月中旬～下旬にかけ1週間程度。(うち現地活動日数は5日間程度)
※履修登録学生には具体的な日程について改めて連絡します。
- <参加費用> 8万8,000円程度(航空費用、宿泊費)
- <募集人数> 16-20名
- <現地での活動内容(予定)>
 - ・仁川市役所訪問、仁川国際空港見学を通して国際港湾都市仁川を知る
 - ・仁川旧市街で日韓の歴史、韓国近代史を学ぶ
 - ・仁川大学校訪問、学生交流
 - ・現地市民団体とのボランティア活動またはフィールドリサーチ
 - ・ソウル近郊視察 など

【留意事項】

- ※韓国の海と空の玄関口である仁川広域市は国内第3番目の都市で、2000年に入ってから市内松島(ソンド)を経済自由区域に指定し、グローバル企業や国際機関、海外大学を誘致し一大国際都市を形成しています。(仁川大学校もその区域の一角にあります)そんな仁川広域市は北九州市とは姉妹都市関係にあり、この関係性を活かした活動を盛り込んでいく予定です。
- なお、上記の活動内容は訪問先の事情やCOVID-19の影響などにより変更となる可能性もありますので、予めご了承ください。活動日程詳細は集中講義時に紹介します。
- ※渡航時期については、COVID-19の感染状況によっては2024年度以降に変更することがあります。見直しについては集中講義の際に説明をします。
- ※海外学修帰国後、活動の振り返りをする時間をもちます。(日程は帰国時に調整)

○韓国・仁川コースの到達目標

- 様々なフィールドでの活動を通じこれまでと異なる視点を得、それぞれの価値観や考え方の幅を広げるとともに自律的に考え、行動する力を伸ばします。
- 各活動での取組みにおいて設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有していること。
- 現地活動において、コミュニケーション力を駆使した現地での交流や経験を通じ、異国や異文化への理解を深めるとともに、自国や自文化、自己のアイデンティティについてもさらに掘り下げて考えるきっかけにします。
- 海外から日本を見る、海外で日本の事柄を説明するといった体験を通じ、日本について改めて知る機会とし、また、アジア地域での日本のプレゼンスや役割について考察し、自分なりの見解を持てるようにします。
- 帰国後の学修において、自己の経験や成長を振り返り、言語化し、他者に適切に発信できるとともに、それらをその後の学生生活に活かしていく積極的な姿勢を養います。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。授業に必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 新城道彦,浅羽祐樹,金香男,春木育美(2019)『知りたくなる韓国』有斐閣.
- ・ 木宮正史(2021)『日韓関係史』岩波書店(岩波新書).
- ・ 伊東順子(2022)『韓国カルチャー隣人の素顔と現在』集英社(集英社新書).
- ・ 鳥飼玖美子(2021)『異文化コミュニケーション学』岩波書店(岩波新書).

上記他、授業でも参考書籍を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記第1-15回の授業を9/5(月)~9/10(金)の日程で1日3コマ行います。各日程と内容は次の通りです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<1日目> 9/6 (月)

- 第01回 コースガイダンス -韓国スタディーツアーの概要-
- 第02回 講義：歴史から仁川を紐解く
- 第03回 グループリサーチ「韓国と日本の歴史」リサーチと発表資料作成

<2日目> 9/7 (火)

- 第04回 グループリサーチ (続) : 「韓国と日本の歴史」発表資料作成と発表準備
- 第05回 グループリサーチの発表と意見交換
- 第06回 個別リサーチ：朝鮮戦争・北九州市と朝鮮戦争との関連性・北九州市と仁川広域市の関係史・仁川国際空港について

<3日目> 9/8 (水)

- 第07回 個別リサーチ結果の情報交換
- 第08回 グループワーク「北九州市と北九州市立大学を海外でアピールする」(講義とデモンストレーション資料作成)
- 第09回 グループワーク (続) : デモンストレーション資料作成

<4日目> 9/9 (木)

- 第10回 グループワーク (続) : デモンストレーションの準備
- 第11回 デモンストレーション「北九州市と北九州市立大学を海外の人に紹介する」(振り返りと資料のブラッシュアップ)
- 第12回 仁川市内とその他の地域 (ソウル・水原) での視察プラン作成

<5日目> 9/10 (金)

- 第13回 講義：海外危機管理学修
- 第14回 海外学修の“チャレンジシート”作成
- 第15回 “チャレンジシート”の発表、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ リサーチ課題：40% (グループリサーチと個人リサーチ)
- ・ 企画作成課題：30% (グループワークでのデモンストレーション資料作成と視察プラン作成)
- ・ 最終課題：20% (チャレンジシート作成)
- ・ 取組み姿勢：10% (グループ作業や講義での態度、課題提出状況等)

※最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にグループで取り組む課題のための情報収集をしっかり行い、授業に臨んでください。また授業での学びを定着させるため、海外学修に参加することを事後学修とし、これに参加することを推奨します。なお、詳細は北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業はPC持参のこと
- ・ 韓国での海外学修に参加を希望する人は本授業を履修してください。

※なおこの科目に付随する海外学修はKGEP Challengeコースの「海外体験」分野のメダル付与や本登録のための対象プログラムになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

インターネットやメディアの報道で得た情報ではなく、現地で実際に自分の目で見、耳で聞く、肌で感じる活動は、視野を広げたり、それまでのものの見方を変えたり、知的好奇心を刺激したり、その後の学修やキャリア形成にインパクトを与えたりと自分の中で何かが動き出すのを感じる出来事になると思います。また、現地で様々な活動を行うことで、海外渡航へのハードルも低くなるでしょう。大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。夢は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、このプログラムではそんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター、海外学修、ファカルティレッドプログラム (FLD)、Kiakyushu Global Challenge Program (KGEP)、SDGs 17: パートナリーシップ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

大学生生活を実りあるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ① 社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ② 将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を聞きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

※この授業はメディア授業(オンデマンド方式)で実施します。Moodle上にコンテンツを提示します。履修方法については第1回目の授業コンテンツで説明をしますので、必ず見てください。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス
- ② 学びのアップデート
- ③ 日本の「キャリアデザイン」
- ④ 日本が迎える大きな変化
- ⑤ 情報革命
- ⑥ 日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦ 中間振り返り
- ⑧ お金と情報
- ⑨ ビジネスと就活
- ⑩ もう一つのキャリアデザイン
- ⑪ 「働き方」の最新事情
- ⑫ 日本の潮流、世界の潮流
- ⑬ 誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭ キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮ 全体振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%

授業内のレポート...20%

まとめのレポート...20%

※授業内レポート、まとめレポートを1度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて「いま何をすべきか」ということを考える授業を行います。皆さんの将来は独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは、皆さんのキャリアに直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。

本授業では、ゲストスピーカーによる講演会も数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（100%）

レポートとしての体裁を成していない場合は、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

SDGsとの関連について

3. 健康と福祉を 5. ジェンダー平等 8. 働きがい・経済成長

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・就職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

<進め方>

- ①一つ前の授業での学びを授業開始までに実践し、振り返っておく。
- ②授業開始前に「大福帳」を入手し、指定された席に着席する（毎回グループはシャッフルされます）。
- ③授業の冒頭に、実践と振り返りを「大福帳」に記述する。
- ④冒頭のグループワークで、先週の課題の実践と振り返りを発表し、共有する。
- ⑤講義
- ⑥授業終了後、大福帳を提出する。
- ⑦次週までに授業での学びを実践しておく。

以上のように、授業での学び実践し、振り返り、メンバーで共有することを繰り返します。授業の内容は第12回「オタクと心理的安全性」以外はすべて教科書「新しいキャリアデザイン」に書かれていますので、該当するページ（数ページです）を授業前に一読しておいてください（第12回のみMoodleに資料をアップしておきます）。

<目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。よって、本授業の成績は「経験学習モデル」を体得できたかが基本となります。それぞれの授業で提示された課題を実践し、そこからの学びをルーブリックと照らし合わせて採点します。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会（税込1,980円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版 キャリアの心理学【第2版】-キャリア支援への発達のアプローチ-』ナカニシヤ出版
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- ポール・R・ドーアティほか『HUMAN+MACHINE 人間+マシン: AI時代の8つの融合スキル』東洋経済新報社
- ジェームズ・E・コテほか『若者のアイデンティティ形成-学校から仕事へのトランジションを切り抜ける』東信堂
- 日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房
- 松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版
- 安斎勇樹ほか『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織-「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・アイデンティティ資本
- 2回 経験から学ぶ力
- 3回 マインドセットとグリット
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 問いを立てる力
- 9回 クリエイティブシンキング
- 10回 デジタルトランスフォーメーション
- 11回 新しい企業団体研究
- 12回 オタクと心理的安全性
- 13回 異文化理解力
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(学びの実践レポート)・・・70%
最終レポート・・・30%
採点対象のレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 授業での学びを次の授業までに実践し、言語化しておいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

<基本事項>
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくはほかの教員の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

<履修者調整について>
※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「心が震える瞬間」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊かにする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさん学生の履修をお待ちしてお

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ります。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

メンタル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

なお、授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識（1）【日本における現状と課題】
- 第3回 ライフサイクルとメンタルヘルス（1）【子ども】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス（2）【大人】
- 第5回 精神と行動の異変（1）【精神症状】
- 第6回 精神と行動の異変（1）【精神疾患】
- 第7回 映画から見るメンタルヘルス
- 第8回 大学生とメンタルヘルス（1）【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス（2）【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ・小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50% 日常の授業への取り組み（課題の提出） 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 小テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業内で出した課題を Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異常は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
HSS003F					◎
科目名	自己管理論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自立的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（基盤教育セ・日高）
- 2回 社会人のマナー（地域連携・木村）
- 3回 身体の健康（保健室看護師）
- 4回 心の健康（相談室・臨床心理士）
- 5回 スポーツと健康（基盤教育セ・山本）
- 6回 災害への備え（基盤教育セ・村江）
- 7回 自転車の交通安全（課題研究）
- 8回 犯罪防止・薬物乱用防止（小倉南警察署・市民文化スポーツ局）
- 9回 消防と救急（消防局予防課・救急課）
- 10回 ブラックバイト（福岡労働局雇用環境）
- 11回 消費者トラブル（消費生活センター）
- 12回 大学生とお金（福岡県金融広報委員会）
- 13回 ハラスメント防止（総務局男女共同参画推進課）
- 14回 市民生活の基本（行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業ごとの課題（確認テスト、ミニレポート等）70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等）20%
 - ・ 期末レポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

SDG3 健康と福祉を, SDG5 ジェンダー平等, SDG8 働きがい・経済成長, SDG11 まちづくり, SDG13 気候変動対策

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】 自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実技)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 豊田 直樹 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) 生涯スポーツ①(バドミントン)
- 10回 (実習) 生涯スポーツ②(アルティメット)
- 11回 (実習) 生涯スポーツ③(卓球)
- 12回 (講義) 身体活動と生活習慣病
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践していただくこと。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践していただくこと。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】 自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実技)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。
テニスに関してはグラウンドの状況上「バドミントン」に変更の可能性があります。第1回ガイダンスで説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体幹トレーニング (1)
- 3回 体幹トレーニング (2)
- 4回～7回 バレーボール (ソフトバレーボール)
- 8回～9回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】スキル確認テスト①
- 10回～11回 選択種目 (2) 【バスケットボール】 【トレーニング】スキル確認テスト②
- 12回～13回 選択種目 (3) 【バレーボール】 【バドミントン】スキル確認テスト③
- 14回 女性のためのエクササイズ (1)
- 15回 女性のためのエクササイズ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。

運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズ I
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト(ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム(リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%
4回以上欠席した場合は評価不能(－)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストローウクの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(-)とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 豊田 直樹 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験することで、国際理解や知識を深めるとともに、語学力の向上につなげ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP (Kitakyushu Global Challenge Program) の Challengeコースの入門科目となっています (コース登録のための要件科目 (必修) です) 。

授業を通じ、大学時代に海外での学びを体験したいと考えている学生に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかを考え、そして各自が社会で生きるために必要とされる「自律的に考え、自発的に行動できる (自律的行動力) 」人材として自己を確立する力を涵養することを目的としています。また本学の交換留学・派遣留学や短期の海外研修プログラムに参加するにあたっての留学準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に取り組めるよう、必要な知識を獲得し視座を高めることも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学修を通じ理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私費留学との異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機 (リスク) について、一定の予備知識を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験を自己の成長の観点やキャリア設計の観点から位置づけ、その目標を設定することができる。
- ⑤ 外国での学びに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。
- ⑥ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験計画を策定できる。
 - a) 海外体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸に沿って計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑦ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業は、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業 (海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー)、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが各自の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。また皆さんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースに取り組むことを期待します。

教科書 /Textbooks

指定テキストはありません。
講義資料は、北方Moodleにアップします。各自、印刷して精読してください。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、留学を検討、実際に準備する際、また留学時の視点や知識について下のような予定で講義を進めます。なお、授業によって担当者が異なります。そのため、担当者の都合により、講義回の入替えが生じることがあります。具体的な授業日程と担当は、初回授業時に提示します。

- 第1回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～ 【学生時代の海外体験意義】
- 第2回 キャンパスが世界（北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介ほか） 【大学の国際的なリソースを活用するために】
- 第3回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今 【自分の大学を振り返る】
- 第4回 グローバル化する地域（北九州市の国際化の歩みと環境外交） 【北九州市の国際的なプレゼンスを知る】
- 第5回 世界の中の日本 【グローバルな視点を持つとは】
- 第6回 ショートプログラム（語学研修など）への参加のすすめ 【ショートプログラム参加意義】
- 第7回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ 【交換・派遣留学のメリット】
- 第8回 異文化体験と適応 【留学時の予備知識①】
- 第9回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう（成長の可視化） 【海外体験とキャリア形成】
- 第10回 海外体験計画を作る 【各自の海外体験とキャリアを考える】
- 第11回 Group 1による海外体験計画の発表
- 第12回 Group 2による海外体験計画の発表
- 第13回 Group 3による海外体験計画の発表
- 第14回 海外渡航に際しての危機管理を考える①～マインドセット編 【留学時の予備知識②】
- 第15回 海外渡航に際しての危機管理を考える②～シミュレーション編 【留学時の予備知識③】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業課題・・・50%（10回実施：各回5%）
 実践課題・・・20%（2回実施：各回10%）
 最終課題・・・30%（「海外体験計画書」の作成：20%+その発表：10%）
 ※最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習に取り組み授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習（課題）を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

国際教育交流センターの交換留学・派遣留学及び海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集を行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。また、この授業は同センターが実施するKGEP（Kitakyushu Global Education Program）Challengeコース登録のための要件科目でもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢の幅は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、グローバルな視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修、海外オンラインプログラム、KGEP (Kitakyushu Global Challenge Program)、SDGs17: パートナリーシップ

世界での学び方【昼】

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験することで、国際理解や知識を深めるとともに、語学力の向上につなげ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP (Kitakyushu Global Challenge Program) の Challengeコースの入門科目となっています (コース登録のための要件科目 (必修) です) 。

授業を通じ、大学時代に海外での学びを体験したいと考えている学生に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかを考え、そして各自が社会で生きるために必要とされる「自律的に考え、自発的に行動できる (自律的行動力) 」人材として自己を確立する力を涵養することを目的としています。また本学の交換留学・派遣留学や短期の海外研修プログラムに参加するにあたっての留学準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に取り組めるよう、必要な知識を獲得し視座を高めることも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学修を通じ理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私費留学との異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機 (リスク) について、一定の予備知識を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験を自己の成長の観点やキャリア設計の観点から位置づけ、その目標を設定することができる。
- ⑤ 外国での学びに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。
- ⑥ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験計画を策定できる。
 - a) 海外体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸に沿って計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑦ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業は、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業 (海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー)、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが各自の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。また皆さんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースに取り組むことを期待します。

教科書 /Textbooks

指定テキストはありません。
講義資料は、北方Moodleにアップします。各自、印刷して精読してください。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、留学を検討、実際に準備する際、また留学時の視点や知識について下のような予定で講義を進めます。なお、授業によって担当者が異なります。そのため、担当者の都合により、講義回の入替えが生じることがあります。具体的な授業日程と担当は、初回授業時に提示します。

- 第1回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～ 【学生時代の海外体験意義】
- 第2回 キャンパスが世界（北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介ほか） 【大学の国際的なリソースを活用するために】
- 第3回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今 【自分の大学を振り返る】
- 第4回 グローバル化する地域（北九州市の国際化の歩みと環境外交） 【北九州市の国際的なプレゼンスを知る】
- 第5回 世界の中の日本 【グローバルな視点を持つとは】
- 第6回 ショートプログラム（語学研修など）への参加のすすめ 【ショートプログラム参加意義】
- 第7回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ 【交換・派遣留学のメリット】
- 第8回 異文化体験と適応 【留学時の予備知識①】
- 第9回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう（成長の可視化） 【海外体験とキャリア形成】
- 第10回 海外体験計画を作る 【各自の海外体験とキャリアを考える】
- 第11回 Group 1による海外体験計画の発表
- 第12回 Group 2による海外体験計画の発表
- 第13回 Group 3による海外体験計画の発表
- 第14回 海外渡航に際しての危機管理を考える① ～マインドセット編 【留学時の予備知識②】
- 第15回 海外渡航に際しての危機管理を考える② ～シミュレーション編 【留学時の予備知識③】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業課題・・・50%（10回実施：各回5%）
 実践課題・・・20%（2回実施：各回10%）
 最終課題・・・30%（「海外体験計画書」の作成：20%＋その発表：10%）
 ※最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習に取り組み授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習（課題）を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

国際教育交流センターの交換留学・派遣留学及び海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集を行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。また、この授業は同センターが実施するKGEP（Kitakyushu Global Education Program）Challengeコース登録のための要件科目でもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢の幅は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、グローバルな視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修、海外オンラインプログラム、KGEP (Kitakyushu Global Challenge Program)、SDGs17: パートナリーシップ

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR210F					◎
科目名	プロフェッショナルの仕事				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>

- ① 授業が始まる前に講演者の企業団体および仕事について、各団体のwebサイトの読み込みはもちろん、図書館所蔵の書籍や雑誌、新聞などを予習して、質問を用意しておきます。
- ② 授業開始後、指定する席に着席し、グループで本日、特にどんなことを知りたいのかについて議論し、講演者に発表します。
- ③ 講演が始まります。第1セッションは「コロナ禍の影響を踏まえた、事業内容」。終了後、質疑応答の時間を作ります。以下、第2セッション「どんな仕事で、やりがいは何か?」、第3セッション「学生時代の何が、今に繋がっているか?」と続き、すべて質疑応答の時間を取ります。
- ④ ラストメッセージのあと、得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

(到達目標)【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。パワーポイントは後日頂いて、Moodleにアップしておきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

登壇する企業団体にまつわる記事などが載っている書籍や雑誌、新聞を図書館で探して読んでください。
例：日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、日経MJなど。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です(敬称略・順不同)。

<2021年度> Men Impossible (オランダのラーメン屋)、SALASUSU、リ・インベンション、井上純子氏(北九州市議会議員)、タカギ、ベンシル、ETIC、サイバーエージェント、日本放送協会、ソニーコンシューマーセールス、アクセンチュア、九州大学出版会、パデコ、スノーピーク
<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug
<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(事前課題)・・・35%

毎回の授業での学び(振り返りレポート)・・・35%

最終レポート・・・30%

なお、採点対象の事前課題やレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 登壇する企業団体への質問を用意してください。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジユメを読んでおいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

2022年度より、A101の大人数授業からC教室でのグループワーク主体の形式に変更していますのでご注意ください。さらにソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は2年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ3年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

企業・団体の課題解決【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR211F					◎
科目名	企業・団体の課題解決				◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的> 企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことで「課題解決スキル」、具体的には、課題にグループで挑戦することを通して、セルフマネジメントおよびリーダーシップを発揮し、試行錯誤を繰り返して、新しい成果を生み出す人材になることを目指します。
本授業の位置づけや狙いは以下の2点です。

1) インターンシップの授業バージョン。企業団体との新しい接点
経団連は2021年3月卒業生から「採用選考に関する指針」を策定しないと発表。つまり、採用活動は自由化・通年化しました。だからこそ3年生は、インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、自分に合う企業はどこか、試行錯誤する必要があります。また、2年生も通年採用だからこそ、3年生同様インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、そのために残りの大学生活をどう過ごせばいいのか、試行錯誤するべきでしょう。しかし、授業期間中に長期のインターンシップに行くのは本末転倒。本授業なら、授業を通してインターンシップ同様の体験ができます。

2) 将来必ず必要となる、答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力
従来のように講義で学ぶだけの授業では、その知識をテストには活用できても、実際の現場で活用することは難しいでしょう。近年のグローバル化した知識基盤社会において、また高度成長時代を終えた現代日本において望まれる力は、多様で複雑な課題に対応しつつ、イノベーションを創出できる力です。答えのある課題ばかりをこなしていた学生よりも、答えのない課題に対し、グループで対話しながら、提案し、フィードバックをもらって修正し、諦めず有意な提案を行おうとする学生を、企業や団体は望んでいます。本授業はその力の修得を目指して設計されています。

<授業の進め方>

- ①第1回にてガイダンスを実施します。課題提供団体の理解を深めます。
- ②第2回にて、課題提供団体からの3つの課題を提示します。この間に挑戦する課題を吟味してください。
- ③第3回までにグループピングと挑戦する課題決定をします。その後第6回まで、課題解決のために役立つスキルについて講義をします。
- ④第7回にて教員への相談会を実施します。そして期日に企画書を提出して頂きます。
- ⑤第8回にて、課題提供団体からのフィードバックを解説します。
- ⑥第9～12回にて、課題解決のために役立つスキルについて講義し、第13回にて教員への相談会を実施します。
- ⑦第14・15回にて、課題提供団体に、最終プレゼンテーションを行い、フィードバックを頂きます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 3つの課題提示と解説 ★ゲスト登壇
- 第03回 課題解決に資する情報提供①ロジカルシンキング
- 第04回 課題解決に資する情報提供②問いを立てる力
- 第05回 課題解決に資する情報提供③クリエイティブシンキング
- 第06回 課題解決に資する情報提供④デジタルトランスフォーメーション
- 第07回 教員への相談会
- 第08回 中間発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第09回 課題解決に資する情報提供⑤課題解決のケーススタディ
- 第10回 課題解決に資する情報提供⑥課題解決のケーススタディ
- 第11回 課題解決に資する情報提供⑦課題解決のケーススタディ
- 第12回 課題解決に資する情報提供⑧プレゼン資料の作り方
- 第13回 教員への相談会
- 第14回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第15回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇

※参考

<2021年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

課題①北九大の学生全員がフォローしなくなる！コンテンツ（ツイッター企画）を考える

課題②コロナ禍でもできる！子ども向けリアルイベント

課題③どう伝える？どう残す？大学生が考える戦争伝承

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

なお、採点対象のリフレクションを一度も提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームで授業での学びを言語化してください。

履修上の注意 /Remarks

※第3回で挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業

Communicative English I (済営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICのリスニング教材と単語帳を使いながら、英語リスニングのポイント、トレーニングの仕方、語彙力強化の具体的な方法を学習します。

教科書 /Textbooks

①QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC®L&R TEST 400 Listening/切り取り提出式 スコア別TOEIC®L&R 徹底対策ドリル400 リスニング編 978-4-88918-748-3 (著者)Matthew Wilson/鶴岡公幸 松柏社 2019.1 ¥1,430

②キクタンTOEIC(R) L&Rテスト SCORE 500 アルク ¥1,760

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集』 1~8

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション (授業概要、グループ分け、アプリ紹介等)
2. scene 2, 3,
3. scene 4, 5
4. scene 6, 7
5. scene 8, 9
6. scene 10, 11
7. scene 12, 13
8. scene 14, 15
9. scene 16, 17
10. scene 18, 19
11. scene 20, 21
12. scene 22, 23
13. scene 24, 25
14. scene 26, 27
15. scene 28, 29, 30 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題 : 30%

小テスト : 20%

期末試験 : 50%

期末試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleや授業内で指示しますので確認すること

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第 1 回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業は、リスニングをメインに扱っていきます。聞こえるようになるためには、まず自分が正しく発音できなければなりません。授業では発音の練習をたくさんやります。また受講生になるべくたくさん英語を読んで聴いてもらってインプット量を確保できるように授業をデザインしています。

キーワード /Keywords

TOEIC Listening & Reading

Communicative English I (済営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。

（Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事
- 3回 働き方改革
- 4回 少子高齢化
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of Things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 読解力
- 13回 これからの教育
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English I (済営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

Quick Exercises for the TOEIC L&R TEST 500 Listening (松柏社) ISBN978-4-88918-749-0 1,430円

連続ミステリー：もうひとりの自分 (朝日出版) ISBN978-4-255-15445-9 1,700円

その他、適宜、プリントをいたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時、あるいは moodle 上で指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の基礎的力をつける)	読解 (単語と文法の基礎的力をつける)
3回	聴解 (単語と文法の初歩的力をつける)	読解 (単語と文法の初歩的力をつける)
4回	聴解 (単語と文法の応用的力をつける)	読解 (単語と文法の応用的力をつける)
5回	聴解 (単語と文法の発展的力をつける)	読解 (語彙的表現に注目する)
6回	聴解 (英語の音に注目する 単語)	読解 (イデオム表現に注目する②)
7回	聴解 (英語の音に注目する 語句)	読解 (文章表現に注目する③)
8回	聴解 (英語の音に注目する 文)	読解 (文脈を考える①) 【語彙に注目する】
9回	聴解 (英語の音に注目する まとめ)	読解 (文脈を考える②) 【既出情報に注目する】
10回	聴解 (多様な英語に注目する①) 【英・豪英語に注目する】	読解 (文脈を考える③) 【まとめ】
11回	聴解 (多様な英語に注目する②) 【北米英語に注目する】	読解 (言語外の日常的知識を利用する)
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①) 【語彙に注目する】	読解 (言語外の文化的背景を利用する)
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②) 【既出情報に注目する】	読解 (言語外の社会的背景を利用する)
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (訳読からテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時、あるいは moodle 上で指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

Communicative English I (済営 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。
また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (済営 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（5分）を実施。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、主に、Listening Section、の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、英文法の基礎を強化する。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC®L&R TEST 400 Listening / 切り取り提出式 スコア別TOEIC®L&R 徹底対策ドリル400 リスニング編
978-4-88918-748-3
著者：Matthew Wilson / 鶴岡公幸 ¥1,430（税込み）
出版社：松柏社 2019年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Scene 1,2 [grammar人称代名詞]
- 3回 Scene 3,4 [grammar不定代名詞と再帰代名詞]
- 4回 Scene 5,6 [grammar現在・過去時制]
- 5回 Scene 7,8 [grammar現在完了]
- 6回 Scene 9,10 [grammar時・期間を表す前置詞]
- 7回 Scene 11,12 [grammar位置・場所を表す前置詞]
- 8回 Scene 13,14 [grammar数量形容詞]
- 9回 Scene 15,16 [grammar自動詞と他動詞]
- 10回 Scene 17,18 [grammar形容詞を作る接尾辞]
- 11回 Scene 19,20 ① [grammar副詞を作る接尾辞]
- 13回 Scene 21,22 ② [grammar分詞構文]
- 12回 Scene 23,24 [grammar比較]
- 14回 Scene 25,26 [grammar受動態]
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 定期試験 (50%)
- ② 小テスト (30%)
- ③ 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。
- ④ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、90分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

語学は予習が必要です。どこがわかるかわからないかが、わかっていれば予習は成立しています。授業では、文字を見て意味がわかる、音声を聞いて意味がわかるようになっていただきます。

キーワード /Keywords

Communicative English I (済営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習を取り込みます。さらに、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ①PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST 「600点を目指すTOEIC® L&R TEST へのストラテジー」 松本恵美子著 成美堂 ¥2200(税込)
- ②TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 UNIT 1 Sightseeing / Guided Tour
- 3回 UNIT 2 Restaurant
- 4回 UNIT 3 Hotel / Service
- 5回 UNIT 4 Employment
- 6回 UNIT 5 Entertainment
- 7回 UNIT 6 Shopping / Purchases
- 8回 UNIT 7 Sports / Health
- 9回 UNIT 8 Doctor's Office / Pharmacy
- 10回 UNIT 9 Hobbies / Art
- 11回 UNIT 10 Education / Schools
- 12回 UNIT 11 Technology / Office Supplies
- 13回 UNIT 12 Transportation
- 14回 UNIT 13 Travel / Airport
- 15回 UNIT 14 Housing / Construction

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)
- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
 - ・最終評価にはTOEICテストのスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (済営 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST (600点を目指すTOEIC L&R TESTへのストラテジー)
(成美堂) (¥2,200)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Sightseeing / Guided Tour : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Restaurant : Listening、U.1 単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Hotel / Service : Listening、U.2 単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Employment : Listening、U.3 単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Entertainment : Listening、U.4 単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Shopping / Purchases : Listening、U.5 単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Sports / Health : Listening、U.6 単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading、まとめ、試験説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、日常の授業への取り組み（課題、小テスト）...30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

Communicative English I (済営 1 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します

キーワード /Keywords

Communicative English I (済営 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Tsumatori, Ayako et al. "First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition." Tokyo: Cengage Learning. (¥2310 (税込))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Chapter 1
2. Chapter 1
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 4
6. Chapter 5
7. Chapter 6
8. Review
9. Chapter 7
10. Chapter 8
11. Chapter 9
12. Chapter 10
13. Chapter 11
14. Chapter 12
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 20%
Final examination 期末試験 80%

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

In case one has not taken the final examination, the grade will be "unevaluatable (-)."
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。

No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務づけられています。

第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (済営 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R)L&Rテストの演習などを取り込みます。

(到達目標)

[技能] 英語（読む、聞く、書く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、主に、Listening Section、の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、英文法の基礎を強化する。

教科書 /Textbooks

『QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 400 Listening/切り取り提出式スコア別
TOEIC(R) L&R 徹底対策ドリル400リスニング編』

著者：Mathew Wilson、鶴岡公幸 ¥1,430（税込）

出版社：松柏社 2019年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Leading 問題集 3 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会) 等。

授業時やMoodle (学習管理システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Scene 1,2 [grammar人称代名詞]
- 3回 Scene 3,4 [grammar不定代名詞と再帰代名詞]
- 4回 Scene 5,6 [grammar現在・過去時制]
- 5回 Scene 7,8 [grammar現在完了]
- 6回 Scene 9,10 [grammar時・期間を表す前置詞]
- 7回 Scene 11,12 [grammar位置・場所を表す前置詞]
- 8回 Scene 13,14 [grammar数量形容詞]
- 9回 Scene 15,16 [grammar自動詞と他動詞]
- 10回 Scene 17,18 [grammar形容詞を作る接尾辞]
- 11回 Scene 19,20 ①[grammar副詞を作る接尾辞]
- 12回 Scene 21,22 ② [grammar分詞構文]
- 13回 Scene 23,24 [grammar比較]
- 14回 Scene 25,26 [grammar受動態]
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%) + TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で、文書を配布して説明します。

* 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

* 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度などに応じて、授業計画や授業内容などを変更することがある。詳細は初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English I (済営 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、リスニングは主に教科書で学習し、リーディングは、公式問題集の問題で学習していきます。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 400 LISTENING : 切り取り提出式 スコア別TOEIC (R) L&R 徹底対策ドリル リスニング編（松柏社）（1,430円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1~8 (国際コミュニケーション協会) (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Scene 1 Travel, Scene 2 Food, Scene 3 At the Office
- 3回 Scene 4 Hotels, Scene 5 Office life, Scene 6 Recreation
- 4回 Scene 7 Advertising, Scene 8 On the Job, Scene 9 Business
- 5回 Scene 10 Restaurants, Scene 11 Travel, Scene 12 Office Life
- 6回 Scene 13 Transportation, Scene 14 Culture, Scene 15 At Work
- 7回 TOEIC 演習
- 8回 Scene 16 Holidays, Scene 17 On the Job, Scene 18 Restaurants
- 9回 Scene 19 Weather, Scene 20 Business World, Scene 21 Travel
- 10回 Scene 22 Human Resources, Scene 23 Education, Scene 24 Celebrations
- 11回 Scene 25 Office Environment, Scene 26 Restaurants
- 12回 Scene 27 Business World
- 13回 Scene 28 Shopping
- 14回 Scene 29 Office Meetings
- 15回 Scene 30 Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テスト、リスニングテスト、課題などを含む）...70%

最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

Communicative English I (済営 1 - I) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English I (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになってください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST
著者 松本 恵美子 他共著 成美堂 ¥2,200 (税込み)

☆授業では TOEIC問題を扱った下記のテキストを教科書として使用し、文法学習については随時プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST-TOEIC L&Rテスト攻略の鍵（金星堂）（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ！（アルク）小石裕子・Dorey, Paul（著）（¥1,980 [税込]）

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,320 [税込]）

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,760 [税込]）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life [文型・品詞]
- 第3回 Unit 2 Shopping [代名詞・疑問詞]
- 第4回 Unit 3 Parties & Events [形容詞・副詞]
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel [前置詞]
- 第6回 Unit 5 Office Work [接続詞]
- 第7回 Unit 6 Marketing & ICT [名詞・主語と動詞の一致]
- 第8回 Unit 1～6 の振り返り / Review Test 1
- 第9回 Unit 7 Production & Logistics [助動詞]
- 第10回 Unit 8 Employment [時制]
- 第11回 Unit 9 Personnel [受動態]
- 第12回 Unit 10 Business [分詞・分詞構文]
- 第13回 Unit 11 Health & Environment [不定詞・動名詞]
- 第14回 Unit 12 Finance [関係詞]
- 第15回 全体のまとめ / Review Test 2

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Eating Out
- 2回 Travel
- 3回 Amusement
- 4回 Meetings
- 5回 Personnel
- 6回 Shopping
- 7回 Advertisement
- 8回 Daily Life
- 9回 Office Work
- 10回 Business
- 11回 Traffic
- 12回 Finance and Banking
- 13回 Media
- 14回 Health and Welfare
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。

リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (済営 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいて、学初級レベルで、常活のニーズを充することができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。
(Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 やり抜く力
- 3回 自分の好きな仕事
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境問題
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 オンライン教育
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習を取り込みます。さらに、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST 「TOEIC L&R テスト攻略の鍵」 安丸雅子 他著 金星堂 ¥2090(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Daily Life
- 3回 Unit 2 Shopping
- 4回 Unit 3 Parties & Events
- 5回 Unit 4 Traffic & Travel
- 6回 Unit 5 Office Work
- 7回 Unit 6 Marketing & ICT
- 8回 Review Test1
- 9回 Unit 7 Production & Logistics
- 10回 Unit 8 Employment
- 11回 Unit 9 Personnel
- 12回 Unit 10 Business
- 13回 Unit 11 Health & Environment
- 14回 Unit 12 Finance
- 15回 Review Test2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・第1回の授業に必ず出席してください。
- ・基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅にて暗記を済ませてテストに臨んでください。

Communicative English II (済営 1 - D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC®L & Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST : Level 2 - Intermediate - (一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2) (朝日出版社) (¥1,870)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Eating Out : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Travel : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Amusement : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 U. 4 Meetings : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Personnel : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Shopping : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Advertisement : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7: Reading、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、日常の授業への取り組み（課題、小テスト）...30%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします。

Communicative English II (済営 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Tulloch, Ross et al. 2020. "Fun and Strategies for TOEIC® Listening&Reading Test (Tipsで攻略するTOEIC® L&Rテスト)." Tokyo: Eihosha. (¥2310 (税込))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced during the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Chapter 1
2. Chapters 1 and 2
3. Chapters 2 and 3
4. Chapters 3 and 4
5. Chapters 4 and 5
6. Chapters 5 and 6
7. Chapters 6 and 7
8. Chapters 7 and 8
9. Chapters 8 and 9
10. Chapters 9 and 10
11. Chapters 10 and 11
12. Chapter 12
13. Chapter 13
14. Chapter 14
15. Chapter 15

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 20%
Final examination 期末試験 80%

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

No credit will be earned if one does not take the final examination.
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。

No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務づけられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R)L&Rテストの演習などを取り込みます。

[到達目標]

[技能] 英語（読む、聞く、書く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施。教科書及び新公式問題集より出題
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Listening Section、Grammar Section、Reading Section の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『一歩上を目指すTOEIC Listening and Reading Test: Level 1-Basic』

著者：北尾泰幸、西田晴美、Brian Covert ￥1,870（税込）

出版社：朝日出版社 2017年10月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集3（発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）等。

授業時やMoodle（学習管理システム）にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Eating Out [grammar 動詞①]
- 3回 Unit 2 Travel [grammar 動詞②]
- 4回 Unit 3 Amusement [grammar 動詞③]
- 5回 Unit 4 Meetings [grammar 代名詞]
- 6回 Unit 5 Personnel [grammar 不定詞と動名詞①]
- 7回 Unit 6 Shopping [grammar 不定詞と動名詞②]
- 8回 Unit 7 Advertisement [grammar 名詞・冠詞・数量詞①]
- 9回 Unit 8 Daily Life [grammar 名詞・冠詞・数量詞②]
- 10回 Unit 9 Office Work [grammar 仮定法]
- 11回 Unit 10 Business [grammar 分詞]
- 13回 Unit 11 Traffic [grammar 関係詞]
- 12回 Unit 12 Finance and Banking [grammar 接続詞]
- 14回 Unit 13 Media [grammar 前置詞]
- 15回 Unit 14 Health and Welfare

Communicative English II (済営 1 - G) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%) + TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは題1回の授業で文書を配布して説明します。

* 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

* 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度などに応じて、授業計画や授業内容などを変更することがある。詳細は初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになってください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

Tipsで攻略するTOEIC L&Rテスト - Fun and Strategies for TOEIC Listening & Reading Test

著者 Ross Tulloch 他共著 英宝社 ¥2,310(税込み)

☆基礎文法学習として随時プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Chapter 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Chapter 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Chapter 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Chapter 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Chapter 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Chapter 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Chapter 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Chapter 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Chapter 5 Listening & 基礎文法(関係詞 1)
- 11回 Chapter 5 Reading & 基礎文法(関係詞 2)
- 12回 Chapter 6 Listening & 基礎文法(関係詞 3)
- 13回 Chapter 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Chapter 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Chapter 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※ 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

この授業ではTOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。

教科書 /Textbooks

① 『一歩上を目指すTOEIC(R) LISTENING AND READING TEST Level1 Basic STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』LEVEL 1、Asahi Press 1700円 (税別)

② キクタンTOEIC(R) L&Rテスト SCORE 500 アルク ¥1,760

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校時代の参考書があれば持参のこと

TOEIC公式問題集 1-8

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . インタロダクション (授業概要、グループわけ、アプリ紹介等)
- 2 . Unit 1 : Eating Out 文法 : 動詞 (1)
- 3 . Unit 2 : Travel 文法 : 動詞 (2)
- 4 . Unit 3 : Amusement 文法 : 動詞 (3)
- 5 . Unit 4 : Meetings 文法 : 代名詞
- 6 . Unit 5 : Personnel 文法 : 不定詞と動名詞 (1)
- 7 . Unit 6 : Shopping 文法 : 不定詞と動名詞 (2)
- 8 . Unit 7 : Advertisement 文法 : 名詞・冠詞・数量詞(1)
- 9 . Unit 8 : Daily Life 文法 : 名詞・冠詞・数量詞(2)
- 10 . Unit 9 : Office Work 文法 : 仮定法
- 11 . Unit 10 : Business 文法 : 分詞
- 12 . Unit 11 : Traffic 文法 : 関係詞
- 13 . Unit 12 : Finance and Banking 文法 : 接続詞
- 14 . Unit 13 : Media 文法 : 前置詞
- 15 . Unit 14 : Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 : 30%

小テスト : 20%

期末試験 : 50%

期末試験を受験しなかった場合は評価不能 (-) とします。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

Communicative English II (済営 1 - I) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleや授業中に指示をしますので確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、教科書だけでなく、TOEIC の公式問題集を用いて更なるリスニング力、リーディング力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指す TOEIC (R) LISTENING & READING TEST : Level 1 -Basic- (朝日出版) (1,870円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 1～8 (国際コミュニケーション協会) (3,300円) (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 Eating Out
- 3回 Unit 2 Travel
- 4回 Unit 3 Amusement
- 5回 Unit 4 Meetings
- 6回 Unit 5 Personnel
- 7回 Unit 6 Shopping
- 8回 TOEIC テスト 演習
- 9回 Unit 7 Advertisement
- 10回 Unit 8 Daily Life
- 11回 Unit 9 Office Work
- 12回 Unit 10 Business
- 13回 Unit 11 Traffic
- 14回 Unit 12 Finance and Banking
- 15回 Unit 13 Media, Unit 14 Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テスト、リスニングテスト、課題などを含む）...70%
 最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
 小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (済営 1 - J) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English III (済営 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイテイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することが出来る。

教科書 /Textbooks

World English 2A (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13031-5

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

Communicative English III (済営 1 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Communicative English III (済営 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
 【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English III (済営 1 -G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (済営 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし

see MOODLE

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

see MOODLE

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?

第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.

第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.

第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.

第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.

第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.

第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.

第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.

第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.

第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.

第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.

第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.

第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.

第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.

第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔〜対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English III (済営 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602761 OUP
 2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
 Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
 Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
 Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
 Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
 Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
 Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)
 Week 8 Review of Units 1-3
 Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
 Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
 Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
 Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
 Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
 Week 14 Unit 6 You should try it! (B)
 Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English III (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The main aim of this course is to consolidate students' basic English skills in writing and speaking.

Additionally, students will use reading, writing, listening, and speaking to meet daily needs of university students at the beginner level.

教科書 /Textbooks

Smart Choice: Level 2 : Multi-Pack A with Online Practice 3rd ed. ISBN 9780194602761

Price ¥2,592

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Recommendations will be made at the beginning of class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B), Unit Quiz #1
Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B) Unit Quiz #2
Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B) Unit Quiz #3
Week 8 Midterm Speaking Test
Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B) Unit Quiz #4
Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
Week 12 Unit 5 Where's the party? (B) Unit Quiz #5
Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
Week 14 Unit 6 You should try it! (B) Unit Quiz #6
Week 15 Review and prepare for final test

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 30%
Unit Quizzes 20%
Homework 10%
Midterm Speaking Test 20%
Final Speaking Test 20%

Note: Missing the final test will result in a - grade! 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the material before and after class. Students may also be asked to make simple conversation with small groups at the beginning of class.

Communicative English III (済営 1 - J) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort both in and out of class. With good attendance, homework, and preparation, you can do well in this class.

キーワード /Keywords

Communicative English III (済営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to improve writing and speaking ability.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A third edition, by Ken Wilson (published by OUP) 2695¥
ISBN: 978-0-19-460276-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A Japanese-English dictionary will be helpful

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回： Course introduction, schedule, course requirements for the students, guidance for attendance, being late, being absent, and the end-of-term exam explanation. Students will do a short self-introduction in pairs.

第2回： Unit 1 - Vacation activities. 'How was your vacation?' Vocabulary(用語), conversation (会話)(listening and speaking), language practice (文法)(grammar review), pronunciation(発音), and longer listening activity (長いリスニング) .

第3回： Speaking activity(スピーキング練習), reading(読書), and pair work(ペアワーク). Complete the review on pages 1-5 at the back of the book.(ワークブック)

第4回： Unit 2 - Movies and music. 'I think it's exiting!' Vocabulary, conversation (listening and speaking), language practice (grammar review), pronunciation, and longer listening activity.

第5回： Speaking activity, reading, and pair work. Try the movie survey (p15), and complete the review at the back of the book (p6-10)

第6回： Unit 3 - Extreme sports and activities. 'Do it before you're 30!' Vocabulary, conversation (listening and speaking), language practice (grammar review), pronunciation, and longer listening activity.

第7回： Speaking activity, reading, and pair work. Interview task (p21). Review at the back of the book (p11-15)

第8回： Mid-term exam based on units 1-3. 中間テスト(graded 採点)

第9回： Unit 4 - Geography. 'The best place in the world'. Vocabulary, conversation (listening and speaking), language practice (grammar review), pronunciation, and longer listening activity.

第10回： Speaking activity, reading, and pair work. Quiz to complete. Review at the back of the book (p20-24)

第11回： Unit 5 - Celebrations. 'Where's the party?' Vocabulary, conversation (listening and speaking), language practice (grammar review), pronunciation, and longer listening activity.

第12回： Speaking activity, reading, and pair work. Complete the speaking activity p35. Review at the back of the book (p25-29)

第13回： Unit 6 - Healthy and unhealthy lifestyles. 'You should try it!' Vocabulary, conversation (listening and speaking), language practice (grammar review), pronunciation, and longer listening activity.

第14回： Speaking activity, reading, and pair work. Health survey, and review at the back of the book. (p30-34)

第15回： まとめ. Exam explanation, and how to prepare. Final exam is based on Units 4-6.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%, final exam 50%

- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, reading the contents of the textbook before class will help with understanding and what you are being asked to do.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

Communicative English III (済営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor タッド・ジェイ・レオナルド / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Each lesson is divided into the following sections:

1. DIALOGUE presents the lesson's main text via a recording. In class, students first listen to the dialogue while noting the colloquial expressions; then they read the dialogue individually.
2. VOCABULARY EXPANSION outlines and defines the new words and phrases of the dialogue.
3. COMPREHENSION QUESTIONS require a basic understanding of the dialogue by asking questions that test students' ability to remember and then quickly scan the text to find the appropriate answers.
4. MATCHING allows students to "match" the lesson's vocabulary phrases with appropriate responses.
5. MINI-DIALOGUES incorporate the new vocabulary and phrases from the DIALOGUE and VOCABULARY EXPANSION in three mini-conversations.
6. CULTURAL CLOSE-UP focuses on a cross-cultural theme presented in the lesson. Two additional tasks are included with each reading: VOCABULARY BUILDER and SHORT ANSWER.

教科書 /Textbooks

Talk, Talk: Meeting People, published by Halico Creative Education Publishing. ISBN: 978-4-909730-602 by Todd Jay Leonard (author) (2,420 yen)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Any hardcopy or digital English-Japanese dictionary is recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Class 1: Teacher and student introductions and course orientation.
- Class 2: Ordering at a Restaurant. pp. 4-9.
- Class 3: Getting a Haircut. pp. 10-15
- Class 4: Fill'er Up. pp.16-21
- Class 5: In-Class Midterm Speaking Exam: Topic--Self Introductions.
- Class 6: At the Library. pp.22-27
- Class 7: Why Don't You Try it On?. pp.28-33
- Class 8: How would you like your money?. pp.34-39
- Class 9: How many nights will you be with us?. pp.40-45
- Class 10: I want to mail this package overseas! pp.46-51
- Class 11: How many bags are you checking?. pp. 52-57
- Class 12: Welcome Aboard. pp. 58-63
- Class 13: Passport Please. pp.64-69
- Class 14: Do you have anything to Declare?. pp.70-75
- Class 15: Preparation for Final Speaking Exam

Communicative English III (済営 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation and Assignments: 50%

Midterm (25%) and Final Speaking Exam: 25%

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。Students who do not attend the final exam will be awarded (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This class is intensive in nature and because it is a skills-based class, attendance is very important. Active participation in class will garner students extra points that will be used to enhance the other grade components of the course.

履修上の注意 /Remarks

Students must have their own textbook, a notebook or paper, a highlighter, and a black or blue and a red pen to be prepared for my lessons. The textbook serves as a workbook, so it is very important and necessary for students to bring and use their textbook to every lesson.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I expect students to be in attendance, attentive, and prepared during my lessons. I don't like it when students are chronically late to class. Please be on time and ready when the class begins. Occasionally, due to weather or other unforeseen circumstances, I understand if a student is late when it can't be helped (e.g. a train is late, etc) as long as it does not become a weekly habit.

キーワード /Keywords

ESL, EFL, Communicative English, Cross-Cultural Understanding

Communicative English III (済営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：My Interests 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：My Interests 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Descriptions 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Descriptions 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：Rain or Shine 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：Rain or Shine 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：Life at Home 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：Life at Home 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Health 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Health 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：What's on TV 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：What's on TV 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (40%), presentations (20%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

Communicative English III (済営 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

Communicative English III (済営 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
 (see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
 (see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Communicative English III (済営 1-D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔～対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English III (済営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English III (済営 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (済営 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 4) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English IV (済営 1 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (済営 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
 (see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
 (see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Communicative English IV (済営 1-G) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 14 周目と 15 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔〜対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの方が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English IV (済営 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイテイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2B (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13032-2

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Communicative English IV (済営 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor タッド・ジェイ・レオナルド / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This Communicative English course challenges students to analyze and learn the meaning of English words and expressions through carefully designed student-centered activities that primarily focus on listening and speaking; and secondarily on reading (with a writing activity included). A fifth skill--the cultural component of language--is included contextually within a short reading that pinpoints a cultural theme that was mentioned in the DIALOGUE portion of the lesson. The content of each lesson is not only practical in nature, but uses language that is spoken on a daily basis by native English speakers throughout the United States and Canada.

Each lesson is divided into the following sections:

1. DIALOGUE presents the lesson's main text via a recording. In class, students first listen to the dialogue while noting the colloquial expressions; then they read the dialogue individually.
2. VOCABULARY EXPANSION outlines and defines the new words and phrases of the dialogue. Students receive further reinforcement of the vocabulary with additional example usages.
3. COMPREHENSION QUESTIONS require a basic understanding of the dialogue by asking questions that test students' ability to remember and then quickly scan the text to find the appropriate answers.
4. MATCHING allows students to "match" the lesson's vocabulary phrases with appropriate responses. This also tests students' understanding of the material by challenging them to select an answer based on context.
5. MINI-DIALOGUES incorporate the new vocabulary and phrases from the DIALOGUE and VOCABULARY EXPANSION in three mini-conversations. This cloze activity requires the students to first listen to the dialogues while filling in the missing vocabulary, then to role-play the dialogues with a partner.
6. CULTURAL CLOSE-UP focuses on a cross-cultural theme presented in the lesson. Each lesson's reading concentrates on one aspect of culture that was mentioned in the lesson. Two additional tasks are included with each reading: VOCABULARY BUILDER and SHORT ANSWER.

教科書 /Textbooks

Talk Talk Going Places published by Halico Creative Education, Tokyo. ISBN: 978-4-909730-619 by Todd Jay Leonard (author) (2,420 yen)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Any hardcopy or digital English-Japanese dictionary is recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Teacher and student introductions and course orientation.
 Class 2: Meeting a Friend by Accident. pp. 4-9.
 Class 3: You Wouldn't be Tom Hanley, Would You?. pp. 10-15
 Class 4: Allow Me to Introduce Myself. pp.16-21
 Class 5: In-Class Midterm Speaking Exam: Topic--Self Introductions.
 Class 6: It's a Pleasure to Meet You. pp.22-27
 Class 7: Let's do Lunch. pp.28-33
 Class 8: Making an Appointment. pp.34-39
 Class 9: Let's have a Party. pp.40-45
 Class 10: I Need a Vacation! pp.46-51
 Class 11: I think I'm Lost. pp. 52-57
 Class 12: May I Take a Message. pp. 58-63
 Class 13: Calling and Leaving a Message. pp.64-69
 Class 14: Leaving a Voice Mail Message. pp.70-75
 Class 15: Preparation for Final Speaking Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation and Assignments: 50%

Midterm (25%) and Final Speaking Exam: 25%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします。Students who do not attend the final exam will be awarded (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This class is intensive in nature and because it is a skills-based class, attendance is very important. Active participation in class will garner students extra points that will be used to enhance the other grade components of the course. This course is best suited to high-beginner to intermediate level students of English. Because it is based on situational dialogues, it will be especially beneficial for students looking to increase their vocabulary and to learn practical, everyday English that will help them when using English while traveling or working and conversing with other English speakers.

履修上の注意 /Remarks

Students must have their own textbook, a notebook or paper, a highlighter, and a black or blue and a red pen to be prepared for my lessons. The textbook serves as a workbook, so it is very important and necessary for students to bring and use their textbook to every lesson.

If a student must miss class due to a university function or official club activity, I will need an official note from the university organization detailing the event that requires the student from attending the lesson. Also, if a student is ill, and brings a note from the hospital, I will not count that as an absence.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I expect students to be in attendance, attentive, and prepared during my lessons. I don't like it when students are chronically late to class. Please be on time and ready when the class begins. Occasionally, due to weather or other unforeseen circumstances, I understand if a student is late when it can't be helped (e.g. a train is late, etc) as long as it does not become a weekly habit.

キーワード /Keywords

ESL, EFL, Communicative English, Cross-Cultural Understanding

Communicative English IV (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you a chance to use the English you have studied in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785
2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
Week 5 Unit 8 I like people who are smart. (B)
Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
Week 8 Review of Units 7-9
Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (一) とします

Communicative English IV (済営 1 - J) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck. I hope you enjoy the course. I look forward to meeting all of you.

キーワード /Keywords

Communicative English IV (済営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor タッド・ジェイ・レオナルド / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

This Communicative English course challenges students to analyze and learn the meaning of English words and expressions through carefully designed student-centered activities that primarily focus on listening and speaking; and secondarily on reading (with a writing activity included). A fifth skill--the cultural component of language--is included contextually within a short reading that pinpoints a cultural theme that was mentioned in the DIALOGUE portion of the lesson. The content of each lesson is not only practical in nature, but uses language that is spoken on a daily basis by native English speakers throughout the United States and Canada.

Each lesson is divided into the following sections:

1. DIALOGUE presents the lesson's main text via a recording. In class, students first listen to the dialogue while noting the colloquial expressions; then they read the dialogue individually.
2. VOCABULARY EXPANSION outlines and defines the new words and phrases of the dialogue. Students receive further reinforcement of the vocabulary with additional example usages.
3. COMPREHENSION QUESTIONS require a basic understanding of the dialogue by asking questions that test students' ability to remember and then quickly scan the text to find the appropriate answers.
4. MATCHING allows students to "match" the lesson's vocabulary phrases with appropriate responses. This also tests students' understanding of the material by challenging them to select an answer based on context.
5. MINI-DIALOGUES incorporate the new vocabulary and phrases from the DIALOGUE and VOCABULARY EXPANSION in three mini-conversations. This cloze activity requires the students to first listen to the dialogues while filling in the missing vocabulary, then to role-play the dialogues with a partner.
6. CULTURAL CLOSE-UP focuses on a cross-cultural theme presented in the lesson. Each lesson's reading concentrates on one aspect of culture that was mentioned in the lesson. Two additional tasks are included with each reading: VOCABULARY BUILDER and SHORT ANSWER.

教科書 /Textbooks

Talk Talk Going Places published by Halico Creative Education, Tokyo. ISBN: 978-4-909730-619 by Todd Jay Leonard (author) (2,420 yen)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Any hardcopy or digital English-Japanese dictionary is recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Teacher and student introductions and course orientation.
 Class 2: Meeting a Friend by Accident. pp. 4-9.
 Class 3: You Wouldn't be Tom Hanley, Would You?. pp. 10-15
 Class 4: Allow Me to Introduce Myself. pp.16-21
 Class 5: In-Class Midterm Speaking Exam: Topic--Self Introductions.
 Class 6: It's a Pleasure to Meet You. pp.22-27
 Class 7: Let's do Lunch. pp.28-33
 Class 8: Making an Appointment. pp.34-39
 Class 9: Let's have a Party. pp.40-45
 Class 10: I Need a Vacation! pp.46-51
 Class 11: I think I'm Lost. pp. 52-57
 Class 12: May I Take a Message. pp. 58-63
 Class 13: Calling and Leaving a Message. pp.64-69
 Class 14: Leaving a Voice Mail Message. pp.70-75
 Class 15: Preparation for Final Speaking Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation and assignments: 50%

Midterm (25%) and Final Speaking Exam: 25%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。Students who do not attend the final exam will be awarded (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This class is intensive in nature and because it is a skills-based class, attendance is very important. Active participation in class will garner students extra points that will be used to enhance the other grade components of the course. This course is best suited to high-beginner to intermediate level students of English. Because it is based on situational dialogues, it will be especially beneficial for students looking to increase their vocabulary and to learn practical, everyday English that will help them when using English while traveling or working and conversing with other English speakers.

履修上の注意 /Remarks

Students must have their own textbook, a notebook or paper, a highlighter, and a black or blue and a red pen to be prepared for my lessons. The textbook serves as a workbook, so it is very important and necessary for students to bring and use their textbook to every lesson.

If a student must miss class due to a university function or official club activity, I will need an official note from the university organization detailing the event that requires the student from attending the lesson. Also, if a student is ill, and brings a note from the hospital, I will not count that as an absence.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I expect students to be in attendance, attentive, and prepared during my lessons. I don't like it when students are chronically late to class. Please be on time and ready when the class begins. Occasionally, due to weather or other unforeseen circumstances, I understand if a student is late when it can't be helped (e.g. a train is late, etc) as long as it does not become a weekly habit.

キーワード /Keywords

ESL, EFL, Communicative English, Cross-Cultural Understanding

Communicative English IV (済営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (Cambridge University Press)

「税込価格：2,200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Shopping 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Shopping 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Fun in the City 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Fun in the City 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：People 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：People 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：In a Restaurant 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：In a Restaurant 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Entertainment 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Entertainment 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Time for a Change 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Time for a Change 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (40%), presentations (20%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

Communicative English IV (済営 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

Communicative English IV (済営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop Listening, Speaking and Critical thinking Skills.
The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships.
In class, students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

教科書 /Textbooks

Pathways 1B (Speaking and Critical Thinking) ISBN 9781337562560 ¥3025
Author: Becky Tarver Chase
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction Class: Course outline and introductions
- 2.Textbook Lessons "Housing for the Future" Part 1
- 3.Textbook Lessons "Housing for the Future" Part 2
- 4.Textbook Lessons "Exploring Space" Part 1
- 5.Textbook Lessons "Exploring Space" Part 2
- 6.Textbook Lessons "Creative Arts" Part 1
- 7.Textbook Lessons "Creative Arts" Part 2
- 8.Pair Presentations Assignment (1)
- 9.Textbook Lessons "Our Relationship with Nature" Part 1
- 10.Textbook Lessons "Our Relationship with Nature" Part 2
11. Textbook Lessons "Our Relationship with Nature" Part 3
- 12.Textbook Lessons "How we Communicate" Part 1
- 13.Textbook Lessons "How we Communicate" Part 2
- 14.Textbook Lessons "How we Communicate" Part 3
- 15.Individual Presentation Assignment (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

Pair Presentation Assignment (1)	15%
Individual Presentation Assignment (1)	15%
Mid-Term Test	15%
Final Test	15%
Textbook Assignments	20%
Class Participation	20%

Students who fail to present the final folio of completed assignments/projects will be awarded a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Welcome to Communicative English IV.

Enjoy the course conversations, discussions and exercises. See you in class!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Critical, Thinking, Discuss, Presentation.

Communicative English IV (済営 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 4) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English IV (済営 1-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (済営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
 (see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
 (see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Communicative English IV (済営 1 - E) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔〜対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English V (済営 2 C - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 7 978-4-906033-61-4
 Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2020.1
 ¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 1 0 . Part 7 SP (single passage)
- 1 1 . Part 7 SP
- 1 2 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 1 3 . Part 7 DP,TP
- 1 4 . Part 6
- 1 5 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題 : 20%

指定 e-learning の学習状況 : 20%

小テスト : 10%

期末試験 : 50%

期末試験を受験しなかった場合は評価不能 (-) とします。

最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

Communicative English V (済営 2 C - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストなどを用いて、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。

教科書 /Textbooks

“Level-up Trainer for the TOEIC Test, Revised Edition”
（著者）Ayako Yokogawa, Tony Cook（セングージ・ラーニング）（¥2,310 [税込]）
ISBN: 978-4-86312-294-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation（授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明）
- 2回 Pre-test の実施。
- 3回 Unit 1 テキスト形式を知る
- 4回 Unit 2 基本戦略①
- 5回 Unit 3 基本戦略②
- 6回 Unit 4 英文の基本構造を見抜く
- 7回 Unit 5 解答根拠の登場順
- 8回 Unit 6 正解の言い換えパターンを知る
- 9回 Unit 7 機能疑問文を聞き取る
- 10回 Unit 8 動詞の時制を見極める
- 11回 Unit 9 接続詞 vs. 前置詞
- 12回 Unit 10 複数パッセージの攻略
- 13回 Unit 11 接続副詞に強くなる
- 14回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、期末試験...50%、平常の授業への取組（小テストを含む）...30%、e-learning 学習状況...20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。
最終評価にはTOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。
①音声ファイルを必ずダウンロードして活用しましょう。
②巻末の「頻出語句リスト」を活用し、単語をどんどん覚えていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。

キーワード /Keywords

Communicative English V (済営 2 C - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 済営 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC(R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

[技能] 英語（読む、聞く、書く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、主に、Listening Section、の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、英文法の基礎を強化する。

教科書 /Textbooks

『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC(R) L&R TEST: BEGINNER』

レベル別 TOEICテスト実力養成コース：初級編

著者：早川幸治 他 ¥2,090（税込）

出版社：金星堂 2021年2月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）等。

授業時やMoodle（学習管理システム）にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Shopping
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Advertising
- 7回 Unit 6 Events
- 8回 Unit 7 Daily Life
- 9回 Unit 8 Media
- 10回 Unit 9 Recruiting
- 11回 Unit 10 Production & Sales
- 12回 Unit 11 Meetings
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Personel
- 15回 Review

Communicative English V (済営 2 C-G) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
 - ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
 - ③ 指定 e-learning の学習状況 (20%)
 - ④ 期末考査 (40%) + TOEIC受験結果
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。又、e-learning 教材 [EdulinX 社提供の TOEIC に特化したコンテンツ] を利用してもらいます (想定学習時間は最大 12 時間程度となります)。詳しくは、第1回の授業で文書を配布して 説明します。
- * 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
* 欠席が授業実施回数の3分の 1 を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載するのでその指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。詳細は初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English V (済営 2 C - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初・中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST : INTERMEDIATE”

(著者) 早川幸治他共著 金星堂 ¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Dining Out : Listening、U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Media : Listening、U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Entertainment : Listening、U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Purchasing : Listening、U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Clients : Listening、U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Recruiting : Listening、U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
 指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

Communicative English V (済営 2 C-H) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English V (済営 2 C - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC® L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : PRE-INTERMEDIATE 「レベル別 TOEIC® L&Rテスト実力養成コース:準中級編」（著者）溝口優美子 / 柳田真知子 金星堂（¥2,200 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ！（アルク）小石裕子・Dorey, Paul（著）（¥1,980 [税込]）
- TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,320 [税込]）
- TOEIC(R) TEST リスニング 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,760 [税込]）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Travel 品詞①：名詞（可算名詞・不可算名詞）
- 第3回 Unit 2 Dining Out 品詞②：形容詞（名詞修飾、補語）
- 第4回 Unit 3 Media 品詞③：副詞（動詞・形容詞修飾）
- 第5回 Unit 4 Entertainment 時制（現在・過去・未来・現在進行形）
- 第6回 Unit 5 Purchasing 3単現のs（修飾語句を伴う主語）
- 第7回 Unit 6 Clients 能動態・受動態（感情を表す表現）
- 第8回 Unit 7 Recruiting 動詞の後ろの動名詞・不定詞（前置詞の後ろの動名詞、定型表現）
- 第9回 Unit 8 Personnel 代名詞（主格・所有格・目的格・所有代名詞）
- 第10回 Unit 9 Advertising 比較（比較級、最上級、as ... as）
- 第11回 Unit 10 Meetings 前置詞（理由・譲歩・時、定型表現）
- 第12回 Unit 11 Finance 接続詞（理由・譲歩・時）
- 第13回 Unit 12 Offices 前置詞・接続詞対比
- 第14回 Unit 13 Daily Life 関係代名詞（主格・所有格・目的格）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：40%、e-learning 学習状況...20%

最終評価にはTOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English V (済営 2 C-A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English V (済営 2 C - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 百武 玉恵 / Tamae Hyakutake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、TOEIC形式に準拠したテキストなどを用いて、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Score Booster for the TOEIC(R) L&R Test: Intermediate
(著者) 番場直之・小山克明 金星堂 (¥2,200 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle (学習管理システム) にて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、プレースメント・テスト
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 Unit 14 Sales & Marketing

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：30%、平常の授業への取り組み（小テストを含む）：50%、e-learning学習状況：20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

評価不能（－）について

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English V (済営 2 C - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、TOEIC 形式に準拠したテキストなどを用いて、単語力を増やし、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Score Booster For the ToEIC L&R Test Intermediate by 馬場直之・小山克明 金星堂（2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト 2.リスニング 3.リーディング
- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語のテスト Unit 1 Travel
- 3回 単語のテスト Unit 2 Dining Out
- 4回 単語のテスト Unit 3 Media
- 5回 単語のテスト Unit 4 Entertainment
- 6回 単語のテスト Unit 5 Purchasing
- 7回 単語のテスト Unit 6 Clients
- 8回 単語のテスト 総復習
- 9回 単語のテスト Unit 7 Recruiting
- 10回 単語のテスト Unit 8 Personnel
- 11回 単語のテスト Unit 9 Advertising
- 12回 Unit 10 Meeting
- 13回 Unit 11 Finance
- 14回 Unit 12 Offices
- 15回 Unit 13 Daily Life

成績評価の方法 /Assessment Method

予習 14点 単語のテスト 25点 期末試験 ...41点

中間・期末テストを受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

指定 e-learning の学習状況 20%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。

反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

当てられたときに、すぐに答えられるように、しっかり予習をしてください。

Communicative English V (済営 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備 CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC〈TOEFL〉を受験することが義務付けられています。第1回目の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回の授業で、指定席を決め、予習点の内容を説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English V (済営 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主にTOEIC L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

基礎的な文法・語法学習並びにリーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「500点」です。(このスコアは前年度を参考に出しています)

教科書 /Textbooks

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST : INTERMEDIATE
番場直之 / 小山克明 共著 金星堂 ¥2,200(税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・30%、e-learning 学習状況・・・20%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (済営 2 C-E) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営 2 C - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC(R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

[技能] 英語（読む、聞く、書く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施。教科書及び新公式問題集より出題。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Listening Section、Grammar Section、Reading Section の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『TOEIC(R) LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ改定新版—BEST PRACTICE FOR THE TOEIC (R) LISTENING AND READING TEST -Revised Edition-』
著者：吉塚 弘、Michael Schauerte ¥2,420（税込）
出版社：成美堂 2017年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）等。

授業時やMoodle（学習管理システム）にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Restaurant
- 3回 Unit 2 Entertainment
- 4回 Unit 3 Business
- 5回 Unit 4 Office
- 6回 Unit 5 Telephone
- 7回 Unit 6 Letter & E-mail
- 8回 Unit 7 Health
- 9回 Unit 8 Bank & Post Office
- 10回 Unit 9 New Products
- 11回 Unit 10 Travel ①
- 12回 Unit 11 Travel ②
- 13回 Unit 12 Job Applications
- 14回 Unit 13 Shopping
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
 - ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
 - ③ 指定 e-learning の学習状況 (20%)
 - ④ 期末考査 (40%) + TOEIC受験結果
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。又、e-learning 教材 [EdulinX 社提供の TOEIC に特化したコンテンツ] を利用してもらいます (想定学習時間は最大 12 時間程度となります)。詳しくは、第1回の授業で文書を配布して 説明します。
- * 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
* 欠席が授業実施回数の3分の 1 を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時やMoodle (学習管理システム) にて適宜紹介する。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度などに応じて、授業計画や授業内容などを変更することがある。詳細は初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (済営 2 C-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 8 978-4-906033-63-8
Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2021.1
¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 1 0 . Part 7 SP (single passage)
- 1 1 . Part 7 SP
- 1 2 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 1 3 . Part 7 DP,TP
- 1 4 . Part 6
- 1 5 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題：20%
 指定 e-learning の学習状況: 20%
 小テスト：10%
 期末試験：50%
 期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします。
 最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。
 授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (済営 2 C-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST ”
(TOEIC LISTENING AND READING TEST オールラウンド演習) (著者) 石井隆之他共著 成美堂 ￥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Department Store : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Train Station : Listening 、 U .2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Transportation : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Post Office : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Bank : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Airport : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading 、 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (済営 2 C-H) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到着目標）

【技能】 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、TOEIC 形式に準拠したテキストなどを用いて、単語力を増やし、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Before- After Practice for the ToEIC L & R Test, Revised Edition
Jonathan Lynch, Atsuko Yamamoto, Kanako Watanabe センゲージラーニング (2,310円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . Listeningの問題の答え合わせ。 2 . リーディングの訳を行う

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 Part 1~7
- 3回 Unit 1 単語のテスト Part 1~7
- 4回 Unit 2 単語のテスト Part 1~7
- 5回 Unit 2 単語のテスト Part 1~7
- 6回 Unit 3 単語のテスト Part 1~7
- 7回 Unit 3 単語のテスト Part 1~7
- 8回単語のテスト 総復習
- 9回 Unit 4 単語のテスト Part 1~7
- 10回 Unit 5 単語のテスト Part 1~7
- 11回 Unit 5 単語のテスト Part 1~7
- 12回 Unit 6 単語のテスト Part 1~7
- 13回 Unit 6 単語のテスト Part 1~7
- 14回 Unit 7 Part 1~7
- 15回 Unit 7 Part 1~7

成績評価の方法 /Assessment Method

予習点 14% 単語のテスト 25% 期末試験 41%
中間・期末テストを受験しなかった場合、成績不能（－）とします。
指定 e-learning の学習状況 20%
最終評価に TOEIC スコアが反映される。
反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席してください。リスニングは、必ずディクテーションを行い、読解は、訳ができるようになるまで、丁寧に単語を調べてくること。授業の最初に、前週の復習が出来ているのか、質問を行います。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いてDictationをし、必ず予習をしてくる。後半の物語は単語を調べておく。
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC〈TOEFL〉を受験することが義務付けられています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オリエンテーションの時に予習点の説明をします。指定席も決めます。第1回の授業に必ず出席してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (済営 2 C-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主にTOEIC L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

基礎的な文法・語法学習並びにリーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「550点」です。(このスコアは前年度を参考に出しています)

教科書 /Textbooks

TOEIC® L&R TEST オールラウンド演習 ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® L&R TEST
著者 石井 隆之 他共著 成美堂 ¥2,420 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・30%、e-learning 学習状況・・・20%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (済営 2 C-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 済営 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。本授業では、TOEIC 形式に準拠したテキストなどを用いて、単語力を増やし、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Before-After Practice for the TOEIC L & R Test, Revised Edition
 Jonathan Lynch, Atsuko Yamamoto, Kanako Watanabe, センゲージラーニング 2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト 2. Listeningの問題の答え合わせ。 3. リーディングの訳を行う

- 1回 オリエンテーション
 2回 単語のテスト Unit 1 Part 1~7
 3回 単語のテスト Unit 2 Part 1~7
 4回 単語のテスト Unit 3 Part 1~7
 5回 単語のテスト Unit 4 Part 1~7
 6回 単語のテスト Unit 5 Part 1~7
 7回 単語のテスト Unit 6 Part 1~7
 8回 単語のテスト Unit 7 Part 1~7
 9回 単語のテスト Unit 8 Part 1~7
 10回 単語のテスト Unit 9 Part 1~7
 11回 単語のテスト Unit 10 Part 1~7
 12回 Unit 11 Part 1~7
 13回 Unit 12 Part 1~7
 14回 Unit 13 Part 1~7
 15回 Unit 14 Part 1~7

成績評価の方法 /Assessment Method

予習点 14% 単語のテスト 25% 期末試験 41%
 中間・期末テストを受験しなかった場合、成績不能(一)とします。
 指定 e-learning の学習状況 20%
 最終評価に TOEIC スコアが反映される。第 1 回の授業で文書を配布して説明します。
 第 1 回の授業に必ず出席をすること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席してください。リスニングは、必ずディクテーションを行い、読解は、訳ができるようになるまで、丁寧に単語を調べてくること。授業の最初に、前週の復習が出来ているのか、質問を行います。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備。CDを聞いてDictationをし、必ず予習をしてくる。
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC〈TOEFL〉を受験することが義務付けられています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オリエンテーションの時に指定席を決めます。第1回の授業に必ず出席してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (済営 2 C-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 済営 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC® L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

考えて解くTOEIC® L&R TEST 実践演習 TOP TIPS FOR THE TOEIC® L&R TEST (著者) Shari J. Berman / 小林 裕子 / 早坂 信 成美堂 (¥2,310 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ! (アルク) 小石裕子・Dorey, Paul (著) (¥1,980 [税込])
- TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,320 [税込])
- TOEIC(R) TEST リスニング 出るところだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,760 [税込])

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 : パート別学習 Part 1 / Part 2
- 第3回 Unit 2 : パート別学習 Part 3
- 第4回 Unit 3 : パート別学習 Part 4
- 第5回 Unit 4 : パート別学習 Part 5
- 第6回 Unit 5 : パート別学習 Part 6
- 第7回 Unit 6 : パート別学習 Part 7
- 第8回 Unit 7 : トピック別学習 交通
- 第9回 Unit 8 : トピック別学習 メニュー・旅行日程
- 第10回 Unit 9 : トピック別学習 販売・注文
- 第11回 Unit 10 : トピック別学習 余暇
- 第12回 Unit 11 : トピック別学習 放送
- 第13回 Unit 12 : トピック別学習 議題
- 第14回 Unit 13 : トピック別学習 オフィス
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：40%、e-learning 学習状況...20%

最終評価にはTOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (済営 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST”
(TOEIC LISTENING AND READING TEST オールラウンド演習) (著者) 石井隆之他共著 成美堂 ￥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Department Store : Listening、U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Train Station : Listening、U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Transportation : Listening、U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Post Office : Listening、U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Bank : Listening、U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Airport : Listening、U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VII (済営 2 C - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標 - goals)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)
ISBN: 978-0-19-460285-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

Communicative English VII (済営 2 C - A) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.

Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 3: Unit 1: Reading, speaking using pair work, and review of unit p1-5 at the back of the book. Answers given.

Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 5: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.

Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 7: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.

Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト

Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 10: Unit 4 : Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.

Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 12: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.

Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 14: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.

Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%

Final exam 50%

- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (済営 2 C - B) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one discussion style debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion. この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class. Curriculum is based on class handouts and student generated materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to Discussion and Debate
- 2回 Critical Thinking Skills: Providing Facts / Opinions / Supporting Ideas
- 3回 Responding to Facts & Opinions: Agreeing, Disagreeing & Giving Reasons
- 4回 Organization & Structure: Starting the Discussion / Matching Ideas / Ending the Discussion
- 5回 Positive Persuasive Discussion: Writing Time
- 6回 Positive Persuasive Discussion: Pair Presentation 1
- 7回 Pro / Con Discussion: Research & Write
- 8回 Pro / Con Debate Discussion: Peer Editing & Practice
- 9回 Pro / Con Debate Discussion: Pair Presentation 2
- 10回 Argumentative Debate: Research & Write
- 11回 Argumentative Debate: Presentation Skills & Practice
- 12回 Argumentative Debate: Pair Presentation 3
- 13回 Spontaneous Debate Challenge
- 14回 Final Test Preparation: Stage 1
- 15回 Final Test Preparation: Stage 2

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 20%, Presentations 30%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to have regular attendance and take part fully in class writing and speaking exercises. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be working closely with group members and will have to fulfill many tasks together. As student absence will affect pair and group success, all students are required to be present and active at all times.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (済営 2 C - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A Third Edition, Wilson Oxford University Press 2592 yen

978-0194602853

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are expected to use a dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing hobbies and present perfect
- 2回 Personal profiles and drone rodeo
- 3回 Indirect questions and reduction of do and can
- 4回 TV listings and internet celebrities
- 5回 Talking about art and passives
- 6回 Art facts and article about Banksy
- 7回 Review of first three units
- 8回 Relative clauses and describing friends
- 9回 Famous friendships and finding old friends
- 10回 Discussing technology, infinities and gerunds
- 11回 New products and article about robots
- 12回 Describing events and the past perfect
- 13回 A travel accident and past events
- 14回 Review of last three units
- 15回 Review for exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare a weekly peer journal where they write about weekly activities

Communicative English VII (済営 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (済営 2 C - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishVII (共通)
この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。
(到達目標)
【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (ISBN - 9781108627726)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Education"
Learning to talk about routines. / Using present, present continuous. / Feelings, emotions, expressing prohibition, obligation.
3. "Education"
Unit listening and reading practice.
4. "Personal Stories"
Learning to talk about what happened in the past. / Using past continuous, past. / Using verbs to describe reactions, closing conversations.
5. "Personal Stories"
Unit listening and reading practice.
6. "Style and Fashion"
Learning to talk about and describe fashion. / Using "used to" and defining clauses. / Clothing styles and asking "where" questions.
7. "Style and Fashion"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Interesting Lives"
Learning to talk about life experiences. / Using past present and simple past. / Experiences, checking and clarifying meaning.
10. "Interesting Lives"
Unit listening and reading practice.
11. "Our World"
Learning how to talk about human made structures. / Using comparatives and superlatives. / Expressing disbelief.
12. "Our World"
Unit listening and reading practice.
13. "Organizing Your Time"
Learning to talk about weekend plans. / Using present tense for future. / Taking and leaving messages, favors.
14. "Organizing Your Time"
Unit listening and reading practice.
15. Final Revision for Testing

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English VII (済営 2 C - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 済営 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Communicative English VII (済営 2 C-E) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔～対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English VII (済営 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 1-2) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English VII (済営 2 C-F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (済営 2 C - G) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishVII (共通)
この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。
(到達目標)
【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (ISBN - 9781108627726)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Communicative English VII (済営 2 C-G) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Education"
Learning to talk about routines. / Using present, present continuous. / Feelings, emotions, expressing prohibition, obligation.
3. "Education"
Unit listening and reading practice.
4. "Personal Stories"
Learning to talk about what happened in the past. / Using past continuous, past. / Using verbs to describe reactions, closing conversations.
5. "Personal Stories"
Unit listening and reading practice.
6. "Style and Fashion"
Learning to talk about and describe fashion. / Using "used to" and defining clauses. / Clothing styles and asking "where" questions.
7. "Style and Fashion"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Interesting Lives"
Learning to talk about life experiences. / Using past present and simple past. / Experiences, checking and clarifying meaning.
10. "Interesting Lives"
Unit listening and reading practice.
11. "Our World"
Learning how to talk about human made structures. / Using comparatives and superlatives. / Expressing disbelief.
12. "Our World"
Unit listening and reading practice.
13. "Organizing Your Time"
Learning to talk about weekend plans. / Using present tense for future. / Taking and leaving messages, favors.
14. "Organizing Your Time"
Unit listening and reading practice.
15. Final Revision for Testing

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English VII (済営 2 C - H) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Four Corners Level 3A Student'sBook with Online Self-Study, 2nd ed.'18
ISBN9781108559805
¥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Instructor will make recommendations on first day of class

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Unit 1 A&B
Week 3: Unit 1 C&D, Unit Quiz #1
Week 4: Unit 2 A&B
Week 5: Unit 2 C&D, Unit Quiz #2
Week 6: Unit 3 A&B
Week 7: Unit 3 C&D, Unit Quiz #3
Week 8: Midterm test
Week 9: Unit 4 A&B
Week 10: Unit 4 C&D, Unit Quiz #4
Week 11: Unit 5 A&B
Week 12: Unit 5 C&D, Unit Quiz #5
Week 13: Unit 6 A&B
Week 14: Unit 6 C&D, Unit Quiz #6
Week 15: Review and prepare for final speaking test

成績評価の方法 /Assessment Method

30% Participation
15% Homework
15% Unit Quizzes
20% Midterm speaking test
20% Final speaking test
Note: Missing the final test will result in a — grade! 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to prepare for the next class session by completing homework exercises from the textbook.

履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without sufficient explanation (job interview, physical or mental illness, covid exposure etc. are generally considered a sufficient reason to miss class so long as the instructor is notified.)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (済営 2 C-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営 2 C - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

リーディング学習として、リーディングセクションの英文を文構造を理解しながら精読して読む力を伸ばします。リスニング学習として各チャプターのリスニング問題に取り組み、聞く力の向上を図ります。

教科書 /Textbooks

American Vibes: People, Places and Perspectives
著者：Todd Rucynski & Yoko Nakagawa
金星堂（2,970円 [税込]）
ISBN: 978-4-7647-4094-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Orientation (授業の進め方について説明)
- 第2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 第3回 Chapter 2 Maine
- 第4回 Chapter 3 New York City 1
- 第5回 Chapter 4 New York City 2
- 第6回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 第7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 第8回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 第9回 Chapter 8 Oswego, New York
- 第10回 Chapter 9 Austin, Texas
- 第11回 Chapter 10 Saint Jo, Texas
- 第12回 Chapter 11 Santa Fe, New Mexico
- 第13回 Chapter 12 Arizona-- Grand Canyon, Route 66
- 第14回 Chapter 13 Los Angeles 1
- 第15回 Chapter 15 Seattle, Washington まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、小テストや授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況、課題の提出状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (済営 2 C-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Vocabulary Review Test を実施します。

教科書 /Textbooks

Junko Murao 他、INSIGHTS 2022、978-4-7647-4147-8、KINSEIDO、1900円（税別）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ、978-4-02-331568-6、朝日新聞出版、890円（税別）

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ、978-4-02-331684-3、朝日新聞出版、890円（税別）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction / 英字新聞を知ろう（教科書を必ず買って持ってくること）
- 2回 Chapter 1 Global Competition in the Sky
- 3回 Chapter 2 Library on Wheels
- 4回 Chapter 3 English Subtitles Help Foreign Residents
- 5回 Chapter 4 Olympic Pride
- 6回 Chapter 5 The Big Business of Water
- 7回 Chapter 6 Evacuation Shelters for pets
- 8回 Chapter 7 How to Live a Zero-Waste Lifestyle
- 9回 Chapter 8 Home Is Where the Heart Is
- 10回 Chapter 9 Loss of Ice Increases Global Temperatures
- 11回 Chapter 13 No Teens Allowed
- 12回 Chapter 14 The Truth about the Deer in Nara
- 13回 Chapter 17 We still Don't Have Choices
- 14回 Chapter 18 Urban Farming in Singapore
- 15回 Chapter 20 A New Dream Found in Kyoto

成績評価の方法 /Assessment Method

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

小テスト、予習・復習状況、学習への参加度、自主的な発表などから算出した平常点（20%）と筆記試験（80%）で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：該当の Chapter を通読して、わからないことを授業中に質問できるように準備しておきましょう。

事後学習：毎回授業の冒頭に前回の授業内容についてのVocabulary Review Test を実施するので、必ず学習した語彙を復習して授業に臨みましょう。

履修上の注意 /Remarks

第1回の授業に必ず教科書を買って持ってくること。
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
必ず新しい教科書を買ってください。
受講に際しては、教科書と辞書を必ず持参してください。
Vocabulary Review Test は、各自自宅で学習を済ませてテストに臨んでください。
質問がある場合は、授業中に聞くこと。
受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルスの影響により、リモートクラスに移行する可能性があります。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (済営 2 C-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営 2 C - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

American Vibes People, Places and Perspectives 「映像で学ぶアメリカの素顔：都市・人々・視点」 Todd Rucynski 他著 金星堂 ¥2970(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Chapter1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter2 Maine
- 4回 Chapter3 New York City 1
- 5回 Chapter4 New York City 2
- 6回 Chapter5 Washington, D.C.
- 7回 Chapter6 Charleston, South Carolina
- 8回 Chapter7 Savannah, Georgia
- 9回 Chapter8 Oswego, New York
- 10回 Chapter9 Austin, Texas
- 11回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15回 Chapter14 Los Angeles 2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)

※小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備

事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅にて暗記を済ませてテストに臨んでください。

Communicative English VIII (済営 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (済営 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リーディング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、TOEIC テストの公式問題集を用いてのリスニングとリーディングの英語力向上も目指します。

教科書 /Textbooks

Insights 2022 世界を読むメディア英語入門2022 （金星堂）（2,090円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 1~8 （国際コミュニケーション協会）(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Global Competition in the Sky
- 3回 Library on Wheels
- 4回 English Subtitles Help Foreign Residents
- 5回 Olympic Pride
- 6回 The Big Business of Water
- 7回 Evacuation Shelters for Pets
- 8回 TOEIC 演習
- 9回 How to Live a Zero-Waste Lifestyle
- 10回 Home Is Where the Heart Is
- 11回 Loss of Ice Increases Global temperatures
- 12回 The Historic Red-Planet Mission
- 13回 More Layers Make You Feel Cooler
- 14回 Impossible May Be Possible
- 15回 No teens Allowed

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況(小テスト、リスニングテスト、課題などを含む)...70%
小テストを一回も受験しなかったら、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (済営 2 C-E) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。又、この授業は、映像を通して英語圏の文化や人々の考え方を認識すると同時に英語能力を高めることも目的とします。

(到達目標)

[技能]英語（読む、聞く、書く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
又、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』

著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,
2020年1月 発行、 ¥2,970 (税込)
出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会) 等。

授業時やMoodle (学習管理システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3 回 Chapter 2 Maine
- 4 回 Chapter 3 New York City 1
- 5 回 Chapter 4 New York City 2
- 6 回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7 回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8 回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9 回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10 回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11 回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12 回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13 回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14 回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

* 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

* 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内にて説明したり、Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度などに応じて、授業計画や授業内容などを変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (済営 2 C-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

【技能】

英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Insights 2022
村尾純子編（金星堂、2022）9784764741478
（本体1,900円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明
- 第2回 Global Competition in the Sky
- 第3回 Library on Wheels
- 第4回 English Subtitles Help Foreign Residents
- 第5回 Olympic Pride
- 第6回 The Big Business of Water
- 第7回 Evacuation Shelters for Pets
- 第8回 How to Live a Zero-Waste Lifestyle
- 第9回 Home is Where the Heart Is
- 第10回 Loss of Ice Increases Global Temperatures
- 第11回 The Historic Red-Planet Mission
- 第12回 More Layers Make You Feel Cooler
- 第13回 Impossible May Be Possible
- 第14回 No Teens Allowed
- 第15回 授業のまとめと試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%
演習という授業の性格上、出席を重視します。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (済営 2 C-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 百武 玉恵 / Tamae Hyakutake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 済営 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、毎回250語前後のエッセイを読みながら、文法力・語彙力・聴解力を同時に身に付けていきます。

教科書 /Textbooks

『やさしく読める社会事情』
（著者）Joan McConnell, 山内 圭 成美堂（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle（学習管理システム）にて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 9 Tattoos
- 11回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 12回 Chapter 11 All the Lonely People
- 13回 Chapter 12 Think Before You Talk, Text, or Tweet
- 14回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 15回 Chapter 14 Helping People with Disabilities

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：50%、平常の授業への取り組み：30%、小テスト：20%

評価不能（－）について

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (済営 2 C-H) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営 2 C - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

リーディング学習として、現代社会の様々なトピックについて書かれた英文を音読した後、文構造を理解しながら精読して読む力を伸ばします。リスニング学習として各チャプターのリスニング問題に取り組み、聞く力の向上を図ります。

授業では小テストを実施します。

教科書 /Textbooks

Changing Times, Changing Worlds
著者：Joan McConnell & Kiyoshi Yamauchi
成美堂（2,090円 [税込]）
ISBN: 978-4-7919-7207-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方について説明)
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 11回 Chapter 11 All the Lonely People
- 12回 Chapter 12 Think before You Talk, Text, or Tweet
- 13回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 14回 Chapter 14 Helping People with Disabilities
- 15回 Chapter 15 A Special Message まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、小テストや授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。

キーワード /Keywords

Intermediate English I (済営 2 I - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 I - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身に着けた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力のさらなる向上を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

Broadcast ABC World News Tonight by Shigeru Yamane, Kathleen Yamane 金星堂 (2 9 7 0 円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

- 1 . 記事を読む 3 . Discussion
- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 New Company コロナ禍の中、ペットに癒やされる
- 3回 Chapter 2 E-Cigarette: Partial Ban Backlash 若者に広がる電子たばこ使用
- 4回 Chapter 3 The Veteran and His Homemade Toys 退役軍人の手作りのおもちゃ
- 5回 Chapter 4 To the Moon NASAを支えた女性数学者
- 6回 Chapter 5 Flooding in Venice ベネチア水没の危機
- 7回 Chapter 6 Security from Above 大晦日のタイムズスクエアを警備する
- 8回 中間テスト Chapter 7 No Limits Café 特別支援が必要な人を雇用する
- 9回 Chapter 8 Paralyzed Man Walks Again 幹細胞治療で奇跡の回復
- 10回 Chapter 9 Ending the War アメリカ最長の戦争が終わるか？
- 11回 Chapter 10 Amazon on the Brink アマゾンの熱帯雨林を守る先住民族
- 12回 Chapter 11 Emergency Business Aid 苦闘する中小企業の経営者
- 13回 Chapter 12 Classic American Cowboy Hat カウボーイハットはメイドインアメリカ
- 14回 Chapter 13 Anger Across America 人種差別に対する抗議デモが全米で広がる
- 15回 Chapter 14 Volunteers Feeding Those in Need ボランティアが広げる輪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 30% 予習点 14% 単語のテスト 25点 期末試験 31%
中間・期末テストを受験しなかった場合、成績不能(一)とします。
最終評価にTOEICスコアが反映される。
反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

必ずビデオを見て、CDを聞いて、予習をしてくる。

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第1回目のオリエンテーションの時に予習点の説明をします。指定席も決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

Intermediate English I (済営 2 I - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 I - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。

(到達目標)

- 【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
- 【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
- 【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

- ① “Challenges of Global Enterprises” (海外メディアで読むグローバル企業の挑戦) (著者)塩見佳代子他 金星堂 ¥2,310
- ② “TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ” (著者)TEX加藤 朝日新聞出版 ¥979
- ・ TOEICの回はプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 1 Zara’s Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses、(金のフレーズ)単語小テスト1
- 3回 2 Airbnb’s Challenge and New Direction、1 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト2
- 4回 TOEIC演習、(金のフレーズ)単語小テスト3
- 5回 3 Augmented Reality Ecosystem in Facebook、2 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト4
- 6回 4 Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One、3 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト5
- 7回 TOEIC演習、(金のフレーズ)単語小テスト6
- 8回 5 At Toyota, the Automation Is Humane-Powered、4単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト7
- 9回 6 How Starbucks Became a Successful Worldwide Brand、5 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト8
- 10回 TOEIC演習、(金のフレーズ)単語小テスト9
- 11回 7 McDonald’s Modern Marketing Methods、6 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト10
- 12回 9 Why Amazon Is the World’s Most Innovative Company、7 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト11
- 13回 10 Sony Comes Back from the Brink、9 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト12
- 14回 12 How Google Has Changed the World、10 単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業の範囲を予習し、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Intermediate English I (済営 2 I - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 I - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

15 Topics for Tomorrow's World
宮本文編(松柏社、2019)9784881987414
(本体1,900円+税)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明
- 第2回 Unit 1 人工知能と高齢者介護
- 第3回 Unit 2 シェアリング経済の未来は中国にあり
- 第4回 Unit 3 プラスチック海洋汚染へのイギリスの取り組み
- 第5回 Unit 4 ビッグデータと人工知能を用いた犯罪予測システム
- 第6回 Unit 5 アメリカの肥満まん延と食品業界および政府の責任
- 第7回 Unit 6 ウェールズにおけるLGBTも包括した性教育改革
- 第8回 Unit 7 自動運転と高齢者の未来
- 第9回 Unit 8 ミレニアル世代のミニマルな消費傾向
- 第10回 Unit 9 本家に迫るFIFAeワールドカップ
- 第11回 Unit 10 加工自撮り画像と理想の自分とのギャップ
- 第12回 Unit 11 子供たちの食育は誰が担うのか
- 第13回 Unit 12 IT企業のトップがベーシックインカムを支持する理由
- 第14回 Unit 13 「モノ所有」から「利用」へ
- 第15回 授業のまとめと試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%
演習という授業の性格上、出席を重視します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

Intermediate English I (済営 2 I - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第 1 回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Intermediate English II (済営 2 I - C) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 済営 2 I - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

World English 3A, (3rd Ed.) by C. Lee, K. Johannsen, et al. (3025yen)
ISBN:978-0-357-13033-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the course, grading, outline.
Week 2: Unit 1, pages 4-8. Unit goals, vocabulary check, grammar review, listening, communication activity.
Week 3: Unit 1, pages 9-13. Language expansion, reading for information and comprehension, communication and writing.
Week 4: Unit 1, pages 14-15, Video and workbook.
Week 5: Unit 2, pages 18-22. Unit goals, vocabulary check, grammar review, listening, communication activity.
Week 6: Unit 2, pages 23-27. Language expansion, reading for information and comprehension, communication and writing.
Week 7: Unit 2, pages 28-29, Video and workbook
Week 8: Mid-term test based on units 1-2, 中間テスト
Week 9: Unit 3, pages 32-36. Unit goals, vocabulary check, grammar review, listening, communication activity.
Week 10: Unit 3, pages 37-41. Language expansion, reading for information and comprehension, communication and writing.
Week 11: Unit 3, pages 42-43, Video and workbook
Week 12: Unit 4, pages 46-50. Unit goals, vocabulary check, grammar review, listening, communication activity.
Week 13: Unit 4, pages 51-55. Language expansion, reading for information and comprehension, communication and writing.
Week 14: Unit 4, pages 56-57, Video and workbook
Week 15: まとめ – Final exam will be based on units 3-4.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%
Final exam 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

Intermediate English II (済営 2 I - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 済営 2 I - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】 様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】 英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 2B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Eating and Food 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Eating and Food 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Active Earth 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：Active Earth 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Wonders from the Past 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：Wonders from the Past 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：Presentation 3 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Species Survival 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Species Survival 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Presentation 4 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Innovation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Innovation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

Intermediate English II (済営 2 I - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

Intermediate English II (済営 2 I - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 I - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

World English 3A Third Edition K.L. Johannsen, M. Milnor, R. Tarver Chase ISBN 9780357130339
3025円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 Where We Live (A)
Week 3 Unit 1 Where We Live (B)
Week 4 Unit 2 The Mind's Eye (A)
Week 5 Unit 2 The Mind's Eye (B)
Week 6 Unit 3 Changing Planet (A)
Week 7 Unit 3 Changing Planet (B)
Week 8 Review of Units 1-3
Week 9 Unit 4 The Good Life (A)
Week 10 Unit 4 The Good Life (B)
Week 11 Unit 5 Survival (A)
Week 12 Unit 5 Survival (B)
Week 13 Unit 6 Art Matters (A)
Week 14 Unit 6 Art Matters (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能(一)とします

Intermediate English II (済営 2 I - B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Higher English I (2 H-B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Higher English I (2 H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 Stories from the World (A)
Week 3 Unit 1 Stories from Japan (A)
Week 4 Unit 2 Stories from the World (B)
Week 5 Unit 2 Stories from Japan (B)
Week 6 Unit 3 Stories from the World (C)
Week 7 Unit 3 Stories from Japan (C)
Week 8 Review
Week 9 Unit 4 Stories from the World (D)
Week 10 Unit 4 Stories from Japan (D)
Week 11 Unit 5 Stories from the World (E)
Week 12 Unit 5 Stories from Japan(E)
Week 13 Unit 6 Stories from the World (F)
Week 14 Unit 6 Stories from Japan (F)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you all.

キーワード /Keywords

Higher English II (2 H-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Higher English II (2 H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 中国済営比人律政 /China University of Political Business

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school and university. We will cover a variety of topics while we improve your English ability. The course will be quite demanding as it will require a large amount of reading, writing, speaking, and listening. While it may be relatively demanding, another goal for the course is that it will be intellectually stimulating for students.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 6) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the class, getting acquainted
- 2回 Conversation strategies, note-taking
- 3回 Assignment 1
- 4回 Discussion 1
- 5回 Assignment 2
- 6回 Discussion 2
- 7回 Assignment 3
- 8回 Discussion 3
- 9回 Assignment 4
- 10回 Discussion 4
- 11回 Assignment 5
- 12回 Discussion 5
- 13回 Assignment 6
- 14回 Discussion 6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.). We may use a CALL (computer-assisted language learning) classroom. In the CALL room, you will be required to bring your own headset (earphones and microphone).

Higher English II (2 H-A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語I (1 - a) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語I (1 - b) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になるました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞/形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)

事後学習：学習範囲の復習をする

中国語II (1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になるました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞/形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 60% 小テスト・・ 20% 日常の授業への取り組み・・ 20%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語II (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることが出来ます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN12F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|-----------------|
| 1回 | 第九課 | 買い物をする・義烏と横店紹介 |
| 2回 | 第九課 | 買い物、練習問題 |
| 3回 | 第十課 | お金を両替・西安と洛陽紹介 |
| 4回 | 第十課 | 銀行にて、練習問題 |
| 5回 | 第十一課 | ホテルに泊まる・成都紹介 |
| 6回 | 第十一課 | ホテルにて、練習問題 |
| 7回 | 第十二課 | 電話を掛ける・昆明紹介 |
| 8回 | 第十二課 | 電話、練習問題 |
| 9回 | 第十三課 | 興味について語る・広州紹介 |
| 10回 | 第十三課 | 興味、練習問題 |
| 11回 | 第十四課 | 見方について語る・大連紹介 |
| 12回 | 第十四課 | 語り合い、練習問題 |
| 13回 | 第十五課 | 搭乗手続き・日本の紹介 |
| 14回 | 第十五課 | 空港での搭乗手続き・免税店にて |
| 15回 | 総合練習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)

事後学習：学習範囲の復習をする

中国語Ⅳ(1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 必ず出席すること。
- 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN12F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 必ず出席すること。
- 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN201F		◎			
科目名	中国語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶというと相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN211F		◎			
科目名	中国語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 崔 学森 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN202F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 崔 学森 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN212F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN301F		◎			
科目名	上級中国語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

上級中国語は、中国語初・中級をひとつおわり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。

主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。

到達目標

中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

（到達目標）

【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期

第1回 授業説明、基礎復習

第2回 第1課① 文法、翻訳、聴解練習

第3回 第1課② 会話、リスニング、作文練習

第4回 第2課① 文法、翻訳、聴解練習

第5回 第2課② 会話、リスニング、作文練習

第6回 第3課① 文法、翻訳、聴解練習

第7回 第3課② 会話、リスニング、作文練習

第8回 場面の体験1

第9回 第4課① 文法、翻訳、聴解練習

第10回 第4課② 会話、リスニング、作文練習

第11回 第5課① 文法、翻訳、聴解練習

第12回 第5課② 会話、リスニング、作文練習

第13回 第6課① 文法、翻訳、聴解練習

第14回 第6課② 読む、会話、作文練習

第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCIT初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力　作文力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN311F		◎			
科目名	上級中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひとつおりの終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
到達目標
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCCT初級テスト）の内容も同時に指導する。
到達目標）
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業時に説明する。（前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する予定。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 第7課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第2回 第7課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第3回 第8課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第4回 第8課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第5回 場面の体験1
 - 第6回 第9課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第7回 第9課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第8回 第10課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第9回 第10課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第10回 場面の体験2
 - 第11回 第11課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第12回 第11課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第13回 第12課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第14回 第12課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第15回 場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%
※ 5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、
評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(B C T初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、考え力、ビジネス文章

朝鮮語Ⅰ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。
到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。
また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業案内、韓国語の概要、文字の構成、挨拶表現、基本母音字の練習
- 2回 母音字のドリル、基本子音字の練習
- 3回 激音と濃音
- 4回 文字の復習、読み取りテスト
- 5回 複合母音
- 6回 ハングルの終声(パッチム)
- 7回 発音の変化
- 8回 ハングル表記法及び話してみましよう。
- 9回 11課 大学生ですか。
- 10回 12課 会社員ではありません。
- 11回 13課 どこで習いますか。
- 12回 11～13課までの復習、小テスト
- 13回 14課 暑くありませんか。
- 14回 15課 誕生日はいつですか。
- 15回 14～15課までの復習、小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験：50%
- ・ 日常の授業への取り組み：40% (小テスト4回)
- ・ レポート：10%

- ※成績評価の対象としない場合(評価不能)について
- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能とします。
 - ・ 定期試験を受験しなかった場合は評価不能とします。

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語II (1 - a) 【昼】

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。
また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

『韓国語初歩（三訂版）』巖基珠・金三順ほか 白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『韓国語へ旅しよう』初級 李昌圭著 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 16課 どこに住んでいますか。(打ち解けた丁寧形)
- 3回 17課 先生いらっしゃいますか。(かしこまった尊敬形)
- 4回 18課 何をお探ですか。(打ち解けた尊敬形)
- 5回 16～18課の復習、小テスト
- 6回 19課 何をしましたか。(過去形)
- 7回 20課 何を召し上がりますか。
- 8回 19～20課の復習、小テスト
- 9回 21課 何時にお会いしましょうか。
- 10回 22課 水泳をしています。(進行形)
- 11回 21～22課の復習 我が家に一度遊びに来てください。
- 12回 23課 我が家に一度遊びに来てください。24課 市庁から近いですか。
- 13回 24課 市庁から近いですか。22～24課の復習、小テスト
- 14回 23～24課の復習、小テスト
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験：50%
- ・ 授業への取り組み：40点(小テスト4回)
- ・ レポート：10%

成績評価の対象としない場合(評価不能(-))について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能(-)とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語II (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。

・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。

・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。

・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といいます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%

授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%

学期末試験・・・50%

* 以下のような場合は、評価不能（-）とします。

①出席が10回未満の場合

②定期試験を受験しなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅳ(1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～くありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

* 以下のような場合は、評価不能(-)とします。

- ①出席が10回未満の場合
- ②定期試験を受験しなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN201F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用能力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 ㄹ 변則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 ㄹ 변則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/르 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【겠】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN211F		◎			
科目名	朝鮮語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와、可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄱ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN202F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅶ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順番を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아서】
- 10回．第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状態説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・小テスト(2回)・課題...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1単位 /Class Format 2学期 /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN212F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅷ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-르/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 がしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ /는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回)...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN301F		◎			
科目名	上級朝鮮語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。
専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標にする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション(韓国語で自己紹介を含む)
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가/이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【自分の願望のために現在やっていること】
- 9回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 10回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 11回．韓国映画鑑賞
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ... 50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN311F		◎			
科目名	上級朝鮮語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)까요?,-(으)르 것 같다】
- 4回．作文発表【自分の国と他の国の交通事情を比較】
- 5回．読解【宿泊先の予約】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로,-밖에】
- 7回．作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回．韓国の観光事情について話し合う
- 9回．読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回．聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다가】
- 11回．作文発表【自分の国と他の国のインターネット事情を比較】
- 12回．読解【終了式】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)는지, -(으)르 게요】
- 14回．作文発表【学期を終えての感想を発表】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM101F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅰ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業を実施することを前提に作成されています。遠隔授業への変更に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物 / メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie / 命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など 文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：~してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持っている? 持っていない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物 / 値段 文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 ドイツ語Ⅰのまとめと補足

ドイツ語I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

- ・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。
 1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
 2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。遠隔授業では毎週 Moodle を参照してください。
担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM111F		◎			
科目名	ドイツ語II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識および運用力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業の実施を前提に作成されています。遠隔授業の実施に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 ドイツ語IIのまとめと補足

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。

1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

ドイツ語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提に行われます。
受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。
遠隔授業では、毎週 Moodle を参照してください。
担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM102F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。

Was ist dein Vater von Beruf?

Mein Vater ist Angestellter.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済嘗人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM112F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。
Was hast du am Wochenende gemacht?
Ich habe gejoggt.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM201F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅴ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。
Was isst du zu Mittag?
Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語V 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM211F		◎			
科目名	ドイツ語VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語VI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM202F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM212F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くととき、相手の感想を聞くととき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くととき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くととき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くととき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN101F		◎			
科目名	フランス語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

フランス語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN111F		◎			
科目名	フランス語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN102F		◎			
科目名	フランス語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいは映像を使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

シェ・マドレーヌ

東海麻衣子、ジャン＝ガブリエル サントニ 著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語でしてみる(1)
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語でしてみる(2)
〈文法〉フランス語の読み方
- 3回 自己紹介とあいさつ、フランスという国(1)
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 職業について語る、フランスという国(2)
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 住んでいるところについて語る、世界の中のフランス語(1)
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 カフェで注文してみる、世界の中のフランス語(2)
〈文法〉形容詞〔1〕
- 7回 様々な言語について、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(1)
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 持ち物について語る、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(2)
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11~20
- 9回 家族について語る、ジャパン・エキスポ(1)
〈文法〉所有形容詞
- 10回 人物を描写してみる、ジャパン・エキスポ(2)
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 インタビュー、フランスの地方の魅力(1)
〈文法〉部分冠詞、指示形容詞
- 12回 さまざまな質問、フランスの地方の魅力(2)
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 好きな食べ物について語る、フランスの朝ごはん(1)
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 服装について語る、フランスの朝ごはん(2)
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

フランス語Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題（50％）、学期末試験の結果（50％）を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN112F		◎			
科目名	フランス語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

シエ・マドレーヌ
東海麻衣子 ジャン＝ガブリエル サントニ著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツについて語る、フランスのヴァカンス(1)
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 朝食について語る、フランスのヴァカンス(2)
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 人を誘ってみる、フランスの世界遺産(1)
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 行き先を聞く、フランスの世界遺産(2)
〈文法〉非人称構文、数字 21~69
- 5回 日常生活について(1)、フランスのホームパーティー(1)
〈文法〉代名動詞(1)
- 6回 日常生活について(2)、フランスのホームパーティー(2)
〈文法〉代名動詞(2)
- 7回 有名人について語る、フランスのスポーツ(1)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(1)
- 8回 アルバイトについて語る、フランスのスポーツ(2)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(2)
- 9回 レストランで(1)、フランス人の余暇(映画・音楽)(1)
〈文法〉複合過去(1)
- 10回 レストランで(2)、フランス人の余暇(映画・音楽)(2)
〈文法〉複合過去(2)、中性代名詞 en
- 11回 過去について語る(1)、フランスの美術館(1)
〈文法〉半過去(1)
- 12回 過去について語る(2)、フランスの美術館(2)
〈文法〉半過去(2)、中性代名詞 y と le
- 13回 メールを書く、フランスの教育制度
〈文法〉命令形
- 14回 近い未来の計画について話す、フランスの大学生生活
〈文法〉近接未来
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

フランス語Ⅳ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題 (50%)と学期末試験の結果 (50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN201F		◎			
科目名	フランス語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

松村博史他『クロワッサン 2』、朝日出版 2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：1課Dialogue、自己紹介
 - 第2回：複合過去の復習
 - 第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語
 - 第4回：強制形、
 - 第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞
 - 第6回：代名動詞の複合過去
 - 第7回：4課Dialogue、中性代名詞、
 - 第8回：指示代名詞
 - 第9回：小テスト②、5課Dialogue
 - 第10回：前未来
 - 第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
 - 第12回：小テスト③、所有代名詞
 - 第13回：6課
 - 第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去
 - 第15回：大過去
- ※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習をしっかりと行うこと

フランス語V 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN211F		◎			
科目名	フランス語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
VIではLe petit prince (『星の王子さま』) のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

村松博史『クロワッサン2』、朝日出版、2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解(歌詞)
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解(『星の王子さま』狐の話)
- 第13回：長文読解(『星の王子さま』献辞)
- 第14回：長文読解(『星の王子さま』第1章)
- 第15回：長文読解(『星の王子さま』バオバブの話)

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をしっかりと行うこと。

フランス語VI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN202F		◎			
科目名	フランス語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1: 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1: 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1: 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2: 質問する (前半)
- 5) unité 2: 質問する (後半)
- 6) unité 2: 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3: 買い物をする (前半)
- 8) unité 3: 買い物をする (後半)
- 9) unité 3: 買い物をする (総括)
- 10) unité 4: いつ (前半)
- 11) unité 4: いつ (後半)
- 12) unité 4: いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5: どこ (前半)
- 14) unité 5: どこ (後半)
- 15) unité 5: どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・40%

期末テスト・・・40%

授業中の取り組み・・・20%

ただし出席が前提です。

4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN212F		◎			
科目名	フランス語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰 (前半)
 - 2) unité 6：誰 (後半)
 - 3) unité 6：誰 (総括)、リスニング
 - 4) unité 7：何 (前半)
 - 5) unité 7：何 (後半)
 - 6) unité 7：何 (総括)、小テスト
 - 7) unité 8：どのように (前半)
 - 8) unité 8：どのように (後半)
 - 9) unité 8：どのように (総括)、読解
 - 10) unité 9：過去について (前半)
 - 11) unité 9：過去について (後半)
 - 12) unité 9：過去について (総括)、小テスト
 - 13) unité 10：仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10：仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(2回)・・・ 40%
プレゼンテーション・・・ 20%
レポート・・・ 20%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、またはプレゼンテーションを行わなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN101F		◎			
科目名	スペイン語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語を初めて学ぶ学生が対象の授業です。文法事項を中心に練習問題や会話文、文化紹介も扱うテキストを使用し、基礎的なスペイン語文法を学習します。授業で新しく学ぶ内容は次週の学習内容のベースとなり、その繰り返しでスペイン語を身につけていきます。そのため復習と予習を毎週しっかりと行って下さい。授業ではスペイン語圏の文化についても紹介する予定です。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピギーター 一実りのスペイン語一』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※初版は2017年ですが、今年改訂版が発行されています。授業では2022年の改訂版を使うので、購入時にしっかり確認して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書を必ず準備して下さい。ただ詳細は初回授業で説明しますので、購入はその後で大丈夫です。

iPhoneやiPadの使用者には「辞書by物書堂」というアプリをお勧めします。アプリ内ストアで、小学館の『西和中辞典』と『和西辞典』がセットになった辞書コンテンツ「小学館 西和中辞典・和西辞典」を買うことができます。Android用としてはLogoVista提供のアプリに白水社『現代スペイン語辞典・和西辞典 改訂版』があります。

代表的な中型辞書として小学館『西和中辞典』、白水社『現代スペイン語辞典』、研究者『プエルタ新スペイン語辞典』、三省堂『クラウン西和辞典』などがあります。小型辞書は小学館『プログレッシブ スペイン語辞典<第2版>カレッジエディション』『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』、三省堂『デイリーコンサイズ 西和・和西辞典』などがあります。書店や生協で購入可能です。

電子辞書の使用者には、スペイン語辞書の追加コンテンツもあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、文字と発音
- 第2回 音節分け、アクセント
- 第3回 名詞の性数、冠詞、形容詞
- 第4回 主格人称代名詞、ser動詞、文の構造
- 第5回 指示語、estar動詞
- 第6回 小テスト1 (1 ~ 3 課)、形容詞、hay
- 第7回 現在形規則活用
- 第8回 規則活用の練習、日付、時間
- 第9回 現在形不規則活用 (語幹母音変化)
- 第10回 直接目的格人称代名詞、muyとmucho
- 第11回 小テスト2 (4 ~ 6 課)、現在形不規則活用 (yo不規則、複合型)
- 第12回 現在形不規則活用 (その他)、間接目的格人称代名詞
- 第13回 gustar型動詞、前置詞格人称代名詞
- 第14回 gustar型動詞の練習、天候
- 第15回 小テスト3 (7・8 課)、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(3回)30%

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト (<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>) やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語という新しい言語との出会いを楽しみましょう。そのために授業ではスペイン語を使う上での基本ルール (= 文法) を覚えていきます。音楽や映画、書籍、絵画、料理、スポーツなど様々なテーマでスペイン語圏の文化に積極的に触れてみましょう。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN111F		◎			
科目名	スペイン語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期の「スペイン語Ⅰ」に引き続き、初級文法の学習を進めます。現在形の再帰動詞及び過去形と完了形を中心に扱います。未来形や接続法も導入することにより、修了後の更なる学習へ繋がるレベルを目指します。スペイン語圏の文化やニュースについても紹介します。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピギーター 一実りのスペイン語一』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※1学期「スペイン語Ⅰ」と同じテキストの続きを扱います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期で用意した辞書を引き続き使います。その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期の復習、再帰動詞
- 第2回 無人称文、接続詞que
- 第3回 点過去形規則活用
- 第4回 点過去形規則活用の練習
- 第5回 小テスト1(9・10課)、点過去形不規則活用
- 第6回 点過去形不規則活用の練習、関係代名詞que、所有形容詞後置形
- 第7回 小テスト2(10・11課)、点過去形の練習
- 第8回 現在分詞、不定語・否定語
- 第9回 過去分詞、現在完了形、受動態
- 第10回 小テスト3(12・13課)、比較級
- 第11回 最上級、関係副詞donde
- 第12回 線過去形、過去形の使い分け
- 第13回 小テスト4(14・15課)、過去形の練習、未来形の紹介
- 第14回 過去未来形・命令形・接続法の紹介
- 第15回 2学期の総復習、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(4回)30%

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト

(<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>)やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「スペイン語II」では過去形や完了形など現在形以外の時制も学びます。辞書にも慣れ表現できることの幅が広がるだけでなく、好きな曲の歌詞が理解できるようになったり、憧れのスポーツ選手のプロフィールやインタビューが読めるようになったりします。覚えることはたくさんありますが、自分の「好き」をスペイン語で楽しむ体験を積み重ねていって欲しいと思います。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN102F		◎			
科目名	スペイン語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1課 スペイン語とスペイン語圏について、スペイン語のアルファベット、発音、アクセント
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの確認、挨拶、数字「おはよう。」
- 3回 2課 名詞、冠詞「ロス・アンヘレス」
- 4回 名詞・冠詞の確認
- 5回 3課 形容詞、主語、ser動詞「私は学生です」
- 6回 ser動詞の確認「どちらの出身ですか」
- 7回 ser動詞確認テスト、4課 規則活用動詞「スペイン語を話しますか」
- 8回 規則活用動詞と頻度表現「私は週に2度スペイン語を習います」
- 9回 5課 指示詞、所有詞「これはわたしのです」
- 10回 日付、時間表現「今何時ですか」
- 11回 6課 estar動詞、ser動詞との違い「あの人は今日怒っている」
- 12回 hay、estar動詞との違い「今家にいますか」
- 13回 ser、estar、hayのまとめテスト「今日の恰好はとてもすてきだね」
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

スペイン語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN112F		◎			
科目名	スペイン語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、文法事項の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課 不規則活用動詞1、時間表現2「電車は午後3時に出ます」
- 2回 直接目的格人称代名詞、間接疑問文「ルイスがどこに住んでいるか知っていますか」
- 3回 8課 不規則活用動詞2「コーヒーがほしいですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、2つの目的格人称代名詞のまとめ「誰にそれをあげるの」
- 5回 9課 不規則活用動詞3「兄弟はいますか」
- 6回 不規則活用動詞まとめ、前置詞格人称代名詞
- 7回 gustarとgustar型動詞
- 8回 7課～9課 まとめテスト、10課 不定語・否定語、天候表現「今日は寒い」
- 9回 比較表現「私はラウルより背が高い」
- 10回 11課 再帰動詞「私は朝7時に起きます」
- 11回 再帰動詞確認「もう帰っちゃうの」
- 12回 後期まとめ
- 13回 スペイン語のビデオを見てみよう1
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう2
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN201F		◎			
科目名	スペイン語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

昨年度（1年次）の続きとして、中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和和辞典：
和和辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和和辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 スペイン語の動詞活用の全体像について
- 5 点過去・線過去・現在完了の用法(1)
- 6 同上(2)
- 7 同上(3)
- 8 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 9 未来形・過去未来・過去完了(1)
- 10 同上(2)
- 11 同上(3)
- 12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文(副詞節・形容詞節)(1)
- 13 同上(2)
- 14 同上(3)
- 15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナウイルスの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN211F		◎			
科目名	スペイン語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ（題材未定）を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典 (小学館)

新スペイン語 (研究社)

現代スペイン語辞典 (白水社)

プログレッシブスペイン語辞典 (小学館)

パスポート初級スペイン語辞典 (白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典 (高橋編) は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典 (宮城、コントレラス監修: 白水社)

クラウン和西辞典 (三省堂)

その他

図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)

スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)

スペイン (増田監修: 新潮社)

スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)

スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)

スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本 (寿里著: 東洋書店)

スペイン語基礎文法 (ロポ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 前期を含め、様々な構文のまとめ(受け身、使役、放任、比較など)(1)
 - 2 同上(2)
 - 3 時制の一致
 - 4 再帰動詞(1)
 - 5 同上(2)
 - 6 いくつかの文法事項(感嘆文、比較表現)
 - 7 同上(2)
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法(1)
 - 10 同上(2)
 - 11 同上(3)
 - 12 スペイン語版アニメ(題材未定)による聞き取りと訳
 - 13 同上(2)
 - 14 同上(3)
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について: 全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能: 定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN202F		◎			
科目名	スペイン語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 現在形と再帰動詞
- 2回 1課 SNSと余暇
- 3回 2課 gustarの用法と不定詞を伴う表現
- 4回 2課 スペインのテニス選手
- 5回 3課 過去時制の使い分け 現在完了と点過去
- 6回 3課 世界で最も古いレストラン
- 7回 4課 過去時制の使い分け 線過去
- 8回 4課 ファッション
- 9回 5課 過去時制の使い分け 点過去・線過去・過去完了
- 10回 5課 養子縁組
- 11回 6課 未来と過去未来 不定詞を伴う助動詞的表現
- 12回 6課 風力発電
- 13回 7課 不定詞を伴う助動詞的表現 おいしいコーヒーの入れ方
- 14回 8課 比較級 エラスムス留学制度
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際にながしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN212F		◎			
科目名	スペイン語Ⅷ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』(1学期と同じものを使用) 中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期復習 9課 接続法現在1
- 2回 9課 ホンジュラスの交番
- 3回 10課 接続法現在2
- 4回 10課 育休取得
- 5回 11課 接続法現在3
- 6回 11課 アポロフォビア
- 7回 12課 接続法現在4
- 8回 12課 日本語学習のアドバイス
- 9回 13課 接続法過去1
- 10回 13課 スペインの安楽死
- 11回 14課 接続法過去2
- 12回 14課 チュッパチャップスの歴史
- 13回 15課 条件文
- 14回 15課 地中海に沈んだ夢
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（I・II・III・IV）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際にながしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 %
ポートフォリオ評価 ... 50 % (自己評価30%/ピア評価20%)

- ・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 アドバイスを求める【PCメール】
- 4回 問い合わせる【PCメール】
- 5回 依頼する【PCメール】
- 6回 依頼される【PCメール】
- 7回 報告する【PCメール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【携帯&PCメール】
- 10回 誘う【携帯メール】
- 11回 誘われる【携帯メール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 伝言する【メモ】
- 14回 募集する【チラシ】【掲示】
- 15回 【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...70% 期末テスト...30%
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題はMoodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...50%
ポートフォリオ評価 ...50%(自己評価...30% ピア評価...20%)

・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語V 【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。
(到達目標)
・ 大学生活での学び方を理解し、資料を分析し、発信するなど主体的に学ぶためのスキルを身につけている
・ 仲間と協働し、コミュニケーションし課題解決できる
・ 「論理的思考力」をもとに、自分の意見や主張を相手に伝えることができる

教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語口ジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう	論理的思考力(1)リストアップ・マッピング
3回	スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう	論理的思考力(2)イラストを見て考える
4回	スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(3)表・グラフの内容を読み取る
5回	スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう	論理的思考力(4)マッピングしながら読む
6回	スタディスキル(5)図解で考えよう	論理的思考力(5)登場人物になったつもりで読む
7回	スタディスキル(6)表・グラフを描いてみよう	論理的思考力(6)どちらがいいか考えながら読む
8回	スタディスキル(7)議論の方法を知ろう	論理的思考力(7)理由を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう	論理的思考力(8)意味を考えて読んでみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう	論理的思考力(9)イラストを見て書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう	論理的思考力(10)定義を試してみる
12回	スタディスキル(11)発表の資料を作ろう(テーマ決め・準備)	論理的思考力(11)理由を考えて書いてみる 1
13回	スタディスキル(12)発表をやってみよう(レジュメ作成・準備)	論理的思考力(12)理由を考えて書いてみる 2
14回	スタディスキル(13)発表をやってみよう(発表と自己評価)	
15回	総括 1年間(半期)の学びをふりかえろう(評価)	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておく。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考える。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

日本語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(－)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学に必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

(到達目標)

- ・ 書かれている内容をさまざまな角度から検討し、批判的に読むことができる
- ・ 書き手の思考の筋道を追いながら問題を探し出し、明確な問いを立て、文章を吟味しながら読む技術を身につけている
- ・ 自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞きながら仲間と協働的に学ぶことができる

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子監修、竹田悦子他編著 くろしお出版) ¥1,900

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ:日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み(課題を含む)...60%

- ・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進める。事後学習としては、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなう。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング 批判的読み メタ・コンテンツ 全体把握 言語タスク 認知タスク

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

・授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

・ 授業への3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、「境目」「母性」と「父性」の間をゆれる」「ことばと文化を結ぶために」の3つの読み物を題材とする。これらの題材を、各自の考えをまとめるためのリソースや共通の土台としながら、クラス内で議論していく。最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

(到達目標)

- ・ 複数のリソースをもとに、自分自身の考えをつくっていくことができる
- ・ クラス内での対話を通して自分の考えをつかみ、相手にわかるように表現できる
- ・ 文化に対する問題意識や価値観を認識し、自分の考えをレポートとしてまとめる

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

- ・ 三分の一の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めておく。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換 対話

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、それぞれの事柄を多角的にとらえ、自国の現状と比較しながら自分たちの問題として考えていく。

各テーマやトピックについて主体的に学び、知識を得ることで自分自身の考えや意見を持つ。また、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

(到達目標)

- ・ 幅広い分野から日本について知る
- ・ 様々なテーマについて主体的に学び、自分自身の意見を持つ
- ・ クラスで意見交換することで、分析能力やコミュニケーション能力を身につける

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異文化を理解する①」(概要・事例・理解)
- 3回 「異文化を理解する②」(比較・考える・表現する)
- 4回 「多文化共生社会①」(概要・事例・理解)
- 5回 「多文化共生社会②」(比較・考える・表現する)
- 6回 「コロナ社会①」(概要・事例・理解)
- 7回 「コロナ社会②」(比較・考える・表現する)
- 8回 「就職活動①」(概要・事例・理解)
- 9回 「就職活動②」(比較・考える・表現する)
- 10回 「日本社会と子ども①」(概要・事例・理解)
- 11回 「日本社会と子ども②」(比較・考える・表現する)
- 12回 「無縁社会①」(概要・事例・理解)
- 13回 「無縁社会②」(比較・考える・表現する)
- 14回 「発表」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...40% 授業への取り組み・発表...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能 (ー) とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマについて調べ、自分の考えをまとめてくること。
事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしておく。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業であるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められる。必ず初回のオリエンテーションには参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいください。

キーワード /Keywords

文化 社会 多様性 課題 分析

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清藤 隆春 / 国際教育交流センター, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
友松 史子 / 国際教育交流センター, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1) 日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2) 留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1) 自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2) 自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1) 論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2) 共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

数学【昼】

担当者名 /Instructor 久保 宏和 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 1年1グループ /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH110M	○	◎	○		
科目名	数学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

経済学の本質を学ぶ上で、数学を避けて通ることはできない。

その上で本授業での目的は3つある。

1つ目は、経済学でよく用いられる基本的な数学の知識を「石橋を叩いて渡る」一貫として身につけておくことである。今後、他の専門カリキュラム履修中で、当たり前のように数学の知識が問われたときに困らないように学習しておく。

2つ目は、数学への「苦手意識」をなくすことである。数学的リテラシーが必要とされる文系学生の多くは、数学が苦手なのではなく、単なる「食わず嫌い」であることが多い。講義内で取り扱う単元は、経済学を理解するための初歩的な数学なので少なくとも「数学は苦手」と感じていた人は、その「食わず嫌い」と向き合い「苦手意識」を克服してほしい。

3つ目は、経済学と数学がどうつながっているのかを理解することである。そのために、「経済学的な例」を用いて数学を学んでいく。特に、売り上げや利潤の最大化問題を初め、日常の問題を経済学的に考える。

本講義内容を修得することは、多岐にわたる専門経済学を修める際に本質的な理解を深め、物事をシンプルに、論理的に考える力を養い、問題解決の能力を高めることにつながる。

(到達目標)

【知識】経済学で用いられる基礎的な数学の知識を身につけている。

【技能】経済学で用いられる基礎的な数学を活用できる。

【思考・判断】数学を用い、経済問題の解決の探求に向かうことができる。

教科書 /Textbooks

改訂版 経済学で出る数学—高校数学からきちんと攻める、尾山大輔・安田洋祐、日本評論社、2016年

経済学で出る数学—ワークブックでじっくり攻める、白石俊輔、日本評論社、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

経済数学早わかり、西村和雄、日本評論社、2003年

経済数学入門—初歩から一歩ずつ、丹野忠晋、日本評論社、2017年

経済数学入門の入門、田中久稔、岩波書店、2018年

数学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーションと1次関数【関数と変数、1次関数、連立方程式、市場均衡を解く】
- 第2回2次関数と独占・寡占市場【2次関数、平方完成、ナッシュ均衡】
- 第3回指数・対数と金利【指数、複利計算、割引現在価値、対数の計算】
- 第4回数列とその極限(1):【等差数列と単利法、等比数列と複利法、割引現在価値】
- 第5回数列とその極限(2):【 Σ 、数列の極限、収束と発散、無限等比数列の極限、無限等比数列の和の極限】
- 第6回漸化式【漸化式(差分方程式)、定常状態と安定性】
- 第7回微分とは何か【微分の定義、導関数、べき乗法則、企業の利潤最大化】
- 第8回さまざまな微分の公式【凹関数と凸関数、微分の公式(積・商・逆数・合成関数・逆関数)】
- 第9回中間テスト【これまでの範囲の中間テスト】
- 第10回2変数関数と偏微分【偏微分とは、偏微分のやり方、2変数効用関数】
- 第11回ベクトルの基礎【ベクトルとは、スカラー倍、内積、1次独立と1次従属】
- 第12回積分とは何か【積分の定義、不定積分、定積分、部分積分、置換積分、余剰の計算】
- 第13回確率論の基礎【確率とは、和事象、積事象、条件付き確率、ベイズの定理】
- 第14回統計学で出る数学入門【平均値、分散、標準偏差、相関係数】
- 第15回期待値とゲーム理論入門【確率変数とは、囚人のジレンマ、混合戦略のナッシュ均衡】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容が多岐にわたるだけでなく、初めて聞く考え方もたくさん出てきます。試験前に慌てて勉強しても間に合いません。必ず予習・復習を行うようにしてください。特に以下の2点に留意し、復習されることをおすすめします。

- (1) 「できなかった問題」について解法を再確認し、「なぜ自分は解けなかったのか」についても省察された上で「正解を導ける考え方が身に着くようになる」まで何度も問題を解き直す。
- (2) 「自分が取り組んでいる単元」は「経済学を理解するために、どのような状況で必要とされる知識なのか」について考えてみる。

履修上の注意 /Remarks

上記の教科書に関しては購入を推奨しますが、必ずしも購入の必要性はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済数学に関することのみならず、幅広い分野から「お答えできそうな質問」があれば、限られた時間内ではありますが積極的に返していきたいと思えます。故に疑問等があれば、講義前から講義後の時間帯に遠慮なく質問してください。

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 /Instructor 久保 宏和 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1年IIグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH110M	○	◎	○		
科目名	数学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

経済学の本質を学ぶ上で、数学を避けて通ることはできない。

その上で本授業での目的は3つある。

1つ目は、経済学でよく用いられる基本的な数学の知識を「石橋を叩いて渡る」一貫として身につけておくことである。今後、他の専門カリキュラム履修中で、当たり前のように数学の知識が問われたときに困らないように学習しておく。

2つ目は、数学への「苦手意識」をなくすことである。数学的リテラシーが必要とされる文系学生の多くは、数学が苦手なのではなく、単なる「食わず嫌い」であることが多い。講義内で取り扱う単元は、経済学を理解するための初歩的な数学なので少なくとも「数学は苦手」と感じていた人は、その「食わず嫌い」と向き合い「苦手意識」を克服してほしい。

3つ目は、経済学と数学がどうつながっているのかを理解することである。そのために、「経済学的な例」を用いて数学を学んでいく。特に、売り上げや利潤の最大化問題を初め、日常の問題を経済学的に考える。

本講義内容を修得することは、多岐にわたる専門経済学を修める際に本質的な理解を深め、物事をシンプルに、論理的に考える力を養い、問題解決の能力を高めることにつながる。

(到達目標)

【知識】経済学で用いられる基礎的な数学の知識を身につけている。

【技能】経済学で用いられる基礎的な数学を活用できる。

【思考・判断】数学を用い、経済問題の解決の探求に向かうことができる。

教科書 /Textbooks

経済数学入門—初歩から一歩ずつ、丹野忠晋、日本評論社、2017年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

改訂版 経済学で出る数学—高校数学からきちんと攻める、尾山大輔・安田洋祐、日本評論社、2016年

経済学で出る数学—ワークブックでじっくり攻める、白石俊輔、日本評論社、2014年

経済数学入門の入門、田中久稔、岩波書店、2018年

数学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション【因数分解、平方完成、一次方程式、二次方程式】
- 第2回関数と経済学(1):関数とは何か【市場均衡を解く、二次関数の描き方と形状】
- 第3回関数と経済学(2):関数の最大化【二次関数で利潤最大化問題が解ける】
- 第4回いろいろな関数(1):分数関数【基本的な分数関数、分数関数の平行移動、需要の価格弾力性】
- 第5回いろいろな関数(2):無理関数と逆関数【基本的な無理関数、生産関数、基本的な逆関数、求め方と性質】
- 第6回数列とその極限(1):【等差数列と単利法、等比数列と複利法、割引現在価値】
- 第7回数列とその極限(2):【 Σ 、数列の極限、収束と発散、無限等比数列の極限、無限等比数列の和の極限】
- 第8回中間テストおよび、微分とは何か(1)【これまでの範囲の中間テスト、微分の定義】
- 第9回微分とは何か(2)【導関数、べき乗法則の導出】
- 第10回微分の応用(1)【微分の公式(積・商・逆数・合成関数・逆関数)、接線】
- 第11回微分の応用(2)【微分と関数の増減、一階条件、一階条件の使い方】
- 第12回微分の応用(3)【利潤最大化問題と効用最大化問題を微分で解く、限界費用と限界効用】
- 第13回2階導関数【2階微分の意味、2階微分とグラフの凹凸、限界効用逓減の法則】
- 第14回2変数関数と偏微分【偏微分とは、偏微分のやり方、2変数効用関数】
- 第15回2変数関数と偏微分【2変数効用関数を偏微分する意味、まとめ】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容が多岐にわたるだけでなく、初めて聞く考え方もたくさん出てきます。試験前に慌てて勉強しても間に合いません。必ず予習・復習を行うようにしてください。特に以下の2点に留意し、復習されることをおすすめします。

- (1) 「できなかった問題」について解法を再確認し、「なぜ自分は解けなかったのか」についても省察された上で「正解を導ける考え方が身に着くようになる」まで何度も問題を解き直す。
- (2) 「自分が取り組んでいる単元」は「経済学を理解するために、どのような状況で必要とされる知識なのか」について考えてみる。

履修上の注意 /Remarks

教科書に関しては購入を推奨しますが、必ずしも購入の必要性はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済数学に関することのみならず、幅広い分野から「お答えできそうな質問」があれば、限られた時間内ではありますが積極的に返していきたいと思えます。故に疑問等があれば、講義前から講義後の時間帯に遠慮なく質問してください。

キーワード /Keywords

統計学入門【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN115M	○	◎	○		
科目名	統計学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

到達目標

- 【知識】 統計学に関する基礎的な知識を（体系的かつ総合的に）身につけている
- 【技能】 統計解析を行うスキルを身につけている
- 【思考・判断】 統計学の観点から論理的な分析を行い、具体的な分析手法を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 総論とガイダンス
- 2 一様乱数とヒストグラム（教科書第1章）
- 3 点推定と区間推定（教科書第2章）
- 4 点推定と区間推定の意味（教科書第3章）
- 5 正規確率変数（教科書第4章）
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)の分布と標準化（教科書第5・6章）
- 7 割合pに関する仮説検定（本体）（教科書第9章）
- 8 正規確率変数の平均 μ と標準偏差 σ の推定（教科書第14・15章）
- 9 連続型確率変数の平均 μ の区間推定と検定（教科書第16・17章）
- 10 回帰分析1【導入、標本相関係数、標本共分散】（教科書第20章）
- 11 回帰分析2【最小二乗法】（教科書第21章）
- 12 回帰分析3【決定係数】（教科書第22章）
- 13 回帰分析4【 σ の推定、t変量】（教科書第23章）
- 14 回帰分析5【推定量の平均、t統計量の分布】（教科書第24章）
- 15 回帰分析6【 α 、 β に関する検定】（教科書第25章）

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価は毎週の課題ファイルの提出(40点満点)と、最終レポート(60点満点)とで行う。
ただし、最終レポートを提出しなかった学生の成績は「-」とする。

統計学入門【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読し、excelを使って実際に演習をしておくこと。
事後学習：Pythonプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はPythonをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布、回帰分析

計量経済学入門【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN212M	○	◎	○		
科目名	計量経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「社会現象に法則はあるか」

この問いかけに対して経済学が行ってきたことの一部を、例を挙げてお話しします。「経済学がまだうまくできていないこと」も皆さんと一緒に考えたいです。

(到達目標)

【知識】計量経済学的分析に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】計量経済学的分析に必要な検討することができる。

【思考・判断・表現力】計量経済学的分析について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記は一例です。受講者数および受講者の関心に合わせて変更する場合があります。

- 1回講義概要
- 2回分析の主張を把握する
- 3回因果関係で考える
- 4回分析の全体像を把握する
- 5回ここまでのまとめ、練習問題
- 6回回帰式の各部名称
- 7回回帰式の各部の役割
- 8回仮説への翻訳
- 9回統計学を応用した因果関係のチェック
- 10回 ここまでのまとめ、練習問題
- 11回 重回帰分析
- 12回 操作変数法
- 13回 離散変数の分析
- 14回 データ収集と視覚化
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題 60%(必須) , 学期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください。

【事後】宿題やクイズを使って復習してください。

計量経済学入門【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 朱 乙文 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN113M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 %
- ・ 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN210M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学Ⅰ」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN114M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその運動のメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【割引現在価値計算】【債券】【リスクと流動性】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】【楽観的期待】【投機的取引】
- 7回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(6) 【バブルと資源配分】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 10回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 11回 ケインズの不況理論(1) 【GDPギャップ】【ベビーシッター組合の寓話】【45度線分析】
- 12回 ケインズの不況理論(2) 【均衡の安定性】【比較静学】
- 13回 ケインズの不況理論(3) 【貯蓄のパラドックス】【乗数効果】
- 14回 ケインズの不況理論(4) 【財政の3機能】【財政政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題：25%、期末試験：75%

(期末試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

マクロ経済学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN211M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズ的な短期モデル (=45度線モデルやIS-LMモデル) を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、長期の経済成長モデルについて説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

(到達目標)

【知識】 マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【経済循環図】【45度線モデル】【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【財政政策】【ケインズの財政政策の問題点】
- 4回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 5回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 6回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 7回 中央銀行と金融政策(1) 【中央銀行の目的と機能】【公開市場操作】【ハイパワードマネー】
- 8回 中央銀行と金融政策(2) 【貨幣乗数】【アベノミクス】
- 9回 仮想通貨について 【貨幣の条件】【仮想通貨と地域通貨】【ネットワークの外部性】
- 10回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 11回 IS-LMモデル(2) 【財政・金融政策】【クライディングアウト】
- 12回 経済成長理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 経済成長理論(2) 【新古典派成長理論】【収束】
- 14回 経済成長理論(3) 【内生的成長理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%、 期末試験：75%
(期末試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

マクロ経済学II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			◎	○	○
科目名	入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考判断力】

助言を得ながら問題を発見し、論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで議論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど 【研究倫理】
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究のデザイン、スケジューリングの方法
- 第4回：研究のデザイン、スケジューリング
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集の方法
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめの方法
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成の方法
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会予選(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会決勝(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第15回：プレゼンテーション大会の反省など

入門演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[事前・事後学習の内容]
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までに周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門演習は大教室で受講する講義とは異なり、少人数で行われます。出席するのは当然ですが、出席するだけでなく、主体的に参加して、プレゼンテーション大会に向けての準備を行います。

グループでの調査・研究に積極的に関わり、一人一人がグループに貢献することを意識して取り組んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			◎	○	○
科目名	入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考判断力】

助言を得ながら問題を発見し、論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで議論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど 【研究倫理】
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究のデザイン、スケジューリングの方法
- 第4回：研究のデザイン、スケジューリング
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集の方法
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめの方法
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成の方法
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会予選(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会決勝(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第15回：プレゼンテーション大会の反省など

入門演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[事前・事後学習の内容]
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までに周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門演習は大教室で受講する講義とは異なり、少人数で行われます。出席するのは当然ですが、出席するだけでなく、主体的に参加して、プレゼンテーション大会に向けての準備を行います。
グループでの調査・研究に積極的に関わり、一人一人がグループに貢献することを意識して取り組んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			◎	○	○
科目名	入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考判断力】

助言を得ながら問題を発見し、論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで議論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど 【研究倫理】
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究のデザイン、スケジューリングの方法
- 第4回：研究のデザイン、スケジューリング
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集の方法
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめの方法
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成の方法
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会予選(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会決勝(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第15回：プレゼンテーション大会の反省など

入門演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[事前・事後学習の内容]
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までに周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門演習は大教室で受講する講義とは異なり、少人数で行われます。出席するのは当然ですが、出席するだけでなく、主体的に参加して、プレゼンテーション大会に向けての準備を行います。

グループでの調査・研究に積極的に関わり、一人一人がグループに貢献することを意識して取り組んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			◎	○	○
科目名	入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考判断力】

助言を得ながら問題を発見し、論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで議論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど 【研究倫理】
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究のデザイン、スケジューリングの方法
- 第4回：研究のデザイン、スケジューリング
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集の方法
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめの方法
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成の方法
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会予選(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会決勝(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第15回：プレゼンテーション大会の反省など

入門演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[事前・事後学習の内容]
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までに周到な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門演習は大教室で受講する講義とは異なり、少人数で行われます。出席するのは当然ですが、出席するだけでなく、主体的に参加して、プレゼンテーション大会に向けての準備を行います。

グループでの調査・研究に積極的に関わり、一人一人がグループに貢献することを意識して取り組んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			◎	○	○
科目名	入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考判断力】

助言を得ながら問題を発見し、論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど 【研究倫理】
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究のデザイン、スケジューリングの方法
- 第4回：研究のデザイン、スケジューリング
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集の方法
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめの方法
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成の方法
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会予選(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会決勝(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第15回：プレゼンテーション大会の反省など

入門演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[事前・事後学習の内容]
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までに周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門演習は大教室で受講する講義とは異なり、少人数で行われます。出席するのは当然ですが、出席するだけでなく、主体的に参加して、プレゼンテーション大会に向けての準備を行います。

グループでの調査・研究に積極的に関わり、一人一人がグループに貢献することを意識して取り組んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			◎	○	○
科目名	入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考判断力】

助言を得ながら問題を発見し、論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで議論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど 【研究倫理】
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究のデザイン、スケジューリングの方法
- 第4回：研究のデザイン、スケジューリング
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集の方法
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめの方法
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成の方法
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会予選(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会決勝(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第15回：プレゼンテーション大会の反省など

入門演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[事前・事後学習の内容]
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までに周到な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門演習は大教室で受講する講義とは異なり、少人数で行われます。出席するのは当然ですが、出席するだけでなく、主体的に参加して、プレゼンテーション大会に向けての準備を行います。
グループでの調査・研究に積極的に関わり、一人一人がグループに貢献することを意識して取り組んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			◎	○	○
科目名	入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考判断力】

助言を得ながら問題を発見し、論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで議論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど 【研究倫理】
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究のデザイン、スケジューリングの方法
- 第4回：研究のデザイン、スケジューリング
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集の方法
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめの方法
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成の方法
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会予選(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会決勝(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第15回：プレゼンテーション大会の反省など

入門演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[事前・事後学習の内容]
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までに周到な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門演習は大教室で受講する講義とは異なり、少人数で行われます。出席するのは当然ですが、出席するだけでなく、主体的に参加して、プレゼンテーション大会に向けての準備を行います。
グループでの調査・研究に積極的に関わり、一人一人がグループに貢献することを意識して取り組んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			◎	○	○
科目名	基礎演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の学びの一助とするとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション 【研究倫理】

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

※ 教員から指示のあった提出物については、必ず提出すること。

※ 一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさと同時に、学ぶ習慣を修得してほしいと思います。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			◎	○	○
科目名	基礎演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の学びの一助とするとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション 【研究倫理】

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

※ 教員から指示のあった提出物については、必ず提出すること。

※ 一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読むことの楽しさと同時に、学ぶ習慣を修得してほしいと思います。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			◎	○	○
科目名	基礎演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の学びの一助とするとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション 【研究倫理】

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

※ 教員から指示のあった提出物については、必ず提出すること。

※ 一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさと同時に、学ぶ習慣を修得してほしいと思います。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			◎	○	○
科目名	基礎演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の学びの一助とするとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション 【研究倫理】

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

※ 教員から指示のあった提出物については、必ず提出すること。

※ 一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読むことの楽しさと同時に、学ぶ習慣を修得してほしいと思います。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			◎	○	○
科目名	基礎演習		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の学びの一助とするとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション 【研究倫理】

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

※ 教員から指示のあった提出物については、必ず提出すること。

※ 一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読むことの楽しさと同時に、学ぶ習慣を修得してほしいと思います。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			◎	○	○
科目名	基礎演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の学びの一助とするとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション 【研究倫理】

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

※ 教員から指示のあった提出物については、必ず提出すること。

※ 一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読むことの楽しさと同時に、学ぶ習慣を修得してほしいと思います。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			◎	○	○
科目名	基礎演習		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の学びの一助とするとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション 【研究倫理】

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

※ 教員から指示のあった提出物については、必ず提出すること。

※ 一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさと同時に、学ぶ習慣を修得してほしいと思います。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			◎	○	○
科目名	基礎演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の学びの一助とするとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション 【研究倫理】

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

※ 教員から指示のあった提出物については、必ず提出すること。

※ 一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさと同時に、学ぶ習慣を修得してほしいと思います。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M			◎	○	○
科目名	基礎演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の学びの一助とするとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション 【研究倫理】

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

※ 教員から指示のあった提出物については、必ず提出すること。

※ 一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさと同時に、学ぶ習慣を修得してほしいと思います。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、2年次までに習得した経済学に関する知識を改めて修得してもらい、ゼミ論文、卒業論文作成における土台を築いていきます。演習では、講義のように教員の話だけでなく、自分の意見を発言できる機会があり、間違ったことを発言したからといって、責められることはなく、失敗したことから多くのことを学べる機会があると思います。そのため受講生には積極的・主体的な参加が求められます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

山本 勲、『実証分析のための計量経済学』、中央経済社、2015年(2,808円)
その他の教科書については適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション
2～3回	文献精読について
4～5回	伝える技術の習得
6～9回	文献輪読、プレゼンテーション、ディスカッション
10～11回	文献輪読と論文の書き方
12～15回	文献輪読と調査・研究の方法

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度および発表内容...50% 課題...50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

時代潮流をしっかりと把握したうえで、地域の現場の実情を分析できるようになることを授業の目標とします。よって、時代潮流について論じた文献を各自で精読してもらい意見交換をし、理解を深めていきます。また、一方で地域や企業の現場を実感しつつ、ブランディングについて考察を加えていきます。そのうえで、ブランディングをテーマにしたゼミとしての共同研究を実施します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

リンダ・グラットン『ワーク・シフト』プレジデント社（2012年8月）
森岡毅『USJを劇的に変えた、たった1つの考え方』角川書店（2016年4月）
アダム・クランと『GIVE & TAKE 「与える人」こそ成功する時代』（2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水野学『「売る」から、「売れる」へ 水野学のブランディングデザイン講座』誠文堂新光社（2016年5月）
佐野圭一『選ばれ続ける必然』講談社+α新書（2016年8月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回 レジユメの作成方法（レクチャー）
- 第3回 プレゼン資料の作成方法（レクチャー）
- 第4回 フィールドワークI（実践）
- 第5回 フィールドワークIの報告（プレゼン&ディスカッション）
- 第6回 文献レジユメの報告I（時代潮流に関する文献）
- 第7回 フレームワークを活用した地域の分析方法（レクチャー）
- 第8回 フィールドワークIIに向けた選択（ディスカッション）
- 第9回 フィールドワークIIのポイント整理
- 第10回 フィールドワークII（実践）
- 第11回 フィールドワークIIの報告（プレゼン&ディスカッション）
- 第12回 ブランディングに係る文献のレジユメ報告II
- 第13回 共同研究の対象地域選択（ディスカッション）
- 第14回 共同研究実施のための調整（ディスカッション）
- 第15回 共同研究のための準備・分析

成績評価の方法 /Assessment Method

レジユメ作成50%（2回×15%）、ディスカッションにおける貢献度25%、チームによる共同研究25%
なお、レジユメ提出（2回）を行わず5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。

専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィールドワークの前はネット等を活用して事前に個人で情報収集をしてください。フィールドワークの後はきちんと個人でその成果をまとめてください。
レジュメ作成のためには、それなりの事前学習が必要となりますので、しっかりスケジュールリングして時間を確保してください。

履修上の注意 /Remarks

フィールドワークを行なう授業がありますので、各種のスケジュール調整を適切に行なってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ファイナンスについて学ぶ。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をしつつ、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス【研究倫理】

2～15回 テキストを輪番で発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容について予習・復習に努めること。

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を購読することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

自分の問題意識をデータを通じて調べる。
データ解析の考え方と方法を学ぶ。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩『数学ガールの秘密のノート：やさしい統計』SB Creative 2016.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストを輪読する。

1回から15回：各章担当を決めて、レジユメを作成して、報告するという形式でゼミを進める

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

3回以上、理由なく欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を事前に読み、指定された教科書で復習する。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学を既に受講していることが望ましい。

前回の復習をして演習に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

官公庁が出版している様々な白書の中から、各学生が興味のあるテーマの白書を選択して丁寧に読み、その内容を整理したレジюмеやレポートを作成する。論理的に思考力する能力、文献を簡潔に要約する能力、プレゼンテーション能力、文章を執筆する能力などを総合的に鍛えることを目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 各自のテーマの決定
- 3回 報告の見本
- 4回 報告
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80%， 平常点：20%
(5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会・経済事象を自らと関わりのあるものであるという認識を持ってもらう。購読を通して、他人の意見を参考として自身の意見を持ち、それを説得力を持って表明することを目指す。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

ユヴァル・ノア・ハラリ『サビエンス全史(上)(下)』河出書房新社, 2016年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 顔合わせ
- 第2回～第14回 学生の報告を中心として購読を進める。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容及びゼミ参加の姿勢・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会・経済の出来事に関心を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の知的好奇心が広がればと思います。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。各種の経済データベースを用いる。また、コンピュータソフトウェアとしてPythonを利用する。

専門演習III

【思考・判断】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

教科書 /Textbooks

大屋幸輔『コア・テキスト統計学』新世社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

星野匡郎、田中久稔『Rによる実証分析』Ohmsha

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回 データの整理・測定
- 第3回 確率
- 第4回 離散確率変数とその分布
- 第5回 連続確率変数とその分布
- 第6回 標本調査・標本分布
- 第7回 推定
- 第8回 仮説検定
- 第9回 回帰分析(イントロダクション)
- 第10回 回帰分析(標本相関係数他)
- 第11回 回帰分析(最小自乗法)
- 第12回 回帰分析(決定係数)
- 第13回 回帰分析(σ 自乗の推定、t変量)
- 第14回 回帰分析(検定)
- 第15回 最尤推定法と統計モデル

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を読んでくること。また、卒業研究のテーマを決めるためのリーディングを行い、A4一枚にまとめて報告すること。
事後学習：教科書の復習をすること。また、演習での議論を踏まえて、卒業研究のテーマが妥当か否かが判断すること。

履修上の注意 /Remarks

予習として、教科書を事前に熟読すること。復習としては、Pythonを使って、データ解析を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンに統計ソフトをインストールするので持参すること。

専門演習I【昼】

キーワード /Keywords

統計的推定、統計的検定、回帰分析、最尤法

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

仮のテーマから出発して、専門演習IIで取り組むテーマを見つけ出すことが目的です。
調べて、まとめて、他人に説明して、他人の意見を聞き、別の視点を得て、次の作業を定める。これの繰り返しです。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】 経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

必要があれば別途指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 15 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。

【予習】 発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。

【復習】 参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業研究の対象を各自が決めて参考資料を講読し、その内容を発表する。第1学期末までには、卒業研究の仮テーマと仮の目次を決定する。さらに、参考文献表の作成、参考文献の講読・発表、引用の仕方などを学ぶ。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスおよび最近の経済問題について討論 - トピックスの紹介による授業内容・進め方の説明
 - 2回 卒業研究のテーマの決定(複数の候補について、内容などを説明する)
 - 3回 卒業研究のテーマと担当の決定(役割分担などを決める)
 - 4回 参考文献表の作成(参考文献リストの表記の仕方などを学ぶ)
 - 5回 参考文献表の作成と発表の分担の決定
 - 6回～15回 参考文献の内容の発表と引用の仕方の説明
- ※卒論の内容にかかわりうる産業・企業の説明会などを授業時間中に行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(議論への参加など)...90%、レポート...10%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、発表資料を必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。(予習と復習それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ソーシャルビジネスについて学習します。社会問題を解決するためのしくみや、社会的課題をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、ソーシャルビジネスに関わる企業、NPO、行政の調査や、それらとの協働作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外のフィールドワークなども実施します。

DPに基づく到達目標

《課題発見・分析・解決力》

自らの問題意識に基づいて社会課題を抽出し、対策やビジネスモデルを提案することができる。

《プレゼンテーション力》

自分の考えやプランを他者に的確にわかりやすく伝えることができる。

《実践力（チャレンジ力）》

策定したプランやプログラムを確実に実施するための手順を作成できる。

《コミュニケーション力》

NPOや企業などで働く人と「対話」ができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、開講後に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 基礎力を養う（コミュニケーション力を身につける）
- 3回 基礎力を養う（分析力を身につける）
- 4回 基礎力を養う（企画力を身につける）
- 5回 ワークショップ(社会課題を探る)
- 6回 ワークショップ(未来の社会を考える)
- 7回 ワークショップ(ソーシャルビジネス事例から学ぶ)
- 8回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの手法を学ぶ)
- 9回 ワークショップ(マネジメントの手法を学ぶ)
- 10回 ワークショップ(マネジメントの手法を活用する)
- 11回 グループによる調査・研究（テーマ設定と事前準備）
- 12回 グループによる調査・研究（実施）
- 13回 グループによる調査・研究（報告およびディスカッション）
- 14回 グループによる調査・研究（ディスカッション）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習・事後学習の課題（20%）、授業での発言回数などグループ学習への寄与（50%）、授業における発表内容（30%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備（予習）しておいてください。

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナの状況によってフィールドワーク等が実施できない場合があります。状況に応じてシラバス内容を変更せざるを得ない場合には、その都度提示、説明します。

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会的課題

専門演習I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

国際経済学の基礎理論を習得し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を経済学の観点から理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：クルーグマン・オブストフェルト著『国際経済学 理論と政策』（原著第10版）（丸善）
石川城太・棕寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
棕寛著『自由貿易はなぜ必要なのか』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定・配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、テキストと報告の担当を決める。
2回-15回 学生による輪読・報告するという形式で進める。報告担当者はレジュメを作成し、設問を用意する。全員で質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り込み 40 % 報告・課題提出 40 % ディスカッションへの貢献度 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題報告を事前に十分に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習・復習し、自分の納得するまで読み込んでおくこと。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

専門演習Iでは、日本の産業・経済・社会の歴史について学問していただきます。そのうえでまず、皆さんには身近な地域の歴史について調査・研究していただきます。

「なぜ北九大は北方にあるのか?」「なぜ小倉の中心地には大きな公園があるのか」「なぜ北九州モノレールは大きくカーブしているのか」

身の回りのごく日常の風景に対し、私たちは普段、特に気をとめることはありません。しかしそこに上記のような問いをはさみ、その答えを探してみると、それまでただ漠然と眺めていただけの日常世界を、私たちは主体的に解釈できるようになります。

この「問い・解釈し・認識を新たにする」試みこそが学問なのです。

その中でも歴史学は「過去」を活用します。

私たちが自明と思っている日常世界にも、それがそこに存在することとなった理由や経緯があります。

「今」ある現実とは必然ではなく、また偶然でもありません。「過去」のいかなる条件や選択が「今」を生むこととなったのか知ることができれば、私たちは周囲の現実を客観的に認識できるようになります。

そして「なぜこうなったのか?」がわかれば、「それを変えるには何が必要なのか」が見えてきます。

この演習では、こうした歴史学的な思考を実践してもらい、皆さんに日本の産業・経済・社会について客観的かつ主体的に考察できる能力を養っていただきます。

そのうえでここでは、グループごとに課題を決め、地域の歴史に関する調査・研究を行ってもらいます。また、北九州の産業・経済史に関するテキストの講読を行い、地域の歴史を探索するフィールド・ワークにも出かけます。

このプロセスで、先に述べたような問いを、皆さん自身が抱き探究できるようになることが、この演習の目的です。

到達目標：

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について専門的な知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション能力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

北九州市史編さん委員会編『北九州市史 近代・現代 産業経済I・II』（1991年・1992年、北九州市）他、北九州の産業・経済史に関する論文・著書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 フィールドワーク(キャンパス周辺)
- 第3回 座学 - 小倉の街並みの現在と過去 -
- 第4回 フィールドワーク型グループワーク(旧城下町)
- 第5回 グループワーク報告
- 第6回 座学 - 古地図・航空写真で身近な地域の過去を観察しよう -
- 第7回 課題研究報告
- 第8回 座学 - 地域史テキスト講読 -
- 第9回 フィールドワーク(北方地区)
- 第10回 座学 - 地域史テキスト講読 -
- 第11回 フィールドワーク(大手町)
- 第12回 座学 - 小倉の戦後史 -
- 第13回 フィールドワーク型グループワーク(小倉北区)
- 第14回 同上
- 第15回 グループワーク報告

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークにおける貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションにおける積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周知な準備を行っていただく必要があります。

またテキスト講読の際には、指定された箇所を演習前に必ず読み込んでおき、当日、内容に即してディスカッションが出来るレベルまで理解を深めておいていただきます。また演習後、あらためてテキストを読み返すことで、ゼミを通じて学んだことをしっかり知識として身につけていただきます。

フィールドワークを行う際も、その前後に行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

この演習では、複数回、フィールドワークを行います。フィールドワーク日は、通常の授業時間内に大学に戻って来れないこともあります。したがって本演習を履修する際は、4限に授業を履修しないなど、本演習および他の授業への参加に支障をきたさないよう、計画的な履修を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習では、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行ってもらいます。したがって皆さんには、積極的に学ぼうという姿勢でゼミに臨んでいただく必要があります。ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

専門演習I【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

経済学的視点から財政の仕組みや政策の目的と効果について正しく理解し言葉で表現できることを目標とします。主に教科書の内容を精読し、日本の財政の問題について正しく理解し、自分の考えをまとめてもらいます。また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

(到達目標)

【思考】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教養としてのグローバル経済 齋藤 誠 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

明解 日本の財政入門 (金融財政事情研究会 刊)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス【研究倫理】
- 2 報告内容に関してディスカッション
- 3 報告内容に関してディスカッション
- 4 報告内容に関してディスカッション
- 5 報告内容に関してディスカッション
- 6 報告内容に関してディスカッション
- 7 報告内容に関してディスカッション
- 8 報告内容に関してディスカッション
- 9 報告内容に関してディスカッション
- 10 報告内容に関してディスカッション
- 11 報告内容に関してディスカッション
- 12 報告内容に関してディスカッション
- 13 報告内容に関してディスカッション
- 14 報告内容に関してディスカッション
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容50% 議論の参加度・発言内容および質問に対する受け答え50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。(予習箇所は講義中にお知らせします。)目安時間60分
事後学習としてゼミで学習した内容をレポートにまとめ報告してもらいます。 目安時間60分

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキスト、および配布資料、板書事項の復習をして講義に臨むこと。 毎回、前回の内容を質問しますので、自分の言葉で答えられるように十分に復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的なことは繰り返しテーマをまたいで登場します。
既に学習したことについて理解が出来ているか質問することになりますので
緊張感を持って理解する努力をしてください。

キーワード /Keywords

財政

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに深く思考する力を身に付け、都市問題や地域問題への関心を持つことが出来るようになる。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力、論文作成などの基本スキルについても学習する。なお進学論文の準備も課すこととする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】 経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストについては初回に詳しく紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 基礎的立地理論の習得
- 3回 基礎的立地理論の習得
- 4回 基礎的立地理論の習得
- 5回 基礎的立地理論の習得
- 6回 基礎的立地理論の習得
- 7回 基礎的立地理論の習得
- 8回 基礎的立地理論の習得
- 9回 基礎的立地理論の習得
- 10回 基礎的立地理論の応用
- 11回 基礎的立地理論の応用
- 12回 基礎的立地理論の応用
- 13回 基礎的立地理論の応用
- 14回 基礎的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足箇所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の基礎を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

専門演習I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	○	○
科目名	専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習では労働者の働き方、企業の雇用政策、労働に関する諸問題、労働政策などを中心に考察し、経済学的思考の習得を目標とする。またレポート執筆・発表・ディスカッションを通じての基礎スキルの向上も目標とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回の演習までにアナウンスします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心によるが、労働経済学の基礎文献として以下を挙げる。

- ・『人事と組織の経済学』、エドワード・ラジャー著(樋口美雄・清家篤訳)、日本経済新聞社。
- ・『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』、大橋勇雄、中村二郎著、有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】

第2回～第15回 学生による輪読・発表

* 初回の演習前に本演習のガイダンス等を行うので必ず出席すること。

* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み(課題等を含む)及び発表 100%

* 原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

* 随時、課題を提示する(ただし事前課題も含む)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

1回目の演習までに事前課題を提示するので取り組んでおくこと。

労働経済学の基本を学ぶため、労働経済学・労働経済学特講(担当:畔津)を履修すること(履修済みが望ましい)。

毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んで上で臨むこと。

Teamsを中心にアナウンスを行うので、必ず毎週、確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

演習Ⅱでは、ゼミ論文、卒業論文のテーマを決め、その準備を行います。各自が関心のあるテーマを取り上げ、それらを調査、検討した成果を報告してもらうことになります。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション
2～3回	テーマ設定と文献・資料収集
4～5回	文献・資料の整理
6～8回	研究テーマ設定作業
9～12回	研究テーマの中間報告
13～15回	研究テーマの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取り組み姿勢および発表内容...50% 課題...50%
報告にあたって十分な準備をしたか、演習において積極的に発言したかが基準になります。毎回出席したからといって、よい評価がもらえるとは限りません。
なお、一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。
報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

専門演習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱに引き続き、ブランディングに係る「共同研究」を実施します。共同研究の成果は外部の人々を対象としたプレゼンテーションを実施します。よって、プレゼンテーションにスキルの向上にも努めてもらいます。
また同時に、ブランディング戦略だけでなく競争戦略に係る実践的な文献サーベイを実施します。そのうえで、次年度の卒業研究に向けた意識を高めるために、先輩の卒業研究をテーマにしたディスカッション、新聞をはじめとした情報収集の手法や考察についての理解を深めます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

○楠木健『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社(2010年5月)
W・チャム・キム+レネ・モボルニユ『[新版]ブルー・オーシャン戦略』ダイヤモンド社(2015年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中洋編『ブランド戦略全書』有斐閣(2014年11月)
石井淳蔵・廣田章光編『1からのマーケティング(第3版)』碩学館(2015年2月)
中川淳『奈良の小さな会社が表参道ヒルズに店を出すまでの道のり。』日経BP社(2008年10月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1～4回 共同研究に係る報告書の作成・修正
- 第5～6回 共同研究に係るパワーポイントの作成・修正
- 第7回 ブランディングに係るプレゼンテーション(外部向け)
- 第8回 競争戦略に係る文献のレジュメ報告I
- 第9回 フィールドワークに係る情報収集
- 第10回 フィールドワークに係る情報の編集
- 第11回 フィールドワークの実施
- 第12回 競争戦略に係る文献のレジュメ報告II
- 第13回 卒業研究をテーマにしたディスカッションI
- 第14回 卒業研究をテーマにしたディスカッションII
- 第15回 各自の卒業研究をテーマ案の報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告書の作成30% パワーポイントの作成・プレゼンテーション15% レジュメ作成30% 卒業研究テーマ案の新規性・現実性15% ディスカッションにおける貢献10%
なお、レジュメ提出(1回)と卒業研究テーマ案提出(1回)を行わず5回以上欠席をしなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の実施にあたっては、各種の資料収集やレジュメの作成、報告書の作成など事前の学習を指示します。きちんと対応してください。

履修上の注意 /Remarks

フィールドワークを行なう授業があるので、各種のスケジュール調整を適切に行なってください。

専門演習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ファイナンスについて学ぶ。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス【研究倫理】

2回～15回 テキストを輪番で発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容について予習・復習に努めること。

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を購読することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成の準備として、統計解析の訓練を行う。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Stock and Watson. 2016. Introduction to Econometrics, 4th ed. Addison-Wesley. Pub.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：講義と演習と発表

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

3回以上、理由なく欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を事前に読み、指定された教科書で復習する。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。
前回の復習をして演習に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

専門演習に引き続き、官公庁が出版している様々な白書やその他の文献などの中から、各学生が興味のあるテーマの文献を選択して丁寧に読み、その内容を整理したレジュメやレポートを作成する。論理的に思考する能力、文献を簡潔に要約する能力、プレゼンテーション能力、文章を執筆する能力などを総合的に鍛えることを目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 報告
- 3回 報告
- 4回 報告
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80% 平常点：20%
(5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の推敲に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

専門演習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「専門演習Ⅱ」に比べやや「堅い」文章を購読する。知識にも広狭深淺があることを学び、そのうえで社会についてのより深い理解を目指す。また、卒業論文の構想を固めることを併せて行う。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

参加者と相談して適宜定める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 購読文献の選定
- 第2回~第14回 学生の報告を中心として購読を進める
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容及びゼミ参加の姿勢 ... 85% 卒論構想の内容 ... 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習はもとより、積極的なゼミ参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。主に、CiNiiに掲載されている和文論文のリーディングを行う。必要に応じて、統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。

専門演習Ⅲ

【思考・判断】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

星野匡郎、田中久稔『Rによる実証分析』Ohmsha

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：ゼミ生は、毎週、事前に読み込んだ論文をA4一枚に要約したものを提出する。その要約を教員が添削する。それとともに、論文に関連する統計的手法の理解に努める。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：卒業研究のテーマを決めるためのリーディングを行い、A4一枚にまとめて報告すること。

事後学習：演習での議論を踏まえて、卒業研究のテーマが妥当か否か判断すること。

履修上の注意 /Remarks

予習として、論文の要約を作成する。また、他のゼミ生の要約にも目を通しておく。復習としては、自分の作成した要約のどこをどのように修正されたか、よく吟味すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰの成果から出発して、自分で不思議に思ったことを自分で調べ、その結果と過程を他人にもわかる形式で伝えることをします。4年次で取り組むテーマ(卒論の仮テーマ)を見つけ出すことが目的です。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】 経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 経済の諸問題に関心をもち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
卒業論文研究題目(仮)の提出。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。

【予習】 発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。

【復習】 参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業研究のテーマと目次に則して、各自で内容の発表を繰り返す。また、正しい引用の仕方や参考文献一覧の作成法などを引き続き指導する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～7回 卒業研究の参考文献の発表

8回～15回 卒業研究の各担当部分の発表(引用の仕方、図表の作り方も学ぶ)

(※卒論のテーマにかかわりうる産業・企業の説明会などを授業時間中に行う可能性がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況…90%、レポート…10%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、発表資料を必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。(予習と復習、それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ソーシャルビジネスについて学習します。社会問題を解決するためのしくみや、社会問題をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、社会活動や地域活動に関わる行政、企業、NPOなどの調査や、それらとの共同作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外でのフィールドワークなども実施します。

DPに基づく到達目標

- 《課題発見・分析・解決力》
自らの問題意識に基づいて社会課題を抽出し、対策やビジネスモデルを提案することができる。
- 《プレゼンテーション力》
自分の考えやプランを他者に的確にわかりやすく伝えることができる。
- 《実践力（チャレンジ力）》
策定したプランやプログラムを確実に実施するための手順を作成できる。
- 《コミュニケーション力》
NPOや企業などで働く人と「対話」ができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 実習(NPOとの協働事業)
- 3回 実習(NPOとの協働事業)
- 4回 実習の振り返り
- 5回 実習を踏まえた研究テーマの設定
- 6回 企業 / NPO事例研究
- 7回 企業 / NPO事例研究
- 8回 企業 / NPO事例研究
- 9回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (各自のプラン模索)
- 10回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン模索)
- 11回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン策定)
- 12回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン発表)
- 13回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 14回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 15回 卒業研究に向けたテーマの発表とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習・事後学習の課題 (20%)、授業での発言回数などグループ学習への寄与 (50%)、授業における発表内容 (30%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備 (予習) しておいてください。

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナの状況によってフィールドワーク等が実施できない場合があります。状況に応じてシラバス内容を変更せざるを得ない場合には、その都度提示、説明します。

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会課題

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰに続き、国際経済学の基礎理論を習得したうえで、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を経済学の観点から理解する。自由研究とグループワークを実施し、各自関心のあるトピックスを詳しく調査し、学部のポスターセッション大会での研究発表を目標としている。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：クルーグマン・オブストフェルト著『国際経済学 理論と政策』（原著第10版）（丸善）
石川城太・棕寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
棕寛著『自由貿易はなぜ必要なのか』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定・配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回-14回 前期に続き、学生による輪読・報告する形式で進める。報告担当者はレジュメを作成し、設問を用意する。全員で質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。自由研究とグループワークの研究発表も予定している。
- 15回 卒業研究テーマの検討・発表
(実施予定を変更する可能性がある。1回目のガイダンスで相談したうえで決定する。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 報告・課題提出 40 % ディスカッションへの貢献 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題報告を事前に十分に準備すること。
グループで研究調査を行い、学部のポスターセッションに参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習・復習し、自分の納得するまで読み込んでほしい。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱでは、北九州工業地帯を対象として、経済・産業史に関する調査研究を行っていただきます。
具体的には、門司、若松、戸畑、八幡を事例に、学術書などを通じて専門的な情報を集めることで、過去の事実を探求していただきます。

そして自身の調査や同じゼミ生の調査報告を通じて得た知識を、より確かなものとするため、あるいは座学では気が付かなかった事実を「発見」するため、調査対象とした地域に実際に足を運び、その場所を歩くことで過去と現在とを確認するフィールドワークを行います。

また本演習では、自分で調査し知り得た情報を、わかりやすくまとめ、他者に伝えるスキルも養っていただきます。
具体的には、この演習は皆さんによる調査研究と、その成果に関するプレゼンテーション、ディスカッションをメインに実施していく予定です。

そしてこのプロセスで得られた知識と経験を活かし、演習後半では、学部主催のポスターセッションへの参加に向けた調査研究（グループワーク）に取り組んでいただきます。
ここでは自分たちが「知りたい」と思うテーマを一から考え、それを知るためにどんな情報をどのように集めればよいか検討し、必要であればフィールドワークを行い、誰も知らなかった価値ある事実を「発見」していただきます。

到達目標：
【思考・判断・表現力】経済に関する問題について専門的な知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。
【コミュニケーション能力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

北九州市史編さん委員会編『北九州市史 近代・現代 産業経済Ⅰ・Ⅱ』（1991年・1992年、北九州市）他、北九州の産業・経済史に関する論文・著書。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題研究報告
- 第3回 フィールドワーク（門司区）
- 第4回 課題研究報告
- 第5回 フィールドワーク（戸畑・若松区）
- 第6回 課題研究報告
- 第7回 フィールドワーク（八幡東区）
- 第8回 ポスターセッションに関するレクチャー
- 第9回 ポスターセッションテーマ報告
- 第10回 ポスターセッションに向けたグループワーク
- 第11回 ポスターセッション予行練習
- 第12回 ポスターセッション
- 第13回 ポスターセッション総括
- 第14回 アクティブラーニング—学生による学生評価—
- 第15回 座学—春休みにやるべきこと—

専門演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周到な準備を行っていただく必要があります。
フィールドワークを行う際も、その前後に、行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

この演習では、複数回、フィールドワークを行います。フィールドワーク日は、通常の授業時間内に大学に戻って来れないこともあります。したがって本演習を履修する際は、4限に授業を履修しないなど、本演習および他の授業への参加に支障をきたさないよう、計画的な履修を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習ではグループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行っていただきます。したがって学生には、積極的に学ぼうという姿勢でゼミに臨んでいただく必要があります。ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱに引き続き、財政の問題を深く掘り下げ（制度、データ、理論に基づく考察）、自分の卒業研究に繋げることを目標とします。また、10月ごろから他大学からの合同ゼミの準備と卒業研究の準備を行い、合同ゼミの開催会場にて研究発表を行います。

（到達目標）

【思考】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教養としてのグローバル経済 齋藤 誠 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

明解 日本の財政入門 (金融財政事情研究会 刊)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス【研究倫理】
- 2 報告内容に関してディスカッション
- 3 報告内容に関してディスカッション
- 4 報告内容に関してディスカッション
- 5 報告内容に関してディスカッション
- 6 報告内容に関してディスカッション
- 7 報告内容に関してディスカッション
- 8 報告内容に関してディスカッション
- 9 報告内容に関してディスカッション
- 10 報告内容に関してディスカッション
- 11 報告内容に関してディスカッション
- 12 報告内容に関してディスカッション
- 13 報告内容に関してディスカッション
- 14 報告内容に関してディスカッション
- 15 まとめ

経済主体の最適化など理論分析に必要な技術、論文を書く準備の仕方を並行して行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50% 議論への参加度 50%

専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。(予習箇所は講義中にお知らせします。)目安時間60分
事後学習としてゼミで学習した内容をレポートにまとめ報告してもらいます。目安時間60分

履修上の注意 /Remarks

復習をして講義に臨むこと。 前回の内容を質問しますので自分の言葉で人に分かるように説明できるぐらい十分に復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的なことは繰り返しテーマをまたいで登場します。
既に学習したことについて理解が出来ているか質問することになりますので
緊張感を持って理解する努力をしてください。

キーワード /Keywords

財政

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰを受けて、引き続き日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに深く考察する。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力などのスキルを身に付けていく。論文については、卒業論文のための予備論文を提出していただく。なお2学期後半に工場見学を行い、そのための事前学習、事後学習の時間をとる。

【思考・判断・表現力】 経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業の中で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 現代的立地理論の習得
- 3回 現代的立地理論の習得
- 4回 現代的立地理論の習得
- 5回 現代的立地理論の習得
- 6回 現代的立地理論の習得
- 7回 現代的立地理論の習得
- 8回 現代的立地理論の習得
- 9回 現代的立地理論の習得
- 10回 工場見学の事前準備(コロナ感染の状況により、ビデオ学習に切り替える場合もある。)
- 11回 工場見学(コロナ感染の状況により、ビデオ学習に切り替える場合もある。)
- 12回 工場見学の事後学習(コロナ感染の状況により、ビデオ学習の課題に切り替える場合もある。)
- 13回 現代的立地理論の応用
- 14回 現代的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。
工場見学と事前調査・事後整理の課題提出は必須の要件として参加、実施すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	○	○
科目名	専門演習Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰと同様に、労働者の働き方、企業の雇用政策、労働に関する諸問題、労働政策などを中心に考察する。各自の関心にもとづき研究テーマを設定し、卒業研究に向けて必要な知識・技術を身につける。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回の演習までにアナウンスします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心によるため、特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】

第2回～第15回 学生による輪読・発表

* 経済学部主催ポスターセッション大会に出場する。

* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

提示した課題、日常の取り組み及び発表 100%

* 原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

* 経済学部主催ポスターセッション大会における研究発表は単位認定要件である。

* 随時課題を提示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

関心のあるトピックについての書籍を読んでおくこと。

労働経済学の基本を学ぶため、労働経済学特講を卒業までに受講すること。

毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自が興味のあるテーマの調査、分析を行う。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

中谷 安男 『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中央経済社 2020年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：各週報告者を決めて、そのレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

なお、一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・計量経済学・公共経済学・環境経済学を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自が興味のあるテーマの調査、分析を行う。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：各週報告者を決めて、そのレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

3回以上、理由なく欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・産業組織論を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80% 平常点：20%
(5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

インプットからアウトプットを得るトレーニングを行う。課題の文献を読み、自分の考えを文章にして表現することによって自らの考えを整理してもらいたい。
また、あわせて卒業論文のテーマを確定してもらう。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
必要に応じて卒業論文のテーマについて話し合う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。
提出課題に真剣に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

他人の意見を参考にして、自らの考えを作り上げてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

【思考・判断】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回、報告用レジュメを作成し、報告すること。

事後学習：ゼミ内の議論を踏まえて、論文の構想について熟慮すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

3年次で決めたテーマ(卒論の仮テーマ)について調査・研究します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】 経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回～14回 学生による途中経過の報告
- 15回 今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。

【予習】 発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。

【復習】 参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表し内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献一覧の作り方などを引き続き学習し徹底する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、執筆。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、発表資料を必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。また、参考文献に対して盗作とならぬように、日頃の発表と卒論の作成では細心の注意を払うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

3年次に続き、ソーシャルビジネスについて学びます。とりわけ、新たなソーシャルビジネスの創出や、地域における社会活動とビジネスのつながりについて、具体的に北九州を舞台に考えていきます。教室以外でのフィールドワークなども実施する予定です。また、各自の卒業研究について報告およびディスカッションを行います。

DPに基づく到達目標

《課題発見・分析・解決力》

自らの問題意識に基づいて社会的課題を抽出し、研究のための分析枠組みを設定することができる。

《プレゼンテーション力》

分析内容や策定したプランを他者に的確にわかりやすく伝えることができる。

《実践力（チャレンジ力）》

策定したプランやプログラムを確実に実施するための手順を作成できる。

《コミュニケーション力》

NPOや企業などで働く人と「対話」ができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 卒業研究の方法と課題
- 3回 卒業研究テーマ報告会
- 4回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの経営分析)
- 5回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの経営分析)
- 6回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの経営分析)
- 7回 ケーススタディから学ぶ(調査)
- 8回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 9回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 10回 ケーススタディから学ぶ(ビジネスモデルの抽出)
- 11回 卒業研究中間報告
- 12回 卒業研究中間報告
- 13回 卒業研究中間報告
- 14回 卒業研究中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習・事後学習の課題(20%)、授業での発言回数などグループ学習への寄与(50%)、授業における発表内容(30%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

卒業研究 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナの状況によってフィールドワーク等が実施できない場合があります。状況に応じてシラバス内容を変更せざるを得ない場合には授業中に説明します。

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会課題

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自の卒業研究に対して、段取りに3 - 4回の課題を課し取り組んでもらう。
履修者は課題を通して、文献調査、研究報告を行い、研究のオリジナリティを見つける。
学期末に卒論のフレームワークを決め、第1章を提出する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文の書き方
- 3回-15回 文献調査・報告、課題提出・報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 報告・課題提出 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

十分な時間をかけて取り組んでください。参考文献・研究テーマの調査などの下地準備を早めに着手してください。
予習・復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は、「専門演習I・II」で身につけた知識や能力をもとに、独自に調査・研究を行い、その成果を論文にまとめることを目的としています。

具体的には、経済・産業史に関する研究テーマを定め、必要な情報を集め分析することで、卒業論文を執筆してもらいます。

論文は他人の研究成果や主張を要約的にまとめるレポートとは違います。

論文は自らの問い（テーマ）に対し、自分で集めた情報をもとに自分で考え、自分なりの答えを与えるものとしてあります。

この作業を行うためには、まず自分が「知りたい」「（知ることが）面白そう」と思える課題を見つけられなければいけません。また、「知りたい」と思うテーマを見つけても、それを知る術がわからなければ研究は出来ません。

そこで「卒業研究A」では、まず課題（テーマ）設定の方法や、そこでの留意点などについてレクチャーします。

そして研究を行っていくためには、どのような情報を集める必要があり、それはどうすれば入手することが出来るのか、情報検索のノウハウについても学んでいただきます。

そのうえで、実践として皆さんには、与えられたテーマに基づき、専門書などから必要な情報を集め、事実を探求するグループワークに取り組んでいただきます。

このプロセスで卒論のテーマをブラッシュアップし、調査に必要となる情報や分析法を見定め、卒業研究をスタートしていただきます。

到達目標：

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 座学 - テーマ設定の方法 -
- 第3回 座学 - 事例紹介：先輩たちはどんな研究をどのように行ってきたか -
- 第4回～7回 卒論テーマ案の報告
- 第8回 座学 - 実証的研究の行い方 -
- 第9回 論文作成のための情報検索講座
- 第10回・11回 文献調査型グループワーク(大学図書館)
- 第12回 フィールドワーク(北九州市立図書館)
- 第13回 グループワーク報告
- 第14回 フィールドワーク(工場見学)
- 第15回 卒業研究計画の策定

卒業研究 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周到な準備を行っていただく必要があります。

また輪読の際には、指定された箇所を演習前に必ず読み込んでおき、当日、内容に即してディスカッションが出来るレベルまで理解を深めておいていただきます。また演習後、あらためてテキストを読み返すことで、ゼミを通じて学んだことをしっかり知識として身につけていただきます。

フィールドワークを行う際も、その前後に行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

卒業研究 A 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらおう。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

(到達目標)

【思考】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来具合 50% 研究への積極性 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表前に 1) 文献資料、論文の取り寄せ 2) 発表資料の十分な準備、および予習を必ずしてください。目安時間60分以上。発表後に教員が指摘したポイントやゼミ生からの質問・意見等を整理し次の準備に備えてください。目安時間60分以上

卒業研究 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究はなかなか大変ですが
頑張った分だけ仕上げた時の達成感と喜びは大きいので頑張りましょう。

キーワード /Keywords

財政

卒業研究 A 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力も深めていく。

【思考・判断・表現力】 経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 11回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 12回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学、経済地理学特講を履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習をしておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。

卒業研究 A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

卒業研究 A 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM411M			◎	○	○
科目名	卒業研究 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習では、専門演習I・IIで学んだ事をもとにして、卒業研究に着手する。自らの関心に基づき、自らのやるべき研究を設定し、研究のための下調べ、綿密な研究計画が完了することを目標とする。

<到達目標>

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業中に指示をする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】

第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション

* 各自の研究発表の他、題材を提示した上でディスカッションを行うことがある。

* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み、課題及び発表 100%

* 原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

* 卒業研究題目の提出、卒業研究の中間発表は単位認定要件である。

* その他、授業中に課題を提示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究テーマについて十分考えておくこと。

毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆を行う。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

中谷 安男 『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中央経済社 2020年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
各メンバーの卒論に対して検討し、精緻化と完成を目指す。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)
なお、一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・計量経済学・環境経済学を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆を行う。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
各メンバーの卒論に対して検討し、精緻化と完成を目指す。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)
3回以上、理由なく欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の出来：90% 平常点：10%
(5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

半分は、学生時代の総決算として比較的「堅い」文献の輪読という伝統的なゼミを行う。「じっくり深く読み込む」ために、これまでの学習成果を総動員してもらいたい。
残りの半分は、卒業論文の作成に関わる内容を行う。「自らの考えを文章にして表現することが、自分自身を知ることを含め最も効果的な学修方法である」ということを確認してもらいたい。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定、卒業論文のテーマと進捗状況の確認
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
卒業論文の中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。
各自卒論の完成に向け必要な作業を着実に進めること。

履修上の注意 /Remarks

ある意味、大学生活の総括であることを自覚してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

【思考・判断】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：卒業研究を書けるところから執筆し、報告すること。

事後学習：ゼミ内の議論を踏まえて、卒業研究を修正していくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒論を作成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】 経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をしつつ、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回～14回 学生による途中経過の報告
- 15回 卒論内容の最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
卒業論文の提出。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。

【予習】 発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。

【復習】 参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表し、内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献リストの作り方などを学習し徹底する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、発展。パワーポイントによる発表会を行う。
(卒業研究にかかわる講演会や企業の説明会などがある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、発表資料を必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。また、参考文献に対して盗作とならぬように、日頃の発表と卒論の作成では細心の注意を払うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自の問題関心に沿って、卒業研究を作成します。中間報告とディスカッションを重ねながら、各人の研究をベースにした相互学習を図ります。

DPに基づく到達目標

《課題発見・分析・解決力》

自らの問題意識に基づいて社会的課題を抽出し、研究のための分析枠組みを設定することができる。

《プレゼンテーション力》

分析内容や策定したプランを他者に的確にわかりやすく伝えることができる。

《実践力（チャレンジ力）》

分析枠組みに沿って、フィールドワークを実施することができる

《コミュニケーション力》

研究対象であるNPOや企業などで働く人を対象に「対話的取材」ができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 卒業論文中間報告
- 3回 卒業論文中間報告
- 4回 卒業論文中間報告
- 5回 卒業論文中間報告
- 6回 ケーススタディの研究と報告
- 7回 ケーススタディの研究と報告
- 8回 ケーススタディの研究と報告
- 9回 ケーススタディの研究と報告
- 10回 卒業論文中間報告
- 11回 卒業論文中間報告
- 12回 卒業論文中間報告
- 13回 卒業論文中間報告
- 14回 報告会準備および予備作業
- 15回 卒業論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習・事後学習の課題（20%）、授業での発言回数などグループ学習への寄与（30%）、卒業研究の内容（50%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備（学習）しておいてください。

卒業研究 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナの状況によってケーススタディ等が実施できない場合があります。状況に応じてシラバス内容を変更せざるを得ない場合には、その都度提示、説明します。

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会課題

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自の卒業研究テーマについて、定期的に研究報告を行い、論文執筆を完成する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、卒業研究の進捗状況を確認する
- 2回－14回 卒業研究進捗報告と論文指導
- 15回 卒業研究発表会(予定)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 報告・課題提出 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

十分な時間をかけて取り組んでください。参考文献、調査方法などの下地準備を早めに着手してください。
予習・復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「卒業研究B」では、「卒業研究A」で定めたテーマ（課題）に基づく調査・研究を進め、成果を論文にまとめていただきます。

そのためにまずは集めた情報に基づく分析の方法などについて、具体的な事例を紹介しつつレクチャーします。

これと並行して皆さんには、夏休みの間に立てていただく卒業研究のプラン（工程表）に基づき、調査研究を進め、その成果を整理しまとめる作業を行っていただきます。

そしてゼミ生全員に、研究の進捗状況を報告し担当教官の批評やアドバイスを受ける「中間報告」を行っていただきます。

その後、皆さんには論文の執筆を開始してもらい、12月中旬までにひとまず論文を形にしてもらいます。

提出された論文は、すべて添削を行い修正要求を加えたくて皆さんにお返しします。

皆さんはその修正要求に応じて、1月末までに追加調査等を行うことで、学術的に高い水準の論文を完成させてください。

2年間で身につけたスキルを学術的成果として形にする（そして晴れて卒業を迎える）、それが「卒業研究B」の最終的な目標です。

到達目標：

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 座学 - 研究事例紹介 -
- 第3回～7回 卒論中間発表
- 第8回 座学 - 論文執筆の方法 -
- 第9回 フィールドワーク（工場見学）
- 第10回～12回 論文執筆および個別指導
- 第13回・14回 論文指導に基づく卒論の加筆・修正
- 第15回 卒論最終チェックとゼミの総括

成績評価の方法 /Assessment Method

調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業研究Bは卒業研究をまとめることを主目的としていますが、実際の研究は授業時間外に学生自らが行う必要があります。卒業研究に関する指導を受けるに当たっては、事前に十分研究活動を行い、その成果をもって指導を受けるようにしてください。また、授業後は、教員による指導内容に基づき修正作業を行い、その成果をもって次回の授業に臨めるようにしてください。

卒業研究B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらおう。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

(到達目標)

【思考】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来具合 50% 研究の完成度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表前に 1) 文献資料、論文の取り寄せ 2) 発表資料の十分な準備、および予習を必ずしてください。目安時間60分以上。発表後に教員が指摘したポイントやゼミ生からの質問・意見等を整理し次の準備に備えてください。目安時間60分以上

履修上の注意 /Remarks

卒業研究B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究はなかなか大変ですが
頑張った分だけ仕上げた時の達成感と喜びは大きいので頑張りましょう。

キーワード /Keywords

マクロ経済学・財政

卒業研究B【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、思考力、判断力や課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力も深めていく。なお2学期後半に工場見学を行い、そのための事前学習、事後学習の時間をとる。

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 工場見学の事前学習(コロナの感染状況によってはビデオ学習に振り替える。)
- 11回 工場見学(コロナの感染状況によってはビデオ学習に振り替える。)
- 12回 工場見学の事後学習(コロナの感染状況によってはビデオ学習の課題に振り替える。)
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% 課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

卒業研究B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学、経済地理学特講を履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび論文の課題について、下調べを行うなど予習をしておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。
工場見学と事前調査・事後整理の課題提出は必須の要件として参加、実施すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM412M			◎	○	○
科目名	卒業研究B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、卒業研究を完成させることである。卒業研究Aにおける下調べ、研究計画に基づき、調査、分析、論文執筆作業を行う。

<到達目標>

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】

第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション

* 各自の研究発表以外に、題材を指定しディスカッションを行う。

* 卒業研究中間報告会、卒業研究発表会を開催する。

* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み、課題及び発表 100%

* 原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

* 卒業研究論文の提出、卒業研究発表会における発表は単位認定要件である。

* その他、授業中に課題を提示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究Aに引き続き、卒業研究を進めておくこと。

毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学入門【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN111M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学の入門的知識を身につけている。

【技能】ミクロ経済分析に必要な概念を活用できる。

【思考・判断・表現力】基礎的な資源配分の問題を考察することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第3版) 東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

ミクロ経済学入門 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%
試験を欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学入門【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN111M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

(到達目標)

- 【知識】ミクロ経済学の入門的知識を身につけている。
 【技能】ミクロ経済分析に必要な概念を活用できる。
 【思考・判断・表現力】基礎的な資源配分の問題を考察することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第3版) 東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と交易について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と交易について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と交易について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

ミクロ経済学入門【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%
試験を欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学入門【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN112M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレ（デフレ）といった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、より専門的なマクロ経済学Ⅱの講義内容を理解するための基礎的素養の習得を目的とする。
(到達目標)

- 【知識】マクロ経済学の入門的知識を身につけている。
- 【技能】マクロ経済分析に必要な概念を活用できる。
- 【思考】日本経済の問題点を考察することができる。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- テキストに沿って講義を行う。
- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 - 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【三面等価の原則】
 - 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【名目と実質】
 - 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【景気】
 - 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【1人当たりGDP】
 - 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
 - 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
 - 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
 - 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
 - 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 - 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【所得税・消費税・法人税について】
 - 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗と政府の役割】
 - 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【日本の財政の問題】
 - 14回 第8章 海外に目を向けてみよう【為替レート】【裁定取引】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全10回の授業内容確認テスト(20%) + 全3回の課題(30%) + 期末試験 もしくは 期末課題(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。
授業課題に取り組みましょう。

マクロ経済学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業時間内の課題に取り組むにあたって、スマートフォンあるいは携帯用パソコンが必要ですので持参しましょう。
授業時間内の課題に取り組むにあたって、電卓の持参を推奨します。
毎回、Moodleコースを閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学

マクロ経済学入門【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
ECN112M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレ（デフレ）といった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、より専門的なマクロ経済学Ⅱの講義内容を理解するための基礎的素養の習得を目的とする。
(到達目標)

- 【知識】マクロ経済学の入門的知識を身につけている。
- 【技能】マクロ経済分析に必要な概念を活用できる。
- 【思考】日本経済の問題点を考察することができる。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- テキストに沿って講義を行う。
- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 - 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【三面等価の原則】
 - 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【名目と実質】
 - 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【景気】
 - 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【1人当たりGDP】
 - 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
 - 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
 - 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
 - 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
 - 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 - 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【所得税・消費税・法人税について】
 - 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗と政府の役割】
 - 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【日本の財政の問題】
 - 14回 第8章 海外に目を向けてみよう【為替レート】【裁定取引】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全10回の授業内容確認テスト(20%) + 全3回の課題(30%) + 期末試験もしくは 期末課題(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。
授業課題に取り組みましょう。

マクロ経済学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業時間内の課題に取り組むにあたって、スマートフォンあるいは携帯用パソコンが必要ですので持参しましょう。
授業時間内の課題に取り組むにあたって、電卓の持参を推奨します。
毎回、Moodleコースを閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学

簿記論 【昼】

担当者名 /Instructor 平川 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC110M	◎	○	○		
科目名	簿記論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年 (再履修者)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC110M	◎	○	○		
科目名	簿記論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説します。簿記論では、「簿記の基礎」を中心に講義します。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問であります。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してください。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにあります。

(到達目標)

【知識】複式簿記に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】複式簿記に基づき財務諸表を作成するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】複式簿記に基づく財務諸表の作成について、論理的に思考して作成方法を検討し、迅速かつ正確に財務諸表を作成することができる。

教科書 /Textbooks

岡部勝成編著『初級簿記のセミナー』中央経済社、2021年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『段階式日商簿記3級商業簿記』(税務経理協会)、『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』(税務経理協会)、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』(TAC出版)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記のルール【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記のルール【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】【転記】
- 7回 商品売買【分記法】【三分法】
- 8回 商品売買【値引き】【返品】
- 9回 商品売買【当座取引】【手形】【送料】
- 10回 仕訳帳と元帳
- 11回 決算【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金取引【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金取引【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・小テスト...20%、定期試験...80%
- ・6回以上欠席した場合は、評価不能とします。
- ・定期試験を受験しなかった場合は、評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の講義範囲を告げ予修の励行と今回の講義範囲の復修プリントにより復修を励行させ理解を充実できるようにしていきます。(予修時間60分、復修時間60分)

簿記論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

欠席すると分からなくなりますので出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

指定テキストと電卓を持参してください。

キーワード /Keywords

商業簿記、株式会社、簿記の5要素、貸借対照表、損益計算書

キャリア開発Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 森脇 敏雄 / Toshio Moriwaki / 経営情報学科
齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR210M	○			○	◎
科目名	キャリア開発Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業は2年生対象の必修科目です。大学2年生2学期という時期に、皆さんのキャリア意識を喚起することを目的としています。皆さんの大学卒業後の進路は民間就職、公務員就職、進学、起業、その他、様々な選択肢が考えられます。皆さんの今後の進路の多様性に関わらず、この授業では、皆さんが自身のキャリアと向き合うための方法を学習します。主な内容は、「自己分析」、「業界・職種研究」、「企業研究」、「労働者の権利」といったものです。一見、民間就職希望者のための授業に見えるかもしれませんが、いずれの内容も皆さんの今後の進路に関わらず、自身のキャリアと向き合う際に、応用することができる内容になっています。なお、それぞれ学外の方を講師として招き、授業してもらいます。

なお本科目は、更なるステップアップ段階（実践の場）として用意されている選択科目「業界研究」の準備としての役割も果たしています。さらに本科目は3年生対象の選択科目「キャリア開発Ⅱ」に接続します。

この科目は、オンデマンド型のメディア授業科目です。動画の視聴と課題の提出などは、原則としてMoodleを軸として行うこととなります。通信環境や他の授業の時間との兼ね合いによって自宅での視聴等が難しい場合には、大学の自習室でも動画の視聴と課題の提出などが可能です。なお、本講義は原則としてオンデマンド型ですが、受講生と教員の間でインタラクティブな質疑応答もできるように、ライブ型（オンデマンド・ライブ混合型を含む）または対面形式で行われる日が二、三回ありえます。詳細は、Moodleでお知らせしますので各自で確認してください。

(到達目標)

【知識】

個人のキャリア開発に必要な専門的な知識を身につけている。

【コミュニケーション力】

個人のキャリア開発の展望について、口頭や文書によつて的確に伝達することができる。

【自立的行動力】

個人のキャリア形成に関わる課題を発見し、自律的にキャリアデザインをすることができる。

教科書 /Textbooks

とくに使用しません。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

学修上、有用なサイトを下記に示します。

- ・就職情報サイト「リクナビ」
- ・就職情報サイト「あさがくナビ」
- ・就職情報サイト「マイナビ」

その他、キャリア開発全般について知るための文献として、安武伸朗ほか編著(2019)『キャリアデザイン論』創成社、渡辺峻・伊藤健市(2015)『学生のためのキャリアデザイン入門(第3版)』中央経済社を、労働者の権利について知るための文献として菅野和夫(2019)『労働法(第12版)』弘文堂を読むことを推奨します。

キャリア開発I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第0回 事前説明と事前課題（1学期中にアナウンスします）
- 第1回 ガイダンスとキャリアデザインの内容と意義【キャリア】
- 第2回 自己分析（1）【社会人基礎力】
- 第3回 自己分析（2）【適性検査】
- 第4回 自己分析（3）【モチベーション】
- 第5回 業界研究（1）【業界・業種】
- 第6回 業界研究（2）【BtoB】【BtoC】
- 第7回 仕事研究【職種】【職掌】
- 第8回 企業研究（1）【同業他社】
- 第9回 企業研究（2）【3C】【5C】
- 第10回 企業研究（3）【ビジネスモデル】
- 第11回 適性検査対策の学習計画【SPI】【玉手箱】【TG-WEB】
- 第12回 講演会（授業中にアナウンスします）
- 第13回 労働者の権利（1）【労働契約】
- 第14回 労働者の権利（2）【労働者保護】
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全体評価100%のうち

- ・ 事前課題（My Compass 1st）：10%（単位認定要件）
- ・ 適性検査対策eラーニング教材：15%（課題3回）
- ・ 第2～第10回 各授業課題：45%（課題9回）
- ・ 第11回 適性検査対策の振り返り課題：5%
- ・ 第12回 講演会課題：5%
- ・ 第13回～第14回 各授業課題：10%（課題2回）
- ・ 期末課題（My Compass 2nd）：10%（単位認定要件）

なお、My Compass 1st Stage、My Compass 2nd Stageの提出がない場合は単位が認定されないので、十分注意してください。また、受講登録していても、課題の提出が一件もない場合には、評価不能（-）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に示された内容については必ず予習し、課された課題については熱心に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 1学期の履修登録期間に必ず登録すること。
- ・ 1学期中に事前課題の説明に関するアナウンスをします。
- ・ 1学期中に重要な連絡等を、Moodleコースを通じて行います。毎回、必ず閲覧するようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア開発、自己分析、業界研究、企業研究、仕事研究、適性検査、労働法

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS100M	◎	○	○		
科目名	経営学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では経営学全体をわかりやすくかみ砕いて説明することを目的としています。初学者向けの授業です。したがって、各テーマの内容を深く追求するということはありません。

みなさんには、この授業をきっかけに「自分は経営学で語られる事象の中のどういうことに関心があるのか」ということを考えていただければと思います。そうするためには、授業で語られる内容に対して、「本当にそうか?」、「なぜ、そう論じられてしまうのか」といった疑問を常に持つように心掛けていただければと思います。あるいは、これまでの人生で抱いてきた企業や、組織（例えば、学校や学校内の部活、学内のクラスなど）に対する疑問などを、経営学で翻訳するとどうなるのか、といったことを考えながら授業を受けるのも有効かもしれません。この授業をきっかけに、以降のキャンパスライフをより有意義なものにさせていただけたらと思います。

(到達目標)

【知識】経営の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を身につけている。

【技能】実際の組織を動かす、経営するための基礎的なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】経営に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布資料を教科書とします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中川功一・佐々木将人・服部泰宏(2021)「考える経営学」有斐閣ストウディア○
 塩次喜代明・小林敏男・高橋伸夫(2009)「経営管理 新版」有斐閣アルマ○
 桑田耕太郎・田尾雅夫(2010)「組織論 補訂版」有斐閣アルマ○
 十川廣國 編著(2013)「経営組織論 第2版」中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 経営学とは何?

初めに授業全体の進め方や評価の仕方等を確認します。

第2回 組織形態 - 古典理論編 -

第3回 組織形態 - 近代理論編 -

第4回 職務設計と生産管理

第5回 内的報酬

第6回 働く人のモチベーション

第7回 組織文化

第8回 リーダーシップ

第9回 意思決定論

第10回 フラット組織のマネジメント

第11回 組織変革 - 経営資源・組織学習・知識創造 -

第12回 ダイバーシティマネジメントの難しさ

第13回 経営戦略とグローバル経営

第14回 企業の社会的責任

第15回 総括

経営学入門【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験50%，中間レポート50%で評価する。
60点以上の者に単位を与える。
レポートを提出しなかった者，定期試験を受験しなかった者はいずれも評価不能（－）とする。

※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。
事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学特講【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN220M	○	◎	○		
科目名	統計学特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を学習済みの学生に対して、コンピュータソフトを使った実際のデータ解析の仕方を伝授する。

授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① データの前処理の概念を理解する
- ② コンピュータソフトPythonを理解する
- ③ Pythonのライブラリであるpandasを理解し、利用できる
- ④ Pythonのライブラリである、statsmodelを理解し、利用できる

教科書 /Textbooks

教科書は利用しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

McKinney 『Pythonによるデータ分析入門』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 総論とガイダンス
- 2 Pythonの基礎
- 3 Python組み込みのデータ構造と関数、ファイルの扱い
- 4 NumPyの基礎
- 5 pandas入門
- 6 データの読み込み、書き出しとファイル形成
- 7 データのクリーニングと前処理
- 8 データラングリング：連結、結合、変形
- 9 プロットと可視化
- 10 データの集約とグループ演算
- 11 時系列データ
- 12 pandas:応用編
- 13 Pythonにおけるモデリングライブラリ
- 14 データ分析の実例(1)
- 15 データ分析の実例(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週行う小テストで100%評価する。
小テストを全く受けなかった場合のみ、「-」と評価する。
遠隔講義に移行した場合はzoomでライブ講義を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：Pythonプログラムを理解する。
事後学習：小テストの解答を見て、理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はPythonをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

Python、pandas、前処理、平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布、回帰分析

経済学史【昼】

担当者名 /Instructor 村田 和博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN329M	◎	○	○		
科目名	経済学史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人間の歴史は思考の歴史でもある。我々が生きる経済社会も同様で、現代の経済社会を知るためには、市場社会の形成・確立・展開の歴史的プロセスをとらえ、ときどきの経済社会で展開された理論と思想を理解することが不可欠になる。そこで、本講義では現代に至るまでに登場した経済学の理論と思想について講義する。理論史と思想史の内容ではあるが、できるだけわかりやすい事例を示しながら講義を進める。

(到達目標)

【知識】経済学の歴史について総合的な知識を身につけている。

【技能】経済学の論考をその歴史的背景から理解することができる。

【思考・判断・表現力】経済問題を歴史的論考の中に位置づけ、自分の考えや判断を体系的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997年。

早坂忠編『経済学史』ミネルヴァ書房、1989年。

高哲男編『自由と秩序の経済思想史』名古屋大学出版会、2002年。

中村廣治、高哲男『市場と反市場の経済思想—経済学の史的再構成』ミネルヴァ書房、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス、経済学史とは、重農主義【ケネーの経済表】

第2回 重商主義【富と貨幣、貿易差額説、貿易政策、高利反対論】

第3回 スミス1【古典派経済学とは、富とは何か、分業論、価値と価格、自然価格と市場価格】

第4回 スミス2【賃金と利潤、生産的労働と不生産的労働、重商主義批判、小さな政府論】

第5回 イギリス産業革命期の社会【工場制度の進展、企業規模の拡大、雇用形態と企業管理者、労務管理】

第6回 リカード【労働価値説、地代論、利潤論、機械論、貿易】

第7回 マルサスとオウエン【マルサス：人口論争、貿易、有効需要の理論、オウエン：労務管理、コミュニティ】

第8回 パベッジ【管理の科学化、賃金、大規模生産の優位性】

第9回 ミル【生産論、分配論、動態論、社会主義論】

第10回 マルクス【商品と価値、貨幣、剰余価値、工場制度の光と影】

第11回 ウェーバー【支配の諸類型、官僚制組織】

第12回 マーシャル【4つの時間区分、短期供給曲線と長期供給曲線、内部経済と外部経済、企業家機能、経済騎士道、生活基準の経済学】

第13回 ケインズ1【新古典派の限界、非自発的失業、有効需要の原理、消費関数】

第14回 ケインズ2【乗数効果、資本の限界効率、流動性選好、ケインズ政策】

第15回 シュンパーター【経済発展と新結合、企業者利潤、企業者の機能】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：参考書の該当範囲をよく読み、内容を整理する。

事後学習：授業内容について改めて整理する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済思想史、経済理論史

外書講読【昼】

担当者名 /Instructor 橋本 和宏 / Kazuhiro HASHIMOTO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG335M		○		◎	○
科目名	外書講読				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

"The wise man is not the man who provides the right answers, but the one who asks the right questions."
これは、本講義で使用する教科書でも紹介されている、フランスの著名な思想家 Claude Levi-Straussの言葉です。

本講義では、アメリカの心理療法家たちによって開発された"Solution-Focused Approach"という思考法を、英語文献で学びます。このことを通じて、受講生各位の英文読解力のみならず、社会に出てからも長く役立つ「問う力」を養うことをねらいとしています。受験勉強ではどうしても「問われて答える力」を養うことに注力せざるを得なかったと思いますが、それとは趣の異なった、大学の講義らしい内容にしたいと考えています。

担当講師は、大企業のサラリーマン、亡父から引き継いだ中小企業の経営者を経て、現在は個人としてコンサルタントを開業しています。日頃から、本講義で紹介するSolution-Focused Approachを用いた相談対応を心がけています。この思考法の特徴は、とにかくポジティブであること。たとえば、「問題の原因をネガティブモードで追求しても、気分が暗くなり、自己肯定感がくじかれるばかりで、意外と役に立たない。その代わりに、例外を探して、その原因を追求しよう。」というふうを考えます。

そんな私と、私と同じように父上を亡くし、遺された町工場を引き継いだ若社長とが、実際に交わした会話を紹介しましょう。

社長「お客さまに約束したスケジュールで品物を納めることができなくて、信用を失い、業績にも響いているんです... (ガックリと、うなだれる。)」
橋本「なるほど。では、いつもいつも、100%、あらゆる注文に対して、納期遅れを起こすんですか？」←「例外探し」の質問
社長「いや、さすがに、そんなことはありません。間に合うときは、間に合っています。」
橋本「では、間に合うときは、なぜ、どうやって、間に合っているのでしょうか？」←「例外の原因追求」の質問
社長「あ、、、(ハタと気づいた、という表情。うなだれていた顔が、ぐっと上を向く。)そういうときは、営業が先手先手で動いて、早めにお客さんから注文を聞いていますね。」

ここから、がぜんポジティブな作戦会議が展開されました。この町工場、今では、内閣府の事例集で紹介されるほどの優良企業に成長しています。この質疑のポイントは、「遅れるときになぜ遅れるのか？」という、ありがちなネガティブモードでの「問題の原因追求」をせず、その代わりに例外の原因追求をしたことですね。

こういうポジティブな思考法や、それを引き出す質問技術を学んで、社会に出たあとも長いこと、仕事やプライベートで役立てたい学生さんは、ぜひ本講義を受講してください。「キーワード」欄に列挙しているフレーズたちも、本講義の重要なポイントです。

教科書 /Textbooks

Fredrike Bannink "1001 Solution-Focused Questions: Handbook for Solution-Focused Interviewing" WW Norton. ISBN 9780393706345
生協に連絡してありますので、受講生は、第2週開始までに、必ず手もとに購入してください。

なお、Amazon Audibleなどでオーディオブック版も入手可能ですので、興味のある方は探してみてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 森俊夫・黒沢幸子「解決志向ブリーフセラピー：森・黒沢のワークショップで学ぶ」ほんの森出版
- 森俊夫「先生のためのやさしいブリーフセラピー：読めば面接が楽しくなる」ほんの森出版
「外書講読」という科目の性質上、英語の教科書を使いますが、上記の日本語文献を参照すると、かなり理解の助けになると思います。
- 松尾太加志(編)「認知と思考の心理学」ライブラリ心理学を学ぶ サイエンス社
現・本学学長の編著書。pp.158-160では、橋本が「企業現場における問題解決」について分担執筆しています。

外書講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の1週は、講師が主体となって、日本語で講義とワークを提供し、Solution Focused Approachそのものに馴染んでもらいます。

1. 講師からの概説：Solution Focused Approach とは？ / 次回以降の担当決め

2週目以降は、受講生の中から毎回、担当を決めて、割り当てられた教科書の部分について、内容を日本語で要約し、パワーポイントのスライドにまとめて、40分ほどで口頭発表してもらいます。その後、講師から解説を加えつつ、受講生全員で議論します。教科書で紹介されているワークを、講義の中で一緒にやってみることもあります。

2. 教科書1章 Solution-Focused Interviewing (part1)
3. 教科書1章 Solution-Focused Interviewing (part2)
4. 教科書2章 Motivation and the Cooperative Relationship (part1)
5. 教科書2章 Motivation and the Cooperative Relationship (part2)
6. 教科書3章 The First Session (part1)
7. 教科書3章 The First Session (part2)
8. 教科書4章 The Subsequent Session
9. 教科書6章 Concluding the Sessions + 教科書12章 Solution-Focused Interviewing from Start to Finish
10. 教科書7章 Other Solution-Focused Skills (part1)
11. 教科書7章 Other Solution-Focused Skills (part2)
12. 教科書8章 Working With Other Professionals
13. 教科書9章 Impasse and Failure

最後の2週は個人発表です。

「本講義で学んだ Solution Focused Approach を、日常生活（たとえば、学校で、バイト先で、友人や家族との間で、など）の中で試してみて、その結果どうなったか？」

このお題について、受講生全員に、個別にパワーポイントをつくって発表してもらい、お互いにコメントしあいましょう。必ずしも劇的な成功が得られなくてもかまいません。試してみることが大切です。

14. 最終課題の個人発表 (1)
15. 最終課題の個人発表 (2) + 講師からのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

教科書の分担部分の発表内容 30%
最終課題の個人発表の内容 30%
毎週の議論での発言頻度と内容 40%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当になっていない日も、毎回必ず、講義時間までに目を通しておくこと。
開講当初から、最終課題を意識しつつ受講し、学んだ内容を日常生活の中で少しずつ試してみてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講師は2016年ごろから"DJ STELLA"を名乗って、北九州市内のコミュニティFMで断続的にパーソナリティをしています。本講義に興味のある学生さんは、ここから15分ほど、電話ゲスト（山口県萩市の公的相談窓口「はぎビズ」で、企業の支援に活躍する若手の女性コンサルタント）と私とのやりとりを聴いてみてください。

<https://youtu.be/37QTYMKFd8s?t=483>

キーワード /Keywords

問題と解決は関係ない どうなっていたい？ 小さな変化こそが大きな変化 あなたのウリは？ 問題より例外の原因追求 自己肯定感

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN222M	◎	○	○		
科目名	金融論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、さまざまな金融取引とそのメカニズムについて、重要な内容を解説する。金融の基本機能と直接金融・間接金融の分類から始まり、それぞれ具体的な金融取引・証券、金融機関の機能を紹介する。後半では、近年日本でも重要性を増している投資信託、資産証券化やESG等について解説し、最後に為替レート、金融政策について近年のトピックを中心に説明する。

(到達目標)

【知識】金融に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】経済データやモデル分析から、金融に関する問題点や解決策を考察できる。

【思考・判断・表現力】専門的な知識を用いた論理的な考察により、金融・経済の動向を分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。オンデマンドのビデオ教材を提供する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡村秀夫・田中敦・野間敏克・藤原賢哉『金融システム論』有斐閣。

池尾和人『現代の金融入門』ちくま新書。

岩田規久男『金融入門』岩波新書。

鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンスと金融の基本機能【資金余剰主体・資金不足主体】
2. 間接金融：銀行の役割【決済システム・信用創造】
3. 直接金融：証券と証券市場(1)【発行市場・流通市場・債券】
4. 直接金融：証券と証券市場(2)【株式・IPO・証券会社・機関投資家】
5. 金融規制【BIS規制・早期是正措置】
6. 日本の金融制度と不良債権問題【メインバンク・不良債権問題・銀行破綻・公的資金注入】
7. 前半まとめ
8. 中間試験
9. 投資信託【投資信託・パッシブ・アクティブ】
10. ESG投資【社会的責任投資・ESGファンド】
11. 資産証券化【資産証券化・SPV】
12. シンジケート・ローン【シンジケート・ローン】
13. 為替レート【購買力平価仮説】【金利平価仮説】
14. 金融政策と中央銀行【公開市場操作・量的緩和政策】
15. 後半まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50%

教場試験 50%

いずれも Moodle で実施する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

オンデマンド・ビデオと合せて、空白の入ったパワーポイント・ファイルも提供するので、ビデオを見る前に、関連する内容をインターネットなどで調べることを勧める。またビデオ視聴後には、空白に入る用語を確認することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融機関、証券、金融市場、不良債権問題・投資信託、資産証券化・ESG・為替レート、金融政策

担当者名 /Instructor 万 軍民 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN223M	◎	○	○		
科目名	金融論特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

1980年代後半では日本経済に激しい資産（土地や株）バブルが起り、1990年代初頭にバブルが崩壊し、平成不況は30年ほど続いて、「失われた30年」と言われるようになった。バブルという問題は、金融面からどのようにとらえるのか、そして、金融が実体経済にどのように影響を及ぼすのかを理解する。

本講義では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、金融の役割と日本の金融制度の特徴を理解する。金融市場、家計貯蓄行動、資産選択理論、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融の役割を理解する。
- ②日本の金融に関する基礎知識を習得し、その制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

福田慎一著、金融論、有斐閣、2013、ISBN 978-4-461--16406-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹著、コーポレート・ファイナンス、改訂版、創成社、2009.04、ISBN 9784794423122

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 教科書第1章 【金融の役割】 市場と金融取引
- 2回 教科書第1章 【金融の役割】 直接金融、間接金融
- 3回 教科書第1章 【金融の役割】 資産変換、情報生産、取引費用の節約
- 4回 教科書第2章 【貯蓄と危険回避的行動】 家計の貯蓄行動
- 5回 教科書第2章 【貯蓄と危険回避的行動】 利子率変化と貯蓄
- 6回 教科書第2章 【貯蓄と危険回避的行動】 期待効用仮説、危険回避度、客観的確率、主観的確率
- 7回 教科書第3章 【最適な資産選択】 平均分散アプローチ
- 8回 教科書第3章 【最適な資産選択】 最適なポートフォリオ
- 9回 教科書第3章 【最適な資産選択】 分離定理、CAPM、貯蓄から投資へ
- 10回 教科書第4章 【資産価格と資産選択】 効率的市場仮説と裁定、債券市場
- 11回 教科書第4章 【資産価格と資産選択】 金利の期間構造、株式市場
- 12回 教科書第4章 【資産価格と資産選択】 バブル、投機、資産価格のボラティリティ
- 13回 教科書第5章 【企業の資金調達】 設備投資、資金需要
- 14回 教科書第5章 【企業の資金調達】 生産の不確実性、有限責任、資金賃貸市場
- 15回 教科書第5章 【企業の資金調達】 情報の非対称性、不完備契約、信用割当

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容確認課題...40%、期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 教科書を必ず事前に入手し、予定講義内容を予習しておく。
- 2 講義後には、ノートと教科書を用いて、講義内容について復習し、理解を深めておく。
- 3 宿題を解いて、期限まで提出する。

履修上の注意 /Remarks

- 1 資料などは、MOODLEから入手しておくこと。
- 2 毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日々起こっている重大な経済社会問題に対して、受講生諸君は、「なぜ」という探求心を持っているだろうと思います。それらの問題の発生メカニズム及び対策に対して、世界各地の学者が日々に「知」を創り上げています。大学での授業は、これら最新の「知」まで触れる機会を提供しており、受講生諸君はきっと「知」に刺激され、「知」の楽しさを味わうことで、自ら「知」の創成を試みるでしょう。受講生諸君は私と一緒に楽しく頑張りましょう。

キーワード /Keywords

資産変換、情報生産、銀行、債券

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN226M	◎	○	○		
科目名	公共経済学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話を聴くだけでなく、積極的に発表、質問してもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

(到達目標)

【知識】

公共経済学を（体系的かつ総合的に）理解している。

【技能】

公共経済学で取り扱う課題に対し必要な高度な分析手法を適切に運用できる能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、公共政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済（有斐閣ストウディア）』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース 公共経済学』新成社○
 井堀利宏（2005）、『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社○
 マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
 スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 外部講師による講演 1
- 14回 外部講師による講演 2
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト（12回）...40%、課題...10%、期末試験...50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス論【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN333M	◎	○	○		
科目名	ファイナンス論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ファイナンスは、学生のみなさんの生活に役立つ知識です。またファイナンスは、本質を理解すれば、難しくありません。講義では、始めに、現在の金融環境を俯瞰することによって、ファイナンスの知識の必要性を理解してもらいます。そして、現代ファイナンス理論の根幹である現在価値分析について、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式など、具体的な事例を題材にして、理解を深めます。後半は、さまざまな証券を組み合わせた、いわゆるポートフォリオにおける、リターンとリスクについて学びます。

ファイナンスの勉強はステップ・バイ・ステップで積み上げていくことが大切なので、講義では理論の説明と問題演習を交互に行い、全員が100%理解することを目指します。学生のみなさんは、直感的・論理的にファイナンスを理解できるようになり、身につけた知識を実生活に活かすことができるようになります。

(到達目標)

【知識】ファイナンスに関する専門的な知識を身につけている。

【技能】ファイナンスに関する分析手法を適切に運用できる能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】ファイナンスに関する諸問題について、論理的に思考して対策を検討することができる。

教科書 /Textbooks

榊原&城下&姜&福田&岡村著(2013)『入門証券論 [第3版]』有斐閣

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ブリーリー&マイヤーズ&アレン著、藤井・国枝監訳(2014)『コーポレート・ファイナンス 第10版 上』『コーポレート・ファイナンス 第10版 下』日経BP社
- 小林孝雄・芹田敏夫(2009)『新・証券投資論 [I]』日本経済新聞出版社
- 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣(2009)『新・証券投資論 [II]』日本経済新聞出版社
- 日本証券アナリスト協会編『証券投資論 第3版』日本経済新聞社
- 三井住友信託銀行マーケット事業(2020)『第7版 投資家のための金融マーケット予測ハンドブック』NHK出版
- 筒井義郎・佐々木俊一郎・山根承子・グレッグ・マルデワ(2017)『行動経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：ファイナンスとは、ファイナンスを勉強する効用
- 2回 投資の基本概念【現在価値】【将来価値】【キャッシュ・フロー】
- 3回 投資の基本概念【内部収益率】
- 4回 債券(1)【機関投資家】【債券の種類】【債券のリスク】
- 5回 債券(2)【単利】【複利】
- 6回 株式(1)【インカム・ゲイン】【キャピタル・ゲイン】【株価指数】
- 7回 株式(2)【配当割引モデル】
- 8回 行動ファイナンス【プロスペクト理論】【価値関数】【損失回避】
- 9回 ポートフォリオ理論(1)【期待収益率】【投資リスク】【分散】【標準偏差】
- 10回 ポートフォリオ理論(2)【分散】【標準偏差】に関する練習問題
- 11回 ポートフォリオ理論(3)【選好】
- 12回 ポートフォリオ理論(4)【相関度】【相関係数】【分散投資効果】
- 13回 ポートフォリオ理論(5)【効率的フロンティア】【分離定理】
- 14回 CAPM(資本資産評価モデル)(1)【資本市場線】【証券市場線】
- 15回 CAPM(資本資産評価モデル)(2)【ベータ】

ファイナンス論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験または中間レポート... 50% 期末試験または期末レポート... 50%
課題の提出は、成績が境界上にある場合に、プラスに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の後、解答を見ないで問題がすらすら解けるようになるまで復習してください。
- ・ 日本経済新聞を購読して、金融・経済・経営に関する記事を中心に、毎日読んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 毎回授業に出席して、内容を100%理解するように努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN328M	◎		○		○
科目名	環境経済学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

(到達目標)

【知識】

環境経済学を (体系的かつ総合的に) 理解している。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、環境・エネルギー政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

【自立的行動力】

環境・エネルギー問題への関心とキャリア意識を持ち続け、持続可能な社会に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木 (2008)、『環境経済学をつかむ』有斐閣
 時政・藪田・今泉・有吉編 (2007)、『環境と資源の経済学』勁草書房○
 日引 聡、有村俊秀 (2002)、『入門 環境経済学』、中公新書○
 マンキュー (2005)、『マンキュー経済学! ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社○
 R. K.ターナー他 (2001)、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

環境経済学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
また、3回程度、外部講師による講演も行う予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。
経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN322M	◎	○	○		
科目名	産業組織論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。特に産業組織論では、独占禁止政策（競争政策）に焦点を当て、公正な競争のあり方とは何かについて考える。できるだけ個別に産業・企業をとりあげ、独占禁止法上（競争政策上）の問題をケース・スタディによって具体的にみながら、産業における市場のパフォーマンスを引き上げるためにどのような政策がとられているかについてみていく。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②独占禁止政策を理解する。
- ③独占禁止政策によって産業のパフォーマンスがどのように改善されるかについて理解する。

教科書 /Textbooks

小田切宏之著『競争政策論（第2版）』日本評論社 2017年
小田切宏之著『産業組織論』有斐閣 2019年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

花園誠著『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣 2018年
大橋弘『競争政策の経済学』日本経済新聞出版 2021年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義全体の概略の説明
- 2回 競争政策(1) 競争政策とは何か? 独占禁止法入門
- 3回 競争政策(2) 競争政策はなぜ重要か? 独占禁止法の解説(外部講師の招へい)
- 4回 産業組織論的方法論的基礎 SCPパラダイム: 市場構造・市場行動・市場成果
- 5回 市場の諸類型(1) 市場構造と競争形態(完全競争・独占・寡占・独占的競争)
- 6回 市場の諸類型(2) 市場構造と競争形態(ハーフィンダール指数)
- 7回 コンテストアブル・マーケット 航空産業の事例
- 8回 地域独占産業の事例 日本の電力システムの構造改革
- 9回 共謀と暗黙の協調 カルテル(談合)と暗黙の協調
- 10回 M&Aについて(1) M & Aの定義・理論
- 11回 M&Aについて(2) 事例研究
- 12回 垂直的取引制限 再販と二重の限界性、販売サービスただ乗り問題、資生堂による対面販売の義務付け
- 13回 ネット取引とプラットフォーム プラットフォームという考え方、双方向市場の競争政策
- 14回 イノベーションと知的財産権 知的財産権 短期効率性と長期的効率性のトレードオフ、特許制度と競争政策
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび定期試験(論述問題・計算問題など)で総合的に評価する。なお、感染状況によっては定期試験の代わりに期末レポートを課すこともある。その場合は、講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび期末レポートで総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論特講【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN323M	◎	○	○		
科目名	産業組織論特講				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。本講義では、現代を代表するさまざまな産業をとりあげ、その産業の歴史的発展に注意しながら、どのようなメカニズムで産業が進化・発展していくのかを産業組織論の観点から探求する。できるだけ個別に企業・産業をとりあげ、各企業の企業戦略をケース・スタディによって具体的にみながら、企業や産業の構造・戦略的行動および政府による政策的効果が市場の成果にどのような影響を及ぼすかを理解することを目標とする。とりあげる産業としては、ビール産業、自動車産業、情報通信産業などである。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②代表的な産業の歴史的な発展のメカニズムを理解する。
- ③政府による産業政策や競争政策、規制のあり方が産業のパフォーマンスにどのような影響を及ぼすかを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之『日本産業三つの波』NTT出版
小田切・後藤『日本の企業進化』東洋経済新報社
浅羽茂『競争と協調の戦略』日本評論社
伊丹・加護野・小林・榊原・伊藤『競争と革新 自動車産業の企業成長』東洋経済新報社
丸山恵也・小栗崇資・加茂紀子『自動車産業』大月書店
奥野・南部・鈴村『日本の電気通信-競争と規制の経済学』日本経済新聞社
福家秀紀『情報通信産業の構造と規制緩和-日米英比較研究』日経ビジネス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 講義全体の概略の説明、戦後経済・産業の歩み
- 2回 個別産業の研究 ビール産業(1) ビール産業の歴史、ビール産業のシェアの変動
- 3回 個別産業の研究 ビール産業(2) ドライ戦争：ス・バードライの事例研究
- 4回 個別産業の研究 ビール産業(3) 味覚戦争：製品差別化とは(水平的差別化と垂直的差別化) 味覚地図
- 5回 個別産業の研究 ビール産業(4) 発泡酒戦争の事例研究
- 6回 個別産業の研究 ビール産業(5) ビール産業の価格戦略(カルテルとプライスリーダーシップ)
補論：ドイツ・オランダの価格戦略
- 7回 個別産業の研究 自動車産業(1) 米国の自動車産業の歴史
- 8回 個別産業の研究 自動車産業(2) 日本の自動車産業の歴史、日本の産業政策
- 9回 個別産業の研究 自動車産業(3) 自動車産業の国際戦略・世界的再編
- 10回 個別産業の研究 自動車産業(4) トヨタ生産システムとその進化
- 11回 個別産業の研究 自動車産業(5) CASE戦略：自動車産業の100年に一度の大変革
- 12回 個別産業の研究 自動車産業(6) CASE戦略による産業構造の変化
- 13回 個別産業の研究 情報通信産業(1) 規制改革と民営化の理論
- 14回 個別産業の研究 情報通信産業(2) 電電公社の民営化・規制改革-第1次情報通信改革-
- 15回 個別産業の研究 情報通信産業(3) 第2次情報通信改革 ブロードバンド・インターネット時代の規制政策
全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび定期試験(論述問題・計算問題など)で総合的に評価する。
なお、感染状況によっては定期試験の代わりに期末レポートを課すこともある。その場合は、講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび期末レポートで総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN227M	◎	○	○		
科目名	労働経済学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な「労働市場」の考え方を中心に解説します。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

(到達目標)

【知識】労働経済に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】経済学的分析手法を労働市場に活用するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】労働市場の経済学の問題とその原因を論理的に推測し、その対策を検討することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』, 大橋勇雄, 中村二郎著, 有斐閣.
『労働経済学』, 樋口美雄, 東洋経済新報社.
『仕事の経済学』, 小池和男著, 東洋経済新報社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 経済学の視点から見た労働 【労働】【給与水準】
- 第2回 社会的分業と生産性 【分業の利益】【規模の経済】
- 第3回 労働市場という概念と機能 【労働力の取引】【労働市場】
- 第4回 労働力の質の質と技能 【人的資本】【一般的・企業特殊の技能】
- 第5回 企業の労働需要 【労働の限界収入】【企業の労働需要曲線】
- 第6回 市場の労働需要 【代替と補完】【市場の労働需要曲線】
- 第7回 個人の労働供給 【労働の限界不効用】【個人の労働供給曲線】
- 第8回 市場の労働供給 【市場の労働供給曲線】【労働移動】
- 第9回 労働市場のメカニズム 【市場メカニズム】【補償賃金】
- 第10回 中間課題
- 第11回 労働市場への介入とその帰結 【価格規制】【数量規制】
- 第12回 失業の原因と対策(1) 【オウクンの法則】【賃金の下方硬直性】
- 第13回 失業の原因と対策(2) 【ミスマッチ】【摩擦的失業】【構造的失業】
- 第14回 公的部門の労働市場 【公的部門】【民間準拠】
- 第15回 労働市場の内部化 【内部労働市場】【正社員】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容確認テスト(20%) + 中間課題(30%) + 期末試験or期末課題(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題を提示しますので取り組みましょう。
参考資料を提示するので各自で読みましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業時間内に課題に取り組むことがあります。課題に回答するためにはスマートフォンやPC等が必要です。持参しましょう。毎回、Moodleコースを閲覧しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会的分業、労働市場、失業、

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN228M	◎	○	○		
科目名	労働経済学特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業扱うのは、労働経済学の中でも「人事経済学(Personnel Economics)」といわれる分野です。「人事経済学」とは、経営学の分野でいうところの「人的資源管理」について経済学的アプローチにより考察する分野であるといえます。企業の生産性を左右する主要因の一つは「ヒト」です。企業は適切な人材を採用し、適切に訓練し、適切な職務配置を行う必要があります。どのような人をどのようにして選び採用すべきなのか、誰をどの程度訓練すべきか、といった人事上の基本的な課題を考えます。

(到達目標)

【知識】人事経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】経済学的分析手法を人事に活用するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】人事の経済学的問題とその原因を論理的に推測し、その対策を検討することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『組織の経済学』, ポール・ミルグロム, ジョン・ロバーツ著 (奥野正寛他 訳) NTT出版.
『人事と組織の経済学』, エドワード・ラジアー著 (樋口美雄・清家篤訳), 日本経済新聞社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人事マネジメントとは 【人事経済学】
- 第2回 組織構造とインセンティブ 【情報伝達】【インセンティブ】【権限】
- 第3回 組織とフリーライド問題(1) 【ナッシュ均衡】【フリーライド】
- 第4回 組織とフリーライド問題(2) 【監督者】【残余利潤請求権】
- 第5回 事業規模と雇用量 【限界基準】【代替と補完】
- 第6回 採用選抜 【スクリーニング】【自己選抜】
- 第7回 雇用調整(1) 【調整費用】【長期的視野】
- 第8回 雇用調整(2) 【採用費用】【解雇費用】
- 第9回 離職と解雇 【解雇規制】【割増退職金】
- 第10回 インセンティブと報酬体系(1) 【参加制約】【インセンティブ制約】
- 第11回 インセンティブと報酬体系(2) 【プロフィットシェアリング】【モニタリング問題】
- 第12回 インセンティブと報酬体系(3) 【固定給】【出来高給】
- 第13回 報酬体系の設計(1) 【投入量ベース】【産出量ベース】
- 第14回 報酬体系の設計(2) 【絶対評価】【相対評価】
- 第15回 報酬体系の事例 【俸給表】【コミッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容確認テスト(30%) + 中間課題2回(40%) + 期末試験or期末課題(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

練習問題を提示するので取り組むこと。参考資料を提示するので各自で読むこと。

履修上の注意 /Remarks

授業時間内に課題に取り組むことがあります。課題に回答するためにはスマートフォンやPC等が必要です。持参しましょう。毎回、Moodleコースを閲覧しましょう。

履修済みであることが望ましい科目：労働経済学

並行学習が効果的である科目：人事管理論、経営組織論、雇用関係法

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事経済学、インセンティブ設計、報酬体系、採用、離職、解雇

国際金融論 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN334M	◎	○	○		
科目名	国際金融論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。なお、各講義の最後に、練習問題を解答・提出し、次の回でその解説をして理解を深めることがある。

(到達目標)

【知識】国際金融に関する幅広く基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】国際金融の諸問題を理解するために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】国際金融の諸問題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥田宏司ほか編 (2020) 『深く学べる国際金融』(法律文化社)、2400円+税(価格は変更の可能性あり)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
- 3回 国際収支表 【フロー統計】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
- 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
- 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
- 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
- 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
- 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
- 15回 まとめと総復習 【24時間ディールング】

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。授業の後には、講義内容を承けて、ノートを加筆修正すること。(予習、復習それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること（URLなどは最初の授業で説明する）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論特講【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN335M	◎	○	○		
科目名	国際金融論特講				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

(到達目標)

【知識】 国際金融に関する専門的かつ応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 国際金融の諸問題について、自分の見解を導き出すために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 国際金融の諸問題について、総合的かつ論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の意見を適切な方法で発信することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥田宏司ほか編 (2020) 『深く学べる国際金融』法律文化社、2400円 + 税 (価格は変更の可能性あり)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
- 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
- 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
- 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
- 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
- 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
- 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
- 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
- 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
- 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
- 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
- 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーデンス政策】
- 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
- 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。(予習、復習、それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN237M	◎	○	○		
科目名	日本経済史			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、主に18世紀末から19世紀（江戸時代中頃から明治時代）の日本経済について論じていきます。特にここでは、「グローバルヒストリー」の観点から、「産業革命」を境とした世界の変化が、日本の経済に及ぼした影響について考察していくつもりです。

※「グローバルヒストリー」とは、人類史的な観点に立ち、世界的潮流や世界との相互連関を通じて、国・地域の歴史を把握しようとする試みのこと。

「産業革命」以前の社会では、その生産力の低さゆえに、度々、貧困や飢餓が招かれてきました。こうした時代、足りない「富」はしばしば他国から調達されることとなり、「富」の掠奪（りやくだつ）を目的とした戦争や侵略が、歴史上、繰り返されてきました。

しかし「産業革命」を機に、状況は一変します。「革命」を達成したヨーロッパでは、全ヨーロッパの総需要を遥かに上回る「富」の供給が可能となり、それとともに他国からの「富」の掠奪ではなく、新たな市場の開拓という、まったく新たな経済的動機が発生することとなります。

この結果、経済活動は一気にグローバル化し、アジアやアフリカ、南米は、ヨーロッパの市場として再編され、あるいは植民地となっていくこととなりました。

本講義では、まずこのような「産業革命」を契機とした「革命的」な変化について論じ、日本が19世紀、いかなる世界的潮流の下に置かれることとなったのかを考察します。

そのうえで、同時代における日本の選択を検証することで、日本が植民地化の危機を逃れ、アジアで最初の工業国へと台頭していくこととなったプロセスを、世界史的な観点から明らかにしていきます。

到達目標：

【知識】日本経済に関する幅広い知識を総合的に身につけている。

【技能】経済史の理解に必要な情報を分析することができる。

【思考・判断・表現力】日本経済を歴史的に思考することで、現代の状況を相対化して理解・判断することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

日本経済史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会を歴史的に科学する意義
- 第2回 「マルサスの罠」
- 第3回 戦(いくさ)と掠奪(りやくだつ)の経済史
- 第4回 「マルサスの罠」と日本人 - 近世の日本人の選択 -
- 第5回 「勤勉革命」
- 第6回 生産力の肥大化 - 「産業革命」と経済のグローバル化 -
- 第7回 「豊かな国」と「貧しい国」 - 経済格差の構造化 -
- 第8回 東アジアを巡る攻防 - 「ペリー来航」の経済史的意義 -
- 第9回 世界経済システム下での日本 - 「開国」とその影響 -
- 第10回 「明治維新」の経済史的意義 - 外資の排除と技術移転 -
- 第11回 日本人の文化的資質と技術移転
- 第12回 「文明」の衝突 - なぜアジアは「革命」を輸入できなかったのか -
- 第13回 近代日本のアドバンテージ - 機械生産が普及した理由 -
- 第14回 日本版「産業革命」の始動
- 第15回 「グローバルヒストリー」としての日本経済

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 日常での授業への取り組み...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。このレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに“考える”意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 歴史学 産業革命

ビジネス英語 A (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG333M		○		◎	○
科目名	ビジネス英語 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 英語を用いた基本的なビジネスコミュニケーションができる。
【コミュニケーション力】 英語を用いてビジネスを想定した基本的な意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。
【自立的行動力】 ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。
 Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of both Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%
 Homework 10%
 Quizzes and Presentations 40%
 Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed.

履修上の注意 /Remarks

ビジネス英語 A (選抜クラス) 【昼】

専門教育科目
選択科目A
地域・産業系

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG333M		○		◎	○
科目名	ビジネス英語A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 英語を用いた基本的なビジネスコミュニケーションができる。
【コミュニケーション力】 英語を用いてビジネスを想定した基本的な意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。
【自立的行動力】 ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。
 Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of both Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%
 Homework 10%
 Quizzes and Presentations 40%
 Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

ビジネス英語 A 【昼】

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG333M		○		◎	○
科目名	ビジネス英語 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 英語を用いた基本的なビジネスコミュニケーションができる。
【コミュニケーション力】 英語を用いてビジネスを想定した基本的な意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。
【自立的行動力】 ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。
 Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of both Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%
 Homework 10%
 Quizzes and Presentations 40%
 Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

ビジネス英語B (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG334M		○		◎	○
科目名	ビジネス英語B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 英語を用いた流麗なビジネスコミュニケーションができる。
【コミュニケーション力】 英語を用いてビジネスを想定した深い意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。
【自立的行動力】 ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、グローバル社会の構築に向けて貢献できる姿勢を身につけている。
 Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%,
 Homework 10%,
 Quizzes and Presentations 40%,
 Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed.

ビジネス英語 B (選抜クラス) 【昼】

専門教育科目
選択科目A
地域・産業系

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG334M		○		◎	○
科目名	ビジネス英語B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 英語を用いた流麗なビジネスコミュニケーションができる。
【コミュニケーション力】 英語を用いてビジネスを想定した深い意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。
【自立的行動力】 ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、グローバル社会の構築に向けて貢献できる姿勢を身につけている。
 Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%,
 Homework 10%,
 Quizzes and Presentations 40%,
 Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG334M		○		◎	○
科目名	ビジネス英語B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of both Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

到達目標

【技】を用いた基本的なビジネスコミュニケーションができる。

【コミュニケーション力】を用いてビジネスを想定した基本的な意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力をつけている。

【律的行動力】ビジネスへの心とキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Not applicable

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

経済地理学 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN230M	◎		○		○
科目名	経済地理学			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

(到達目標)

【知識】立地論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業の立地法則について、論理的に思考して立地行動を探索、判断し論理的に表現することができる。

【自立的行動力】企業立地への関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地 【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習と課題 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習と課題 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学特講や地域経済、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学特講【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN231M	◎		○		○
科目名	経済地理学特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済地理学特講は、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学で学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

なお、今年度は受講者が多くなり、コロナ感染対策からメディア授業となる可能性があります。その際は、Moodleに動画をアップし、オンデマンドで視聴していただくこととなります。

(到達目標)

【知識】都市論および地域論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】都市の立地法則や地域構造の成り立ちについて、論理的に思考して法則性を探求、判断し論理的に表現することができる。

【自立的行動力】都市の立地や地域の成り立ちへの関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィス立地と都市 【オフィス】【本社・支社】【中枢都市】【都市の階層化】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】【公共施設立地】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【近代化】【産業構造】【国土構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【発展なき成長】【東京一極集中】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験(オンデマンドの場合は最終課題になります。) ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学や地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

地域政策【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN234M	◎		○		○
科目名	地域政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で全国的な視点からの地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

DPに基づく到達目標

- 《豊かな「知識」》
地域政策に関するニュースや文書を読んで理解することができる。
- 《時代を切り開く「思考・判断・表現力」》
地域課題に対する対策と地域のビジョンを提案することができる
- 《社会で生きる「自立的行動力」》
地域課題や政策を自分自身の生活と関連づけて説明することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。
配布プリントをもとに授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しません。
講義ごとに読むべき文献があれば授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のグランドデザインと国土形成計画について
- 8回 人口減少のインパクトと地方創生政策
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの
- 10回 新産業育成と地域政策
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 交流人口、関係人口と移住政策
- 13回 地域問題解決の新たな手法
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート（20%）と期末テスト（80%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、1) 講義後に配布プリントを見直し重要なポイントを3つにまとめること、2) 事前課題がある場合には準備をして講義に臨むことを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

この授業の一部には、学生が主体的に参加するワークショップ形式の内容を含みます。積極的に発言してください。
なお、受講人数や新型コロナの状況によっては、ワークショップ形式は実施できない場合があります。また、遠隔授業になった場合には、シラバス掲載内容を一部変更する場合があります。変更についてはmoodleに掲載します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、地域間格差、新たな公共、地域経営

北九州経済分析【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN235M	◎			○	○
科目名	北九州経済分析			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

1～6回は、北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、着目すべき企業や経営者について解説し、五市合併によって北九州市が誕生するまで考察をします。
 7～8回は、サービス経済化を意識しつつ、1980年代以降の北九州市の変遷をトピックをあげながら福岡市と比較分析します。
 9～12回は、都市としての北九州市の変容過程を説明するとともに、小倉などの中心市街地の様々な再開発に加え、東田開発などの大規模開発について具体的に考察します。また、12回目については福岡の天神の再開発にも言及します。
 13回は、北九州市と福岡市の将来人口を比較分析し、将来のそれぞれの都市のあり方を展望します。
 そして、14～15回は、北九州を中心とした九州の企業について包括的に分析します。
 受講生には日常的に北九州市の経済社会や地元の企業の動向に興味を持って授業に望んで欲しいと思います。

(到達目標)

- 【知識】北九州経済に関する幅広い知識を体系的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州経済について体系的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
- 【自立的行動力】北九州経済への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

Moodleにより資料を配布します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』(2010年10月)
- 九州経済調査協会編『図説九州経済2021』(2020年10月)
- 北村亘『政令指定都市』(2013年7月)
- 田中優子『遊郭と日本人』(2021年10月)
- 宮崎学『ヤクザと日本』(2008年1月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プロローグ【ガイダンス】、【リアリティ】
- 2回 筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【若松港】、【沖仲士】、【筑豊御三家】、【ヤクザ】
- 3回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【軍都】、【小倉造兵廠】
- 4回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】、【日産コンツェルン】
- 5回 戦後の北九州の躍動【傾斜生産方式】、【基盤産業】、【松本清張】、【ゼンリン】、【丸和】
- 6回 北九州市の誕生と政令指定都市【5市合併】、【政令指定都市】、【ロボット】、【リードフレーム】
- 7回 1980年代以降の北九州と福岡【サービス産業】、【サービス経済化】、【産業構造】、【高速交通体系】
- 8回 近年の北九州と福岡【サービス産業】、【サービスプロフィットチェーン】、【雇用吸収力】
- 9回 都心の変容と再都市化【都心】、【再都市化】、【ダウンサイジング】、【都心回帰】
- 10回 中心市街地とジェントリフィケーション【ジェントリフィケーション】【歓楽街】、【都心機能】
- 11回 都市再開発の諸相【東田開発】、【スペースワールド】、【科学館】、【アウトレット】
- 12回 再開発による福岡(天神)の長期変容【天神ビッグバン】、【再開発】、【オフィスビル】
- 13回 北九州市と福岡市の将来人口【人口予測】、【既に起こった未来】、【長寿化】、【人口減少社会】
- 14回 九州の企業・北九州の企業【製鉄関連企業】、【環境関連企業】、【グループ経営】、【上場企業】
- 15回 九州の企業・北九州の企業II【売上高ランキング】、【利益ランキング】、【インテグニティ】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義後に実施するFormsによる小テスト100% (10回×10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業前に講義で活用するパワーポイントや資料などをmoodleにアップしますので、各自きちんと活用してください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、少子化、長寿化、地域企業、グループ経営、業態変化、中心市街地、繁華街

北九州経済分析特講 【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN236M	◎			○	○
科目名	北九州経済分析特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

北九州の産業経済の動向を分析しつつ、そこで活躍する企業と経営者に焦点をあてて、イノベーションについて考察します。よって、まずはイノベーションとは何かを考え、イノベーションに必要な条件やイノベーションを導く人材について学習します。そのうえで、北九州市の企業や経営者を具体的にフォーカスし、イノベーションをキーワードに地域企業の経営戦略について一緒に考えていきたいと思います。
 なお、本授業においては、北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）を修了しないしは在学中で、現場で活躍している経営者4名をゲストスピーカーとして招いて講義して頂く予定です。各ゲストスピーカーの事例や経験から現場の実情をしっかりと学んで下さい。

(到達目標)

【知識】北九州経済に関する専門的かつ応用的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州経済について総合的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【自立的行動力】北九州経済への関心とキャリア意識を持ち続け、望ましい地域社会の構築に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

毎回ごとに事前にMoodleで資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○P. F. ドラッカー『イノベーションと企業家精神』ダイヤモンド社 (2001年12月)
 クレイトン・クリステンセン他『イノベーションのDNA』翔泳社 (2012年1月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域のリーダー、地域のマネジャー【リーダーシップ】、【マネジメント】、【マネジメントの3要素】
 - 2回 イノベーションと企業家精神【企業家】、【起業家】、【起業】
 - 3回 イノベーションのDNA【イノベーション】、【関連付ける力】、【新・結合】
 - 4回 《事例研究1》起業家による生活視点のイノベーション【アイデア】、【イノベーション】
 - 5回 サービス経済化とイノベーション【サービス産業】、【新サービス】、【IT】
 - 6回 《事例研究2》花火ビジネスのイノベーション【アイデア】、【効率化・有効化】
 - 7回 イベントにおけるイノベーションの実態【東京ガールズコレクション】、【かわさきパン博】
 - 8回 イノベーションとしての北九州の環境産業【環境産業】、【エコタウン】、【再生資源】
 - 9回 《事例研究3》中小環境関連企業の新規事業戦略【新規事業創出】、【多角化】、【放置竹林】
 - 10回 企業における多角化戦略の実践【コア・コンピタンス】、【アンゾフの成長ベクトル】、【外部環境変化】
 - 11回 観光産業におけるイノベーションの変遷【別府】、【由布院温泉】、【黒川温泉】
 - 12回 北九州における観光産業の可能性と課題【門司港レトロ】、【インバウンド】、【世界遺産】
 - 13回 《事例研究4》お土産のイノベーション【関連付ける力】、【商品開発】、【コラボレーション】
 - 14回 成熟時代の地域振興～あるもの探しの意義～【地域資源】、【地方創生】、【ブランディング】
 - 15回 まとめ～北九州経済の今後とイノベーションの可能性【新規事業】、【イノベーション】
- * 4回目、6回目、9回目、13回目の授業にゲストスピーカーを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゲスト招聘時に課す小レポート60% (4回×15%) 課題レポート20% (1回) 定期試験20% (1回)
 なお、小レポート(4回)および課題レポートを提出せず、定期試験を受験しなかった者は、成績不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業終了後に速やかに講義で活用したパワーポイントや資料や参考レポート等をできるだけ Moodle にアップしますので、各自きちんと振り返りをしてください。
また、ゲストスピーカーの講義の前には、ゲストスピーカーの所属する企業をきちんと情報収集してください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）のOBの方々をゲストスピーカーとして招聘しますので、ゲストスピーカーの方々のマネジメントやリーダーシップについて意識して聞いてください。

キーワード /Keywords

地域企業、新事業創出、イノベーション、関連づける力、コラボレーション、地域資源、リーダーシップ、マネジメント

地方財政論 【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN330M	◎		○		○
科目名	地方財政論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方は何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

(到達目標)

【知識】 地域財政に関する専門的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 地方財政について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【自立的行動力】 地方財政への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 財政とはなにか
2. 住民生活と地方財政
3. 財政の役割と機能
4. 公共財の理論
5. 国と地方の財政関係
6. 租税原則と地方税
7. 地方財政計画
8. 財政調整制度
9. 中間試験
10. 自治体財政分析
11. 財政破綻の教訓
12. 地方財政と地域経済
13. 地方財政と福祉政策
14. 財政の自治を考える
15. 地方財政のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% 期末試験 60%
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 園 康寿 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN331M	◎		○		○
科目名	中国経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業目標

- ①テキストを通して中国経済の歩みの学び、今日の中国の動向に関してその理由を概説できる。
- ②テキストを通して中国経済に関する基本的な専門語句を説明できる。
- ③テキストを通して中国経済に関する自身の基準値（価値観）を再構築し言語化できる。

受講生の皆さんはテキスト『超大国 - 中国のあゆみ』を輪読（担当箇所の発表）しながら、各テーマの現状・課題の理解を進めていきます。毎週ひとつのテーマを取り扱い、意見交換をしながら、テーマに関する課題を皆さんなりに整理し言語化できるように授業を進めていきたいと考えています。

担当部分の発表にあたってはテキストの内容をまとめるだけでなく、専門語句の意味調べや統計資料の追加調べなど記述をそのまま鵜呑みするのではなく、著者の論調に刺激を受けながら、事実確認していく意識で発表に臨んでいきます。取り扱うテーマについては授業内容を参照してください（なお、毎回一つのテーマを終了し、授業計画に沿ったテーマを扱う予定ですが、計画通りに進まない場合もありますので、ご了承ください）。

また、学習レポートとして「中国に関する動向チェック」（中国ニュースの列挙）と「各章のまとめ」（図解作成：読解力・表現力の養成）を課していく予定です。加えて、発表担当者はテキストに示された原典（主に雑誌）を図書館で探し、それをコピーし一部を提出してもらいます（資料収集能力、事実確認と当時の知的関心のトレーニングの意）。

教科書 /Textbooks

テキスト：巖善平『超大国 中国のあゆみ』見洋書房、2021年、2,800円＋税
ISBN:978 - 4 - 7710 - 3442 - 6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各テーマの授業進度に従って適宜紹介をする。

中国経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業テーマは以下の通りです(字数制限により一部省略。フルバージョンは初回授業時に配布予定)。一回の授業で一つのテーマを取り扱っていく予定ですが、授業進度によっては2回分を使って一つのテーマを扱うこともあります。

- 【1回目】中国の経済大国化と日中関係
1. 世界経済における中国のプレゼンス 2. 日本から見る米・中・アセアンとの経済関係
3. 中国から見る日・米・アセアンとの経済関係 4. アセアンから見る対外貿易の構造変化
5. 中国と日本とアセアンの三者関係 6. 日中関係の今後
- 【2回目】経済成長とそのメカニズム
1. 中国経済はなぜ成長したか：(『PS Journal』第11号、2007年11月) 2. 7%成長の継続は可能：(『日本経済新聞』2012年11月22日)
3. 中国が少子高齢化でも成長し続ける理由：(『プレジデント』2014年、12月29日)
4. 「成長の為に成長」が限界を迎えた中国経済：(『週刊東洋経済』、2012年6月16日)
- 【3回目】経済格差の実態と形成要因
1. 目立ち始めた中国経済の歪み：(『世界週報』、2002年10月1日、『経済セミナー』2005年6月) 2. 個人所得税法の改正、格差解消に踏み込まず：(『週刊東洋経済』、2011年8月27日) 3. 固定化される所得格差、体制内改革は限界に：(『週刊東洋経済』、2013年2月23日)
4. 中国の住宅バブルのトリック：(『東亜』、2019年1月)
- 【4回目】貧困削減の政策と課題
1. 「制度的差別」でとり残される「絶対的貧困」：(『リベラルタイム』、2007年11月) 2. 新たな局面を迎えた中国の農村貧困と経済格差：(『東亜』、2019年10月)
- 【5回目】三農問題と農政の転換
1. 中国の農業と農政：(『農業と経済』、2007年7月) 2. 中国農業、大転換が必要：(『日本経済新聞』、2002年4月12日) 3. 中国における農業組織化の展開プロセス：(『農林業問題研究』、2005年3月) 4. 中国は三農問題を克服できるか：(『公庫月報』、2006年3月) 5. 中国の農業、農村と農民問題：(『経済セミナー』、2010年8・9月)
- 【6回目】農産物貿易と食糧問題
1. どうなる今後の農産物の対中輸出：(『農業山形』、2007年6月) 2. 日中農産物貿易における戦略的互惠関係の構築を急げ：(『地域農業と農協』、2007年12月) 3. 中国農業の基本問題を考える：(『オルタ』、2009年9・10月) 4. 食料は足りているのか、信頼性を欠く農業統計：(『週刊東洋経済』、2011年10月1日)
- 【7回目】新三農問題のゆくえ
1. 中国の新三農問題とその根源：(『東亜』、2018年4月) 2. 中国の二重社会と農村の凋落：(『東亜』、2018年10月) 3. 中国農業の地殻変動と土地制度改革：(『東亜』、2019年4月)
- 【8回目】少子高齢化のいま
1. 高成長といびつな男女比率、功罪半ばの一人っ子政策：(『週刊東洋経済』、2010年11月27日) 2. 国民皆年金がスタート、少子高齢化で前途多難：(『週刊東洋経済』、2011年3月19日) 3. 急ピッチで進む高齢化、一人っ子政策は限界：(『週刊東洋経済』、2011年6月11日) 4. このままで豊かになる前に老いる「未富先老」：(『週刊エコノミスト』、2011年9月27日)
- 【9回目】農民工問題の諸相
1. 大上海の繁栄と民工：(『上海経済交流』、2005年4月) 2. 農民工の人権改善迫られる：(『日本経済研究センター会報』、2006年3月) 3. 中国の労働力不足、主因は農民差別：(『世界週報』、2006年10月24日) 4. 社会を憎悪する農民工2世、数千万人：(『週刊エコノミスト』、2006年10月9日)
- 【10回目】労働市場の変容
1. 変化する中国産業構造と労働市場：(『労働調査』、2016年5月) 2. 中国労働市場における需給動向と賃金事情：(『日中経協ジャーナル』、2019年8月) 3. 中国の雇用政策と社会保障の動向：(『日中経協ジャーナル』、2020年5月)
- 【11回目】大学教育と機会平等
1. 農村と社会格差で沿海部に集まる大卒者：(『週刊東洋経済』、2010年10月23日) 2. 進学率は向上したが、大都市優遇は変わらず：(『週刊東洋経済』、2011年7月16日) 3. 大学も大衆化時代、経営難で自転車操業も：(『週刊東洋経済』、2012年5月12日)
- 【12回目】体制転換の社会問題
1. 社会を混乱させる食肉の高騰：(『週刊エコノミスト』、2007年10月16日) 2. 不平等な一国に戸籍、二重構造の解消を急げ：(『週刊東洋経済』、2011年1月8日) 3. 空回りする「腐敗防止」、高まる国民の不満：(『週刊東洋経済』、2011年4月30日) 4. 「自由と平等」の隣国、中国はインドに学べ：(『週刊東洋経済』、2011年11月5日)
- 【13回目】政治体制の進化と課題
1. 高成長を実現させた共産党の意外な柔軟性：(『週刊東洋経済』、2012年1月21日) 2. 時期指導部は博士の集団、変わる中国の指導者像：(『週刊東洋経済』、2012年9月1日) 3. 絶対権力持つ共産党は自らを改革できるか：(『週刊東洋経済』、2012年11月3日)
- 【14回目】日中関係の視点
1. 2つの被害者意識のはざま：(『諸君!』、2002年5月) 2. 「立場の交換」で相互理解を深めよ：桃山学院大学2006年6月1日、シンポジウム「日本と中国、『共創』の明日を探る - 人・文化・経済の交点 -」報告 3. 尖閣国有化は中国人の「感情記憶」を刺激した：(『週刊東洋経済』、2012年10月6日)
- 【15回目】全体のまとめ
以上です。

成績評価の方法 /Assessment Method

①担当部分のPPT作成と発表：40%、学習レポート：40%、定期試験：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】
テキストの担当部分をPPTにまとめ発表する(学習時間：2時間程度)
- 【事後学習】
学習レポートの作成：①当日の授業内容を図解まとめ、②新聞やネットニュースなどを眺め、中国経済に関する項目を列挙、③テキストで取り

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

扱う中国経済に関する専門用語調べ（学習時間：2時間程度）

履修上の注意 /Remarks

テキストを全員で分担輪読していきますので、担当部分が自己都合で抜け、他の学習者の学びの妨げにならないように注意して授業に臨みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修者自身がテキストの担当部分をPPTにまとめ発表し、教員が追加コメントをするという授業スタイルをとっていく予定です。発表者が好奇心を持って、テキストの記述内容を鵜呑みすることなく追加調べを積極的に進めていくことで授業内容に深みが出てきます。授業を受講して興味関心が湧かなかったということは学習者自身が積極的に授業に取り組まなかったという裏返しとなります。受講生の皆さんとディスカッションができることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

中国の経済成長メカニズム、中国の経済格差形成要因、中国の三農問題、中国の食糧問題、中国の人口問題

アメリカ経済 【昼】

担当者名 立石 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN332M	◎		○		○
科目名	アメリカ経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、アメリカ経済がどのような過程で経済大国になったのか、そしてアメリカ経済は世界各国の模範となる経済モデルなのかという問題意識に基づいて、建国から現在までのアメリカ経済の発展の歴史について講義します。

到達目標については、上記問題意識に加えてアメリカ経済の現状及び今後の動向について、基礎的知識を踏まえ、歴史的観点から俯瞰しながら考察し評価することができる能力の形成を目標とします。具体的には以下の到達目標を設定します。

【知識】アメリカ経済に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】アメリカ経済について総合的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【自立的行動力】アメリカ経済への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

そのために本講義では、アメリカ経済の歴史を、第I部1492～1790年の建国期、第II部1790～1865年の南北戦争までのアメリカの統一期、第III部1865～1914年のアメリカの対内発展期、第IV部1914～1939年のアメリカの対外膨張期、第V部では1940～のアメリカの覇権国期、第VI部1990～2008年のグローバル化期、そして第VII部2009年以降の長期停滞期に分けて学修します。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。講義内容に関連した文献、講義レジュメ、その他を配布して講義を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、講義時に別途示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|------|-----------------|------------------------|
| 1回目 | 第I部1492～1790年 | インディアンと植民地の経済 |
| 2回目 | 第I部1492～1790年 | アメリカ革命の経済学 |
| 3回目 | 第II部1790～1865年 | 南部奴隷制の経済学 |
| 4回目 | 第II部1790～1865年 | 西部への入植と交通革命 |
| 5回目 | 第II部1790～1865年 | 南北戦争の政治経済学 |
| 6回目 | 第III部1865～1914年 | 西部農業の発展とポピュリスト運動 |
| 7回目 | 第III部1865～1914年 | 大量生産・新移民・海外市場 |
| 8回目 | 第IV部1914～1939年 | 消費者資本主義の発展 |
| 9回目 | 第IV部1914～1939年 | 大恐慌とニューディール政策 |
| 10回目 | 第IV部1914～1939年 | 大恐慌と国際関係 |
| 11回目 | 第V部1940～1989年 | 第二次世界大戦とブレトンウッズ体制の形成 |
| 12回目 | 第V部1940～1989年 | 冷戦下の高度経済成長と限界 |
| 13回目 | 第VI部1990～2008年 | アメリカ経済の自由化と再編 |
| 14回目 | 第VI部1990～2008年 | グローバル化と金融危機 |
| 15回目 | 第VII部2009～2019年 | 長期停滞・経済格差・バクスアメリカーナの後退 |

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は小テスト及び定期試験の合計で成績を評価します。

授業ごとに内容の理解を確認するための小テストを実施します(15回実施、計75%)。

到達目標を確認するために定期試験を実施します(25%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：Moodleにアップした講義資料を学修しておくこと。(1.5時間)

事後学修：授業内容を踏まえながら、自主学習資料に基づき事後学修を行うこと。(1.5時間)

履修上の注意 /Remarks

現代史に関する科目、アメリカに関する科目、国際関係に関する科目、基礎的な経済学に関する科目、国際経済に関する科目、そして国際金融に関する科目等を先に履修しておくこと、本講義の理解がより深いものになります。

講義資料はMoodleにアップしておきますので、必ず確認し、必要な学修を行ったうえで、講義を受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質問は対面授業後、メール、Moodleにて受け付けます。

メール：t-tateishi01@kitakyu-u.ac.jp

キーワード /Keywords

アメリカ経済、経済史、経済発展論、比較制度論、国際関係論

ファイナンス入門【昼】

担当者名 姚 智華 / YAO ZHIHUA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS111M	◎	○	○		
科目名	ファイナンス入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、2年次以降のファイナンス系の専門科目（企業ファイナンスI、企業ファイナンスII、証券市場論、企業評価論I、企業評価論IIなど）を受講するうえで必要となるファイナンスに関する基礎知識について勉強します。また、この講義は「公認会計士」・「証券アナリスト」・「ファイナンシャルプランナー(FP)」・「経営学検定」・「ビジネス数学検定」といった各種資格試験にも深く関わっています。

【到達目標】

知識：ファイナンスに関する基礎的な知識を身につけている。

技能：ファイナンスに関する新聞記事・ニュースを理解することができる。

思考・判断・表現力：ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

井上光太郎・高橋大志・池田直史『ファイナンス』中央経済社，2020年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

牛丸元『スタンダード企業論(改定版)』同文館出版，2015年。(○)

鈴木基史・羽岡秀晃『実務から学ぶコーポレート・ファイナンス』中央経済社，2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【ファイナンスとは、講義の目的・概要、成績評価の方法】
- 第2回 企業形態【合名会社、合資会社、合同会社、株式会社、所有と経営の分離】
- 第3回 財務分析①【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書】
- 第4回 財務分析②【安全性分析、収益性分析、効率性分析】
- 第5回 評価の基本原則【単利、複利、将来価値、現在価値、割引率】
- 第6回 債券の価値評価【債券価格、利付債、割引債】
- 第7回 株式の価値評価【配当割引モデル、一定配当モデル、一定成長モデル】
- 第8回 ポートフォリオ理論①【期待値、分散、標準偏差、共分散、相関係数】
- 第9回 ポートフォリオ理論②【リスク、リターン、効率的フロンティア】
- 第10回 ポートフォリオ理論③【CAPM、資本市場線、証券市場線】
- 第11回 M&A①【M&Aの意義と経済効果、敵対的買収】
- 第12回 M&A②【LBO、MBO、買収防衛策】
- 第13回 行動ファイナンス①【アノマリー、市場の効率性を阻害する要因】
- 第14回 行動ファイナンス②【現実の意思決定、プロスペクト理論】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40% 期末試験...60%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって、事前にテキストを読んでおくこと(目安時間:60分)。

講義終了後には、必ず講義内容の復習を行うこと(目安時間:60分)。

ファイナンス入門【昼】

専門教育科目
選択科目A
地域・産業系

履修上の注意 /Remarks

学習の進捗と理解の度合いを見ながら、スケジュールを調整することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ファイナンスを学ぶ以上、計算問題を避けて通ることができません。
数学を必要最小限に抑えるので、最初から無理だと決めつけないで、やってみればうまくできるはずです。

キーワード /Keywords

企業形態、財務分析、価値評価、ポートフォリオ理論、M&A、行動ファイナンス

経営管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS110M	◎	○	○		
科目名	経営管理論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では企業を運営するために必要な経営管理・マネジメントの基礎的知識について講義します。

(到達目標)

【知識】

経営管理に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営管理に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営管理に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【組織】【管理】【伝統的管理論】
- 第7回 組織とは何か2【人間観の転換】
- 第8回 組織とは何か3【近代的な管理】
- 第9回 組織とは何か4【組織社会と企業】
- 第10回 事例研究
- 第11回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第12回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第13回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第14回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポート等提出物の結果(20%)によって評価します。
なお、学期末試験を未受験の場合、(－)評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジユメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS210M	◎	○	○		
科目名	経営組織論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことができる者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

(到達目標)

【知識】経営組織に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】経営組織に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】経営組織について、複眼的・論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

山下剛『マズローと経営学—機能性と人間性の統合を求めて—』文真堂、2019年、3850円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
 H.A.サイモン『経営行動』ダイヤモンド社、1989年(○)
 三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)
 三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)
 岸田民樹編『組織論から組織学へ—経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)
 M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)
 中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【経営組織論とは?】【現代社会における組織の重要性】
 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】
 第3回 管理とは何か① 【プロセス・スクールの考え方】【意思決定論】
 第4回 管理とは何か② 【関係性への対応】【存在認識】【イナクトメント】
 第5回 現代社会における組織の問題 【職業人】【現代における自己実現】【組織人格と個人人格】
 第6回 現代組織の諸特徴① 【支配の3類型】【官僚制の概念】
 第7回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】
 第8回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理】
 第9回 動機づけ理論① 【人間関係論】
 第10回 動機づけ理論② 【ERG理論】【X-Y理論】【動機づけ - 衛生理論】
 第11回 組織構造① 【ライン組織の基本原則】
 第12回 組織構造② 【コンティンジェンシー理論】【職能部門制組織】【事業部制組織】
 第13回 現代組織における管理① 【随伴の結果の概念】【コンフリクト】【統合】【責任】
 第14回 現代組織における管理② 【官僚制によって生成する2種の随伴の結果】【責任の組織化】
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 小テスト...40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題の提出を求めます。
該当箇所の参考文献もよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「経営管理論」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

組織の3要素 官僚制 科学的管理 環境適応 随伴的結果 自由と責任

経営戦略論 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS211M	◎	○	○		
科目名	経営戦略論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論及び分析フレームワークを体系的に示すとともに、事例研究を行います。
 本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますので、テキストとしての指定ではありませんが、科目の性格上、講義中に事例の検討を多く行います。そのため以下の文献を（必携本）として指定しています。

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[第3版]』有斐閣、2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎著『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)
 大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)
 浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
 網倉久永・新宅純一郎著『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。(○)
 嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著『1からの戦略論(第2版)』碩学舎、2016年。(○)
 他、参考となる文献を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
 第2回 議論の歴史1 誕生から1970年代 【成熟化とイノベーション】 【多角化の戦略】
 第3回 議論の歴史2 1980年代以降 【競争戦略論】 【戦略経営論】 【プロセス戦略論】 【RBV】
 第4回 成長の戦略1 ドメインの定義 【事業構造の転換】 【ドメインギャップ】
 第5回 成長の戦略2 事業ポートフォリオの選択 【関連・非関連型】 【シナジー効果】 【コアコンピタンス】
 第6回 成長の戦略3 新規事業創造の戦略 【社内ベンチャー】 【M&A】 【戦略提携】
 第7回 成長の戦略4 プロダクトポートフォリオマネジメント 【PLC】 【経験曲線】 【マトリックス】
 第8回 競争の戦略1 構造分析 【5フォース】 【PEST】 【戦略グループ】 【VRIO】
 第9回 競争の戦略2 基本戦略—事例研究 【コストリーダーシップ】 【差別化】 【集中化】 【顧客価値】
 第10回 競争の戦略3 市場地位と戦略 【リーダー】 【チャレンジャー】 【ニッチャー】 【フォロアー】
 第11回 競争の戦略4 製品ライフサイクルと他企業との協力 【PLC】 【ビジネスモデル】
 第12回 競争の戦略5 事業システム—事例研究 【顧客価値】 【ビジネスモデル】
 第13回 戦略と組織1 戦略と組織の適合と創造 【組織構造】 【組織文化】 【組織インフラ】
 第14回 戦略と組織2 戦略と組織の変革 - 事例研究 【イノベーション】 【組織学習】 【知識創造】
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80％）と学期中の小レポート等提出物の結果（20％）によります。
なお、学期末試験を未受験の場合、（－）評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「経営管理論」（2018年度生以上は「マネジメント論基礎」）で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 成長 競争 イノベーション 組織変革

キャリア開発Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 市原 勇一 / YUICHI ICHIHARA / 経営情報学科
齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR310M	○			○	◎
科目名	キャリア開発Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、キャリア開発Ⅰに引き続き、皆さんのキャリア意識を喚起するとともに、自身の具体的なキャリアプランを練る機会を提供することを目的としています。皆さんの大学卒業後の進路は民間就職、公務員就職、進学、起業、その他、様々な選択肢が考えられます。皆さんの今後の進路の多様性に関わらず、この授業では、皆さんが自身のキャリアと向き合うための実践的な方法を学習します。主な内容は以下となります。

- (1) 一般的な就職活動や具体的な採用選考の流れを理解する。
- (2) 自己分析、業界・企業・仕事研究、インターンシップ経験等を総合して、自身のキャリアを定める方法を学習・実践する。
- (3) 口頭（面接）や文章（ES）で、自己を相手に伝える方法を学習・実践する。一見、民間就職希望者のための授業にみえるかもしれませんが、いずれの内容も皆さんの今後の進路に関わらず、自身のキャリアと向き合う際に、応用することができる内容になっています。なお、それぞれ学外の方を講師として招き、授業してもらいます。

（到達目標）

- 【知識】個人のキャリア開発に必要な専門的な知識を身につけている。
- 【コミュニケーション力】個人のキャリア開発の展望について、口頭や文書によつて的確に伝達することができる。
- 【自立的行動力】個人のキャリア形成に関わる課題を発見し、自立的にキャリアデザインをすることができる。

本講義は、オンデマンド型のメディア授業科目です。動画の視聴と課題の提出などは、原則としてMoodleを軸として行うこととなります。通信環境や他の授業の時間との兼ね合いによって自宅での視聴等が難しい場合には、大学の自習室でも動画の視聴と課題の提出などが可能です。なお、本講義は原則としてオンデマンド型ですが、キャリアイベントが2回、ライブ型（オンデマンド・ライブ混合型を含む）または対面形式で行われる授業が2回予定されています。詳細は、Moodleでお知らせしますので各自で確認してください。

教科書 /Textbooks

とくに使用しません。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学修上、有用なサイトを下記に示します。

- ・ 就職情報サイト「リクナビ」
- ・ 就職情報サイト「あさがくナビ」
- ・ 就職情報サイト「マイナビ」

その他、キャリア開発全般について知るための文献として渡辺峻・伊藤健市(2015)『学生のためのキャリアデザイン入門（第3版）』中央経済社を読むことを推奨します。

キャリア開発II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第0回 事前説明と事前課題（1学期中にアナウンスします）
- 第1回 ガイダンスと本学キャリアセンター紹介【キャリアセンター】
- 第2回 就職活動の流れとしくみ【キャリア】【就職活動】
- 第3回 採用選考を理解する（基礎）【ES】【面接】
- 第4回 採用選考を理解する（実践）【選考シミュレーション】【インターンシップ】
- 第5回 性格検査を活用した自己分析【性格検査】【自己分析】
- 第6回 Open ESを理解する【Open ES】
- 第7回 自己PR動画作成実習【自己PR動画】
- 第8回 まだ知らない会社・仕事の探し方【業界研究】
- 第9回 会社・仕事の調べ方【企業研究】【仕事研究】
- 第10回 My Compass 3rd Stage（授業中にアナウンスします）
- 第11回 キャリアイベント（授業中にアナウンスします）
- 第12回 キャリア講演会（授業中にアナウンスします）
- 第13回 キャリアイベント（授業中にアナウンスします）
- 第14回 Web選考を理解する【Web選考】
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全体評価100%の内

- ・事前課題（1学期中にアナウンスします）：15%
- ・授業課題（全7回授業分）：35%
- ・自己PR動画作成：10%
- ・キャリアイベント課題（2回分）：15%
- ・キャリア講演会課題：5%
- ・My Compass 3rd stage：10%（提出は単位認定要件）
- ・最終課題：10%

My Compass 3rd Stageの提出は単位取得の必須条件です。ご注意ください。
提出がなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に示された内容については必ず予習し、課された課題については熱心に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・1学期の履修登録期間に必ず登録すること。
- ・1学期中に事前課題の説明に関するアナウンスをします。
- ・1学期中に重要な連絡等を、Moodleコースを通じて行います。毎回、必ず閲覧するようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア開発、自己分析、業界研究、企業研究、仕事研究、ES、面接

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

(到達目標)

【知識】

プログラミングにおける、基本的な文法、構造を理解している。

【技能】

プログラミング言語を用い意図した動作をするプログラムを作成できる。

【思考・判断・表現力】

基本的なプログラミングの構造を組み合わせ、計算アルゴリズムを思考することができる。

教科書 /Textbooks

毎回資料(ファイル)を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行机著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40%、定期試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

情報科学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

(到達目標)

【知識】

プログラミングにおける、基本的な文法、構造を理解している。

【技能】

プログラミング言語を用い意図した動作をするプログラムを作成できる。

【思考・判断・表現力】

基本的なプログラミングの構造を組み合わせ、計算アルゴリズムを思考することができる。

教科書 /Textbooks

毎回資料(ファイル)を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行机著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40%、定期試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

情報科学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計学入門【昼】

担当者名 /Instructor 森脇 敏雄 / Toshio Moriwaki / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC111M	◎	○	○		
科目名	会計学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義は、財務諸表の作成方法である簿記の知識を念頭に、会計学の基本的な論点を学習します。会計学とは、財務諸表の作成および開示を研究対象とする学問です。第1回の講義では、簿記論の講義で学習した簿記と本講義で学習する会計の関係を説明し、会計学を学習することの意義を説明します。第2回から第8回の講義では、財務諸表の作成において遵守すべきルールの解説を通じて、会計学の理論的側面を学びます。第10回から第15回の講義では、財務諸表の開示に関するルールを整理し、財務諸表が経済社会においてどのような役割を有するのかを検討します。

(到達目標)

【知識】 会計学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 財務諸表を利用した企業評価に必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 会計学の観点からの論理的な分析をもとに、財務諸表を利用した企業分析の計画を立案し、分析結果を解釈できる能力

教科書 /Textbooks

配布資料をもとに講義を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桜井久勝・須田一幸(2021)「財務会計・入門 第14版」有斐閣アルマ1,980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 総論 >

第1回：簿記と会計の関係

< 各論①：会計学の理論的側面 >

第2回：財務会計の基本原則

第3回：資金調達活動①企業の設立

第4回：資金調達活動②資金調達

第5回：資金投下活動①事業投資

第6回：資金投下活動②金融投資・研究開発投資

第7回：営業活動①商品の仕入・販売

第8回：営業活動②代金の回収

第9回：確認テスト

第10回：確認テストのフィードバック

< 各論②：財務諸表の役割 >

第11回：財務諸表の体系

第12回：上場企業による情報開示

第13回：財務会計の機能

第14回：公認会計士制度説明会

第15回：財務諸表を用いた企業分析

成績評価の方法 /Assessment Method

講義後課題20%，確認テスト20%，定期試験60%

(注) 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

会计学入門【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定箇所を復習する（60分）
事後学習：講義後課題に取り組む（60分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

業界研究【昼】

担当者名 /Instructor 三子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR380M	○			○	◎
科目名	業界研究				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本講義は本学経済学部が参加するインターンシップに対して単位を認めようとするものです。本講義は夏季集中科目ですが、実際の授業は夏季休暇前から始まるという点、また、履修登録方法が一般の科目と少し異なる点に注意してください（登録方法に関しては4月にMoodle上で説明されます。なお、履修ガイドの注意事項にも記載してあり、本講義は「キャリア開発I」の単位を修得済みであることが受講条件です）。

この講義のねらいは、（1）就業体験（インターンシップ）を通して生きた経済活動に触れ、キャリア能力を開発、育成すること、（2）大学での学習体験を現場で活かし、学問上の学習意欲を高めるとともに、実践的な知識をも習得すること、（3）職業意識を涵養し、進路選択に資すること、（4）就業体験（インターンシップ）を通して、地域や社会に対する認識を深めながら貢献すること、以上4点です。

インターンシップへの参加は、実際の実験を通して、「働く」とはどういうことを考え、業界や企業の現実を知り、また自分の「向き不向き」を確かめ「向き不向き」について新たな発見をする機会となり、今後の人生・進路について改めて考える機会ともなります。

インターンシップにおいてはアルバイトとは違い、一定期間とは言え、「社会人」という立場で企業に身を置くこととなります。そこには事前に知っておくべき知識や所作などがあり、これを欠いてはせっかくのインターンシップも実り多いものとはなりません。そこで本講義では、事前にインターンシップで必要となる情報を学ぶ機会を提供します。またインターンシップで得た実感を後に役立つスキルにまで昇華してもらうべく、インターンシップ後には、プレゼンテーションやディスカッションの機会を用意しています。

なお、すべてのインターンシップが単位認定対象となるわけではなく、いくつかの条件があることに注意してください。また4月に詳細を説明する機会（掲示およびMoodleなどで）を設けますので注意しておいてください。

（到達目標）

【知識】業界研究に必要な専門的な知識を身につけている。

【コミュニケーション力】様々な業界について研究し、口頭や文書によつて的確に伝達することができる。

【自立的行動力】様々な業界について研究し、自身のキャリアデザインと結びつけることができる。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

よい機会ですので、インターンシップに行く前にキャリアに関する文献を読んでおいてください。

図書館にもある本をいくつか挙げておきます。

金井壽宏(2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回 インターンシップに関わる事前学習（7月末までに複数回実施、全回の受講が必須）
- 第5回～14回 インターンシップによる実践的活動（8月～9月）
- 第15回 活動報告と事後評価（9月下旬に一日集中で実施予定、受講が必須）

※上述しましたが、通常の学期科目とは異なり変則的な日程が組まれます。日程の詳細については4月にMoodle上で説明がなされる予定ですので、よく確認してください。

※9月下旬に開催予定の「事後報告会」（第15回に相当）では、インターンシップの成果について10分間程度、パワーポイントにて報告してもらいます。

業界研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学生が提出するインターンシップ報告書（就業受け入れ企業・団体・組織の評価を含む）および報告会の発表内容により総合的に評価します。なお、インターンシップ報告書は事後報告会のときに提出しなければなりません。
※事前研修、インターンシップ、事後報告会の全日程への出席が単位修得要件です。いずれかを無断で欠席した場合には原則として評価不能（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：インターンシップに行くにあたって失礼のないように、希望する産業および企業に関する理解を諸文献を通じて深めてください。
事後学習：インターンシップ後にインターンシップ報告書を作成し事後報告会の準備をすることが事後学習に当たります。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 2年2学期開講の「キャリア開発I」の単位修得済みであることが受講条件となります。なお、履修ガイドの該当注意事項を参照してください。
- (2) 本科目は1学期の時点から受講に関わるいくつかの申込手続きが開始されますので、それぞれの手続きの締切日には注意を払ってください。また、本科目の履修のためには諸書類を提出してもらう必要があります。例年、この書類不備のために履修不可になってしまう学生が後を絶ちませんので、細心の注意を払ってください。申込プロセスやスケジュールについては4月にMoodle上で説明する予定です。
- (3) 単位認定にあたってはインターンシップへの出席のみならず、事前研修(経済学部主催とキャリアセンター主催の双方)と事後報告会(経済学部主催)のすべてに出席しなければなりません。特段の事情なしにいずれかを欠席した場合には単位を認めないものとします。
- (4) インターンシップに行くにあたり、事前の業界・企業研究と、事後的な振り返りを怠らないよう努めてください。
- (5) 本科目の関連科目として人材のマネジメントを扱う専門科目の「人的資源管理論」や、キャリアを扱う基盤教育科目の「キャリアデザイン」などが参考になるかと思えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

例年、履修申請をしながら、事前研修や事後報告会を無断で欠席する学生が散見されます。申請したからには最後まで責任をもって学修に取り組むよう心掛けてください。

今後の就職活動およびその後の人生において必ず役立ちますので、インターンシップに行くことをよい機会として、社会人としての自覚をもち、基本的素養を身につけるようにしてください。

本科目を通じて「業界や企業に関する知識」「自己の理解」が豊かになることを願っています。

キーワード /Keywords

経済・社会、キャリア、インターンシップ、人材マネジメント、実践

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 姚 智華 / YAO ZHIHUA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS212M	◎	○	○		
科目名	企業ファイナンス I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、企業ファイナンスに関する基礎的な知識を理解し、習得することを目標とします。具体的には、企業の資金調達、投資決定、配当政策、資本構成、コーポレートガバナンスなどについて学習します。

【到達目標】

知識：財務活動に関する基礎的な知識を身につけている。

技能：証券の仕組みを説明することができる。

思考・判断・表現力：日本企業の財務政策に関する諸問題について、論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかるコーポレート・ファイナンス（第3版）』創成社，2021年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸『コーポレートファイナンス入門（第2版）』日本経済新聞出版，2017年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【企業ファイナンスとは、講義の目的・概要、成績評価の方法】
- 第2回 投資決定①【現在価値の考え方、割引率】
- 第3回 投資決定②【資本コスト、WACC】
- 第4回 投資決定③【NPV法、IRR法、回収期間法】
- 第5回 負債による資金調達①【普通社債、新株予約権付社債】
- 第6回 負債による資金調達②【転換社債型新株予約権付社債、MSCB】
- 第7回 自己資本調達①【IPO、公募増資、第三者割当増資】
- 第8回 自己資本調達②【株主割当増資、ライツオファリング、新株予約権】
- 第9回 資本構成【トレードオフ理論、MM理論】
- 第10回 配当政策①【配当性向、配当利回り、MMの配当政策無関連命題】
- 第11回 配当政策②【自社株買い、株式分割】
- 第12回 コーポレートガバナンス①【エージェンシー問題、モラルハザード】
- 第13回 コーポレートガバナンス②【インセンティブ報酬、ストックオプション】
- 第14回 コーポレートガバナンス③【モニタリング、敵対的買収】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40% 期末試験...60%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって、事前にテキストを読んでおくこと(目安時間：60分)。

講義終了後には、必ず講義内容の復習を行うこと(目安時間：60分)。

企業ファイナンスI【昼】

履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス入門」の内容を復習しておくこと。
学習の進捗と理解の度合いを見ながら、スケジュールを調整することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業ファイナンスを学ぶ以上、計算問題を避けて通ることができません。
数学を必要最小限に抑えるので、最初から無理だと決めつけないで、やってみればうまくできるはずです。

キーワード /Keywords

投資決定、資金調達、資本構成、配当政策、コーポレートガバナンス

企業ファイナンスII 【昼】

担当者名 姚 智華 / YAO ZHIHUA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS213M	○	◎	○		
科目名	企業ファイナンスII			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、有価証券について勉強し、その価値評価の仕方を習得することを目標とします。具体的には、債券、株式、オプションやその他のデリバティブなどについて学習します。

【到達目標】

知識：金融・証券に関する基礎的な知識を身につけている。

技能：金融商品の理論価格に関する初歩的な分析ができる。

思考・判断・表現力：企業ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかるコーポレート・ファイナンス（第三版）』創成社，2021年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上光太郎・高橋大志・池田直史『ファイナンス』中央経済社，2020年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【講義の目的・概要、成績評価の方法】
- 第2回 企業ファイナンスIの復習【現在価値計算、資本コスト】
- 第3回 企業価値評価①【株価による評価、割引キャッシュフロー法による評価】
- 第4回 企業価値評価②【EVAとMVAによる評価】
- 第5回 債券の価値評価①【デュレーション、スポットレート、イールドカーブ】
- 第6回 債券の価値評価②【債券価格、利付債、割引債】
- 第7回 株式の価値評価【配当割引モデル、一定配当モデル、一定成長モデル】
- 第8回 効率的市場仮説【ウィーク型、セミストロング型、ストロング型】
- 第9回 マルチファクターモデル【ファーマ=フレンチの3ファクターモデル】
- 第10回 デリバティブ①【先物取引、先渡取引、スワップ取引】
- 第11回 デリバティブ②【オプション取引、リスクヘッジ】
- 第12回 オプションの価値評価【二項モデル、ブラック=ショールズモデル】
- 第13回 オプションの応用①【リアルオプション、ステージ・ファイナンス】
- 第14回 オプションの応用②【新株予約権、新株予約権付社債】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40% 期末試験...60%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって、事前にテキストを読んでおくこと(目安時間：60分)。

講義終了後には、必ず講義内容の復習を行うこと(目安時間：60分)。

企業ファイナンスII【昼】

履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス入門」及び「企業ファイナンスI」の内容を復習しておくこと。
学習の進捗と理解の度合いを見ながら、スケジュールを調整することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業ファイナンスを学ぶ以上、計算問題を避けて通ることができません。
数学を必要最小限に抑えるので、最初から無理だと決めつけないで、やってみればうまくできるはずです。

キーワード /Keywords

価値評価、市場効率性、マルチファクターモデル、デリバティブ

マーケティングI【昼】

担当者名 /Instructor 柳 純 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS230M	◎	○	○		
科目名	マーケティングI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業等の「市場問題の解決手法」ならびに「競争手段」として実践されている「マーケティング」について、基本概念、市場への接近方法を始めとした理論をベースに、実務部分にまで踏み込んだ内容を講義します。

前半部分では、市場とマーケティングの関係を理解することを目的に、市場概念およびマーケティング学説、市場戦略について解説します。また後半部分ではマーケティングの全体戦略としてSTP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング等）と部分戦略である4P（製品、価格、チャネル、プロモーション）のミックスについても説明します。

（到達目標）

【知識】マーケティングに関する基礎的な知識を身につけている

【技能】マーケティングに関する基本的な問題を体系的に理解することができる

【思考・判断・表現】マーケティングに関連する基本的問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる

教科書 /Textbooks

岩永忠康編『<改訂版>マーケティングの理論と戦略』五紘舎、2019年。2750円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川和男『現代マーケティング論』同文館出版、2020年。2970円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：講義ガイダンス【講義概要、成績評価等の説明と導入問題】
- 第2回：市場概念（1）【市場概念と市場問題】
- 第3回：市場概念（2）【マーケティング概念の変遷と定義】
- 第4回：マーケティング学説史（1）【マーケティングの歴史とマイクロマーケティング】
- 第5回：マーケティング学説史（2）【マーケティングの歴史とマクロマーケティング】
- 第6回：市場戦略と競争（1）【市場細分化と標的化】
- 第7回：市場戦略と競争（2）【市場地位別と組織編成】
- 第8回：市場戦略と競争（3）【競争環境と競争要因】
- 第9回：消費者行動とマーケティング【消費者関与と行動】
- 第10回：製品戦略（1）【PLCと製品差別化】
- 第11回：製品戦略（2）【ブランド管理および類型】
- 第12回：価格戦略【価格設定方法と競争優位】
- 第13回：チャネル戦略【経路および類型】
- 第14回：プロモーション戦略【人的販売促進と非人的販売促進】
- 第15回：マーケティング・ミックス【4Pの組み合わせ】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（30%）、レポート（70%）

なお、課題とレポートの両方を提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、テキストの当該回の箇所を熟読すること。

事後学習は、毎回提示する資料内容を確認し、専門用語やポイントについて整理すること。

マーケティングI【昼】

履修上の注意 /Remarks

マーケティングに関係する科目を履修すること。また「マーケティングII」を履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用するテキストの内容からレポートを課すことがあります。
課題ならびにレポートに関しては、必ず提出〆切日を厳守すること。

キーワード /Keywords

市場問題、マーケティング戦略、ブランドマネジメント

マーケティングII【昼】

担当者名 柳 純 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS231M	◎	○	○		
科目名	マーケティングII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義は、マーケティングに関する基本的な戦略要素である製品、価格、チャネル、プロモーションについて概観するとともに、今日重要なテーマとなっている「サービス・マーケティング」や「ソーシャル・マーケティング」を中心に講義を進めます。
前半部分では、製品戦略からプロモーション戦略に至るまでの企業行動の事例を盛り込みながら解説します。また後半には、産業別のマーケティングとしていくつかの産業におけるマーケティングについて紹介します。

(到達目標)

【知識】マーケティングに関する専門的な知識を身につけている

【技能】マーケティングに関する専門的な問題を体系的に理解することができる

【思考・判断・表現力】マーケティングに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる

教科書 /Textbooks

岩永忠康編『<改訂版>マーケティングの理論と戦略』五紘舎、2019年。2750円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒岩健一郎・水越康介『マーケティングをつかむ<新版>』有斐閣、2018年。2310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：講義ガイダンス【講義概要、成績評価等の説明と導入問題】
- 第2回：マーケティングについて【マーケティングの基礎概念】
- 第3回：マーケティング戦略とは【マーケティング戦略の概要】
- 第4回：製品戦略とブランドマネジメント【製品戦略とブランド概念】
- 第5回：価格戦略とチャネル戦略【新製品価格とチャネル選択】
- 第6回：プロモーション戦略(1)【人的販売促進と広告・宣伝】
- 第7回：プロモーション戦略(2)【パブリシティとセールスプロモーション】
- 第8回：サービス・マーケティング(1)【サービス概念とサービス産業】
- 第9回：サービス・マーケティング(2)【サービス産業における事例】
- 第10回：ソーシャル・マーケティング【社会的なマーケティングと環境マーケティング】
- 第11回：企業のマーケティング行動(1)【産業別事例研究】
- 第12回：企業のマーケティング行動(2)【産業別事例研究】
- 第13回：企業のマーケティング行動(3)【産業別事例研究】
- 第14回：企業のマーケティング行動(4)【産業別事例研究】
- 第15回：関係性マーケティング【市場関係の変化とパラダイムシフト】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(30%)、レポート(70%)

なお、課題とレポートの両方を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、テキストの当該回の箇所を熟読すること。

事後学習は、毎回提示する資料内容を確認し、専門用語やポイントについて整理すること。

履修上の注意 /Remarks

マーケティングに係る科目を履修すること。なお「マーケティングI」を履修していることが望ましい。

マーケティングII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用するテキストの内容からレポートを課すことがあります。
課題ならびにレポートに関しては、必ず提出〆切日を厳守すること。

キーワード /Keywords

マーケティング・ミックス、サービス・マーケティング、産業別マーケティング

企業評価論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 新田町 尚人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS316M	◎	○	○		
科目名	企業評価論Ⅰ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業を評価する際には多角的な視点からの評価が求められる。企業はマクロ経済や競合企業の動向等の外部環境の影響を受けながら、当社の経営戦略と経営資源を活用して価値を創造する。その結果が顧客や株主の評価に反映される。この講義は証券アナリスト検定試験の学修内容をベースに、学生の皆さんにも多角的な企業評価の視点を獲得してもらうのが狙いである。

第1部「市場と経済の分析」では、日本経済の現状とさまざまな業界の特徴を知る。第2部「企業分析」では、他の講義で学修している財務分析の考え方を用い、有価証券報告書を読み解く。

なお、企業を評価するのはアナリストだけではない。わが国企業の99%は中小企業であり、財務諸表が充実していない、入手できない場合も多い。そこで第3部「非上場企業の評価」では、金融機関が中小企業に融資を実施する際に行う与信評価などを紹介する。近年は財務数値や担保に依存せず、企業の将来性を評価する「事業性評価」も推進されている。

この講義の担当者は、日本証券アナリスト協会検定会員（証券アナリスト）の資格保持者であり、また、証券担当の新聞記者、中小企業の経営コンサルタントの職務から得た多くの経験を講義のなかで活用する。

・北九州関連の上場企業の有価証券報告書を使用予定（TOTO、安川電機、三井ハイテック等）

<到達目標>

【知識】企業評価に関する理論を理解している。

【技能】企業評価に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】投資家の観点から論理的な分析をもとに、特定の企業価値を評価することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・グロービス経営大学院『新版グロービスMBAファイナンス』ダイヤモンド社。○
- ・北川哲雄、加藤直樹、貝増眞『証券アナリストのための企業分析(第4版)』東洋経済新報社。
- ・奈良沙織『企業評価論入門』中央経済社。
- ・日本経営品質賞委員会『2021年度版 日本経営品質賞 アセスメント基準書』生産性出版。

企業評価論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1.講義ガイダンス

第1部「市場と経済の分析」

- 2.現在の日本経済を読む
- 3.GDPと経済予測
- 4.さまざまな業界とその特徴（製造業、金融業等）
- 5.さまざまな業界とその特徴（サービス業、流通業等）
- 6.業界構造分析（5フォース、サプライチェーン）
- 7.自社・競合分析（SWOT等）

第2部「企業分析」（財務分析）

- 8.企業分析の考え方
- 9.主要財務指標の算出（成長性、収益性）
- 10.主要財務指標の算出（安全性、生産性）
- 11.総合評価

第3部「非上場企業の評価」（中小企業）

- 12.非上場企業（中小企業）の特徴
- 13.リレーションシップ貸出、事業性評価
- 14.金融機関の与信評価
- 15.講義のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

最終レポート70点、講義中に課すミニレポート30点（5点×6回）の合計100点とする（予定）
なお、最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 自分が分析する企業や同業他社の情報を収集する。
事後学習: 当該授業の内容を復習し、レポートを提出する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本経済の概要や多くの業界企業の特徴も学びます。就職活動で将来の志望業界を選ぶ視点を身につけることもできます。就職活動に役に立つ講義という視点も入れていますので、まだ志望業界がぼんやりしているという学生はぜひ受講してください。

キーワード /Keywords

業界分析、市場分析、競合分析、財務分析、事業性評価

企業評価論II 【昼】

担当者名 /Instructor 新田町 尚人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS317M	○	◎	○		
科目名	企業評価論II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この講義では、企業評価論Iをベースに、証券分析の考え方と手法を学修する。株主が企業経営者に対してもっとも期待することは企業価値の最大化、すなわち株価を上げることである。評価企業の有価証券報告書をもとに資本コストを算出し、株主の期待収益率を算出、株式を分析・評価する視点を身に付ける。

評価対象は北九州関連の上場企業（TOTO、安川電機、三井ハイテック等）をメイン分析対象とし、競合2社を選定して財務分析、株式分析を行う。そのうえで、対象企業を総合評価する。分析にあたってはエクセルを使う。

なお、現在では株主からの評価が企業経営に与える影響が強すぎるとの批判がでている。また、SDGsから非財務情報の重要性も高まっている。そこで多面的な企業評価の視点として、企業の経営力・マネジメント力を評価する「経営品質」も学ぶ。

この講義の担当者は、日本証券アナリスト協会検定会員（証券アナリスト）であり、講義計画はアナリスト資格試験の分野に対応している。また、証券担当の新聞記者、中小企業の経営コンサルタントの職務経験から得た多くの経験を講義のなかで伝えたい。

< 到達目標 >

【知識】 企業評価に関する理論を理解している。

【技能】 企業評価に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 投資家の観点から論理的な分析をもとに、特定の企業価値を評価することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ グロービス経営大学院『新版グロービスMBAファイナンス』ダイヤモンド社。○
- ・ 北川哲雄、加藤直樹、貝増眞『証券アナリストのための企業分析(第4版)』東洋経済新報社。
- ・ 奈良沙織『企業評価論入門』中央経済社。
- ・ 日本経営品質賞委員会『2021年度版 日本経営品質賞 アセスメント基準書』生産性出版。

企業評価論II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 講義ガイダンス

第1部「企業分析」(財務分析)

2. 分析対象、競合企業の選定
3. 分析表の作成①
4. 分析表の作成②

第2部「証券分析」

5. 証券・金融市場の基礎(資金循環統計、間接金融と直接金融、金融商品のリスク等)
6. 株式分析の基礎
7. 債券分析の基礎
8. 現代ポートフォリオ理論①
資本コスト等
9. 現代ポートフォリオ理論②
CAPM、IRR等
10. 株式分析①
配当割引モデル等
11. 株式分析②
株価収益率、株価純資産倍率等
12. 総合評価

第3部「多彩な企業評価手法」

13. 経営力・マネジメント力の評価(経営品質)
14. 社会からの評価(ESG)、顧客からの評価(ES)
15. 講義のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

最終レポート70点、講義中に課すミニレポート30点(5点×6回)の合計100点とする(予定)
なお、最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 自分が分析する企業や同業他社の情報を収集する。
事後学習: 当該授業の内容を復習し、レポートを提出する。

履修上の注意 /Remarks

分析にはエクセルを使う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2022年1月に、米Apple社の時価総額は3兆ドル(約340兆円)と突破した。また、米テスラ社の時価総額もトヨタ自動車を大幅に上回っている。投資家は何を期待し、こうした莫大な時価総額を正当化しているのか。現実の経済や経営に常にアンテナを張って講義を受けると楽しくなると思います。
企業評価論Iの内容は学習済みとして進めますので、各自復習の上、企業評価論IIの履修に臨んでください。

キーワード /Keywords

企業価値、資本コスト、DCF法、CAPM、経営品質

人的資源管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS310M	◎	○	○		
科目名	人的資源管理論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

昨今、日本では様々な労働に関する問題がニュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では、その多々ある切り口の一つとして、人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は、企業内の人々をいかに生き活きと働けるようにするか、人事制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで、企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。

この講義を通して、巷にあふれる労働に関する問題について、さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下、各到達目標について

知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。

技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。

思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布資料をテキストとします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

平野光俊・江夏幾多郎(2018)『人事管理 - 人と企業、ともに生きるために - 』有斐閣ストウディア○

人的資源管理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。
- 第2回 人事制度を学ぶとはどういうことか
経営の中での人事制度の役割について学びます。
- 第3回 雇用管理
日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。
- 第4回 能力開発
企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。
- 第5回 ジョブディスクリプションにまつわる課題
人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。
- 第6回 人事等級制度
人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。
- 第7回 考課制度
企業内の労働者をどう評価するか，人事考課制度に着目しながら学びます。
- 第8回 賃金制度
日本企業における賃金を決定するためのルールについて，歴史的変遷に着目しながら学びます。
- 第9回 ジョブ型・メンバーシップ型の議論
日本の人的資源管理論および人事労務管理論の分野ではこの10年「ジョブ型・メンバーシップ型」の議論が活発になっています。第9回ではこの議論について少し見ていくこととします。
- 第10回 日本の労務管理研究は“働き方”をどのように捉えてきたのか
“働き方”といってもいろいろな捉え方があります。第10回では，学術の現場では“働き方”がどのように捉えられてきたのか，またその捉え方についてのどのような問題があるのかを考えていきます。
- 第11回 多様な働き方① - キャリア論から -
近年ダイバーシティ（多様性）という言葉が世界的にも浸透してきています。働き方についても多様性はもちろんあります。第11回ではキャリア論（場合によっては雇用区分の観点から）の視点から様々な働き方について見ていきます。
- 第12回 多様な働き方② - 女性労働者の議論から -
日本の人事制度は性別役割分業を前提として制度設計がなされているということが多々あります。近年ではこの問題は徐々に解消されてきていますが，問題はまだ残っています。したがって，ジェンダーに対する理解が深まっている昨今ですが，敢えて「女性」という言葉を用いて働き方の議論について見ていきます。
- 第13回 多様な働き方実現に向けての課題 - 人事制度の本質的課題から -
11回・12回では多様な働き方について見ていきました。多様な働き方を実現するには様々な障害があります。実のところ，人事制度もその障害のうちの一つです。人事制度にまつわる障害をどのように克服するべきなのか「人事プラクティス」という概念に着目しながら学びます。
- 第14回 人的資源管理論をより高度に理解する
第14回の内容は少し高度です。人的資源管理論を専門とする研究者が今何を大きな課題として捉えているかを把握します。
- 第15回 まとめ
全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 学期末試験50%，中間レポート50%で評価する。
60点以上の者に単位を与える。
レポートを提出しなかった者，定期試験を受験しなかった者はいずれも評価不能（－）とする。
- ※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。
事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論【昼】

担当者名 久多里 桐子 / Kiriko Kudari / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS232M	◎	○	○		
科目名	証券市場論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、証券と証券市場に関する仕組みや役割等の基礎事項を学ぶ。証券に関する理論に加えて、証券取引所における証券取引の仕組みや、わが国の株式市場の現況など、証券に関する制度および実務的側面についても触れる。

到達目標

- 【知識】証券市場に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】証券取引に必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】証券市場に関する諸問題について、総合的、論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に発信することができる。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、講義資料をMoodleで配布するので各自印刷のうえ、講義に持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 釜江廣志(編)(2015)『入門証券市場論(第3版補訂)』有斐閣。
- 小林 孝雄・ 芹田敏夫(2009)『新・証券投資論Ⅰー理論篇』日本経済新聞出版社。
- 伊藤敬介・ 荻島誠治・ 諏訪部貴嗣(2009)『新・証券投資論Ⅱー実務篇』日本経済新聞出版社。
- 手嶋宣久(2011)『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』ダイヤモンド社。
- 花枝英樹(2005)『企業財務入門』白桃書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: 証券市場論の概要(ガイダンス)
- 第 2 回: 証券の役割と証券市場の機能
- 第 3 回: 発行市場と流通市場
- 第 4 回: 財務分析と株式の投資尺度
- 第 5 回: 評価の基本原則
- 第 6 回: 債券の評価
- 第 7 回: 中間テスト
- 第 8 回: 株式の評価
- 第 9 回: ポートフォリオ理論(1)【個別証券のリターンとリスク】
- 第 10 回: ポートフォリオ理論(2)【2つの証券の連動性】
- 第 11 回: ポートフォリオ理論(3)【ポートフォリオのリターンとリスク】【最適ポートフォリオ選択】
- 第 12 回: 資本資産評価モデル(CAPM)
- 第 13 回: テリバティブ取引
- 第 14 回: 投資家と投資戦略 & 証券市場の現状と諸問題
- 第 15 回: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20% + 中間テスト30% + 定期試験50%
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 毎回の講義資料を確認する。
事後学習: 講義内容を復習する。なお、一部の回では講義後の約1週間に限定して小テスト(成績評価を参照)実施するため、Moodleで小テストを受験すること。

証券市場論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- * 計算問題が多いので、毎回の講義に電卓を持参すること。
- * 小テストの公開期間は講義後の約1週間である。過去の小テストを遡及的に受験することはできないので忘れずに受験すること。
- * 講義中の私語や騒音、スライドおよび板書の写真・動画撮影を禁止する。禁止事項を行った学生に対して注意しても改善が見られなかった場合、成績評価から減点の措置を取る場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

証券市場に関する歴史、制度、理論など、体系的な知識の習得を目標としています。個別企業や証券市場に関するニュースもタイムリーに取り入れて紹介する予定です。

キーワード /Keywords

証券市場、投資家、債券、株式

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
BUS313M	◎		○		○
科目名	中小企業論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税金など、わが国経済に直結します。

- ・ 企業数の割合 = 99.7%
- ・ 従業員数の割合 = 68.8%
- ・ 付加価値額の割合 = 52.9% (以上、経済センサス(2016)による、個人事業主を含む)

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

(到達目標)

【知識】

中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】

中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。

【自立的行動力】

中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
 渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
 安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
 商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
 中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 製造業①…製造業で働きませんか？
 - 第4回 製造業②…現状と展望
 - 第5回 非製造業(卸売業、小売業など)…現状と展望
 - 第6回 外部講師による講和①
 - 第7回 人材の確保と育成
 - 第8回 新事業展開
 - 第9回 海外展開
 - 第10回 スタートアップ
 - 第11回 ベトナムにおける中小企業支援事例
 - 第12回 外部講師による講和②
 - 第13回 資金調達と金融機関の役割
 - 第14回 国及び地方自治体による中小企業支援政策
 - 第15回 まとめ
- ※授業計画・内容に変更があるときは、事前に連絡します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則、毎回レポートを課します…60%
(期末テストは行いません)
(レポートの提出回数が、3回以下の場合は、評価不能(-)とします)
日常の授業への取り組みも評価の対象にします…40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府はどういった対策を講じようとしていますか。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。
- ・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
 - ・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
 - ・ 自ら起業して経営する。
 - ・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード /Keywords

国際経営【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS311M	◎		○		○
科目名	国際経営				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は比較経営の枠組みを押さえた上で、東アジア地域の企業経営、特に同じ漢字文化圏（または儒教文化圏）に属する国同士の企業制度（企業統治またはコーポレートガバナンス）と企業経営システム（内部特性：経営目標、経営戦略、経営組織、管理スキーム）の比較を中心に講義を進めていく。現地企業調査で得た一次資料を活用し、生きたケースを教材としながら、日本と東アジア地域の企業経営様式の異同について学ぶ。

本講義の到達目標は下記通りである。

1. 知識 国際経営の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。
2. 思考・判断・表現力 国際経営に関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。
3. 自律的行動 国際経営に関する諸問題に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

王効平編著『日中長寿企業の経営比較』中央経済社
 王効平他共著『日中韓企業の経営比較』税務経理協会
 王効平著『華人系資本の企業経営』日本経済評論社
 末廣昭著『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会
 末廣昭著『ファミリービジネス論-後発工業化の担い手』名古屋大学出版会
 ほか プリント配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較経営の基本的枠組み【定性分析】、【定量分析】、【環境適応理論】
- 第2回 比較アプローチの意義と課題
- 第3回 儒教文化圏における企業経営比較の意義【東アジア型企業経営】
- 第4回 企業制度分析の枠組みI【企業統治】、【米国型】、【ドイツ型】
- 第5回 企業制度分析の枠組みII【利害関係者】、【経営権市場】、【インセンティブシステム】
- 第6回 「日本的経営」から見る【日本型の企業統治】
- 第7回 長寿企業に関する実態調査から見えるもの【老舗】、【事業継承】、【地域性】
- 第8回 東アジア同族企業の統治構造【儒教資本主義の視点】
- 第9回 経営システムの捉え方【経営の内部特性】
- 第10回 内部特性I：経営目標の比較【成長重視】、【利益重視】
- 第11回 内部特性II：経営戦略の比較【国際化】、【戦略的提携】、【事前合理性】
- 第12回 内部特性III：経営組織の比較【集権化】、【フラット化】、【ミドルアップダウン型】
- 第13回 内部特性IV：管理手法の比較【人事管理】、【トヨタ生産方式】、【財務管理】
- 第14回 日本のケースによる検証I ダイキン工業
- 第15回 東アジアのケースによる検証II CP（タイ国）

国際経営【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト 50% (講義中の小テストの実施、課題レポートの賦課)
- ・ 期末試験 50%
- ・ 討論、質疑における参加度による加点
- ・ 課題未提出、定期試験の未受験の場合、評価不能 (-)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料を熟読すること
参考文献について掲示資料のほかに適宜追加提示するが、各自入手し、活用すること

履修上の注意 /Remarks

- ・ ウェブ講義スタイルが継続されることを前提に討論への積極的参加を！
- ・ 課題提出期限の厳守を！

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 自分の意見、考えを積極的に表明してもらいたい。
- ・ 国際情勢、特にアジアの動向に常に興味を持ってもらいたい。

キーワード /Keywords

応用戦略分析 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS400M	○	◎	○		
科目名	応用戦略分析				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本科目の狙いは実際の企業の経営戦略や経営内容について分析する力を身に付けることにあります。経済学部のカリキュラムの基本方針の一つとして「理論と実践の統合」という項目がありますが、本科目はその方針を実現するための科目の一つです。

本授業では全体を以下の三部構成とします。

【第一部】経営戦略の分析・構想のための基本概念、基本ツールの確認

【第二部】基本概念、基本ツールを応用した事例研究（文献資料を使用した戦略分析）

【第三部】地域の経営者を招聘した企業経営や戦略についての特別講演およびディスカッション

以上をつうじて企業経営の諸問題を理解・解決するために必要とされる応用力を修得することを目指します。

なお、授業にあたっては意見交換や質問といった「参加」型の形式を一部取り入れていきます。

（到達目標）

【知識】

戦略経営に関する専門知識を身につけている。

【技能】

戦略経営に関する実践的な問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

戦略経営に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

沼上 幹・加藤 俊彦・一橋MBA戦略ワークショップ著『一橋MBA戦略分析ケースブック：事業創造編』東洋経済新報社、2020年。
（二部の事例研究において必携です。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽 茂・牛島 辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年(○)

網倉 久永・新宅 純二郎著『マネジメント・テキスト経営戦略入門』日本経済新聞社、2011年(○)

伊丹敬之著『経営戦略の論理(第4版)-ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞社、2012年

加藤俊彦著『競争戦略(日経文庫)』日本経済新聞社、2016年(○)

その他、随時紹介します。

応用戦略分析 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	
第2回	経営戦略の基本概念	【戦略の定義】【戦略の構造】【戦略の意義】
第3回	経営戦略の思考方法①	【外部分析】【内部分析】【基本戦略】【事業の仕組み】
第4回	経営戦略の思考方法②	【戦略の構想】【ビジネスシステム】
第5回	文献を利用した事例研究①	【応用】【分析】
第6回	文献を利用した事例研究②	【応用】【分析】
第7回	文献を利用した事例研究③	【応用】【分析】
第8回	文献を資料した事例研究④	【応用】【分析】
第9回	文献を資料した事例研究⑤	【応用】【分析】
第10回	外部講師による講演①	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第11回	外部講師による講演②	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第12回	外部講師による講演③	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第13回	外部講師による講演④	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第14回	外部講師による講演⑤	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第15回	全体をつうじての討議	

(なお、全体スケジュールは外部講師の方の都合等で変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課すレポートや授業への参加度40%
 学期末課題60%
 なお、学期末課題を未提出の場合、(一)評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理してください。
 特に外部講師登壇の際には講師の所属企業・組織について情報収集をしてください。
 授業後は配布資料や参考文献、講師の講義の資料・メモを用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

「経営戦略論」(経営情報学科2年次開講、経済学科3年次開講)を履修済みであることが望ましいですが、その限りではありません。
 事例研究や外部講師による講演も授業内容に含まれますので、「実践」に興味ある際は受講ください。
 (※また、「キャリア開発」ないし「キャリア開発I」で学んだ企業分析をより詳しく学ぶことが出来ます。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3・4年次生を対象とした科目として、学んできたことの実社会での応用を意識して受講してください。

キーワード /Keywords

理論と実践 応用力

オペレーションズ・リサーチ【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF200M	○	◎	○		
科目名	オペレーションズ・リサーチ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

到達目標

知識

オペレーションズ・リサーチに関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

技能

オペレーションズ・リサーチに関連する分析手法を身につけている。

思考・判断・表現力

オペレーションズ・リサーチについて、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと
- 2回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ、工程管理とは
- 3回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ、PERT図の作成
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅲ、所要時間の評価
- 5回 【PERT】の実習
- 6回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 7回 【線形計画法】の実習
- 8回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ、待ち行列の定義
- 9回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ、待ち行列に関する指標の導出
- 10回 【待ち行列理論】の実習
- 11回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ、金利を踏まえた意思決定のあり方
- 12回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ、金利を踏まえた変換式の導出
- 13回 【経済性工学】の実習
- 14回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 15回 質問受付・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%、レポート...30%

ただし、欠席を減点対象とします。

6回以上欠席の場合と期末試験を欠席の場合、成績評価の対象とならず評価不能(-)として扱います。

オペレーションズ・リサーチ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理解できなくても構いませんので、教科書の該当章をあらかじめ読み、どのような内容になるのか、どういった点が重要と考えられるかなど、考えておくことで講義での理解が深まります。

講義のあとは、練習問題を解いてみることで、講義で習った手法の実際場面での利用について考えることで理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、1GB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ構造とアルゴリズム 【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230M	○	◎	○		
科目名	データ構造とアルゴリズム		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現すること、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

（到達目標）

【知識】データ構造とアルゴリズムに関する基礎的な知識を身につけている

【技能】コンピュータを用いた処理を行うためのスキルを身につけている

【思考・判断・表現力】データ構造とアルゴリズムについて、論理的に思考して解決策を探求し、目的とするアルゴリズムを論理的に表現することができる

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【シェルソート】【マージソート】
- 11回 ソート法2、グラフ【ヒープソート】【グラフ】【隣接行列】
- 12回 応用例1【ダイクストラ法】【ハノイの塔】
- 13回 応用例2【動的計画法】
- 14回 応用例3【最大流問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・80% 日常の授業への取り組み・・20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

データ構造とアルゴリズム 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF330M	○	◎	○		
科目名	データベース				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。

本講義では、データベースの基本知識、設計技術を中心に学びます（データベースの利用者の立場からではなく、作成者、設計者の立場としての内容です）。まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

個々の情報科目への適性にもよりますが、資格試験にも対応できるよう基礎をしっかりと勉強するため、「難易度は高めです」。

（到達目標）

【知識】

データベースシステムに関する専門的な知識を身につけている。

【技能】

データベースシステム操作のスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】

データベースの構造を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえたいデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -
その他、講義中に指示

データベース【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義時間の2/3以上は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は多くても1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 小テスト・課題...15% 期末試験...70%
 特段の事情なく、授業実施回数の2/3以上の出席がない場合、および、期末試験の未受験の場合は、評価不能(一)となります。
 詳細は第1回目に説明するので必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計技術が中心で、難易度は高め、しっかりとした予習復習が必要です。
 講義後にはノート、参考書等により、内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

難易度は高めです
 USBフラッシュメモリがネットワークドライブに演習ファイルを保存してもらいます。USBフラッシュメモリを使う人は準備しておいてください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。)
 集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。図表など部分的に配布します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが、資格試験に対応できるように、「難易度は高めです」。データベースの仕組みに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。難易度が高いので、他に履修するものがない、友達が履修するなどの理由では選択しない方がよいと思います。

キーワード /Keywords

経営統計【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH250M	○	◎	○		
科目名	経営統計Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

近年、情報科学や統計学、データ分析といった分野は非常に注目されています。経営情報学科においても、そういった流れを踏まえ、1年時に必修科目として「情報科学入門」や「経営統計I」を設置し、こういった学問分野への入り口としています。

本講義では、「経営統計I」で学んだ知識を「情報科学入門」で学んだプログラミングの技術を用いて確認し、また、卒業論文などの研究、また就職後の実務場面においてデータ分析を行うことができるようになるための知識と技術を身につけることを目的としています。

「経営統計I」で学んだ理論について、シミュレーションデータを用いてその通りにデータが振る舞うことを確認する。平均値や分散といった指標をMicrosoft ExcelやPythonで算出する方法を学び、実際に求めてみる。実データを用い、Pythonで統計的仮説検定や回帰分析などを行い、結果を解釈する。といった内容になります。

到達目標

知識

経営統計に関する基礎的な知識体系的かつ総合的に身につけている。

技能

経営統計に関連する分析手法を身につけている。

思考・判断・表現力

経営統計について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷合廣紀(著)「Pythonで理解する統計解析の基礎」技術評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション, Excelの使い方【Microsoft Excel】
- 2回 Pythonの使い方とパッケージ【Python】, 【numpy】, 【Google Colaboratory】
- 3回 データの作成と読み込み, グラフ作成【csv】, 【pandas】, 【matplotlib】
- 4回 1変数データの要約【変数】, 【尺度】, 【度数分布表】, 【ヒストグラム】
- 5回 変数の代表値について【平均】, 【分散】, 【標準偏差】
- 6回 離散的な分布の扱い方【確率】, 【2項分布】, 【シミュレーション】
- 7回 母集団と標本【母数】, 【標本】, 【推定値】
- 8回 連続的な分布の扱い方【正規分布】, 【確率密度関数】
- 9回 標本平均の安定性についてI【中心極限定理】, 【標準誤差】
- 10回 標本平均の安定性についてII【中心極限定理】, 【標準誤差】, 【信頼区間】
- 11回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【t分布】【仮説検定】【検定力】
- 12回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】, 【F検定】
- 13回 2つの変数の間の関係【散布図】, 【相関】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

経営統計【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% レポート...30%
尚、欠席は減点の対象となります。
6回以上欠席の場合と期末試験を欠席の場合、成績評価の対象とならず評価不能(-)として扱います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週前もって講義資料を所定の場所にアップロードしますので、ダウンロード、読んでおいてください。
講義中の実習のほかに練習問題も出します。講義のあとは、練習問題を解いて理解度を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Python、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。
Google Colaboratoryというサービスを用いて分析を行います。そのため、Googleアカウントを準備しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さらに高度な分析を学びたい人向けに、3年時開講科目として「マーケティング・サイエンス」があります。本講義には、そのための準備という位置づけもあります。興味を持った方は、ぜひより高いレベルの分析にチャレンジしてみてください。

キーワード /Keywords

システム分析 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF340M	○	◎	○		
科目名	システム分析				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

知識の到達目標としてはシステムに関する専門的な知識を身につけていることです。また、技能の到達目標としてはシステムを理解する上で必要な情報を収集、分析することができることです。さらに、思考・判断・表現力の到達目標としてはシステムの観点からの論理的な分析をもとに、代替案を立案し、その効果を評価できる力を身につけていることです。

(到達目標)

- 【知識】 企業システムを構築する際には、予めどのような業務を行っているか？どのような業務をシステムするか？を分析する必要があります。その手法について理解し自ら分析できる
- 【技能】 組織の経営問題を理解し、分析手法を適用できる
- 【思考・判断・表現力】 自ら専門的知識を調査し、各種分析手法を体現しながら表現力を身に付ける

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノートはMoodleに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
- 大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○
- 平山克己著 『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
- 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレンストーミング】
- 3回 システム分析とは
- 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
- 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
- 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
- 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
- 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
- 9回 回帰分析【回帰分析】
- 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
- 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
- 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
- 13回 グループ演習(データ処理)
- 14回 グループ演習(発表)
- 15回 まとめ

システム分析 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%
3回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに講義ノートをアップするので事前に目を通してください。
課題を出すので、課題に取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計」とあわせて受講すれば理解が深まります。
Moodleを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義内容は予め学習支援ホルダーにアップしておくので、予習し、分からない点は講義中に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

システム設計 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF420M	○	◎	○		
科目名	システム設計				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

知識の到達目標としてはシステムを構築する上で体系的かつ総合的に理解していることです。また、技能の到達目標としてはシステム構築を行うスキルを身につけていることです。さらに、思考・判断・表現力の到達目標としてはシステム設計について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができることです。

(到達目標)

- 【知識】アプリケーション開発に必要なクラスやメソッドの機能や使い方を理解する
- 【技能】アプリケーション開発に必要なオブジェクト指向を理解し、プログラミングできる
- 【思考・判断・表現力】自ら専門的知識を調査し、各種設計手法を体現しながら表現力を身に着ける

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノート Moodle にアップする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング
山田 祥寛著『TECHNICAL MASTER はじめてのAndroidアプリ開発 第3版Android Studio 3 対応』2019年、秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと、Android開発環境の設定【Android】
- 2回 アプリ開発とは？【AndroidStudio】【Java】
簡単なAndroidアプリの作成【プロジェクト】【パッケージ】【クラス】【メソッド】
- 3回 システム設計とは【クラスの継承】【インターフェイスの実装】【インスタンス】
- 4回 システム設計の方法論について【アクティビティ】【インテント】【レイアウト】【xml】
- 5回 データ構造とアルゴリズムについて【イベント】【リスナー】【AndroidManifest】
- 6回 ファイルとシステム設計【IO】【例外処理】【LogCat】【タッチイベント】
- 7回 データベースとシステム設計【SQLite】【時間の処理】
- 8回 アルゴリズムとプログラミングについて【グラフィックス】【スレッド】
- 9～10回 各種部品の取り扱いについて【APIDemo】
- 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
- 14回 コンテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...60%
3回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

システム設計 【昼】

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。講義ノートはMoodleにアップしておくので、予め予習し、分からない点は講義中に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計学特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC296M	◎		○		○
科目名	会計学特殊講義B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

日商簿記検定2級程度（中級レベル）の講義内容であり、すでに簿記論I・IIを履修していることが絶対的な条件である。できる限り多くの練習問題を解いてもらい、中級レベルの問題に慣れてもらうことに特に主眼をおきたい。日商簿記検定2級の新しい出題範囲である連結会計、外貨建取引、リース会計などの諸問題についても慣れてもらうようにしたい。

（到達目標）

【知識】 会計学の応用・周辺分野に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 会計学の応用・周辺分野の諸問題について論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

【自立的行動力】 会計学の応用・周辺分野に関する諸問題に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

滝澤ななみ『みんな欲しかった簿記の教科書 日商2級商業簿記』、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（TAC出版）、そのほかプリントを適宜配布する。テキストは、できうる限り新しい出題範囲を盛り込んだものを購入してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の進み具合に応じて、その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに（2022年度の講義の概要）
- 2回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第157回）】
- 3回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第157回）】
- 4回 第157回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 5回 第157回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 6回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第156回）】
- 7回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第156回）】
- 8回 第156回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 9回 第156回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 10回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第154回）】
- 11回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第154回）】
- 12回 第154回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 13回 第154回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 14回 おわりに（2022年度の講義のまとめ）
- 15回 まとめ（説明・解説不足分の補充）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、テキストの該当箇所について予習と復習を必ず行っておくこと。

会計学特殊講義B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特にありません。

キーワード /Keywords

会計学特殊講義 A 【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 典生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC295M	◎		○		○
科目名	会計学特殊講義 A			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では、製造業で用いられる簿記で、商業簿記と対比して論じられる工業簿記を学習していきます。工業簿記は、材料を購入、加工して製品化する製造過程の記録・計算に主眼を置く点で、商業簿記と大きく異なっています。工業簿記では、製造活動を記録・計算するための特別の勘定を設け、これに原価計算の手続きによって算出された数値を記録していきます。したがって、工業簿記をよりよく理解するためには、原価計算の仕組みを把握し、これを簿記システムと関連付けることが重要です。本講義では、工業簿記の基本的な仕組みと手続きを学習していきますが、理論的説明に終始することなく練習問題をできるだけ多く取り入れていく予定です。このような実習を積み重ねることによって、工業簿記の理論と実践の双方を理解するために必要な知識を習得することができま

(到達目標)

【知識】 会計学の応用・周辺分野に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 会計学の応用・周辺分野の諸問題について論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

【自立的行動力】 会計学の応用・周辺分野に関する諸問題に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

問題集等必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 工業簿記の基礎と構造
2. 原価と原価計算
3. 工業簿記に特有の勘定科目
4. 材料費の計算と記帳
5. 労務費の計算と記帳
6. 経費の計算と記帳
7. 個別原価計算の仕組み
8. 製造間接費の配賦法
9. 部門別個別原価計算
10. 総合原価計算の特色と単純総合原価計算
11. 等級別総合原価計算
12. 組別総合原価計算
13. 工程別総合原価計算と減損
14. 標準原価計算
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常的な授業への取り組み (15%)、課題の提出状況 (35%) を目安として、総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

会計学特殊講義 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習のため、類似問題を解いてください。

履修上の注意 /Remarks

商業簿記の基礎を理解しておいてください。
電卓等を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 勇一 / YUICHI ICHIHARA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC212M	◎	○	○		
科目名	原価計算論 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】
製品やサービスの価格決定の基礎ともなる原価の計算方法および流れについて学習します。
原価計算論Iでは、顧客からの注文に応じて一品一様で製造される製品の原価計算（個別原価計算）について学習します。

【到達目標】
《知識》
原価計算に関する基礎的な知識を身につけている。

《技能》
原価計算に必要な情報を収集し、分析するスキルを身につけている。

《思考・判断・表現力》
原価計算について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋賢 . 2015 . 『テキスト原価会計』中央経済社 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【授業の概要】
1. ガイダンス（原価計算の学び方）
 2. 原価および原価計算の基礎知識①：原価計算の目的
 3. 原価および原価計算の基礎知識②：原価とは何か
 4. 原価および原価計算の基礎知識③：原価計算の種類
 5. 原価の費目別計算①：材料費
 6. 原価の費目別計算②：労務費
 7. 原価の費目別計算③：経費
 8. 前半のまとめ
 9. 製造間接費の計算①：製造間接費の性質
 10. 製造間接費の計算②：原価差異分析
 11. 単純個別原価計算①：単純個別原価計算の原理
 12. 単純個別原価計算②：仕損と作業屑
 13. 部門別個別原価計算①：原価の部門別計算
 14. 部門別個別原価計算②：部門別個別原価計算
 15. 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（60%）、小テスト（40%）にて評価します。
ただし、5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容について復習を行うこと。

原価計算論I【昼】

履修上の注意 /Remarks

電卓を使用しますので持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計、原価、原価計算

原価計算論II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 勇一 / YUICHI ICHIHARA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC213M	○	◎	○		
科目名	原価計算論II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

製品やサービスの価格決定の基礎ともなる原価の計算方法および流れについて学習します。
原価計算論IIでは、同じ規格で大量に製造される製品の原価計算（総合原価計算）について学習します。

【到達目標】

《知識》

原価計算に関する専門的な知識を身につけている。

《技能》

原価計算に必要な情報を収集し、分析するスキルを身につけている。

《思考・判断・表現力》

原価計算について論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋賢 . 2015 . 『テキスト原価会計』中央経済社 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【授業の概要】

1. ガイダンス（原価計算の学び方）
2. 単純総合原価計算①：総合原価計算の原理
3. 単純個別原価計算②：モノの流れの仮定と製品原価の計算
4. 減損費と仕損費の処理①：減損・仕損とは何か
5. 減損費と仕損費の処理②：非度外視法・度外視法
6. 工程別総合原価計算
7. 組別総合原価計算
8. 前半のまとめ
9. 等級別総合原価計算
10. 連産品の原価計算
11. 標準原価計算①：標準原価計算の意義
12. 標準原価計算②：原価差異の原因別分析
13. 直接原価計算①：直接原価計算とは何か
14. 直接原価計算②：直接原価計算とCVP分析
15. 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（60%）、小テスト（40%）にて評価します。
ただし、5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容について復習を行うこと。

原価計算論II【昼】

履修上の注意 /Remarks

電卓を使用しますので持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計、原価、原価計算

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC210M	◎	○	○		
科目名	財務会計論 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

また、本年度より、実際の財務諸表を見慣れるためにかんたんな財務分析の時間を可能な限り設けたいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する基礎的な知識を見につけている。
 技能：会計学の基本的な技能を身につけている。
 思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『信長に学ぶ経営分析』○
 西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
 西澤健次『負債認識論』国元書房○
 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
 中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 収益認識基準と利益
- 12回 中間のまとめ【認識、測定、伝達】
- 13回 財務会計の諸問題 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の読み方(簡単な経営分析)【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

財務会計論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポート等を含む)...20% 中間試験...20% 期末試験または期末レポート...60%
期末試験を受験しなかった場合または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習:講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「会計学入門」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定でいる。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC211M	○	◎	○		
科目名	財務会計論II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にして欲しい。動態論の基本的思考を中心にして、現代会計について言及したいと思う。

本年度より実際の財務諸表を見慣れるために財務会計論Iに続けて様々な会社の財務諸表を読む練習の時間を設けたいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する専門的な知識を見つけている。

技能：会計学の専門的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『信長に学ぶ経営分析』星海社○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計（その1）【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計（その2）【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表分析【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

財務会計論II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポートを含む)...20% 期末試験または期末レポート...80%
期末試験を受験しなかった場合または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:簿記論のテキスト(簿記2級程度の仕訳)や、財務会計論の入門書及びわかりやすい教科書(例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光&川村義則の最新の書籍)を読むことをすすめる。
事後学習:講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「会計学入門」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみる事が重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

経済学特殊講義 A 【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科, 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科, 市原 勇一 / YUICHI ICHIHARA / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN340M	◎	○	○		
科目名	経済学特殊講義 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、近年注目される、企業・団体が展開するビジネス事例を取り上げて、ビジネスの仕組みを検討します。ビジネスの仕組みを理解するためには、経済学、経営学、会計学、情報科学といった様々な学術領域の知識、視点、分析手法が必要です。そのため、授業は経済学科と経営情報学科からそれぞれを専門領域とする複数の教員で担当します。

この授業は、皆さんがこれまで学習してきた各領域の基礎を応用して、現実のビジネス事例を検討する力の獲得を目指します。また既存のビジネス事例の理解を通じて、新しいビジネスの仕組みづくりの着想を得る力の獲得も目指します。

< 到達目標 >

【知識】これまで学習した知識を、ビジネス事例を理解するために応用するための知識を身につけている。

【技能】これまで学習した視点や分析手法を、ビジネス事例を理解するために応用する力を身につけている。

【思考・判断・表現力】学習した基礎知識・技能をビジネス事例の検討やビジネスの仕組みづくりの提案に応用することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・伊藤元重 (2021) 『ビジネスエコノミクス』第2版, 日本経済新聞社 .
- ・井上達彦・中川功一・川瀬 真紀 (2019) 『経営戦略』, 中央経済社 .
- ・琴坂将広 (2018) 『経営戦略原論』東洋経済新報社 .
- ・ジョン・マクミラン (2021) , 『市場を創る:パザールからネット取引まで』新版, 慶応義塾大学出版会 .
- ・杉本徹雄編 (2012) , 『新・消費者理解のための心理学』, 福村出版 .
- ・中川功一・佐々木将人・服部泰宏 (2021) 『考える経営学』, 有斐閣 .
- ・古川一郎・守口 剛・阿部誠 (2011) 『マーケティング・サイエンス入門：市場対応の科学的マネジメント』新版, 有斐閣 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 経営学からのアプローチ 【経営学】
- 第3回 個人意思決定の考え方 (1) 【合理的選択理論】
- 第4回 個人意思決定の考え方 (2) 【心理学】 【行動経済学】
- 第5回 経済学からのアプローチ 【経済学】
- 第6回 会計学からのアプローチ 【会計学】
- 第7回 情報科学からのアプローチ 【情報科学】
- 第8回、第9回 コマツ製作所のKOMTRAX(コムトラック)システム 【IoT】 【戦略的ネットワーク】
- 第10回、第11回 アマゾン・ドット・コム・インクのAmazon 【プラットフォーム】 【ダイナミック・プライシング】
- 第12回、第13回 スポティファイ・テクノロジーのSpotify 【レコメンデーション】 【サブスクリプション】
- 第14回、第15回 オムロンのESG情報開示 【ESG投資】 【CSR】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業課題4回(40%) + 最終課題(60%) = 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業で示します。事前に示された内容については必ず予習し、課された課題について熱心に取り組んでください。

経済学特殊講義 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

入門的な経済学、経営学、会計学、情報科学の内容を学習していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの主体的な授業参加を期待します。

キーワード /Keywords

ビジネス、経済学、経営学、会計学、情報科学

経済学特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN341M	◎	○	○		
科目名	経済学特殊講義B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この講義では、社会課題の解決やビジネスで経済学、経営学の知見がどのように活用されているのかを学び、受講者自身が社会に出たときに、経済学、経営学の最新の知見をどのように用いるのかを講師と共に学ぶことを目的とする。特に、現在注目されているSDGs、ESG投資、VUCA、脱炭素、サーキュラーエコノミー、ナッジ、スタートアップ、アントレプレナーシップなどをキーワードにして、経済学、経営学の最新の研究成果、知見を学ぶ。

なお、本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話聴くだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

到達目標

【豊かな知識】

最新の経済学、経営学など理論、研究成果、知見などを理解している。

【知識を活用できる技能】

経済学、経営学などで取り扱う社会課題に対し、最新の分析手法を適切に運用できる能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】

社会課題を発見し、専門的知識を用いて深く考察し、発見した社会課題に対し、適切な経済理論、経営理論を用いて分析し、他者と問題意識を共有、共感できる表現力を身につけている。

教科書 /Textbooks

毎回、事前に講義資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、関連のある文献を紹介しますが、以下の参考書は事前に読んでおくと、講義内容の理解が深まります。

- 馬田(2017)、『逆説のスタートアップ思考(中公新書ラクレ)』、中央公論新社、902円
- 大竹(2019)、『行動経済学の使い方(岩波新書)』、岩波書店、902円
- 中石(2020)、『サーキュラー・エコノミー:企業がやるべきSDGs実践の書(ポプラ新書)』、ポプラ社、946円
- 中野・津川(2017)、『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』、ダイヤモンド社、1760円
- 夫馬(2020)、『ESG思考 激変資本主義1990-2020、経営者も投資家もここまで変わった(講談社+α新書)』、講談社、968円
- 夫馬(2021)、『超入門カーボンニュートラル(講談社+α新書)』、講談社、946円

経済学特殊講義B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン：講義の全体像、スケジュールについて
- 2回 原因と結果の経済学（1）【因果関係】、【相関関係】
- 3回 原因と結果の経済学（2）【RCT】、【自然実験】
- 4回 原因と結果の経済学（3）【差の差の分析】、【操作変数法】、【不連続回帰分析】
- 5回 SDGs（1）
- 6回 SDGs（2）
- 7回 サーキュラーエコノミー（1）
- 8回 サーキュラーエコノミー（2）
- 9回 ESG投資（1）
- 10回 ESG投資（2）
- 11回 脱炭素、カーボンニュートラル
- 12回 ナッジ
- 13回 アントレプレナーシップ
- 14回 スタートアップ
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
また、外部講師の都合により、順番が変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト（12回）...30%、課題...20%、講義に対する貢献度（講義中の質問）...30%、期末試験...20%
一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布される資料を読み、講義当日に質問できるようにしてください。
事後学習としては、講義後に復習し、小テスト、課題に対応できるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ただ、講師の話を受け身で聞くのではなく、「なぜそうなのか」、「なぜ重要なのか」などを意識して聞き、講義中に積極的に質問してください。

キーワード /Keywords

SDGs、ESG投資、VUCA、脱炭素、サーキュラーエコノミー、ナッジ、スタートアップ、アントレプレナーシップ、データサイエンス

経営学特殊講義 A 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS390M	◎		○		○
科目名	経営学特殊講義 A				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本講座のメインテーマは、公共経営です。
資本主義経済の成熟化や超少子・高齢社会の到来などにより、公益性の高い仕事は国や地方公共団体などの政府部門（公）だけではなく、営利法人や非営利法人などの民間事業者がその担い手として活躍する仕組み（公共）が形成されつつあります。
歴史的に見ると、1970年代～80年代においては米国のレーガノミクス、英国のサッチャリズムによってNPM (New Public Management：新しい公共経営)と呼ばれる取り組みが行われるとともに、わが国においては1980年代からの規制改革や公益法人改革などによって市場原理の導入が進められました。1990年代には、地方公共団体による行政評価や企業会計手法の導入など、公的部門への民間の経営手法の導入が試みられ、やがて国において制度化されたNPMの取り組みが推進されるようになりました。
公的部門への市場原理の導入は自由放任ではなく、一定のルールや規制によることが必要ですが、今後はNPMの成果を生かしつつ、ポストNPMの取組み、すなわち公共空間の主要なステークホルダーとしての市民や企業が自ら公共サービスや公共空間を民主的かつ効率的・効果的に秩序づけ、コントロールするNPG (New Public Governance：公共ガバナンス)が重要となります。
本講座では、これらの歴史的経緯と制度的内容、実践例や社会保障分野における展開などを紐解き、今後の経済社会の枠組みを展望します。

(到達目標)

- 【知識】 経営学の応用・周辺分野に関する専門的な知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 経営学の応用・周辺分野の諸問題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。
- 【自立的行動力】 経営学の応用・周辺分野に関する諸問題に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

授業において適宜、資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「世界の経営学者はいま何を考えているのか」 入山章栄 (英治出版)
- 「ソーシャル・キャピタル入門」 稲葉陽二 (中公新書)
- 「行政学」 西尾勝 (有斐閣)
- 「自治体職員かく生きる」 自治体活性化研究会 (生活福祉研究機構)
- 「教養としての社会保障」 香取照幸 (東洋経済新報社)

経営学特殊講義 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回	公共経営総論 (1)	【公共とは何か、歴史、公共セクターの役割や特性】
第 2 回	公共経営総論 (2)	【公共セクターの職業倫理、ソーシャルキャピタルの概念】
第 3 回	公共経営総論 (3)	【NPMとNPG】
第 4 回	公共経営総論 (4)	【財政と公共ガバナンス】
第 5 回	公益事業とその担い手 (1)	【公益事業とその経営組織 (営利・非営利)】
第 6 回	公益事業とその担い手 (2)	【公益法人やNPO法人とその事業構築、活動資金】
第 7 回	NPO法人のマネジメント	【NPO法人スタッフとの対話】
第 8 回	中間レポートの作成と提出	【中間的なふりかえりと総括】
第 9 回	公共サービスの改革 (1)	【官民連携とガバナンス】
第 10 回	公共サービスの改革 (2)	【公共法人の多様化とガバナンス】
第 11 回	公共政策と規制緩和	【規制改革の事例：社会福祉基礎構造改革と 21 世紀の福祉】
第 12 回	社会福祉法人のマネジメント	【社会福祉法人理事長との対話】
第 13 回	地域包括ケアとコミュニティ	【NPO法人スタッフとの対話】
第 14 回	期末まとめ	【期末のふりかえりと総括①】
第 15 回	期末レポートの作成と提出	【期末のふりかえりと総括②】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのレポート提出 (毎回)	15 %
中間レポート (1 回)	10 %
期末レポート (1 回)	75 %

中間レポート及び期末レポートを提出しなかった場合は「評価不能 (一)」とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日常的に新聞を閲覧し、経済社会のイブツクク理解・整理を行うように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業においては、履修生からの積極的な質問や意見表明を歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済のグローバル化などにより、既存の価値観は大きく揺らいています。企業や経営者、市民や政府・行政とは何かが改めて問われているのです。社会全体にかかわる課題 (公共的課題) を解決するためには、政府、企業、消費者 (市民) など多様なステークホルダーが、他人事を我が事として捉え直し、主体的に役割を果たす必要があります。現代社会の仕組みを概観し、自ら積極的に社会的課題に関与したいという皆さんの参加を期待します。

キーワード /Keywords

公と公共、私益・共益・公益、NPMとNPG、規制改革、非営利組織の経営、官民パートナーシップ

経営学特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS391M	◎		○		○
科目名	経営学特殊講義B				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本講義は、消費者行動にかかわる人間特性について、知覚・認知心理学や社会心理学の見地から概観していきます。社会においてヒトがどのように世界を見聞きし、理解し、判断を行っているか、さらにはコミュニケーションがどのようになされるかを知ることは重要だと言えます。

<到達目標>

DP1 (知識) : 経営学の応用・周辺分野に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

DP3 (思考・判断・表現力) : 経営学の応用・周辺分野の諸問題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

DP5 (自立的行動力) : 経営学の応用・周辺分野に関する諸問題に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

講義ごとに資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松井剛・西川英彦(編著)『1からの消費者行動』中央経済社 2016年 ¥2400
他にも、講義内で適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 消費者行動と経営学1：ガイダンスと授業の概要説明，経営学と心理学との接点
- 2回 消費者行動に関わる人間の特性1：感覚と知覚1
- 3回 消費者行動に関わる人間の特性2：感覚と知覚2
- 4回 消費者行動に関わる人間の特性3：感覚と知覚3
- 5回 消費者行動に関わる人間の特性4：多感覚統合
- 6回 消費者行動に関わる人間の特性5：選択的注意
- 7回 消費者行動に関わる人間の特性6：よさと感性
- 8回 消費者行動に関わる人間の特性7：感情と情動
- 9回 消費者行動に関わる人間の特性8：学習理論
- 10回 消費者行動に関わる人間の特性9：記憶
- 11回 消費者行動に関わる人間の特性10：対人認知，対人感情
- 12回 消費者行動に関わる人間の特性11：コミュニケーション
- 13回 消費者行動に関わる人間の特性12：説得と態度変容
- 14回 消費者行動に関わる人間の特性13：確率判断，リスク認知，認知バイアス
- 15回 消費者行動と経営学2：全体のまとめ，小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内小テスト ... 40% 授業内レポート ... 60%

やむを得ぬ事情で15回授業内の小テストを欠席する場合は、代替レポートを提出していただきます。
小テスト(代替レポートを含む)を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には、必ず授業の復習をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

授業中に模擬実験を行う場合もあります。

経営学特殊講義B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業の人的資源の活用や顧客とのコミュニケーション等を学んでいくにあたって、心理学の知識を得ることは有益となります。

キーワード /Keywords

経営学 知覚・認知心理学 社会心理学 行動経済学

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW100M	○	○	◎		
科目名	法学総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを一貫した背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。以下に到達目標も示します。

(到達目標)

- 【知識】法学の初歩的な知識を身につけている
- 【技能】法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正己・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマンニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。
- 三ヶ月章、『法学入門』、弘文堂、1982年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる(べき)か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら?…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は?…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボデイガードが殴ってきたら?…【国家=権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公/私の区別】
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法/私法】、【実体法/手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですが/反対ですが、それはなぜですか?…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします?…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

法学総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に関連した小課題のできばえ…………… 30%
- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験… 70%
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
- 【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。概念の内容だけでなく、概念どうしのつながりを理解してください。

履修上の注意 /Remarks

法(学)には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、各分野の例外的な考えや細かい考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

いうまでもなく法学は、社会的公正さという私たちの社会の基礎となる(べき)秩序を構想します。よってこの授業はSDGsのなかでもとりわけ「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

労使関係法 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW241M	○	◎	○		
科目名	労使関係法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、労働組合と使用者の関係を規律する法分野である集团的労働関係法を中心的に学びます。

本講義の目的は、集团的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。

(到達目標)

【知識】労使関係法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】労使関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】労使関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）3,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

第1回 イントロダクション

第2回 労組法上の当事者

第3回 労働組合の組織と運営

第4回 団体交渉

第5回 労働協約①【労働協約の成立、労働協約と労働契約】

第6回 労働協約②【労働協約の拡張適用、労働協約の更新と終了】

第7回 団体行動序説

第8回 組合活動

第9回 争議行為①【争議行為の保障、正当性】

第10回 争議行為②【争議行為と賃金、正当性のない争議行為の責任】

第11回 争議行為③【ロックアウト、労働争議の調整】

第12回 不当労働行為①【不当労働行為制度の意義と目的、不利益取扱い、正当な理由のない団交拒否】

第13回 不当労働行為②【支配介入、複数組合並存下の不当労働行為、賃金・昇格差別の立証】

第14回 不当労働行為③【救済】

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)・・・100%

小テストを2回とも受けなかった場合、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。

事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

前期開講の「雇用関係法」を事前に履修しておくことが望ましいです。

労使関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「8.働きがいも経済成長も」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW240M	○	◎	○		
科目名	雇用関係法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、個々の労働者と使用者の関係を規律する法分野である個別的労働関係法を中心に学びます。

本講義の目的は、個別的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。講義では、労働契約の成立、展開、終了という労働契約の展開過程に沿って重要論点を検討します。

(到達目標)

【知識】雇用関係法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】雇用関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】雇用関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）3,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

第1回 イントロダクション（労働法の役割）

第2回 労働法上の当事者

第3回 労働契約の成立

第4回 労働契約上の権利・義務

第5回 就業規則と労働契約

第6回 賃金

第7回 労働時間、休憩・休日と年次有給休暇

第8回 人事異動・配転・出向

第9回 労働契約の変更

第10回 休業・休職

第11回 安全衛生と労災補償

第12回 懲戒

第13回 労働契約の終了（解雇、退職とその他の法律関係）

第14回 非典型雇用（パート、有期、派遣労働）

第15回 雇用平等、労働者の自由と人権

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（2回）・・・100%
小テストを2回とも受けなかった場合、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。
事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

雇用関係法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「社会法総論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW242M	○	◎	○		
科目名	社会サービス法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、次世代育成戦略に伴う子ども子育て支援関連法や障害者総合支援法の制定、障害者分野と介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

(到達目標)

【知識】 社会サービス法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 社会サービス法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】 社会サービス法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジюмеで進行予定。レジюмеは、Moodleで事前配布する。

ただし、本講義において用いる諸法律の条文を用意する必要がある。かなり多くの法律が必要となるため、社会保障関連法が掲載されている六法を使用することを推奨する(当該六法等必要な情報は、初回講義時に指示するので必ず出席すること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、必要に応じて講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インTRODクシヨン～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保険の保険関係(保険者・被保険者)
- 第3回 保険医療の仕組み①～保険医療機関と保険医
- 第4回 保険医療の仕組み②～保険医療関係における問題
- 第5回 医療保険の保険給付
- 第6回 医療保険の財政
- 第7回 高齢者の医療保障
- 第8回 医療供給体制に関する法制
- 第9回 社会福祉の法体系とその展開
- 第10回 社会福祉の給付方式
- 第11回 サービス利用の法律関係
- 第12回 福祉サービスの提供体制
- 第13回 権利擁護システム
- 第14回 不服申立制度
- 第15回 まとめ

社会サービス法【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する(期末試験...100%)。

* 期末試験未受験者は「Z」評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。

(事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目(憲法・民法・行政法領域)を履修していることが望ましい。特に他学部・他学科生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。そのため、これら基礎科目の履修を終えた3年次以降に履修するとより理解しやすくなる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1(貧困をなくそう)、3(すべての人に健康と福祉を)、10(人や国の不平等をなくそう)及び16(平和と公平をすべての人に)の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 鬼塚 知 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW342M	○	◎	○		
科目名	環境法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

一定程度の学力・理解力があることを前提に、法解釈における思考力を鍛えるとともに、いわゆる環境法の考え方を学ぶことを目標とする。受講生の数を踏まえ、授業内容等は考慮するが、小テストをこまめに実施することで知識の定着・応用力を養っていく。

教科書 /Textbooks

各回にて講師作成のレジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講師が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第4回 法解釈について・基礎的知識の確認
- 第5回～第14回 いわゆる環境法(廃棄物処理法、環境影響評価法など)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業に対する取り組み姿勢 30%
- 定期試験 70%
- ※新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、定期試験はレポートにすることがある。
- ※定期試験ないしレポートを受験しなければ評価不能(-)となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

昨年の講義を踏まえ、基礎的な知識を重点的に理解してほしい。すなわち、環境法においては、民法・行政法における知識が最低限必要となるため、日々、同法についてしっかりと学んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

前述のとおり、環境法は民法・行政法の応用科目である。同法について最低限度の講義は行うが、これらの理解が乏しい場合、環境法の内容を理解するためには相応の努力が必要と考える。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生間の文章力について格差が著しい。その原因は、そもそも文章に触れる時間及び文章を書く時間の差にあると思う。文章力は文章を書くことで確実に上達する能力であるとともに、一般社会に出た際に間違いなく必要になる能力である。そのため、これらの能力を講義を通して向上させたいと考えている。

キーワード /Keywords

独占禁止法 【昼】

担当者名 /Instructor 諏佐 マリ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW340M	○	◎	○		
科目名	独占禁止法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「経済憲法」または「経済の基本法」と呼ばれる独占禁止法によって規制される行為、および違反行為に対してとられる措置の内容を学びます。まず、独占禁止法の執行・運用を中心的に担っている公正取引委員会の組織およびその手続について学びます。そのうえで、違反行為に対する公正取引委員会およびそれ以外の主体による措置についても学びます。そして、具体的な違反行為としての、カルテル・談合や、「私的独占」行為、競争制限的な合併、「不正な取引方法」などについて、具体的事例に接しながら理解してもらいます。

(到達目標)

【知識】 独占禁止法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 独占禁止に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 独占禁止法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

この講義で扱う独占禁止法は2019年に大きく改正されていますが、それを反映した適当な教科書が、このシラバス入力段階ではありません。したがって、ここで教科書の指定はできない状況です。改正法が反映されていないため、購入の必要はありませんが、教科書に準ずる参考書として、土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法（第2版）』（有斐閣、2019年）があります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金井貴嗣ほか編「経済法判例・審決百選（第2版）」（有斐閣、2017年）2800円＋税

泉水文雄『経済法入門』（有斐閣、2018年）3700円＋税

岸井大太郎ほか『経済法（第9版）』（有斐閣、2020年）2700円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 独占禁止法の目的と仕組み
- 2 公正取引委員会の組織と手続
- 3 違反行為に対する民事上の責任
- 4 違反行為に対する刑事上の責任
- 5 競争制限行為の禁止
- 6 「私的独占」行為の禁止
- 7 「不当な取引制限」行為の禁止
- 8 事業者団体の行為の規制
- 9 企業集中規制
- 10 「不正な取引方法」の禁止（1） 取引拒絶行為の規制
- 11 「不正な取引方法」の禁止（2） 不当廉売行為の規制
- 12 「不正な取引方法」の禁止（3） 不当顧客誘引行為の規制
- 13 「不正な取引方法」の禁止（4） 拘束条件付取引の規制
- 14 「不正な取引方法」の禁止（5） 優越的地位の濫用の規制
- 15 国際的な経済活動の展開と独占禁止法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（60%）および授業への取り組み（40%）。定期試験を受験しなかった場合は評価不能（-）とします。

独占禁止法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に必要な読書等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

集中講義形式で行われる授業のため、授業への出席が成績評価の大前提となります。必ず手元で独占禁止法等の条文を確認できるように準備しておいてください。授業においては、民法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法等の条文の参照も求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集中講義形式で行われる授業のため、授業への出席が成績評価の大前提となります。

キーワード /Keywords

独占禁止法、消費者、競争、経済活動の自由、公正取引委員会

民法総則【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW160M	○	○	◎		
科目名	民法入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

民法は、日常生活の法といわれることがあります。つまり、日常生活に関わる法律であると。もっとも、日常生活と一口に言っても、そこでは様々なことが行われています。ですから、民法は、具体的にどの部分に関わるのかが疑問に感じられるでしょう。この点について、民法は①家族関係、②財産、③契約に関係するとされています。なんだか漠然とした答えですが、民法は広く日常生活に関係しているというイメージを持って頂ければそれで十分です。

このように広い対象を規律する法律が民法ですから、その条文の数はかなり多く(1050条!)、それゆえに5つの大きなまとまり(「編」という)に分けられています。その第一編が「総則」であり、「総則」には、続く第二編「物権」と第三編「債権」とに共通するルールが定められています。この「総則」(1条~169条)がこの講義で扱う範囲となります。

この講義では、民法典の全体像をしっかりと把握した上で、民法総則が扱っているルールを正確に理解し、基本的な法解釈ができるようになることを目的とします。願わくは、解釈の面白さに目覚めて欲しいと思います。

なお、この講義は、原則としてオンライン(動画を各自で視聴する方式)で実施します。各動画に簡単なクイズを付けて、それへの解答を以て出席確認とします。

(到達目標)

- 【知識】民法学の民法総則に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】民法学の民法総則に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現】民法学の民法総則に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

佐久間毅ほか『民法I総則(第2版補訂版)』(有斐閣リーガルクエスト、2020年)2600円+税
適宜レジュメも配布します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 佐久間毅『民法の基礎1総則(第5版)』(有斐閣、2020年)3100円+税
- 潮見佳男=道垣内弘人『民法判例百選①総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年)2200円+税
- 大村敦志=道垣内弘人編『解説民法(債権法)改正のポイント』(有斐閣、2017年)3200円+税
- 山野目章夫『民法概論1民法総則』(有斐閣、2017年)3200円+税
- 山本敬三『民法講義I総則(第3版)』(有斐閣、2011年)4500円+税

民法総則【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス、民法の意義
 第2回民法の基本原則、民法総則とは
 第3回人①（権利能力、意思能力）
 第4回人②（行為能力、未成年者）
 第5回人③（成年後見制度、任意後見）
 第6回人④（住所、不在者、失踪宣告）
 第7回法人①（法人総論）
 第8回法人②（法人の対外関係、権利能力なき社団）
 第9回物
 第10回法律行為①（定義、意義）
 第11回法律行為②（成立、解釈）
 第12回法律行為③（法律行為の有効性判断）
 第13回意思表示①（意思表示の構造、心裡留保）
 第14回意思表示②（通謀虚偽表示）
 第15回意思表示③（錯誤）
 第16回意思表示④（詐欺・強迫による意思表示、消費者契約法）
 第17回代理①（代理総論、成立要件）
 第18回代理②（無権代理）
 第19回代理③（無権代理人の責任、無権代理と相続）
 第20回代理④（代理権授与表示による表見代理）
 第21回代理⑤（権限外行為の表見代理）
 第22回代理⑥（代理権消滅後の表見代理）
 第23回無効・取消し
 第24回条件・期限、期間
 第25回時効①（時効総論、正当化根拠）
 第26回時効②（取得時効）
 第27回時効③（消滅時効）
 第28回時効④（時効の完成猶予・更新）
 第29回時効⑤（時効の援用、時効利益の放棄）
 第30回民法改正について（債権法改正、成人年齢引下げ）

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポートと期末レポートの2回のレポートで評価します。
 各レポートの配点は50点ずつです。
 2回のレポート提出が必須であり、いずれか一方又は双方のレポートが未提出の場合は、成績評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当頁を一読してから講義に出席してください。
 事後には、論点を中心に、とりわけ、判例の理論構成に注意して講義ノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

講義を視聴する際には、手元に六法と教科書をご用意ください。
 スライドに条文を載せることは、原則として行いません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上で述べたように、総則には、物権編と債権編に共通するルールが定められていることから抽象度が高いために、初学者には難しく感じられるかもしれません。具体例を多く取り上げるなどの工夫をして講義を進めますので、辛抱強くコツコツと学習に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法総則、権利の主体、法律行為、意思表示、代理、時効

企業法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW270M	○	◎	○		
科目名	企業法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義では、商事に関する基本法である『商法典』中の「商法総則」と「商行為編」の部分、ならびに、『会社法典』中の「会社法総則」の部分でそれぞれ定められている諸規定の中から、最も重要かつ基本的なルールをいくつか取り上げ、それらの立法趣旨、基本構造、解釈適用上の問題点について、具体的事例に即しながら解説します。

また、必要な限りで『不正競争防止法』など、商事に関する特別法上のルールについても適宜、取り上げていきます。

本講義では、受講を通して、受講者が現代型企業ビジネスが抱えている今日的な法律問題や課題に関心を持ち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることを目指します。

(到達目標)

- ・ 企業法に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 企業法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
- ・ 企業法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです(毎回、必ず持参してください)。

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の関心・理解度等により，進度・順番が変わりうることをご了解願います。

第1回	商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
第2回	商人・商行為とは何か
第3回	商法の特徴(1)【営利主義】
第4回	商法の特徴(2)【外観主義】
第5回	商法の特徴(3)【公示主義】
第6回	企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
第7回	企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
第8回	企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護
第9回	企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
第10回	現代型取引と名板貸制度
第11回	企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人とは何か】
第12回	企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
第13回	企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【支配人の義務】
第14回	営業・事業譲渡をめぐる法律問題
第15回	総まとめ

企業法総論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

①事後学習課題30%、②中間テストもしくは中間レポート40%、③学期末レポート30%で評価します。
なお、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断する場合があります。
一評価不能：上記の必須課題①②③のすべてが未提出だった場合
D評価：1つ以上の必須課題が提出されたが、最低合格点60点に満たなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle上もしくはそこにアップされた講義レジュメ等には、随時、以下の事項が記載されていきます。
①予習すべき教科書の箇所や予習課題、②授業後に取り組むべき復習課題、③レポート提出用の課題など。
予習、復習を前提とした講義を展開します。
指示された事前学習を行い、授業にのぞむとともに、指示された範囲の復習を心がけ、課題に積極的に取り組むことにより、授業の理解を深めるようにしてください。
詳細は、Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

1、本講義が対象とする「商法」は、応用科目としての性格が非常に強いものです。つまり、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「物権法」「会社法」「民事訴訟法」などの諸科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。
2、Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して、初回からの分もファイルして授業に持ってくるようにしてください。テキスト・レジュメ・裁判例プリントなどを持参しないで受講すると、授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法総則、会社法総則、不正競争防止法

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW250M	○	◎	○		
科目名	国際法I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
 国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

到達目標は、

- 【知識】 国際法に関する知識を体系的に身につけている
 - 【技能】 国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
 - 【思考・判断・表現力】 国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。
- となります。

具体的には、

- 国際法とは何を指すのか、慣習国際法の問題も含め、説明できる、
- 国際法がどのように作られるのか、その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
- 締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか、また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか、説明できる、
- 国際法における任意規範と強行規範の議論を、条約の無効の問題も含め、説明できる、
- 国際法への違反があった場合、どのような責任が発生するのか、紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか、力による解決は認められるのか、それらの課題も含め、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
 位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
 Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の効力
- 第5回 条約の国内適用

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第10回 国際責任の成立
- 第11回 国際責任の追及と解除
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習（事前学習課題）、復習（事後学習課題）および学期末試験で評価します。

予習（事前学習）課題...16.5% 復習（事後学習）課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】、【SDGs_Goal 16】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW251M	○	◎	○		
科目名	国際法Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
 国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

到達目標は、

- 【知識】 国際法に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】 国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】 国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

となります。

具体的には、

- 国家システム(state system) の現状と課題を把握し、説明できる、
- 国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し、説明できる、
- 国益、共通利益、国際社会の公益について、自らの問題として、積極的に考えることができる、
- 国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し、説明できる、
- 個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか、その主体性について説明できる、
- 領域に対する国家の権限を正しく理解し、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
 位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
 学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と国家承認

第3回 政府承認

第4回 国家の基本的権利

第5回 国家の基本的義務

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第III部「陸・海・空と国際法」

第10回 陸と国際法：領土取得の権原

第11回 陸と国際法：領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習(事前学習)課題、復習(事後学習)課題、学期末試験で評価します。

予習(事前学習)課題...16.5% 復習(事後学習)課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は北方モジュールの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】 【SDGs_Goal16】

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC112M	◎	○	△		
科目名	福祉国家論				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

（到達目標）

【知識】社会保障制度を総合的に理解している。

【技能】社会保障制度を利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会保障制度について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「福祉国家とは」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「自由と平等の規範」 自由主義、社会主義
- 第3回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第4回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第5回「年金保険」 財政悪化
- 第6回「年金保険」 空洞化（無年金・低年金）
- 第7回「年金保険」 世代間格差
- 第8回「年金保険」 世代内格差
- 第9回「年金保険」 改革の論点
- 第10回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第11回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第12回「生活保護」 原理・原則
- 第13回「生活保護」 扶助の種類
- 第14回「生活保護」 健康で文化的な最低限度の生活
- 第15回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家

福祉国家論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合(もしくはレポート課題を提出しなかった場合)は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

9時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

都市経済論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC113M	○	△	◎		
科目名	都市経済論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。
本講義は、都市の経済的問題を軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。
講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことが、域内産業の特性との関連で見えていきます。
さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。
本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

(到達目標)

【知識】

都市経済に関する基礎的な専門知識を身につけている。

【技能】

都市経済に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市経済に関係する現象を説明するとともに、理論的、学術的な知見を踏まえた解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
 - 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
 - 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
 - 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

都市経済論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか? - 都市の発展
6. 都市空間の形成 - 都市システム
7. 都市の成長と衰退① - 土地利用、都市の内部構造
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化と産業構造① - 域外マネーの獲得と域内経済循環
10. 地域経済活性化と産業構造② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興とまちづくり
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。
「地方創生」に関する理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略に関する洞察は不可欠です。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。

- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD211M	○	△	◎		
科目名	地方自治論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

私たちの生活の切っても切り離せない地方自治ですが、その全体像を把握し今後のあり方を展望するためには、一定の知識が必要となります。本講義では、受講生が地方自治の基本的な制度や運用を理解したうえで、現実社会における地方自治や自治体のあり方について、自らの意見を持てるよう多角的な観点から講義を行います。

(到達目標)

- DP3 思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。
- DP2 技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。
- DP1 知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

幸田雅治編 (2018) 『地方自治論 変化と未来』 法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大森彌・大杉覚 (2019) 『これからの地方自治の教科書』 第一法規
今川晃・牛山久仁彦編著 (2020) 『自治・分権と地方行政』 芦書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【授業の進め方など】
- 2回 地方自治制度の基礎
- 3回 地方自治の歴史①【戦前の地方自治】
- 4回 地方自治の歴史②【地方制度の戦後改革】
- 5回 地方自治の歴史③【戦後地方自治のあゆみ】
- 6回 自治体の種類と権能
- 7回 自治体の長と議会 (二元的代表制)
- 8回 住民と自治体行政の関係 (住民との協働)
- 9回 地方分権改革の意義と到達点
- 10回 「平成の大合併」と自治体
- 11回 国・都道府県・市町村の関係 (政府間関係)
- 12回 広域連携と大都市制度
- 13回 自治体職員の制度と運用
- 14回 自治体行政と公共サービスの多様性
- 15回 「危機」と自治体

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験では、単純な知識に加え、習得した知識を活かして現実の事象を検討・分析する能力を問う予定である。) ※学期末試験を受験しなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：地方自治に関するニュースに触れ、今日の社会における地方自治の論点を探る。
事後学習：参考書等の関連箇所を読み、授業内容の理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

政治学関連科目、行政学関連科目も合わせて履修することを推奨する。

地方自治論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地方自治論は、政治家や地方公務員をめざす人だけの学問ではありません。多様な自治体の全体像を学び、自らの地域のことを考える契機となるような授業運営を心がけます。
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

公共政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC211M	◎	○	△		
科目名	公共政策論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講生には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通してそうした問題意識をもつことを望んでいます。

(到達目標)

【知識】公共政策を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を身につけている。

【技能】公共政策を考察する上で必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】公共政策について、複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2010)『公共政策学の基礎』有斐閣。

伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法—(増補版)』東京大学出版会。

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳(2012)『政策立案の技法—問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ—東洋経済新報社。

阿部彩(2008)『子どもの貧困—日本の不平等を考える—』岩波書店。

阿部彩(2014)『子どもの貧困II—解決策を考える—』岩波書店。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命(社会起業家論)
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチヨークと障害者
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困(5)・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困(6)・・・社会実験(ペリー就学前プロジェクト)とまとめ
- 10回 介護保険(1)・・・導入
- 11回 介護保険(2)・・・現状分析
- 12回 介護保険(3)・・・問題点とその検討(「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む)
- 13回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 14回 ヤングケアラーの問題
- 15回 まとめ～シルバーデモクラシーと若者政策～

公共政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

期末レポートを提出していない場合には「評価不能(一)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210M	◎	○	△		
科目名	政治過程論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

政治過程論とは、“市民が選挙で投票をしたり、デモをしたりすることによって政治家に働きかけを行い、それを受けて政治家や官僚が政策を決定・実施し、その政策を受けて市民が再び投票などを行う”、といったような政治が機能する過程を、理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。本講義では、後述するように政治過程を「入力過程」と「出力過程」に大きく分けて解説していくことで政治過程論における基礎的な概念を身に付け、民主主義体制における政治過程の概形を把握することをその目的とします。

より具体的には、まず前半では、政治過程を理論的・実証的に分析するとは一体どのような営みなのかということ考えたのち、有権者や利益団体といった市民からなる集団が実際に政治的決定を行う政治エリートに働きかけを行う「入力過程」を扱います。後半では、議員や官僚といった政治エリートたちが政策を決定・実施することで我々市民の生活に影響を与える「出力過程」を扱います。

(到達目標)

【知識】政治過程に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】政治的意思決定の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】政治過程論の観点から、政治現象について論理的に検討し、自らの見解を表現することができる。

教科書 /Textbooks

松田憲忠・岡田浩編 2018. 『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利・田中愛治・真淵勝 2000. 『政治過程論』有斐閣アルマ

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 2008. 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

山田真裕 2016. 『政治参加と民主政治』東京大学出版会

谷口将紀 2015. 『政治とマスメディア』東京大学出版会

政治過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治過程論】【民主主義】【政治システム論】
- 第2回 権力
【権力】【非決定権力】【予測的対応】【観察同値問題】
- 第3回 政治学方法論入門
【因果関係】【理論と実証】【数理分析】【計量分析】
- 第I部 入力過程
- 第4回 政治参加
【投票参加】【投票外政治参加】
- 第5回 投票行動
【政策投票】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 第6回 選挙制度
【多数代表制】【比例代表制】【混合制】
- 第7回 利益団体
【利益団体と圧力団体】【多元主義】【ネオ・コーポラティズム】
- 第8回 マスメディア
【メディア効果論】【プライミング】【フレーミング】
- 第II部 出力過程
- 第9回 政党
【政党システム】【政党組織】【選挙制度と政党】
- 第10回 執政制度とリーダーシップ
【議院内閣制】【大統領制】【拒否権プレイヤー】
- 第11回 議会制度と立法過程
【変換型とアリーナ型】【委員会型と本会議型】【日本の国会】
- 第12回 政策決定過程
【(完全)合理性と限定合理性】【ゴミ缶モデル】【アリソンの3モデル】
- 第13回 官僚制と政策ネットワーク
【官僚優位論と政党優位論】【官僚の政治的統制】【鉄の三角形】
- 第14回 政策実施と政策評価
【実施のギャップ】【第一線公務員論】【政策評価と行政評価】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

*期末試験不受験の場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に臨んでください。
事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・本講義では基礎的な事項の効率的な定着を図るために教科書を指定していますが、講義では教科書の内容に追加・補足をします。講義中のノートテイキング及び復習を重視してください。
- ・スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では公務員試験などを念頭に置いて、先端的な分析ではあまり有用とはみなされていないような古典的な概念なども多く紹介します。しかしそこで試験のための単なる暗記ゲームに堕してしまうのは非常にもったいないですから、どういった点が分析上の欠点となりうるのか、それでもなお現実の政治の一面をよく捉えているといえる部分はないのかなど色々思索をしてみましょう。言論空間はすでに無用な概念でいっぱいですから、むやみに新しい名前を付けたり、使えるものをみだりに捨ててしまったりしないという工口な知的態度を共に身につけていきましょう。

キーワード /Keywords

政治過程 入力過程と出力過程

自治体政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC214M	○	△	◎		
科目名	自治体政策研究			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④家族構成の変容（単身世帯の急増）、といった問題は避けて通れない重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④小さな自治体（地方）は消滅するのか？、⑤移住政策・関係人口等、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含めて考えていくことにします。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

(到達目標)

【知識】地方自治体の公共政策に関する、基礎的な知識を身につけている。

【技能】地方自治体の公共政策について、必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】地方自治体の諸問題について総合的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか?-』（ちくま書房、2012年）。
- 藤山浩『田園回帰1%戦略-地元にとり戻す-』（農山漁村文化協会、2015年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想の検討
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-串とお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例の検討
- 7回 限界集落(3)-綾部市の「水源の里」条例
- 8回 限界集落(4)-限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
- 9回 北九州市及び大都市の局地的高齢化
- 10回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは何か？
- 11回 限界コミュニティとその再生
- 12回 団地の超高齢化、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 13回 都市郊外の超高齢化と地縁組織
- 14回 小さな自治体は消滅するのか？-島根県海士町から考える-
- 15回 まとめ

自治体政策研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

* 「一」は、期末レポートを提出していない場合につきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。

受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第1回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何もはじまりません。授業には必ず参加してください。

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」「陸の豊かさを守ろう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民（買い物弱者）、超高齢社会の担い手

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS100M	◎	○	△		
科目名	政治学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義は、政治の基本的な仕組み・ルールである「政治制度」の紹介を通じて、政治学の基礎的な概念を学び、日本やその他の民主主義諸国の政治に対する見方を養うことをその目的とします。

より具体的には、導入として政治そして民主主義とは何かということについて考えたいので、①政治制度にはどのようなものがあり、その違いが民主政治の在り方にどのような影響を与えるかについて学ぶ中で、政治学の基礎的な知識を身に着けること、②政治“学”の知識を蓄えるにとどまらず、そうして学んだ政治制度の知識に基づいて日本や各国の実際の政治について考察する力を身に着けることを目指していきます。

(到達目標)

【知識】 政治制度についての基礎的な知識を身につけている。

【技能】 各国の政治制度の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 制度設計の観点から社会的諸問題を論理的に検討し、その解決策について自らの意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 (2008) 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

レイプハルト, アーレント (粕谷裕子, 菊池啓一訳) (2014) 『民主主義対民主主義 (原著第2版) 』勁草書房

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝 (2011) 『政治学 (補訂版) 』有斐閣

砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015) 『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア

政治学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：政治とはなんだろうか
【権力】【政治と経済】【公共財】
- 第2回 政治制度：民主主義というルール、民主主義のルール
【体制論】【本人-代理人関係】【合理的選択制度論】
- 第3回 選挙制度：政治家はどう選ばれるか
【小選挙区制】【大選挙区制】【比例代表制】【混合制】
- 第4回 執政制度①：トップリーダーに何ができるか
【執政長官】【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
- 第5回 政党システム：政治の勢力図
【二大政党制】【多党制】【デュヴェルジエの法則】【ダウズモデル】
- 第6回 政党組織：政治のチーム・マネジメント
【議会政党】【議会外政党】【集権-分権】【党内民主主義】
- 第7回 執政制度②：執政制度のヴァリエーション
【議院内閣制の多様性】【大統領制の多様性】【半大統領制の多様性】
- 第8回 議会制度：政策を審議する
【立法過程の効率性】【立法過程の開放性】【二院制】
- 第9回 中央地方関係：自治と画一性
【単一国家】【連邦国家】【地方分権】
- 第10回 行政官僚制：民意と専門性
【能力・専門性】【官僚の政治的統制】【官僚の自律性】
- 第11回 政治制度から日本を眺める①：55年体制
【55年体制】【中選挙区制】【派閥】
- 第12回 政治制度から日本を眺める②：政治改革以後
【選挙制度改革】【小選挙区比例代表並立制】【行政改革】【政権交代】
- 第13回 政治制度から世界を眺める
【多数決型（ウエストミンスター型）民主主義】【コンセンサス型民主主義】
- 第14回 国際制度：政府のない世界の政治制度
【主権国家】【集団安全保障】【グローヴァル・ガヴァナンス】
- 第15回 政治学方法論：数理分析を中心に
【数理分析】【ゲーム理論】【ナッシュ均衡】【公共財ゲーム】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%
(オンラインの場合 期末レポート：100%)

*期末試験不受験(オンラインの場合は期末レポート不提出)の場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に参加(オンラインの場合は講義動画の視聴を)してください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・教科書は専門用語を多く含んだ「政治学の言葉」で書かれています。それに対して講義(オンラインの場合講義動画)ではできる限りかみくだいて説明するよう努めますので、各回授業への取り組みが講義の理解にとって極めて重要です。復習時に、教科書の内容が理解できるか、「自分の言葉」で説明できるか確認してみてください。
- ・教科書の該当部分、スライド内で引用した文献の出典は教員のホームページにて示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は政治学の学習の入り口に位置づけられるものですが、その後に履修するであろう「発展的な」科目に比して平易というわけではありません。むしろ、政治の基本的な仕組み/ルールである「政治制度」という切り口から、政治という複雑な営みについて体系的・学問的に考えるための一つの見方を提供する高度な内容であるといえます。大学での知的生活における早い段階で触れつつも、それを咀嚼・理解して自分のものとするために何度も戻ってくる、そういう価値のある内容を提供できればと思います。

キーワード /Keywords

民主政治 政治制度 本人-代理人関係 合理的選択制度論

地方行政改革論【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD310M	○	△	◎		
科目名	地方行政改革論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、行政学や地方自治論の基礎的な理解をもとに、現実の自治体が直面している課題やこれへの取組みについて、事例を挙げながら検討していく。現実の自治体行政の動きとこの背景にある制度・理論に基づき、どのような改革的な取組みが構想されているのかを学んでいく。

(到達目標)

- DP3 思考・判断・表現力：地方行政改革について、複眼的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや判断を論理的に表現することができる。
- DP2 技能：地方行政改革の分析に必要な情報を収集、分析することができる。
- DP1 知識：地方行政の改革に関する専門的応用的な知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

受講生の関心等に応じて適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心等に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業の進め方など)
- 2回 地域コミュニティとまちづくり
- 3回 市民参加と協働
- 4回 「地域おこし協力隊」と地域社会
- 5回 「ふるさと納税」と自治体
- 6回 防災・危機管理と自治体
- 7回 人口減少と地方創生①【契機と国の施策体系】
- 8回 人口減少と地方創生②【地方創生をみる視点】
- 9回 人口減少と地方創生③【自治体の先進的な取組み】
- 10回 感染症対応と自治体①【政府間関係】
- 11回 感染症対応と自治体②【法と自治体】
- 12回 感染症対応と自治体③【行政の冗長性と連携】
- 13回 自治体職員をめぐる論点と改革
- 14回 自治体財政をめぐる論点と改革
- 15回 自治体の意思決定をめぐる論点と改革

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート...100%
※学期末レポートを提出しなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：地方自治や自治体の取組みに関するニュースに触れ、今日の社会における論点を見つける。
事後学習：授業内で紹介した文献や資料に触れ、授業内容の理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

地方行政改革論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC215M	○	△	◎		
科目名	途上国開発論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、グローバル化と途上国開発という視点から、社会を読み解く視点や方法を修得します。具体的には、担当教員がこれまでフィリピンと日本で行ってきたフィールドワークの事例を中心に、グローバル化のなかでの都市（国）づくりが、そこに暮らす人々にどのような影響を及ぼしているのかについて考えます。そのために、都市で生活する人々の経済、社会、政治、政策などさまざまな側面について理解していきます。後半は、グローバルな「開発」を念頭に、私たちの生活に身近な問題について、メディア資料などを通して理解する力を養います。

- { 知識 } 途上国の政治経済の現状を理解している
- { 技能 } 途上国の政治経済上の情報を入手し、分析できる
- { 思考・判断・表現力 } 途上国の持続可能な開発に理解を示し、積極的に支援する

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日下渉『反市民の政治学：フィリピンの民主主義と道徳』2013, 世界思想社.
- 山口恵子ほか『グローバル化のなかの都市貧困』2020, ミネルヴァ書房.
- 吉田舞『先住民の労働社会学：フィリピン市場社会の底辺を生きる』2018, 風響社.
- ニール・スミス『ジェントリフィケーションと報復都市：新たな都市のフロンティア』原口剛訳, 2014, ミネルヴァ書房.
- 長田華子『バングラデシュの工業化とジェンダー：日系縫製企業の国際移転』2014, 御茶の水書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス：今「途上国」でなにが起きているのか【コロナと途上国】
- 第2回開発とはなにか：開発概念の検討【開発と貧困】
- 第3回フィリピンにおける開発研究の歴史的経緯【植民地経験と近代化】
- 第4回グローバル化と都市開発① ギグ・エコノミーと渋滞問題【ジェントリフィケーション】
- 第5回グローバル化と都市開発② スクオッターと強制撤去【住居問題】
- 第6回グローバル化と都市開発③ 美化政策と路上の人びと【ホームレスの国際比較】
- 第7回グローバル化と都市開発④ 美化政策と物売りの人びと【公共空間の利用と階層化】
- 第8回グローバル化と都市開発⑤ 都市統治と道徳的イデオロギー【近代的都市づくり】
- 第9回グローバル化と地域開発① 先住民の生業と労働【観光開発】
- 第10回グローバル化と地域開発② 資本主義のハビトゥス【価値変容】
- 第11回グローバル化と地域開発③ 包摂・排除される人々【開発政策】
- 第12回日本からアジアをみる①990円のジーンズのカラクリ：映画『True cost』から考える【ファストファッション】
- 第13回日本からアジアをみる② 途上国開発と移民労働者【出稼ぎ労働者】
- 第14回日本からアジアをみる③ 「国際貢献」と外国人受け入れ政策【経済連携】
- 第15回まとめ：開発と援助

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト50%、課題レポート20%、ワーク 30%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

途上国開発論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心に向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や問題関心などにより授業内容を一部変更することがあります。私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています！

キーワード /Keywords

途上国、開発、路上、生活と仕事

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC219M	○	△	◎		
科目名	都市政策論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題、都市政策の手法等を概観した後、地域産業政策、地域コミュニティ政策、安全安心まちづくり、空き家対策、環境政策、文化観光政策などの様々な政策分野の状況と政策展開の実際を学んでいく。

都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史的変遷や都市のダイナミズム、多重性・多層性を有する都市政策の構造的な理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。

また、脅威となっている大規模地震災害や新型コロナウイルスに対する政策についても言及する予定である。

(到達目標)

【知識】

都市政策に関する専門的な知識を幅広く身につけている。

【技能】

都市政策に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市政策の現状を説明し、都市政策課題の解決に向けた学際的なアプローチを探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
- 石原武政・西村幸夫編(2010)『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
- 秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎 新版』有斐閣
- ・ 秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学』中央公論新社
- ・ その他、講義の中で適宜紹介します。

都市政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市政策と政策手法 (1) - 政策の構造化
5. 都市政策と政策手法 (2) - 政策手法とプロセス
6. 地域産業政策
7. 社会保障制度と少子化対策
8. 地域コミュニティと市民活動
9. 安全安心のまちづくり
10. 社会資本の老朽化と空き家対策
11. 環境創造と持続可能性
12. インバウンドと観光まちづくり
13. 都市文化政策と文化創造
14. 町並み景観の保存と活用
15. まとめ

※新型コロナウイルスの状況が落ち着けば、「政策展開の実際」ということでゲスト講師を招聘することも考えています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。都市マネジメント論と併せて受講されることをお勧めします。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。

・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任 つかう責任」「15 陸の豊かさを守ろう」「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC216M	○	△	◎		
科目名	環境政策論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、人間と環境・自然との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、コロナ感染症と気候変動、国家間移動、放射能の大気汚染について理解し原因を分析する。
- ④ 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ⑤ 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ⑥ SDGsのエネルギー（原子力、再生エネルギー）・食・水問題・気候危機政策と生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ⑦ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

（到達目標）

- 【知識】 環境問題に関する理解を深め、その対策に必要な専門的な知識を修得している。
- 【技能】 環境関連の試験や資格に必要な情報やスキルを身につけている。
- 【思考・判断】 環境問題における多様な観点や利害関係を理解し、問題解決力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ¥840）

環境政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など(自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2回 公害、環境(問題)とその構造(被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造(環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3回 環境問題と社会的ジレンマ
環境権、環境政策の特徴1(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国、SDGs)
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国、SDGs)
- 6回 環境政策の手段(間の比較分析)1: 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段(間の比較分析)2: 道路有料化、都市計画、スマートシティ等
- 8回 ポスター発表会
- 9回 自治体の環境政策(環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか(アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 SDGsとエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 本の発表とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 20%、ポスター発表30%、期末試験 50%
(本のレポート・ポスター発表をしない場合は、期末試験を受けることができず「評価不能(-)」となります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない(原発なくても)と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～!!
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、社会的ジレンマ、環境政策(政策手段)、環境影響、国際環境問題、産業公害型環境問題、都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、地域エネルギーと原子力。

東南アジアの政治と外交【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE216M	◎	○			
科目名	東南アジアの政治と外交				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与える地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

（到達目標）

【知識】 東南アジアの政治と外交に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】 東南アジアの政治と外交の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN-新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合(ASA)の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド(Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国(1)「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国(2)カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1)ASEANの拡大と経済協力の進展
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2)経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 アジア太平洋協力の核としてのASEAN
- 13回 ASEAN憲章とASEAN共同体
- 14回 政治的な変化と内政不干渉の再検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)...45% 期末試験...55%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

小テストおよび期末試験を1度も受けていない場合、評価不能(-)とします。

東南アジアの政治と外交 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

International Trade and Finance 【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN201M	◎		○		△
科目名	International Trade and Finance				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：国際貿易とファイナンスに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：国際貿易の観点からの分析をもとに、自分の意見を明確に発現することができる。

自立的行動力：国際貿易への関心とキャリア意識を持ち続け、実践的な知識を有している。

In this course students will learn about the basic concepts in trade and finance from an international perspective. The benefits of foreign trade and trade restrictions will be discussed, followed by a look at exchange rates and the foreign exchange market. This knowledge will be applied to discussions about the current global situation and analysis of case studies.

教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references may be recommended during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Basic concepts in economics: The production possibility frontier, comparative advantage
3. The costs and benefits of trade
4. Imports, exports and the balance of trade
5. Restrictions on trade
6. The current global trade situation
7. Group presentations: 1
8. Foreign exchange markets and exchange rates
9. Factors which affect exchange rates 1
10. Factors which affect exchange rates 2
11. Exchange rate risk
12. International investment decisions and foreign operations
13. Case studies, vocabulary test
14. Group presentations: 2
15. Group presentations: 2

(Note: Class schedule could be changed)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	20%
Group presentation 1	20%
Group presentation 2 & Group report	40%
Vocabulary test	20%

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－). 5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

International Trade and Finance 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge of economics and finance is not required, as the material will be taught at a beginners level.

キーワード /Keywords

Economics, Finance, Trade.

Professional English I 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG431M	○	◎	○		
科目名	Professional English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The course gives students an opportunity to read about and discuss a variety of businesses, as well as other types of organizations such as NGOs. We will look at businesses operating around the world (such as Disney and Toyota), consider different corporate cultures, and read about styles of business leadership, as well as different approaches to design, branding, innovation, marketing, and customer service. The latter part of the course gives students a chance to think about planning and creating a small business. Most course work—reading, discussion, written exercises—will be conducted in class. Readings will be supplemented by videos on selected topics.

教科書 /Textbooks

Texts provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Erin Meyer. The Culture Map. Decoding How People Think, Lead and Get Things Done Across Cultures. Public Affairs. 2016.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – The changing business environment
- 2 回 Tradition and Adaptation – Toyota
- 3 回 Innovation – Dyson
- 4 回 Customer service – Singapore Airlines
- 5 回 Affordability and style – Uniqlo
- 6 回 Design and the Apple philosophy
- 7 回 Marketing – Shiseido
- 8 回 Leisure and gaming – The Nintendo story
- 9 回 Work environment: The happy employee - Google
- 10 回 Business visionaries – Walt Disney
- 11 回 Global Contexts: Doing business in China
- 12 回 How to start a business: creating a store.
- 13 回 Setting up an NGO
- 14 回 The future of business: EV, VR, SDGs, OC, Clouds
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 25%
Writing Assignments 25%
Report 25%
Final test 25%

Please note that credit will not be awarded in event of four or more absences.

Professional English I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review and be familiar with previous week's material

履修上の注意 /Remarks

The class offers students maximum opportunity to read and talk about various topics related to world of business and the international contexts in which business is conducted today.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and related exercises will be done mostly in class. Weekly attendance is expected.

キーワード /Keywords

Professional English II 【昼】

担当者名 /Instructor リーサ ハンズバーガー / Lisa M. Hunsberger / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG432M	○	◎	○		
科目名	Professional English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course will focus primarily on presentations and public speaking in a professional setting. Effective presentation design begins with an understanding of the purpose of the presentation, the audience to whom it will be delivered, and the context under which it will be delivered. In this course, you will learn the steps towards creating and delivering an effective professional presentation using a range of features available in most desktop presentation software. You will also work on sharpening your public speaking skills –eye contact, use of gestures, managing nervousness, etc– through mini exercises throughout the course.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 – Introduction
- Week 2 – Show & Tell
- Week 3 – The art of public speaking
- Week 4 – Presentation design ABCs
- Week 5 – Design features of presentation software
- Week 6 – Practice activity 1
- Week 7 – Revisiting public speaking
- Week 8 – English in professional contexts
- Week 9 – Presenting in professional contexts
- Week 10 – Preparation for practice activity 2
- Week 11 – Practice activity 2
- Week 12 – Putting it all together
- Week 13 – Preparation for final project
- Week 14 – Day 1 of final project
- Week 15 – Day 2 of final project

(This schedule and its contents are subject to change.)

Professional English II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

Class participation & in-class assignments: 20%

Practice activities: 40% (2 x 20%)

Final Project: 40%

In conjunction with Kitakyushu University guidelines, please note the following:

1. If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (—).
5回以上欠席した場合は、評価不能(—)とします。
2. If you do not complete your work yourself or if you plagiarise any part of your work, you will receive a failing grade (—).
自分で課題を完成させない場合、または課題の一部を剽窃した場合は、評価不能(—)とします。
3. If you do not complete more than 75% of your assignments, you will receive a failing grade (—).
課題の75%以上を完了できなかった場合、不合格となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Taking notes during class is mandatory, and students are required to keep a vocabulary notebook in which they will write new words for to study and practice throughout the course.
- Students must review their notes and complete all assignments before each class.
- Key to becoming an effective public speaker and presenter is working avidly on self-improvement. Consequently, some activities may be recorded for students to use to track their own progress throughout the course.

履修上の注意 /Remarks

Laptops and desktop computers are preferred for use in this course, and though it isn't mandatory, students with laptops are invited to bring them to class. Students may use either PowerPoint or Apple's Keynote to do their presentations, but they must choose the desktop presentation software with which they are most familiar.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you!

キーワード /Keywords

Presentation, Public Speaking, Professional, English

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW321M	◎	○	○		
科目名	地方自治法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「地方自治」は本来われわれの生活に身近な存在である。授業においては、まず地方自治に関する法制度の原理と仕組みの概要を把握することがねらいである。さらに国と地方公共団体との役割分担と相互関係、それらを前提とした諸問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点から関心を高めることを目標とする。

到達目標

- DP1 知識 地方自治法に関する知識を体系的に身につけている。
 DP2 技能 地方自治に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
 DP3 思考・判断・表現力 地方自治に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『地方自治法概説【第9版】』（有斐閣、2021年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川義朗編 『これからの地方自治を考える』（法律文化社、2010年）
 磯部力ほか編 『地方自治判例百選[第4版]』（有斐閣、2013年）

地方自治法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 地方自治の基礎理論 (1)
地方自治の意義、わが国における地方制度の沿革
- 第 2回 地方自治の基礎理論 (2)
地方自治に関する法源
- 第 3回 地方公共団体の種類
自治権の本質、地方公共団体の種類
- 第 4回 地方公共団体の事務
地方公共団体の事務、事務の分類、事務の配分
- 第 5回 地方公共団体の権能
憲法による権能付与、自治組織権、自治行政権、自治立法権
- 第 6回 地方公共団体の機関 (その 1)
憲法の規定、地方議会、地方議会議員
- 第 7回 地方公共団体の機関 (その 2)
執行機関、長の地位と権限、執行機関の多元性、長と議会との関係
- 第 8回 住民の権利義務
住民の権利、選挙権、直接請求権、参加権、住民の義務
- 第 9回 国と地方公共団体との関係 (その 1)
相互関係のあり方、国又は都道府県の関与等、係争処理の仕組み、国又は都道府県の関与に関する訴訟
- 第 10回 国と地方公共団体との関係 (その 2)
自治財政権、事務配分と財源配分、財政調整制度、補助金
- 第 11回 住民監査請求 (その 1)
地方公共団体の監査制度、外部監査、住民監査請求と事務監査請求
- 第 12回 住民監査請求 (その 2)
住民監査請求の要件、住民監査請求の手続、住民監査請求の対象、監査の実施と勧告
- 第 13回 住民訴訟 (その 1)
住民訴訟の意義、住民訴訟の沿革と性質、財務会計行為と先行行為、出訴期間
- 第 14回 住民訴訟 (その 2)
住民訴訟の審理過程、職員の賠償責任、損害賠償請求権を放棄する議決
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート (課題) 20%

定期試験を受けない場合 (定期試験に代わるレポートを提出しない場合を含む。) には評価不能 (ー) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法学(統治機構論) および行政法総論を履修していることが望ましい。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治法 【昼】

キーワード /Keywords

会社法 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 2学期 (ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW271M	○	◎	○		
科目名	会社法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。この講義では、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任、資金調達や会計等に関わる法制度を理解することを目的とします。

(到達目標)

【知識】会社法に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】会社法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】会社法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

会社法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【持分会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社】
- 5回 会社法総論(4)【株式会社の区分】
- 6回 株式会社の機関(1)【総論】
- 7回 株式会社の機関(2)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(3)【株主総会決議の瑕疵】
- 9回 株式会社の機関(4)【取締役会】
- 10回 株式会社の機関(5)【代表取締役】
- 11回 小テスト
- 12回 株式会社の機関(6)【監査役等】
- 13回 株式会社の機関(7)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 14回 株式会社の機関(8)【取締役の義務】
- 15回 株式会社の機関(9)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 16回 株式会社の機関(10)【役員等の第三者に対する責任】
- 17回 株式(1)【株式の種類等】
- 18回 株式(2)【株式の発行】
- 19回 株式(3)【株式発行の差止め】
- 20回 株式(4)【新株発行の無効】
- 21回 小テスト
- 22回 株式(5)【株式の譲渡】
- 23回 株式(6)【自己株式】
- 24回 新株予約権(1)【概要】
- 25回 新株予約権(2)【新株予約権発行の瑕疵】
- 26回 新株予約権(3)【買収防衛策】
- 27回 株式会社の会計(1)【計算書類】
- 28回 株式会社の会計(2)【剰余金の配当】
- 29回 株式会社の設立
- 30回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)...60%、期末試験...40%
小テスト・期末試験を全て欠席した場合、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

法律科目では民法の財産法部分(民法入門、民法総則等)や企業法総論、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(または、同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- 【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

本講義はほぼ遠隔授業（ライブもしくはオンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。なお、ライブ授業の回であっても、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。

[ラ] ライブ授業、[オ] オンデマンド配信授業、[対] 対面授業、()内は担当者、【 】はキーワード

- 1回 [ラ] ガイダンス (日高)
- 2回 [ラ] 生命の起源を探る (柳川) 【極限環境】 【微生物】
- 3回 [オ] 植物を鍵とした生物間相互作用 (真鍋) 【共生】 【食物連鎖】
- 4回 [オ] 北九州市周辺の地質と化石の多様性について (太田) 【化石】 【ジオパーク】
- 5回 [オ] 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化 (大橋) 【恐竜】 【脊椎動物】
- 6回 [オ] 鳥類の生態と進化 (中原) 【適応放散】 【進化的軍拡競走】
- 7回 [オ] 海産無脊椎動物の行動生態学 (竹下) 【無脊椎動物】
- 8回 [オ] 多様性生物学と進化 (養島) 【進化】 【生物多様性】
- 9回 [オ] アンモナイトの古生物学 (御前) 【古生態学】 【異常巻アンモナイト】
- 10回 [オ] 水辺の隣人、両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】 【ホットスポット】
- 11回 [対] 博物館見学 (日高)
- 12回 [ラ] 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【人新世】 【科学史】
- 13回 [ラ] 北九州の近代史 (藤田) 【軍都】 【SDGs未来都市】
- 14回 [ラ] 課題研究・ぼけっとミュージアム (日高)
- 15回 [ラ] まとめ (日高)

自然史へのいざない【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 60%
- ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
- ・ 博物館見学レポート 10%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能 (ー) です。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第11回は12月3日 (土) 午後3限または4限に博物館にて見学の予定。
 - ・ 博物館までの交通費は自己負担。保険加入 (学研災など) の状況を確認しておくこと。
 - ・ 第14回はグループワークを行うのでできるだけライブで参加すること。
- 第1回に詳細について説明するので必ず参加 (視聴) すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔（オンデマンド）授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等） 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命科学入門 【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------|---------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ | 【RNA】【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること | 【ゲノム】【体質】【遺伝病】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【クローン】【iPS細胞】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)そのとき染色体は | 【細胞周期】【染色体異常】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 12回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【早老症】【テロメア】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス | 【ウイルス】【抗体】 |
| 14回 | 体を守るしくみ(3)私たちと微生物 | 【腸内細菌】 |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

生命科学入門 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

安全保障論【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youTube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 安全保障と外交
- 自衛隊の海外派遣
- 安全保障の非軍事的な側面
- 日米同盟と自衛隊
- 自衛隊の任務
- 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 海上警備行動
- 企画動画
- 安全保障流の地図の読み方
- スクランブル
- 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクションーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地（1）【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地（2）【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学（1）【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学（2）【文化と感情】
- 12回 国際労働移動（1）【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動（2）【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

グローバル化する経済【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

アカデミック・スキルズI【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む）… 100%

ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリーシップ

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。

「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」までがわかるわけではありません。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察する対象は、行動だけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面からどうすれば「こころ」のしくみが明らかになるか実験や研究を続けています。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のテーブルに置かれたリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるものではなく、あそここのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支援していこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

遠隔授業が必要になった場合は、インターネットで北九大Moodleに接続し、そこにある授業資料をよみ、授業動画を視聴した後、授業に対する所定のコメントを翌日まで提出することが求められます。授業動画については、資料内に記載されたウェブサイト (URL) をクリックすることで視聴できます。

教科書 /Textbooks

教科書はとくに指定しませんが、レポートを書くには下記の参考書を読むことで理解が深まります。

現代人のこころ【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 行場次朗・箱田裕司(2014)新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 福田恭介(2018)ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 神奈川LD協会編(2006)ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 丸野俊一・子安増生(1998)子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博(2018)なるほど!心理学観察法 北大路書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編(2006)ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- やまだようこ(1987)ことばの前のことば 新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 序論：心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：先天性盲人の開眼手術後の知覚世界
- 6: 目1：目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: 目2：まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 記憶1：数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 記憶2：昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント(15回)：30点
レポート(1回)：30点
期末試験：40点

6回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：Moodleにあげた資料を読み、資料内のURLをクリックして動画を視聴してください。
事後：授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート：指定した参考書の中からもっとも関心のある領域を読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。図書館には1冊しか配架していないので生協で購入してください。レポートを書くのは前期で1回限りです。書式やメ切については最初の授業で紹介いたします。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書けてもらいます(事後学習)。
2. 次の授業時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介いたしますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚, 目の動き(眼球運動, 瞳孔運動, 瞬目), 選択的注意, 注意の見落とし, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 心の発達, 発達障害

社会哲学入門 【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

- * 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
- * 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

文化を読む【夜】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。文学研究、宗教研究、異文化間教育といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎表象

人間は情報を共有するために様々なメディアを通じた表現活動をおこなう。本講義ではそれを、表象(representation)とよび、理解と誤解の源泉として位置付けてみよう。本講義では、イメージとして生み出される表象をとりあげて、歴史社会的な文脈のなかで読み解いてみたい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】文化について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

文化を読む【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象概念の説明
- 第3回 表象を読む①描かれた〈日本人〉-明治期風刺画をとりあげて-
- 第4回 表象を読む②描かれた〈日本〉-ジャポニズムの流行をとりあげて-
- 第5回 表象を読む③演じられた〈日本人〉-オペラ『蝶々夫人』をとりあげて-
- 第6回 表象を読む④演じられた〈日本人〉-近代から現代へ-
- 第7回 表象を読む⑤演じられた〈日本人〉-大衆文化のなかの自画像-
- 第8回 表象を読む⑥自己表象としての〈日本〉〈日本人〉-オリンピックを例として-
- 第9回 神社の成立① 神社建築成立以前の神社
- 第10回 神社の成立② 神社の成立年代
- 第11回 日本の神 -神教との比較を通して
- 第12回 罪・戒律・禁忌
- 第13回 乙-「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を知る)
- 第15回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を読み解く)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%(表象、宗教、文学に関する3つのレポートすべてを提出しなければ、評定不可で成績は「-」とする)
各回において、課題コメントの提出によって出席(視聴)を確認する。提出状況は成績に加味される。なお、成績評価の方法、レポート・課題の提出方法については、担当教員ごとに注意事項など指示が出されることがあるので、それにしたがうこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの河内に質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

日本近現代文学、宗教、メディア

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

倫理思想史【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死/尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

倫理思想史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* ()の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

戦争論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 検討の枠組みについて
- 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
- 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
- 5回 市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
- 6回 市民活動の＜萌芽＞② - 市民
- 7回 市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
- 8回 市民活動の＜再生＞② - 市民
- 9回 市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
- 10回 市民活動の＜広がり＞② - 市民
- 11回 中間まとめ
- 12回 北九州市における市民活動のうねり
- 13回 今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
- 14回 今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

市民活動論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

※最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

(到達目標)

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

坂本毅啓（2022）『地方の地域福祉論』大学教育出版、2,800円＋税（予定価格）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 志賀信夫・畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税
 - 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規 2,900円＋税
 - 難波利光・坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・福祉・国際視点からのアプローチ-』大学教育出版 2,400円＋税
- その他、適宜授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ(もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」)でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

メンタル・ヘルス【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めよう行動するかを皆で考える授業である。

（到達目標）【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性（アイデンティティ）の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs（持続可能な開発目標）の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験もしくは期末課題レポート(60%)
(注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

統計学入門【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年(済再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN115M	○	◎	○		
科目名	統計学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

到達目標

- 【知識】 統計学に関する基礎的な知識を（体系的かつ総合的に）身につけている
- 【技能】 統計解析を行うスキルを身につけている
- 【思考・判断】 統計学の観点から論理的な分析を行い、具体的な分析手法を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 総論とガイダンス
- 2 一様乱数とヒストグラム（教科書第1章）
- 3 点推定と区間推定（教科書第2章）
- 4 点推定と区間推定の意味（教科書第3章）
- 5 正規確率変数（教科書第4章）
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)の分布と標準化（教科書第5・6章）
- 7 割合pに関する仮説検定（本体）（教科書第9章）
- 8 正規確率変数の平均 μ と標準偏差 σ の推定（教科書第14・15章）
- 9 連続型確率変数の平均 μ の区間推定と検定（教科書第16・17章）
- 10 回帰分析1【導入、標本相関係数、標本共分散】（教科書第20章）
- 11 回帰分析2【最小二乗法】（教科書第21章）
- 12 回帰分析3【決定係数】（教科書第22章）
- 13 回帰分析4【 σ の推定、t変量】（教科書第23章）
- 14 回帰分析5【推定量の平均、t統計量の分布】（教科書第24章）
- 15 回帰分析6【 α 、 β に関する検定】（教科書第25章）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週提出の課題ファイルと毎週行われるミニテストの合計で評価する。課題ファイルが全く提出されず、ミニテストも一度も受けない場合のみ、「-」の評価とする。

遠隔講義に移行した場合は、毎週提出の課題ファイルのみで評価する。

統計学入門 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読し、excelを使って実際に演習をしておくこと。
事後学習：Pythonプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はPythonをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布、回帰分析

計量経済学入門【夜】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(済再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN212M	○	◎	○		
科目名	計量経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「社会現象に法則はあるか」

この問いかけに対して経済学が行ってきたことの一部を、例を挙げてお話しします。「経済学がまだうまくできていないこと」も皆さんと一緒に考えたいです。

(到達目標)

【知識】 計量経済学的分析に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 計量経済学的分析に必要な検討することができる。

【思考・判断・表現力】 計量経済学的分析について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記は一例です。受講者数および受講者の関心に合わせて変更する場合があります。

- 1回 講義概要
- 2回 分析の主張を把握する
- 3回 因果関係で考える
- 4回 分析の全体像を把握する
- 5回 ここまでのまとめ、練習問題
- 6回 回帰式の各部名称
- 7回 回帰式の各部の役割
- 8回 仮説への翻訳
- 9回 統計学を応用した因果関係のチェック
- 10回 ここまでのまとめ、練習問題
- 11回 重回帰分析
- 12回 操作変数法
- 13回 離散変数の分析
- 14回 データ収集と視覚化
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加 50%，学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】 クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください。

【事後】 宿題やクイズを使って復習してください。

計量経済学入門【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN113M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

- 【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

ミクロ経済学I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN210M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学Ⅰ」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学：微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1)：消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2)：無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3)：【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4)：需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1)：企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2)：等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3)：【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1)：【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2)：「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN114M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその運動のメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【割引現在価値計算】【債券】【リスクと流動性】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】【楽観的期待】【投機的取引】
- 7回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(6) 【バブルと資源配分】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 10回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 11回 ケインズの不況理論(1) 【GDPギャップ】【ベビーシッター組合の寓話】【45度線分析】
- 12回 ケインズの不況理論(2) 【均衡の安定性】【比較静学】
- 13回 ケインズの不況理論(3) 【貯蓄のパラドックス】【乗数効果】
- 14回 ケインズの不況理論(4) 【財政の3機能】【財政政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%、期末試験：75%
(期末試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

マクロ経済学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN211M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズ的な短期モデル (=45度線モデルやIS-LMモデル) を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、長期の経済成長モデルについて説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

(到達目標)

【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【経済循環図】【45度線モデル】【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【財政政策】【ケインズの財政政策の問題点】
- 4回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 5回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 6回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 7回 中央銀行と金融政策(1) 【中央銀行の目的と機能】【公開市場操作】【ハイパワードマネー】
- 8回 中央銀行と金融政策(2) 【貨幣乗数】【アベノミクス】
- 9回 仮想通貨について 【貨幣の条件】【仮想通貨と地域通貨】【ネットワークの外部性】
- 10回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 11回 IS-LMモデル(2) 【財政・金融政策】【クライディングアウト】
- 12回 経済成長理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 経済成長理論(2) 【新古典派成長理論】【収束】
- 14回 経済成長理論(3) 【内生的成長理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%， 期末試験：75%

(期末試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

マクロ経済学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学入門【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN111M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

(到達目標)

- 【知識】ミクロ経済学の入門的知識を身につけている。
 【技能】ミクロ経済分析に必要な概念を活用できる。
 【思考・判断・表現力】基礎的な資源配分の問題を考察することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第3版) 東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

ミクロ経済学入門【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%
試験を欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN224M	◎	○	○		
科目名	国際経済論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析（1）【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析（2）【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析（3）【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析（4）【有効保護】
- 13回 地域貿易協定（1）【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論特講」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論特講【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN225M	◎	○	○		
科目名	国際経済論特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、貿易政策（主に大国のケース）の経済効果を学ぶ。
- 2、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）
大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策の分析基礎（1）【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 貿易政策の分析基礎（2）【貿易の利益】
- 4回 貿易政策の経済分析（1）【輸入関税政策】
- 5回 貿易政策の経済分析（2）【最適関税】【近隣窮乏化】
- 6回 貿易政策の経済分析（3）【輸入数量制限】
- 7回 貿易政策の経済分析（4）【輸出補助金】
- 8回 生産要素の国際移動（1）【限界生産物】【労働所得】【資本所得】
- 9回 生産要素の国際移動（2）【海外直接投資】
- 10回 生産要素の国際移動（3）【国際労働移動】
- 11回 貿易と環境（1）【貿易政策から環境への影響】
- 12回 貿易と環境（2）【排出権取引】
- 13回 貿易と環境（3）【環境政策から貿易への影響】
- 14回 貿易と環境（4）【外部不経済】【ピグー税】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

貿易政策、最適関税、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

財政学 【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN320M	◎	○	○		
科目名	財政学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政の問題に関して経済学的視点から議論します。内容としては財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。この3つの政府の役割と政策の在り方について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることを目標とします。用いる経済理論はミクロ経済学やマクロ経済学の基本的なモデルの応用です。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジュメにベースに基本的な内容から説明していきます。

(到達目標)

【知識】 財政に関して専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 財政問題の基礎的な分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 1 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。

事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学と財政学特講はセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学特講【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN321M	◎	○	○		
科目名	財政学特講				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

この授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学的視点から議論します。この講義の到達目標は①景気安定化政策、②政府債務の問題、③少子高齢化と公的年金制度の問題について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることです。

（到達目標）

【知識】現代の主要な財政問題に関して専門的な知識を体系的に身につけている。

【技能】現代の主要な財政問題の分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編 N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- マクロ経済学 二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 公共経済学 林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN : マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果 : 公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル 財・サービス市場の均衡 / 貨幣市場の均衡
- 5 財政政策と金融政策 (IS-LM分析からのインプリケーション)
- 6 財政政策の効果とその有効性① (政策ラグや政策当局の政策運営の観点から)
- 7 長期の経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期の経済モデル②企業行動 / 金融市場 / 資本蓄積
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題について)
- 10 財政赤字/累積国債残高の問題点
- 11 財政の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収益率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで評価します。評価割合100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学と財政学特講はセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

地域経済【夜】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN232M	◎		○		○
科目名	地域経済		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。コロナ禍という大きな変化に直面した現在こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。本講義では主に以下の3つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. ポスト・コロナの今日における地域経済の諸問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造の高度化①【産業構造】
- 4回 工業化の進展【重化学工業化】【高加工度化】
- 5回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 6回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 7回 地域構造の高度化②【空間的情報流】
- 8回 企業内分業の進展①【工場立地】【オフィス立地】
- 9回 企業内分業の進展②【都市システム】
- 10回 一体型国土構造の形成【一軸一極】
- 11回 コンピュータ・ネットワークと市場【市場の広がり】
- 12回 市場の世界化【金融市場】【物財市場】【労働市場】
- 13回 地域経済をめぐる今日の諸問題【地方消滅】【地方創生】
- 14回 ポストコロナの地域経済【コロナ禍】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 50%(計) 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通していただくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済特講」「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス入門【夜】

担当者名 姚 智華 / YAO ZHIHUA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS111M	◎	○	○		
科目名	ファイナンス入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この講義では、2年次以降のファイナンス系の専門科目（企業ファイナンスI、企業ファイナンスII、証券市場論、企業評価論I、企業評価論IIなど）を受講するうえで必要となるファイナンスに関する基礎知識について勉強します。また、この講義は「公認会計士」・「証券アナリスト」・「ファイナンシャルプランナー(FP)」・「経営学検定」・「ビジネス数学検定」といった各種資格試験にも深く関わっています。

【到達目標】

知識：ファイナンスに関する基礎的な知識を身につけている。

技能：ファイナンスに関する新聞記事・ニュースを理解することができる。

思考・判断・表現力：ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

井上光太郎・高橋大志・池田直史『ファイナンス』中央経済社，2020年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

牛丸元『スタンダード企業論(改定版)』同文館出版，2015年。(○)

鈴木基史・羽岡秀晃『実務から学ぶコーポレート・ファイナンス』中央経済社，2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【ファイナンスとは、講義の目的・概要、成績評価の方法】
- 第2回 企業形態【合名会社、合資会社、合同会社、株式会社、所有と経営の分離】
- 第3回 財務分析①【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書】
- 第4回 財務分析②【安全性分析、収益性分析、効率性分析】
- 第5回 評価の基本原則【単利、複利、将来価値、現在価値、割引率】
- 第6回 債券の価値評価【債券価格、利付債、割引債】
- 第7回 株式の価値評価【配当割引モデル、一定配当モデル、一定成長モデル】
- 第8回 ポートフォリオ理論①【期待値、分散、標準偏差、共分散、相関係数】
- 第9回 ポートフォリオ理論②【リスク、リターン、効率的フロンティア】
- 第10回 ポートフォリオ理論③【CAPM、資本市場線、証券市場線】
- 第11回 M&A①【M&Aの意義と経済効果、敵対的買収】
- 第12回 M&A②【LBO、MBO、買収防衛策】
- 第13回 行動ファイナンス①【アノマリー、市場の効率性を阻害する要因】
- 第14回 行動ファイナンス②【現実の意思決定、プロスペクト理論】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40% 期末試験...60%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって、事前にテキストを読んでおくこと(目安時間:60分)。

講義終了後には、必ず講義内容の復習を行うこと(目安時間:60分)。

ファイナンス入門【夜】

専門教育科目
選択科目A
地域・産業系

履修上の注意 /Remarks

学習の進捗と理解の度合いを見ながら、スケジュールを調整することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ファイナンスを学ぶ以上、計算問題を避けて通ることができません。
数学を必要最小限に抑えるので、最初から無理だと決めつけないで、やってみればうまくできるはずです。

キーワード /Keywords

企業形態、企業分析、価値評価、ポートフォリオ理論、M&A、行動ファイナンス

経営管理論【夜】

専門教育科目
選択科目A
地域・産業系

担当者名 /Instructor 岸野 早希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS110M	◎	○	○		
科目名	経営管理論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

皆さんは大学を卒業後、多くの時間を企業組織において過ごすことになります。その企業組織内では日々の人々の相互作用のなかで多くの現象が起こっています。その現象を捉えるとともに、それぞれの現象に対してどのような管理がなされているのかということを中心に学んでいきます。

(到達目標)

【知識】 経営管理に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 経営管理に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】 経営管理に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織：個人の論理と組織の論理』有斐閣アルマ
上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明『経験から学ぶ経営学入門：第2版』有斐閣
開本浩矢(編)『入門組織行動論:第2版』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 企業で働くこととは
3. 組織への適応
4. 組織文化
5. モチベーションと規則の関係①
6. モチベーションと規則の関係②
7. キャリア開発
8. リーダーシップ
9. 集団のダイナミズム
10. コンフリクト・マネジメント
11. 組織デザイン
12. 環境のマネジメント
13. 組織変革
14. 経営理念
15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート40%、期末試験60%
中間レポートの提出と期末試験の受験をしなかった場合には評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前配布のレジュメに目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

講義のレジュメはWeb上でダウンロードして持参してください(初回の講義で案内します)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS211M	◎	○	○		
科目名	経営戦略論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは企業は、競合他社のひしめく市場に身をおいて、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、2019年、2970円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年(○)

ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。

沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。

C.I.バーナード(山本保次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは?① 【戦略という概念】【意思決定と戦略】【戦略的要因】
- 第3回 経営戦略とは?② 【経営戦略の概念】【経営戦略の2つのレベル】【経営戦略論史】
- 第4回 事業戦略① 【3つの基本戦略】
- 第5回 事業戦略② 【イノベーションとは何か】
- 第6回 事業戦略③ 【コスト・リーダーシップ戦略】
- 第7回 事業戦略④ 【差別化戦略】
- 第8回 事業戦略⑤ 【集中戦略】
- 第9回 企業戦略① 【多角化戦略】
- 第10回 企業戦略② 【PPM】
- 第11回 企業戦略③ 【持続的競争優位】【コア・コンピタンス】
- 第12回 企業戦略④ 【イノベーションを生み出す組織】
- 第13回 企業戦略⑤ 【資金調達戦略】【株主戦略】
- 第14回 企業戦略⑥ 【ドメイン】【破壊的技術】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 小テスト...40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験していない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に、テキストの該当箇所をしっかりと熟読してください。講義後、テキストおよびレジユメによって復習し、また自分なりに他の事例がないか調べてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
なお、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【意思決定】 【目的と環境】 【事業戦略】 【企業戦略】 【競争優位】

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 河島 晋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF220M	○	◎	○		
科目名	コンピュータシステム		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータに関する基礎知識や利活用方法について学ぶ。
 また、コンピュータシステムの構築は、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
 そのために、情報処理・コンピュータの仕組み・デジタル技術の応用について学習する。

【到達目標】

- ▼知識
コンピュータシステムに関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- ▼技能
コンピュータシステムの分析と設計に関する手法を身につけている。
- ▼思考・判断・表現力
コンピュータシステムについて、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を得ることを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報技術の発展とコンピュータ利用の変化
 - 2回 数値の教え方【2進数・10進数・16進数】
 - 3回 集合と論理演算
 - 4回 プログラミング的思考
 - 5回 機械判読可能なデータ作成
 - 6回 演習1：表計算演習【Excel】
 - 7回 コンピュータシステム基礎
 - 8回 ハードウェア(1)【CPUと記憶装置】
 - 9回 ハードウェア(2)【入力装置と出力装置】
 - 10回 ソフトウェア【OSとアプリケーション】
 - 11回 演習2：プレゼンテーション資料作成演習【PowerPoint】
 - 12回 ネットワーク基礎
 - 13回 インターネットサービスとIoT
 - 14回 人工知能やロボットの活用
 - 15回 演習3：これまでの復習
- ※【 】はキーワード

成績評価の方法 /Assessment Method

- 期末試験：60%
- レポート：20%
- 日常の授業への取り組み：20%

コンピュータシステム【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の内容はそれまでの学習内容を理解している前提で進めるので、講義中に理解できなかった内容は復習することを推奨する。資料の中で説明される用語は、Web上での検索や技術書をはじめとする書籍でも調査・学習することができるので、各自で調べながら学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

演習ではMicrosoft OfficeのソフトウェアExcel・PowerPointを利用するため、これらのソフトウェアやパソコンの基本操作についてはある程度慣れておくことを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータに関する知識や技能はエンジニアなどの技術職だけでなく、近年はあらゆる職種や普段の生活でも必要とされるスキルとなりました。
本講義を受講する皆さまには、コンピュータに関する知識・技能・応用的な考え方を習得していただき、デジタル技術や論理的思考を活用・創造できる人材になることを期待しています。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

財務会計論I【夜】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC210M	◎	○	○		
科目名	財務会計論 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

本年度より実際の財務諸表を見慣れるために可能な限りかんたんな財務分析の時間を設けたいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する基礎的な知識を見つけている。
 技能：会計学の基本的な技能を身につけている。
 思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『信長に学ぶ経営分析』星海社○
 西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
 西澤健次『負債認識論』国元書房○
 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
 中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 収益認識基準と利益
- 12回 中間のまとめ【認識、測定、伝達】
- 13回 財務会計の諸問題 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の読み方(簡単な経営分析)【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

財務会計論I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポート等を含む)...20% 中間試験...20% 期末試験または期末レポート...60%
期末試験を受験しなかった場合または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「会計学入門」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定でいる。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

法学総論【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW100M	○	○	◎		
科目名	法学総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

わが国の主要な法律である憲法、民法、刑法の特徴や基本原則についてお話するとともに、法の一般的な特性や構造、その機能についても講義します。法の存在や仕組みを知り、判例を通じた法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

(到達目標)

- 【知識】 法学の初歩的な知識を身につけている
- 【技能】 法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】 社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

佐藤幸治 = 鈴木茂嗣 = 田中成明 = 前田達明著『法律学入門 第3版補訂版』有斐閣 2008年 2,200円(税込み)
レジュメや資料も必要に応じてその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助著泉久雄補訂『[補訂版] 法学』日本評論社 1985年
- 三ヶ月章著『法学入門』弘文堂 1981年
- 星野英一著『法学入門』有斐閣 2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法の世界① 【私的自治の原則】 【契約】
- 第3回 民法の世界② 【自然人】 【法人】 【所有権】
- 第4回 民法の世界③ 【過失責任】 【損害賠償】
- 第5回 民法の世界④ 【夫婦】 【親子】
- 第6回 刑法の世界① 【罪刑法定主義】 【犯罪】
- 第7回 刑法の世界② 【刑罰】 【刑事手続き】
- 第8回 憲法の世界① 【国民主権】 【基本的人権】
- 第9回 憲法の世界② 【権力分立】 【国会】 【裁判所】
- 第10回 法の仕組みと運用① 【法の特性】 【道徳】 【法の機能】
- 第11回 法の仕組みと運用② 【裁判規範】 【法源】
- 第12回 法の仕組みと運用③ 【裁判所】 【判例】
- 第13回 法の仕組みと運用④ 【法の適用】 【事実】 【法律要件】
- 第14回 法の仕組みと運用⑤ 【法の解釈】 【類推解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・10% レポート・・・30% 定期試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、問題点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

法学総論【夜】

履修上の注意 /Remarks

講義には六法を持参してください。法学部以外の受講生には、池田真朗他編『法学六法'22』信山社（1,100円）をおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会規範 道徳 公法 私法 憲法 民法 刑法 裁判所 判例 裁判所